ONKYO®

AV センター

TX-NA5007

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書、オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内とともに大切に保管してください。

主な特長

- ■ 各種サラウンド方式に対応した9 チャンネルアンプ
- ■ フロントハイスピーカー接続端子およびフロントワイドスピーカー接続端子装備
- ■ THX Ultra2 Plus*1 規格に準拠
- ■ ドルビー Pro Logic IIz*2（フロントハイスピーカー対応）リスニングモード搭載
- ■ Audyssey Dynamic Surround Expansion™*3（フロントハイスピーカーおよびフロントワイドスピーカー対応）リスニングモード搭載
- ■ HDMI 1.3a 規格（DeepColor、x.v.Color*4、Lip シンク）、DTS*5-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD *2、DSD、Multi-CH PCM 再生可能
- ■ DSD ダイレクト再生可能
- ■ Neural Surround*6 再生可能
- ■ DTS サラウンドセンセーション *5（スピーカーおよびヘッドホン）リスニングモード搭載
- ■ 2 つまたは 3 つのスピーカーでもバーチャル 5.2 サラウンドが楽しめる T-D （Theater-Dimensional*7）モード搭載
- ■ MPEG-2 AAC*8 サラウンド再生可能
- ■ HDMI 経由で入力された映像信号をより上位の解像度にアップスケーリングする HQV Reon-VX ビデオプロセッサ搭載
- ■ もともとの音源のままピュアな音を楽しむ「Direct」リスニングモードと、ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできる「Pure Audio」リスニングモード搭載
- ■ 高音域が強調された劇場用サウンドをご家庭で適切なバランスに補正する「Re- EQ *9」機能搭載
- ■ LFEch を持たないソースでもサブウーファーを効果的に動作させる「ダブルバス」機能搭載
- ■ 小音量でもサラウンドを楽しめる LATE NIGHT 機能搭載（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD 時のみ）
- ■ Burr-Brown 社製 32bit/192kHz D/A コンバーター搭載
- ■ 極めて高い演算能力を持つ TI 社製 32bit DSP（Digital Signal Processor）「Aureus™」を搭載
- ■ 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する VLSC*10（Vector Linear Shaping Circuitry）を全チャンネルに搭載
- ■ 再生周波数の広帯域化を図る WRAT（Wide Range Amplifier Technology）搭載
- ■ システムを制御するオンキヨー RIHD（Remote Interactive over HDMI）搭載
- ■ ダウンミックスによるフロント L/R チャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N 劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
- ■ 信号とノイズ領域との近接を回避して聴感上の S/N を向上させるリニア・オプティマム・ゲイン・ボリューム回路
- ■ デジタル音声 / 映像信号を 1 本のケーブルで伝送可能な HDMI*11 入力 8 系統、出力 2 系統装備
- ■ ビデオコンバーター搭載 *12 ビデオ（コンポジット）、S ビデオ、D4/ コンポーネント信号を HDMI 出力端子に出力
- ■ D4/ コンポーネント映像入力端子各 3 系統、出力端子各 1 系統装備
- ■ S 映像入力端子 4 系統 / 出力端子 2 系統装備
- ■ 7.1 マルチチャンネル入力端子装備、DVD-Audio プレーヤーやスーパーオーディオ CD プレーヤーへの拡張性を実現
- ■ 9 チャンネルプリアウト端子および 2 系統のサブウーファープリアウト端子装備
- ■ デジタル音声入力端子として光 4 系統 / 同軸 3 系統装備
- ■ メインルームで7.2 チャンネル再生しながら別室で異なるソースを楽しめる Zone2/Zone3 機能
- ■ 圧縮された音楽ファイルをより良い音で楽しむ Music Optimizer™*13 機能搭載
- ■ ISF ビデオ・キャリブレーション機能搭載
- ■ スピーカーの出力を約二倍にできる BTL (Bridged Transless) 接続が可能
- ■ 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能

主な特長

- ■ 音声と映像のズレを補正する AV シンクコントロール機能搭載
- ■ 付属の測定用マイクで精密な自動スピーカー（Audyssey（オーディシー） MultEQ®（マルチイーキュー） XT*3）設定可能
- ■ 小音量でもサラウンドを楽しめる Audyssey Dynamic（ダイナミック） EQ（イーキュー） ™*3 機能搭載
- ■ 音量レベル差を自動調整するドルビーボリューム*2 機能搭載
- ■ 音量の大小を即時に調整する Audyssey Dynamic Volume（ボリューム）™*3 機能搭載
- ■ オンキヨー製iPod ドックUP-A1から入力できる UNIVERSAL（ユニバーサル） PORT（ポート） 端子装備
- ■ モニターを見ながら、簡単設定ができる OSD（On（オン） Screen（スクリーン） Display（ディスプレイ））機能搭載
- ■ 他機の操作を可能にするマクロ機能およびプリプログラム機能（OSD 機能によるコード検索が可能）搭載のリモコン付属
- ■ Ethernet（イーサネット）、USB 経由で MP3、WAV、WMA、FLAC、Ogg Vorbis、MPEG4 AAC フォーマットの音楽ファイルを再生可能
- ■ インターネットラジオ受信可能（vTuner（ブイチューナー） 対応）

*1 THX および Ultra2 Plus は、THX 社の商標または登録商標です。Surround EX はドルビーラボラトリーズの登録商標です。

*2 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
"Dolby"、"ドルビー"、"Pro Logic"、"Surround EX"、"TrueHD" およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*3

Audyssey Laboratories からの実施権に基づき製造されています。Audyssey MultEQ® XT、Audyssey Dynamic Surround Expansion™、Audyssey Dynamic Volume™ または Audyssey Dynamic EQ™ は Audyssey Laboratories の商標です。

*4 x.v.Color は、ソニー株式会社の商標です。

*5 米国特許 : 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD Master Audio、DTS Surround Sensation は DTS 社の商標です。©1996-2008 DTS, Inc. All Rights Reserved.

*6 Neural Surround は Neural Audio Corporation の商標です。

*7 Theater-Dimensional は、オンキヨー株式会社の商標です。

*8 AAC ロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

*9 Re-Equalization、Re-EQ のロゴは THX 社の商標です。

*10 VLSC は、オンキヨー株式会社の登録商標です。

*11 HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。

*12 本機は、合衆国特許権と知的所有権上保障されたマクロビジョンコーポレーションの許可が必要な著作権保護技術を搭載しており、改造または分解は禁止されています。
U.S. パテント Nos. 4, 631, 603; 4, 577, 216; 4, 819, 098; 4, 907, 093; 5, 315, 448; 6, 516, 132

*13 Music Optimizer は、オンキヨー株式会社の商標です。

DLNA、DLNA CERTIFIED は、Digital Living Network Alliance の商標または登録商標です。

iPod は、米国およびその他の国々で登録された Apple Inc. の登録商標です。iPhone は、Apple Inc. の商標です。

Microsoft、Windows、Windows Mobile、Windows Media、ActiveSync、DirectX および Internet Explorer は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Intel および Pentium は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

THX Ultra2 Plus

THX Ultra2 Plus の認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質 / 性能試験に合格しています。このような製品にのみ付与されている THX Ultra2 Plus のロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。THX Ultra2 Plus の要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル / アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。また THX Ultra2 Plus レシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX 技術 (THX モード) を備えています。

目次

修理を依頼する前に

本機をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことでトラブルが解消されることがあります。電源を入れた状態で本体の VCR/DVR ボタンを押したまま、ON/STANDBY ボタンを押してリセットしてください。**リモコンをリセット**してすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すには、138 ページをご覧ください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

注意

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△記号は「ご注意ください」という 内容を表しています。

高温注意

感電注意

⊘記号は「～してはいけない」という 禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

●記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐにアンプの電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ **通風孔をふさがない、放熱を妨げない**

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの天面や底面に通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から 20cm 以上、背面から 10cm 以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ **水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない**

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

■ **ETHERNET ポートには電話回線を接続しない**

禁止

本機の ETHERNET ポートに以下のネットワークや回線を接続すると、必要以上の電流が流れ、故障や火災の原因となります。

- 一般電話回線
- デジタル式構内交換機（PBX）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ **電源コードを傷つけない**

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ **電源プラグは定期的に掃除する**

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

警告

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
● 本機の通風孔から異物を入れない
● 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■ 長期間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■ 乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
● 指定以外の電池は使用しない
● 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
● 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
● コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
● 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■ 電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 表示された電源電圧（交流 100 ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■ 電源コードを束ねた状態で使用しない

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

⚠注意

■ 長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ 電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■ お手入れの際は電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。

使用上のご注意

■ 通風孔の温度上昇に注意

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ 音量を上げすぎない

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

移動時のご注意

■ 移動時は電源プラグや接続コードをはずす

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因となります。

■ 本機の上にものを乗せたまま移動しない

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因となります。

■ 持ち運びは２人以上で行う

必ずする

本機は非常に重いので、持ち運びは 2 人以上で行ってください。

■ 機器内部の点検について

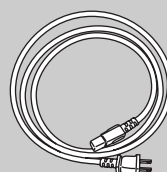
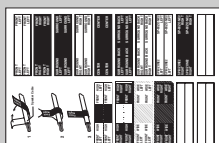
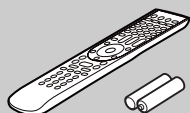
お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ 本機のお手入れについて

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

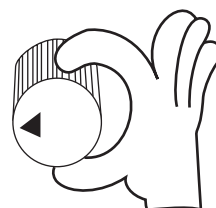
準備する

■ 付属品を確認する

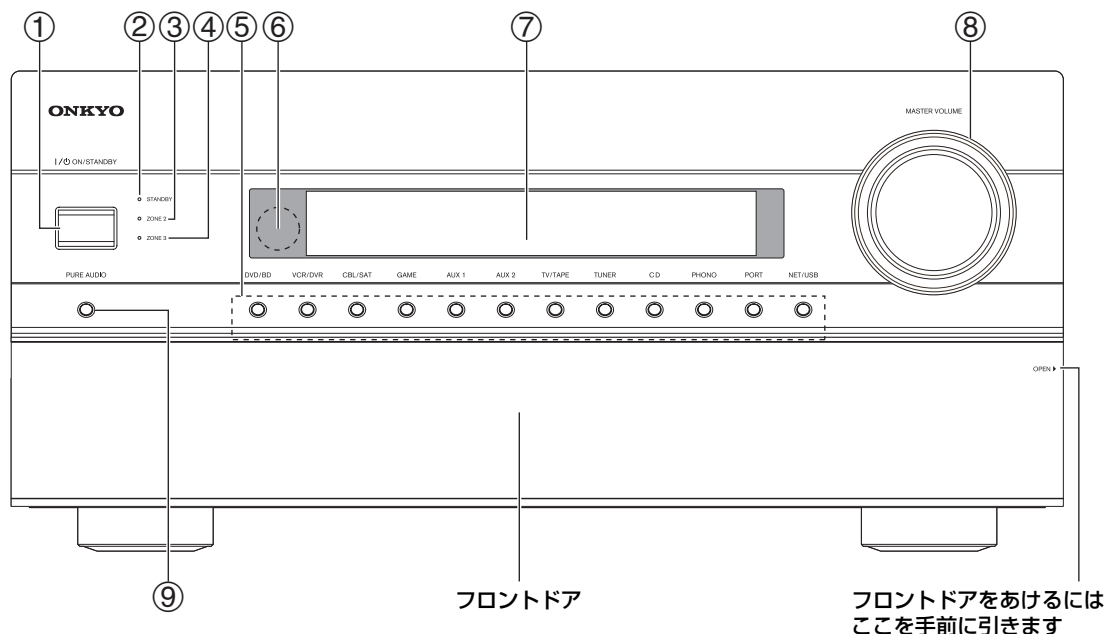
ご使用の前に次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

- リモコン（RC-747M）…（1）
- 乾電池（単 3 形、R6）…（2）
- スピーカーコード用ラベル…（1）
- 電源コード…（1）
- 測定用マイク…（1）
- 取扱説明書（本書）…（1）
- 簡単スタートガイド…（1）
- 保証書…（1）
- オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内…（1）
- ユーザー登録カード…（1）

カタログおよび包装箱などに表示されている型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。
色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、
ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

本体、リモコンボタンの名前と働き

前面パネル

〔　　〕内のページに主な説明があります。

① **ON/STANDBY ボタン〔46〕**
電源のオン / スタンバイを切り換えます。

② **STANDBY インジケーター〔46〕**
スタンバイ状態のときやリモコンからの信号を受信すると点灯します。

③ **ZONE 2 インジケーター〔133〕**
Zone 2 への出力がオンのとき点灯します。

④ **ZONE 3 インジケーター〔133〕**
Zone 3 への出力がオンのとき点灯します。

⑤ **INPUT SELECTOR ボタン（DVD/BD、VCR/ DVR 、CBL/SAT、GAME、AUX1、AUX2、TV/TAPE、TUNER、CD、PHONO、PORT、NET/USB）〔64〕**
再生する機器を選びます。

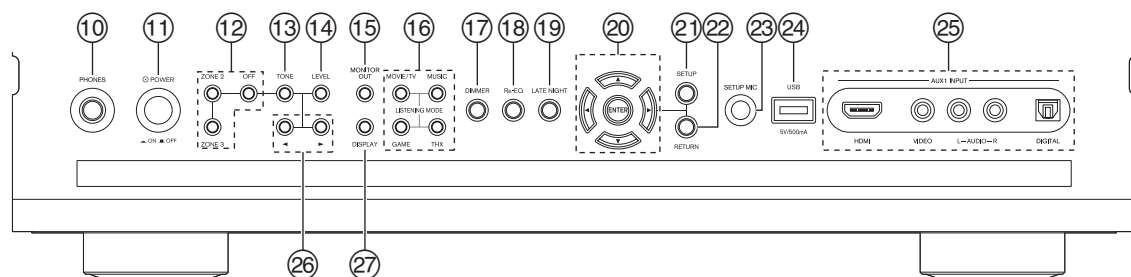
⑥ **リモコン受光 / 送信部〔15〕**
リモコンからの信号を受信します。また、リモコンへ設定データを送信します。

⑦ **表示部**
11 ページをご覧ください。

⑧ **MASTER VOLUME つまみ / インジケーター〔64〕**
音量を調整します。
音量は基本的に－∞ dB・－ 81.5dB…＋ 18.0dB の範囲で調整できます（「ボリューム表示」を「相対値」に設定時）。
絶対値として音量表示するには、ボリューム表示の設定（➔108 ページ）をご覧ください。

⑨ **PURE AUDIO ボタン〔74〕**
リスニングモードを「Pure Audio」にします。
もう 1 度押すと、1 つ前に選んでいたリスニングモードに戻ります。

本体、リモコンボタンの名前と働き

■ 前面パネルフロントドア内ボタンおよび端子

⑩ **PHONES 端子〔66〕**
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑪ **POWER スイッチ〔46〕**
本機の主電源を入／切します。

⑫ **ZONE 2 ボタン〔134〕**
Zone 2 を選択するときに使用します。
ZONE 3 ボタン〔134〕
Zone 3 を選択するときに使用します。
OFF ボタン〔134〕
Zone 2 または Zone 3 への出力をオフにします。

⑬ **TONE ボタン〔69、134〕**
高音、低音を選択するときに使用します。また、Zone2/Zone3 の高音、低音およびバランスを選択するときにも使用します。

⑭ **LEVEL ボタン〔134〕**
Zone 2/Zone 3 のスピーカー音量を選択するときに使用します。

⑮ **MONITOR OUT ボタン〔50〕**
モニターの出力設定を行います。

⑯ **LISTENING MODE ボタン〔74〕**
リスニングモードを選びます。
MOVIE/TV ボタン：
映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。
MUSIC ボタン：
音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。
GAME ボタン：
ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。
THX ボタン：
THX のリスニングモードを選びます。

⑰ **DIMMER ボタン〔65〕**
表示部の明るさを切り換えます。

⑱ **Re- EQ ボタン〔116〕**
Re-EQ 機能をオン／オフします。

⑲ **LATE NIGHT ボタン〔115〕**
レイトナイト機能をオン / オフします。

⑳ **カーソル ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン**
設定項目を選択します。ENTER ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

㉑ **SETUP ボタン**
本機の設定を行います。

㉒ **RETURN ボタン**
設定中に 1 つ前の表示に戻します。

㉓ **SETUP MIC 端子〔59〕**
付属の測定用マイクを接続して、スピーカーの数や位置を検知します。

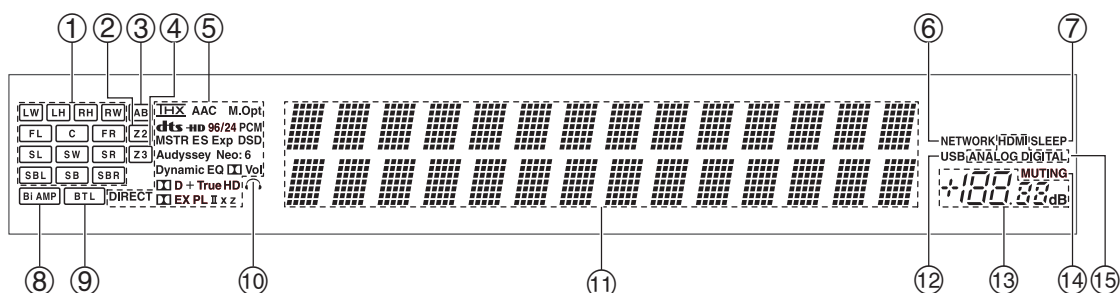
㉔ **USB 端子〔127〕**
USB ストレージ（USB メモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。

㉕ **AUX1 INPUT 端子〔40〕**
ビデオカメラなどを接続します。
AUX1 INPUT HDMI 端子〔40〕
HD ビデオカメラなどを接続します。

㉖ **◄/► ボタン〔69、134〕**
高音、低音を調整するときに使用します。また、Zone 2/Zone 3 の音量、高音、低音およびバランスを調整するときにも使用します。

㉗ **DISPLAY ボタン〔69〕**
表示部の情報を切り換えます。

表示部

〔　　〕内のページに主な説明があります。

① **スピーカー／チャンネル表示**
リスニングモードに対応した出力チャンネルを表示します。
• 下記は出力チャンネルを示します。

-LW: 左フロントワイドスピーカー
-LH: 左フロントハイスピーカー
-RH: 右フロントハイスピーカー
-RW: 右フロントワイドスピーカー
-FL: 左フロントスピーカー
-C: センタースピーカー
-FR: 右フロントスピーカー
-SL: 左サラウンドスピーカー
-SW: サブウーファー
-SR: 右サラウンドスピーカー
-SBL: 左サラウンドバックスピーカー
-SB: サラウンドバックスピーカー
-SBR: 右サラウンドバックスピーカー

② **Z2 表示〔133〕**
パワードゾーン 2 の設定を有効にしているとき、Zone 2 への出力をオンにすると点灯します。

③ **スピーカー A/B インジケーター〔65〕**
選択されているスピーカーセット A または B を表示します。

④ **Z3 表示〔133〕**
パワードゾーン 3 の設定を有効にしているとき、Zone 3 への出力をオンにすると点灯します。

⑤ **リスニングモード／入力信号フォーマット表示〔74〕**
入力されているデジタル信号の種類およびリスニングモードを表示します。

Audyssey 表示〔58、93〕
自動スピーカー測定中に点滅します。また、スピーカーの「イコライザ設定」で、「Audyssey」に設定しているときや、Audyssey Dynamic Surround Expansion™ リスニングモードのときにも点灯します。

Dynamic EQ 表示〔99〕
Dynamic EQ が「オン」に設定されていると点灯します。

Vol 表示〔100〕
Dynamic Volume が有効に設定されていると点灯します。

DD Vol 表示〔99〕
Dolby Volume が有効に設定されていると点灯します。

⑥ **NETWORK 表示〔122、124〕**
NET/USB モードで「ネットワークサーバー」または「インターネットラジオ」が選ばれているとき、本機がホームネットワーク（LAN）に接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。

⑦ **SLEEP 表示〔65〕**
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

⑧ **バイアンプ表示〔55〕**
「スピーカータイプ（フロント A)」または「スピーカータイプ（フロント B)」の設定が「バイアンプ」に設定されていると点灯します。

⑨ **BTL 表示〔55〕**
「スピーカータイプ（フロント A)」または「スピーカータイプ（フロント B)」の設定が「BTL」に設定されていると点灯します。

⑩ **ヘッドホン表示〔66〕**
ステレオヘッドホンを PHONES 端子に接続すると点灯します。

⑪ **多目的表示部**
入力ソース、リスニングモード、モニター映像出力（Monitor Out）など各種の情報を表示します。

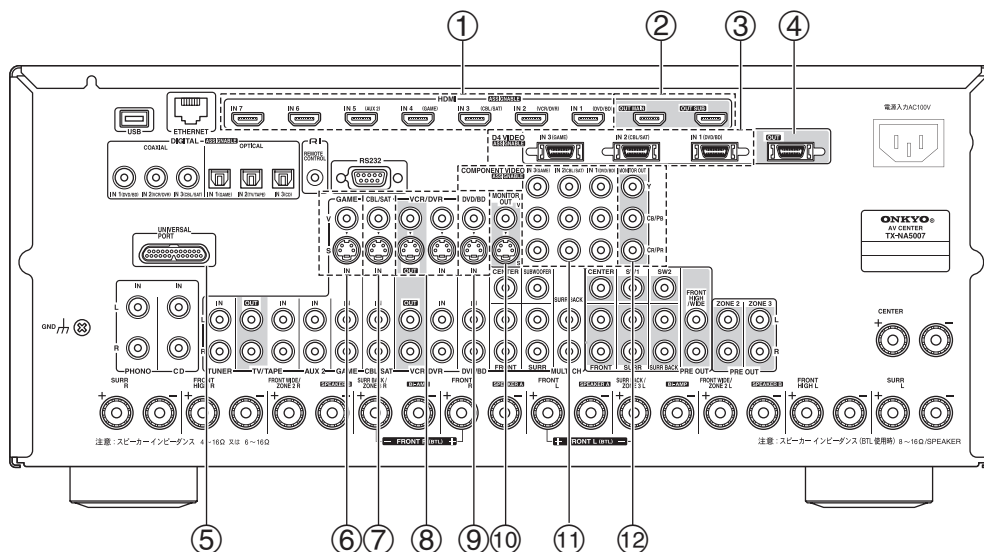
⑫ **USB 表示〔127〕**
NET/USB モードで「USB」が選ばれているとき、USB ストレージ（USB メモリーなど）が接続されていると点灯します。

⑬ **ボリュームレベル〔64〕**
音量を表示します。

⑭ **MUTING 表示〔65〕**
ミューティングが働いているときに点滅します。

⑮ **音声入力信号表示**
選択している音声入力信号の種類（HDMI/ANALOG/DIGITAL）を表示します。

後面パネル

■ 映像端子

① HDMI IN 1/2/3/4/5/6/7 端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子です。各端子は接続機器に合わせて INPUT SELECTOR ボタンに割り当てることができます。

② HDMI OUT MAIN/SUB 端子
本機からデジタル映像信号をテレビに出力する端子です。
MAIN/SUB のどちらから出力するかは、モニター映像出力（Monitor Out）で切り換えます。
（➔48 ページ）
「テレビオーディオ出力」設定をオンにすると、音声信号をテレビに出力できます。（➔111 ページ）
HDMI OUT MAIN に接続した機器は、本機と連動させることができます。（➔112 ページ）

③ D4 VIDEO IN 1/2/3 端子
接続した機器から D 映像を入力する端子です。各端子は接続機器に合わせて INPUT SELECTOR ボタンに割り当てることができます。

④ D4 VIDEO OUT 端子
本機から D 映像を出力する端子です。

⑤ UNIVERSAL PORT 端子
オンキヨー製 iPod ドック UP-A1 と接続します。

⑥ GAME IN 端子
ビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を入力する端子です。

⑦ CBL/SAT IN 端子
ビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を入力する端子です。

⑧ VCR/ DVR IN/OUT 端子
ビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を入出力する端子です。

⑨ DVD/BD IN 端子
接続した DVD/BD プレーヤーからビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を入力する端子です。

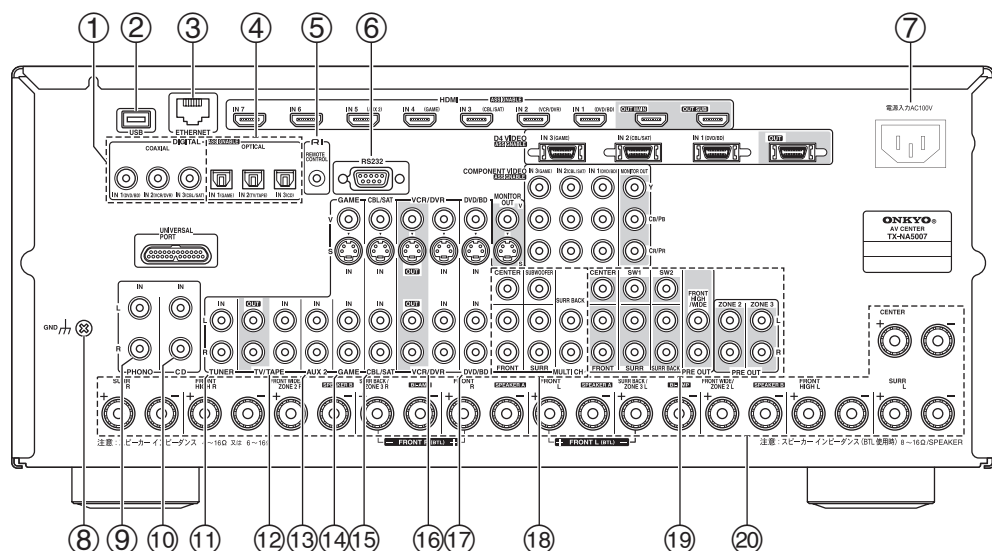
⑩ MONITOR OUT 端子
接続しているモニターやテレビにビデオ映像（V 端子）、S 映像（S 端子）を出力する端子です。

⑪ COMPONENT VIDEO IN 1/2/3 端子
接続した機器からコンポーネント映像を入力する端子です。各端子は接続機器に合わせて INPUT SELECTOR ボタンに割り当てることができます。

⑫ COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子
本機からコンポーネント映像を出力する端子です。

接続については、18 ～ 46 ページをご覧ください。

本体、リモコンボタンの名前と働き

■ 音声端子とその他の端子

① DIGITAL（デジタル） COAXIAL（コアキシャル） IN（イン） 1/2/3 端子
同軸デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器と音声接続する入力端子です。各端子は接続機器に合わせて INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター） ボタンに割り当てることができます。

② USB 端子
USB ストレージ（USB メモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。

③ ETHERNET（イーサネット） 端子
ホームネットワーク（LAN（ラン））と接続するための端子です。イーサネットケーブルを使ってルータやハブに接続します。

④ DIGITAL OPTICAL（オプティカル） IN 1/2/3 端子
光デジタルケーブルを使用して、デジタル再生機器と音声接続する入力端子です。各端子は接続機器に合わせて INPUT SELECTOR ボタンに割り当てることができます。

⑤ RI REMOTE（リモート） CONTROL（コントロール） 端子
RI 端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。
RI ケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

⑥ RS232 コネクター
この端子はコントロール用の端子です。

⑦ 電源入力 AC100V 端子
付属の電源コードを接続します。

⑧ GND（グランド） 端子
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑨ PHONO（フォノ） IN 端子
レコードプレーヤーと接続します。本機はムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。

⑩ CD IN 端子
CD プレーヤーを接続します。

⑪ TUNER（チューナー） IN 端子
チューナーを接続します。

⑫ TV（テレビ）/TAPE（テープ） IN/OUT（アウト） 端子
カセットデッキや MD レコーダーなどの録音機器およびテレビなどの音声出力端子を接続します。

⑬ AUX 2 IN 端子
オーディオ機器などの音声出力端子と接続します。

⑭ GAME（ゲーム） IN 端子
ゲーム機の音声出力端子と接続します。

⑮ CBL（ケーブル）/SAT（サテライト） IN 端子
ケーブルテレビチューナーや衛星放送チューナーなどの音声出力端子と接続します。

⑯ VCR（ビデオ）/ DVR（DVD レコーダー） IN/OUT 端子
ビデオデッキなどの音声入出力端子と接続します。

⑰ DVD/BD IN 端子
DVD/BD プレーヤーなどの音声出力端子と接続します。

⑱ MULTI（マルチ） CH（チャンネル） 入力端子
マルチチャンネル出力に対応した DVD プレーヤーなどを接続します。

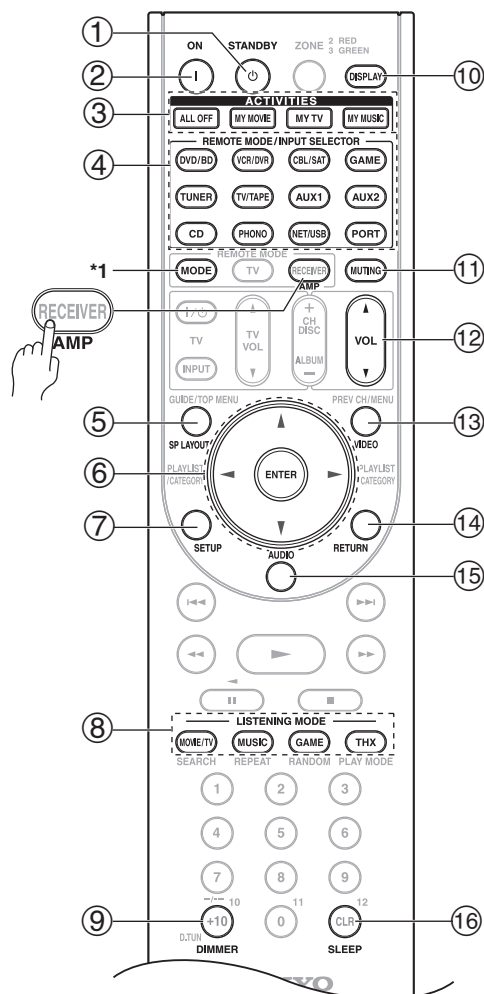
⑲ PRE（プリ） OUT 端子
本機をプリアンプとして使用する場合、パワーアンプやアンプ内蔵サブウーファーなどと接続します。
PRE OUT: SW1、SW2 端子は、それぞれレベルと距離を設定できます。

PRE OUT ZONE（ゾーン） 2/ZONE 3 L/R 端子
Zone 2/Zone 3 で使用するアンプを接続するアナログの音声出力端子です。

⑳ スピーカー端子
スピーカーを接続します。

リモコン（RC-747M）

AMP モード

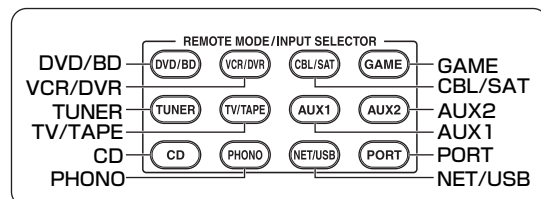
本機を操作するときは、はじめに AMP ボタンを押して、AMP モードにしてください。
また、リモコンでお手持ちの DVD/BD プレーヤーや CD プレーヤーなどの AV 機器も操作することができます。詳しくは 135 〜 153 ページをご覧ください。

*1 入力をそのまま変更せずにリモート（コントローラー）モードを切り換えたい場合は、MODE ボタンを押して約 8 秒以内に REMOTE MODE ボタンを押します。押した REMOTE MODE ボタンに対応する機器を本機のリモコンで操作できるようになります。

〔　　〕内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① STANDBY ボタン〔46〕
本機をスタンバイ状態にします。

② ON ボタン〔46〕
本機の電源を入れます。

③ ACTIVITIES ボタン〔67、153〕
マクロ機能を使用するときに使います。

④ REMOTE MODE/INPUT SELECTOR ボタン〔64〕
モードを切り換えて、再生する機器を選びます。

⑤ SP LAYOUT ボタン〔65〕
以下のスピーカーの選択を切り換えます。
- フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカー *2
- スピーカー A またはスピーカー B

⑥ ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン
設定中に、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑦ SETUP ボタン
表示部に設定画面を表示させます。

⑧ LISTENING MODE ボタン〔74〕
リスニングモードを切り換えます。

⑨ DIMMER ボタン〔65〕
表示部の明るさを切り換えます。

⑩ DISPLAY ボタン〔69〕
表示部の表示内容を切り換えます。

⑪ MUTING ボタン *3 〔65〕
音を一時的に小さくします。

⑫ VOL ▲/▼ ボタン *3〔64〕
音量を調節します。

⑬ VIDEO ボタン〔50、103〕
映像の設定に使用します。

⑭ RETURN ボタン
設定中に、表示を 1 つ前に戻します。

⑮ AUDIO ボタン〔115〕
音声の設定に使用します。

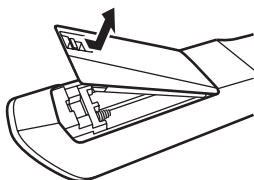
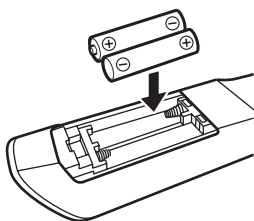
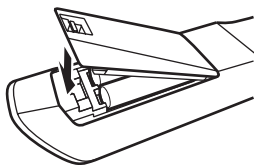
ご注意

「テレビオーディオ出力」を「オン」に設定している場合は、使用できません。（➔111 ページ）

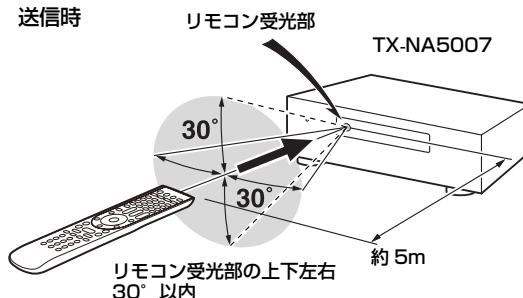
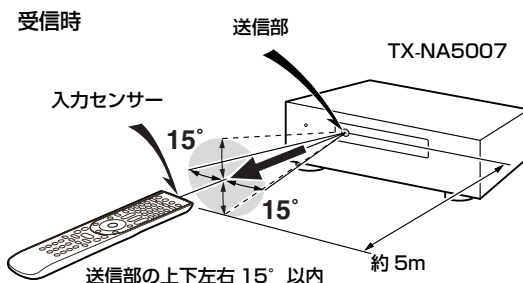
⑯ SLEEP ボタン〔65〕
スリープタイマーを設定します。

*2 サラウンドバックスピーカーを使用する場合は、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカー、またはサラウンドバックスピーカーとフロントワイドスピーカーの組み合わせで選択します。
*3 ⑪ ⑫ は、AMP モード以外の REMOTE MODE ボタンを選択しているときも使用できます。（TV モード時は除く）

乾電池を入れる

1. カバーを矢印の方向にずらして開ける

2. 中の極性表示にしたがって、付属の乾電池 2 個をプラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違えないように入れる

3. カバーを戻す

ご注意
- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して 2 本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単 3 形をご使用ください。

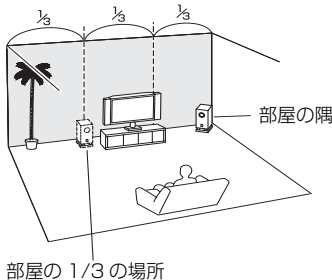
リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。

ご注意
- リモコン受光部に日光やインバーター蛍光灯などの強い光を直接当てると正しく動作しないことがあります。
- 赤外線を使った機器の近くで使用したり、他のリモコンを併用すると誤動作の原因となります。
- リモコンの上に本など、ものを置かないでください。ボタンが押し続けられた状態になり、電池が消耗してしまうことがあります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスを使っていたり、装飾フィルムを貼っていると、リモコンが正常に機能しないことがあります。
- リモコンとリモコン受光部の間に障害物があると操作できません。
- リモコンコードを登録して、他の製品を操作したいとき（➔135 ページ）、RI 接続をせずにオンキヨー製品を操作したいときは、他の製品に向けてリモコンを操作してください。
- RI 接続されたオンキヨー製品もしくは RIHD 接続された RIHD 対応製品を操作するときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作してください。

ホームシアターとは

ホームシアターを楽しもう

本機は優れた機能を使って音の立体感、移動感を実現し、ご家庭で簡単に劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれる音響効果をお楽しみいただけます。
再生する信号によって、DTS やドルビーデジタル再生、またはオンキヨー独自のリスニングモードをお楽しみいただけます。
THX のリスニングモードを聴くときは、THX 社認定スピーカーのご使用をおすすめします。

左右フロントスピーカー
総合的に音声を出力します。
ホームシアターの柱となり、音場をしっかりと整える役割を果たします。視聴位置の前方に配置します。
音楽や映画を鑑賞する位置と姿勢で、視聴者の耳に向くように配置してください。左右対称が理想です。

• 最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定を行ってください。（➔58 ページ）

スピーカーの使いかた

サブウーファーをお持ちの場合、スピーカーの数に関係なく、重低音効果を発揮するために使用します。（○ .1/ ○ .2 チャンネル再生）

スピーカーの数	2	3	4	5	6	7	7	7	8	8	9	9	9	10	11
左フロントスピーカー	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
右フロントスピーカー	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
センタースピーカー		✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
左サラウンドスピーカー			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
右サラウンドスピーカー			✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓
サラウンドバックスピーカー *					✓				✓	✓				✓	
左サラウンドバックスピーカー						✓					✓	✓			✓
右サラウンドバックスピーカー						✓					✓	✓			✓
左フロントハイスピーカー							✓		✓		✓		✓	✓	✓
右フロントハイスピーカー							✓		✓		✓		✓	✓	✓
左フロントワイドスピーカー								✓		✓		✓	✓	✓	✓
右フロントワイドスピーカー								✓		✓		✓	✓	✓	✓

* サラウンドバックスピーカーを 1 つだけ使用する場合は、SURR BACK/ZONE3（L）端子に接続してください。

ご注意

・ フロントハイスピーカーとフロントワイドスピーカーは同時には音がでません。

接続をする

スピーカーを切り換えて使用する（スピーカーセット A と B）

スピーカーセット A と B について

メインルームに 2 系統のフロントスピーカー（スピーカーセット A および B）を配置すれば、それぞれ最大 7.2ch サラウンド再生を楽しむことができます。それぞれのフロントスピーカーと、必要にあわせて共通のサブウーファー、センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーを組み合わせて使用できます。たとえばスピーカーセット A では 7.2ch サラウンド再生で映画を視聴、スピーカーセット B では 2ch ステレオ再生でクラシック音楽を楽しむ、などの使い方ができます。

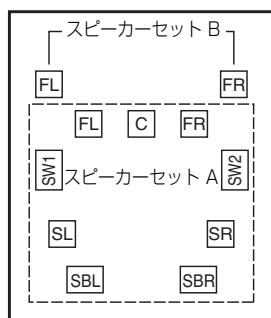
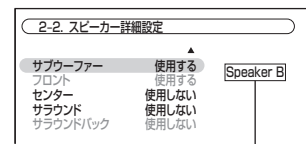
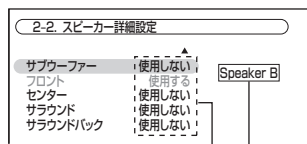
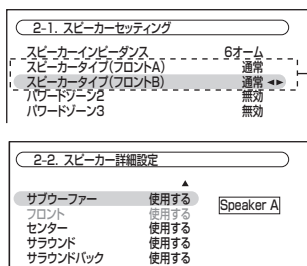
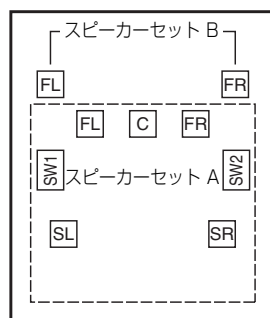
スピーカーを切り換えて使用するには、「スピーカーセッティング」（➔55 ページ）と、スピーカー B の「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）を設定します。

フロントスピーカー A/B は、通常の接続に加えてバイアンプ接続や BTL 接続ができます。ただし、バイアンプ接続や BTL 接続はスピーカーセット A/B 同時に設定できません。たとえば、フロントスピーカー A を BTL 接続で使用する場合は、フロントスピーカー B は通常の接続での使用になります。同様に、フロントスピーカー B をバイアンプ接続で使用する場合は、フロントスピーカー A は通常の接続での使用になります。バイアンプ接続や BTL 接続をする場合は、メインルームでは 7.2ch/5.2ch 再生になります。詳しくは 22 ～ 25 ページをご覧ください。

スピーカーセット A と B を切り換えるには、リモコンの SP（スピーカー） LAYOUT（レイアウト） ボタンを押します。A と B を同時には選べません。

スピーカーセット A と B を使用することで、お使いの視聴環境にあわせて本機を柔軟に設定することができます。標準的な設定例については、下記をご覧ください。

■ **スピーカーセット A：7.2ch サラウンド再生**
スピーカーセット B：2ch ステレオ再生
スピーカーセット A では 7.2ch サラウンド再生で映画を視聴し、スピーカーセット B では高品質なステレオスピーカーを使用した音楽再生をする場合の設定です。

■ **スピーカーセット A：5.2ch サラウンド再生**
スピーカーセット B：ブリッジ (BTL) 接続
スピーカーセット A では 5.2ch サラウンド再生で映画を視聴し、スピーカーセット B ではブリッジ接続で高品質なステレオスピーカーを使用した音楽再生をする場合の設定です。サブウーファーを A/B 両方で使用します。

※スピーカーインピーダンスは A と B で個別に設定することはできません。また、BTL 接続時は、8オームに固定されます。

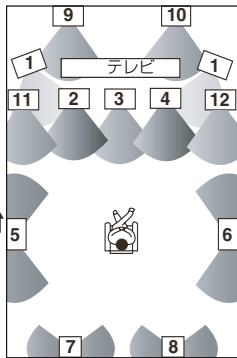
スピーカーを接続する

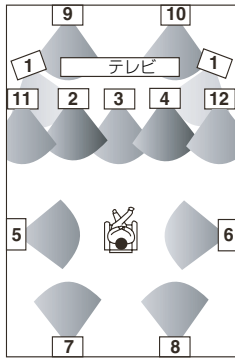
サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーの配置について

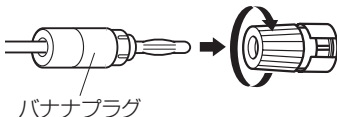
サラウンドバックスピーカーは、Dolby EX、Dolby Pro Logic IIx、DTS-ES Matrix、DTS-ES Discrete などのリスニングモードを楽しむときに必要です。
フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーは、Audyssey Dynamic Surround Expansion™ のリスニングモードを楽しむときに必要です。

設置例 1 は、ダイポール型スピーカーを設置した場合です。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、2 つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。ダイポール型スピーカーでは位相 * を合わせるため、多くはスピーカーに矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカーは矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカーは、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。
設置例 2 は、一般的なスピーカーを設置した場合です。

＊位相：正弦波の 1 周期（0 ～ 360 度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、プラス ⊕、マイナス ⊖ の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聞きづらさがあったりします。

設置例 1

設置例 2

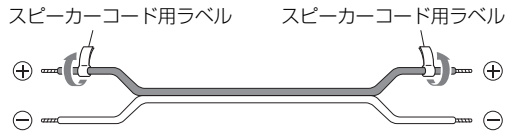
1 サブウーファー
2 左フロントスピーカー
3 センタースピーカー
4 右フロントスピーカー
5 左サラウンドスピーカー
6 右サラウンドスピーカー
7 左サラウンドバックスピーカー
8 右サラウンドバックスピーカー
9 左フロントハイスピーカー
10 右フロントハイスピーカー
11 左フロントワイドスピーカー
12 右フロントワイドスピーカー

バナナプラグの使用について

バナナプラグを使用する場合、スピーカー端子を締めてからバナナプラグを挿入してください。

ご注意

- スピーカーコードの芯線をスピーカー端子のバナナプラグ用の穴にそのまま挿入しないでください。

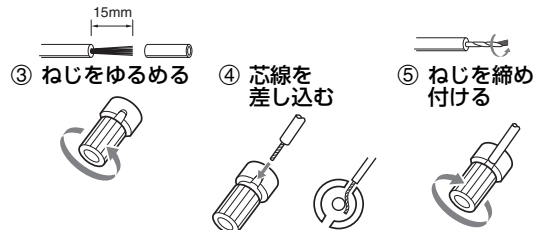
スピーカーコード用ラベルの使いかた

付属のスピーカーコード用ラベルを、お持ちのスピーカーコード両端のプラスに貼ると識別が簡単になります。

スピーカーコード用ラベル　　スピーカーコード用ラベル

左フロント	：白	左フロントスピーカーのコード両端（⊕ 側）に白いラベルを貼る
右フロント	：赤	右フロントスピーカーのコード両端（⊕ 側）に赤いラベルを貼る
センター	：緑	センタースピーカーのコード両端（⊕ 側）に緑のラベルを貼る
左サラウンド	：青	左サラウンドスピーカーのコード両端（⊕ 側）に青いラベルを貼る
右サラウンド	：灰	右サラウンドスピーカーのコード両端（⊕ 側）に灰色のラベルを貼る
左サラウンドバック	：茶	左サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕ 側）に茶色のラベルを貼る
右サラウンドバック	：ベージュ	右サラウンドバックスピーカーのコード両端（⊕ 側）にベージュのラベルを貼る
左フロントハイ	：白	左フロントハイスピーカーのコード両端（⊕ 側）に白いラベルを貼る
右フロントハイ	：赤	右フロントハイスピーカーのコード両端（⊕ 側）に赤いラベルを貼る
左フロントワイド	：白	左フロントワイドスピーカーのコード両端（⊕ 側）に白いラベルを貼る
右フロントワイド	：赤	右フロントワイドスピーカーのコード両端（⊕ 側）に赤いラベルを貼る

スピーカーコードの接続

本機のスピーカー端子のプラス ⊕ とスピーカーのプラス ⊕ 端子に、ラベルを貼った側のスピーカーコードを接続します。本機のスピーカー端子のマイナス ⊖ とスピーカーのマイナス ⊖ 端子とを、ラベルの貼っていない側のスピーカーコードで接続します。

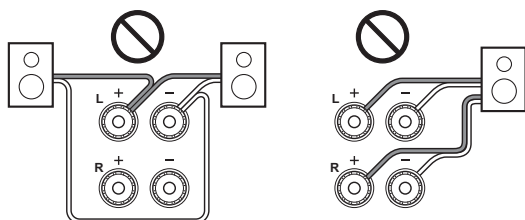
① スピーカーコードの被覆を 15mm カットする
② 芯線の先端をしっかりとよじる
③ ねじをゆるめる
④ 芯線を差し込む
⑤ ねじを締め付ける

ご注意

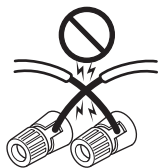
- 芯線はしっかりとよじり、後面パネルなどの金属に接触しないようにしてください。

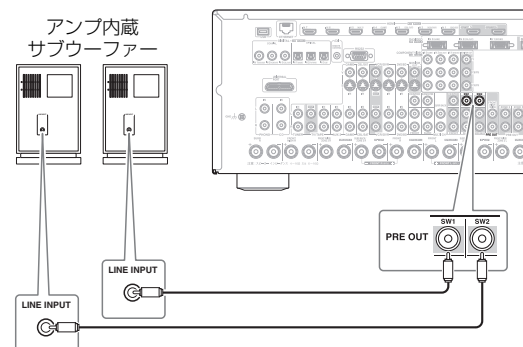
スピーカーの配置については（「ホームシアターとは」（➔16 ページ）および「サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーの配置について」（➔18 ページ）をご覧ください。

本機にはインピーダンスが 4 Ω ～ 16Ω のスピーカーを接続してください。ただし、インピーダンスが 4Ω 以上 6Ω 未満のスピーカーを 1 台でも接続するときは、55 ページで「インピーダンス」を 4 オームに設定してください。

ご注意

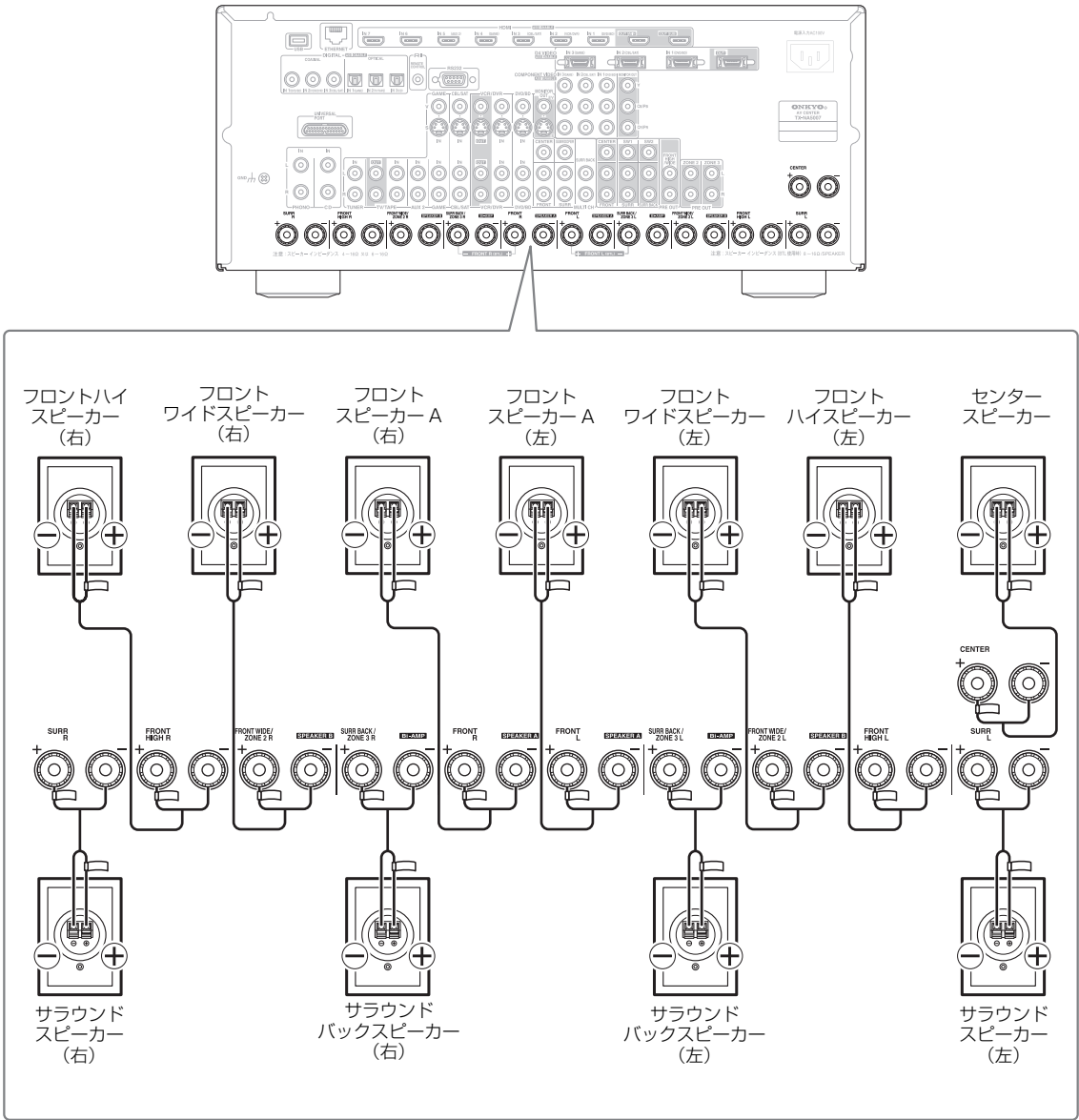
- プラス ⊕ とマイナス ⊖ を間違って接続したり、左右のスピーカーを間違えて接続すると音声が不自然になりますのでご注意ください。
- スピーカー端子に複数のスピーカーコードは接続しないでください。
  故障の原因になります。
- 1 台のスピーカーだけを使用する場合やモノラル音声を再生する場合、1 台のスピーカーを左右スピーカー端子に並列接続しないでください。

危険

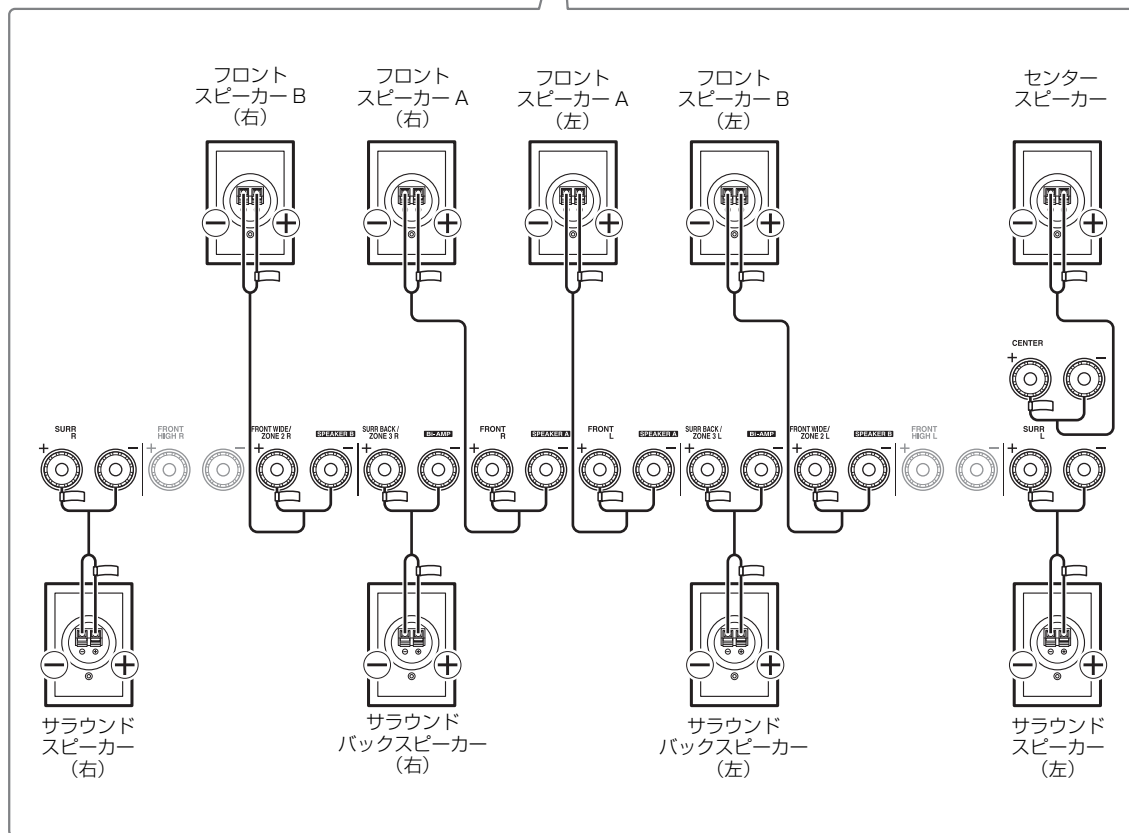
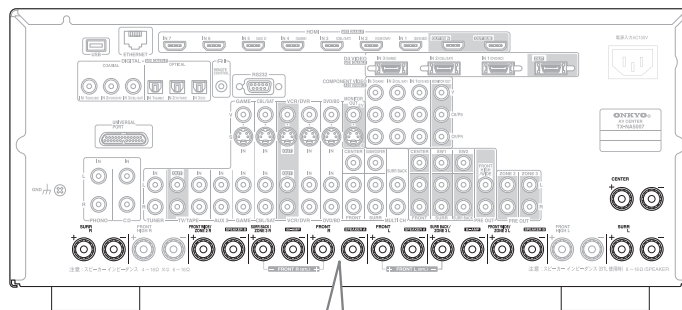
回路の故障を防ぐため、スピーカーコードの芯線のプラス ⊕ とマイナス ⊖ を絶対に接触させないでください。

サブウーファーを接続する

パワーアンプ内蔵のサブウーファーを PRE OUT: SW1、SW2 端子に接続します。最大2つのパワーアンプ内蔵のサブウーファーを接続して使用することができます。
PRE OUT: SW1、SW2 端子は、それぞれでレベルと距離を設定できます。
サブウーファーを 1 つだけ使用するときは、PRE OUT: SW1 に接続してください。

！ヒント

- 再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または 1/3 の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。
- サブウーファー側で音量調整ができる場合、音量を上げてください。また、カットオフフィルター切換スイッチは「DIRECT」にしてください。カットオフフィルター切換スイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。

■ スピーカー A で 9.2 ch 再生をする

サラウンドバックスピーカーを 1 つだけ使用する場合は、SURR BACK/ZONE 3（L）端子に接続してください。
5.2 ch の場合は、FRONT（L/R）、CENTER、SURR（L/R）端子に接続してください。

■ スピーカー A またはスピーカー B で 7.2 ch 再生をする

サラウンドバックスピーカーを 1 つだけ使用する場合は、SURR BACK/ZONE 3（L）端子に接続してください。
5.2 ch の場合は、FRONT（L/R）、CENTER、SURR（L/R）端子に接続してください。

ご注意

- スピーカー A とスピーカー B を切り換えて使用する場合は、スピーカー A を FRONT（L/R）に、スピーカー B を FRONT WIDE/ZONE 2（L/R）に接続してください。
- スピーカーの設定については、「スピーカーセッティング」（➔55 ページ）と「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）をご覧ください。
- スピーカー B の配置を使う時はフロントハイスピーカーは使用できません。

フロントスピーカー A でバイアンプ接続をする

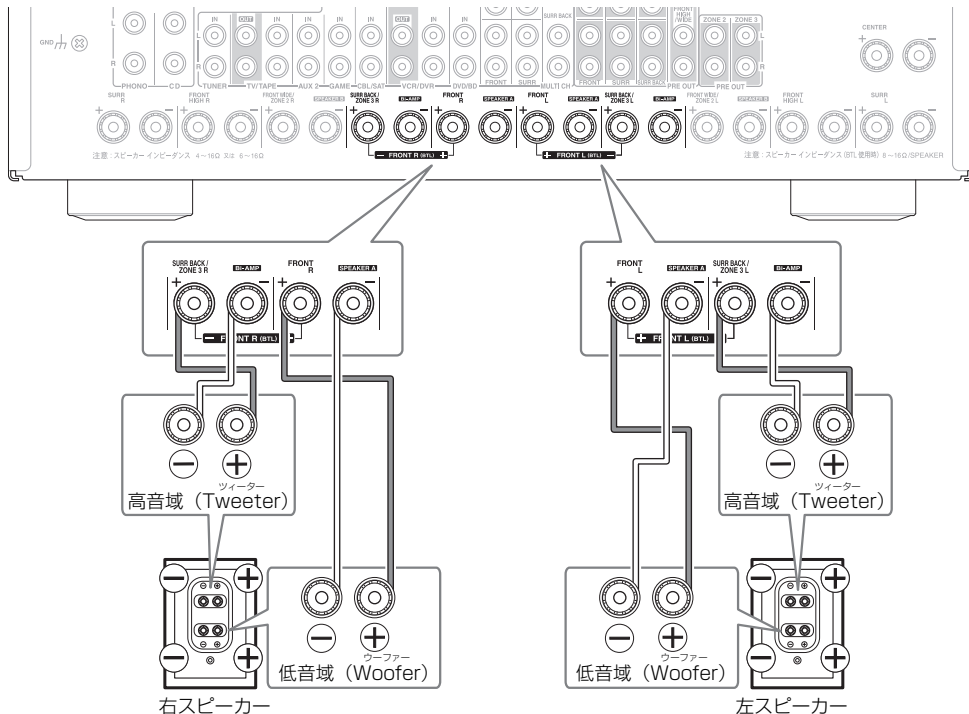
FRONT（L/R）端子と SURR BACK/ZONE 3（L/R）端子は、フロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーそれぞれに接続したり、高音用と低音用の 2 組の入力端子のあるバイアンプ接続対応のスピーカーに接続して使用することができます。

- バイアンプ接続では最大 7.2ch 再生になります。
- バイアンプ接続では、FRONT（L/R）端子へフロントスピーカーの低音用端子を接続します。また、SURR BACK/ZONE 3（L/R）端子へフロントスピーカーの高音用端子を接続します。
- 以下の手順でバイアンプ接続をしたあとに、「スピーカータイプ（フロント A）」の設定を「バイアンプ」にする必要があります。（➔55 ページ）
- フロントスピーカー A をバイアンプ接続している時は、フロントスピーカー B を通常の接続にするかまたは使用しないでください。

ご注意

- バイアンプ接続をする場合は、高音用端子と低音用端子をつないでいるショート金具を必ず取り外してください。
- バイアンプに対応したスピーカーのみ使用可能です。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

バイアンプスピーカーを接続する

1	本機の FRONT（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーの低音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の FRONT（R）のマイナス ⊖ 端子と、右スピーカーの低音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。
2	本機の SURR BACK/ZONE 3（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーの高音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の SURR BACK/ZONE 3（R）のマイナス ⊖ 端子と、右スピーカーの高音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。
3	本機の FRONT（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーの低音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の FRONT（L）のマイナス ⊖ 端子と、左スピーカーの低音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。
4	本機の SURR BACK/ZONE 3（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーの高音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の SURR BACK/ZONE 3（L）のマイナス ⊖ 端子と、左スピーカーの高音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。

フロントスピーカー A で BTL 接続をする

FRONT（L/R）端子と SURR BACK/ZONE 3（L/R）端子は、フロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーそれぞれに接続したり、2 つのアンプの出力をブリッジ接続して、通常の約二倍の出力を得ることができます。

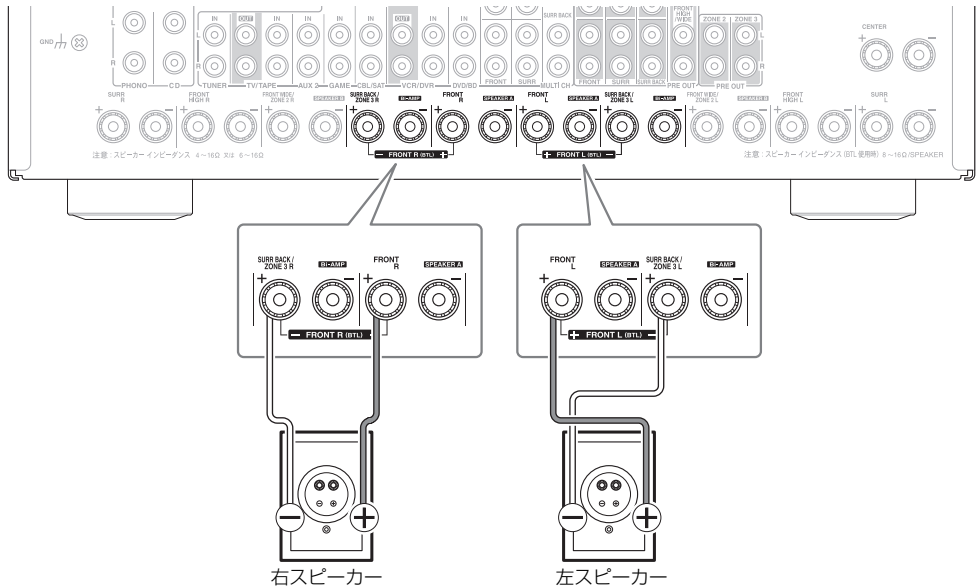
- BTL 接続をする場合は、サラウンドバックスピーカーは使用できません。
- BTL 接続では最大 7.2ch 再生になります。
- BTL 接続では FRONT（L/R）と SURR BACK/ZONE 3（L/R）のプラス ⊕ 端子は使われますが、マイナス ⊖ 端子は使われません。
- 以下の手順で BTL 接続をしたあとに、「スピーカータイプ（フロント A）」の設定を「BTL」にする必要があります。(➔55 ページ)
- フロントスピーカー A を BTL 接続している時は、フロントスピーカー B を通常の接続にするかまたは使用しないでください。

ご注意

- BTL 接続にはインピーダンスが 8Ω 以上のスピーカーを使用してください。そうでないスピーカーを使用すると本機が損傷する場合があります。

スピーカーを BTL 接続する

1	本機の FRONT（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーのプラス ⊕ 端子を接続してください。 また、本機の SURR BACK/ZONE 3（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーのマイナス ⊖ 端子を接続してください。
2	本機の FRONT（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーのプラス ⊕ 端子を接続してください。 また、本機の SURR BACK/ZONE 3（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーのマイナス ⊖ 端子を接続してください。

右スピーカー　左スピーカー

フロントスピーカー B でバイアンプ接続をする

FRONT（フロント） WIDE（ワイド）/ZONE（ゾーン） 2（L/R）端子と SURR（サラウンド） BACK（バック）/ZONE 3（L/R）端子は、フロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーそれぞれに接続したり、高音用と低音用の 2 組の入力端子のあるバイアンプ接続対応のスピーカーに接続して使用することができます。

- バイアンプ接続では最大 5.2ch 再生になります。
- バイアンプ接続では、FRONT WIDE/ZONE 2（L/R）端子へフロントスピーカーの低音用端子を接続します。また、SURR BACK/ZONE 3（L/R）端子へフロントスピーカーの高音用端子を接続します。
- 以下の手順でバイアンプ接続をしたあとに、「スピーカータイプ（フロント B）」の設定を「バイアンプ」にする必要があります。（➔55 ページ）
- フロントスピーカー B をバイアンプ接続している時は、フロントスピーカー A を通常の接続にしてください。

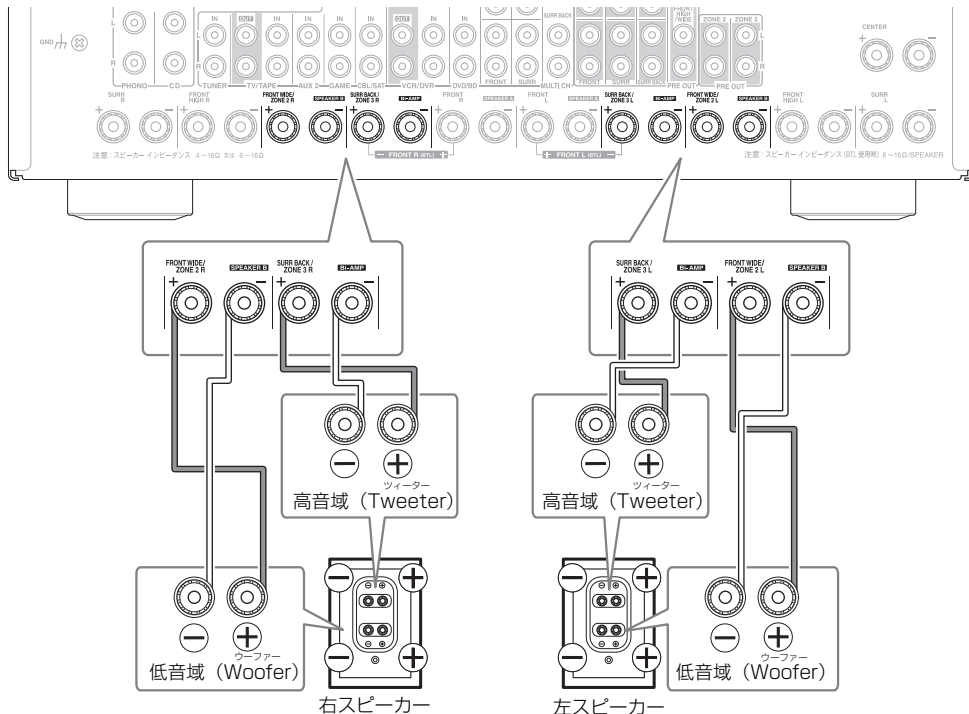
ご注意
- バイアンプ接続をする場合は、高音用端子と低音用端子をつないでいるショート金具を必ず取り外してください。
- バイアンプに対応したスピーカーのみ使用可能です。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

バイアンプスピーカーを接続する

1 本機の FRONT WIDE/ZONE 2（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーの低音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の FRONT WIDE/ZONE 2（R）のマイナス ⊖ 端子と、右スピーカーの低音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。

2 本機の SURR BACK/ZONE 3（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーの高音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の SURR BACK/ZONE 3（R）のマイナス ⊖ 端子と、右スピーカーの高音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。

3 本機の FRONT WIDE/ZONE 2（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーの低音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の FRONT WIDE/ZONE 2（L）のマイナス ⊖ 端子と、左スピーカーの低音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。

4 本機の SURR BACK/ZONE 3（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーの高音域用プラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の SURR BACK/ZONE 3（L）のマイナス ⊖ 端子と、左スピーカーの高音域用マイナス ⊖ 端子を接続してください。

フロントスピーカー B で BTL 接続をする

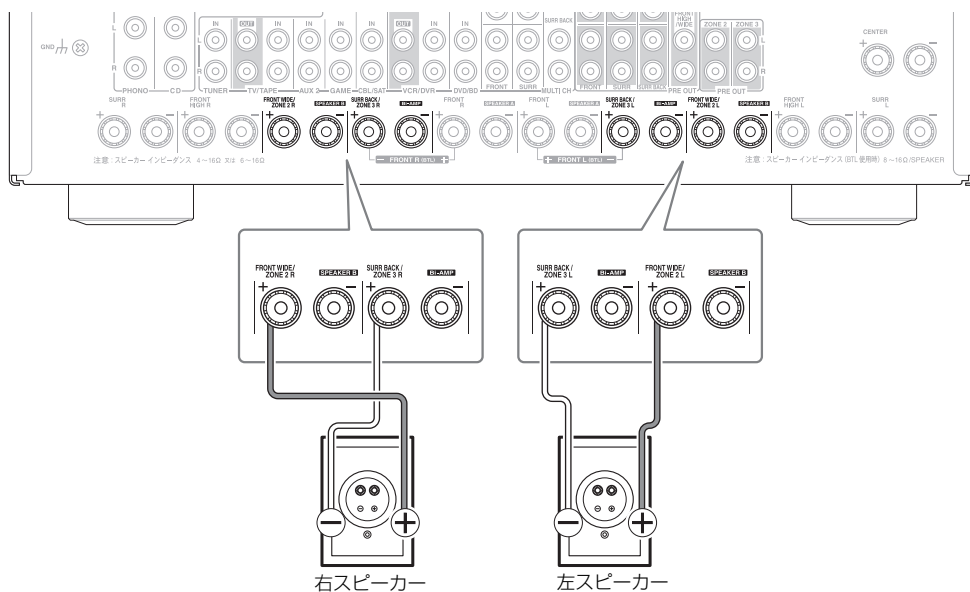
FRONT WIDE/ZONE 2（L/R）端子と SURR BACK /ZONE 3（L/R）端子は、フロントスピーカーとサラウンドバックスピーカーそれぞれに接続したり、2 つのアンプの出力をブリッジ接続して、通常の約二倍の出力を得ることができます。

- BTL 接続をする場合は、サラウンドバックスピーカーは使用できません。
- BTL 接続では最大 5.2ch 再生になります。
- BTL 接続では FRONT WIDE/ZONE 2（L/R）と SURR BACK/ZONE 3（L/R）のプラス ⊕ 端子は使われますが、マイナス ⊖ 端子は使われません。
- 以下の手順で BTL 接続をしたあとに、「スピーカータイプ（フロント B)」の設定を「BTL」にする必要があります。（➔55 ページ）
- フロントスピーカー B を BTL 接続している時は、フロントスピーカー A を通常の接続にしてください。

ご注意

- BTL 接続にはインピーダンスが 8Ω 以上のスピーカーを使用してください。そうでないスピーカーを使用すると本機が損傷する場合があります。

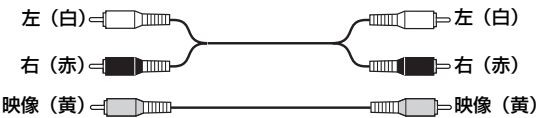
スピーカーを BTL 接続する

1	本機の FRONT WIDE/ZONE 2（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーのプラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の SURR BACK/ZONE 3（R）のプラス ⊕ 端子と、右スピーカーのマイナス ⊖ 端子を接続してください。
2	本機の FRONT WIDE/ZONE 2（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーのプラス ⊕ 端子を接続してください。また、本機の SURR BACK/ZONE 3（L）のプラス ⊕ 端子と、左スピーカーのマイナス ⊖ 端子を接続してください。

接続をする

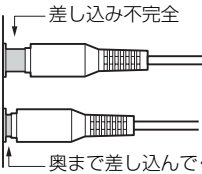
接続の前に

- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 電源コードはすべての接続が終わるまでつながないでください。

ビデオ用、オーディオ用ピンコードは以下のように接続してください。

- 入力端子は赤いコネクターを右チャンネル（R の表示）、白いコネクターを左チャンネル（L の表示）、黄色のコネクターをビデオチャンネル（V の表示）に接続してください。

- コードのプラグはしっかりと奥まで差し込んでください。
  接続が不完全ですと、雑音や動作不良の原因になります。

差し込み不完全
奥まで差し込んでください

- ビデオコード、オーディオ用ピンコードは電源コードやスピーカーコードと束ねないでください。音質や画質が悪くなることがあります。

光デジタル入力端子について

本機の光デジタル入力端子は、すべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

映像 / 音声ケーブルと端子の種類について

ケーブルと端子の種類				
	ケーブルの名称	ケーブルの形	端子の形	ケーブルや端子の役割
映像と音声	HDMI ケーブル			映像と音声をデジタル伝送します。 本機は HDMI Version（バージョン） 1.3a 規格に準拠しています。
映像	コンポーネント ビデオコード		Y CB/PB CR/PR	画質は D 端子と同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
	D 端子用 接続コード		D4	画質はコンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。
	S ビデオコード		S	コンポジットの映像より良い画質が得られます。本機では映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。
	ビデオコード （コンポジット）		VIDEO	標準的な映像信号用の端子で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。
音声	光デジタルケーブル （OPTICAL（オプティカル））		OPTICAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質は COAXIAL と同レベルです。
	同軸デジタルケーブル （COAXIAL（コアキシャル））		COAXIAL	ドルビーデジタルなどのデジタル音声が得られます。音質は OPTICAL と同レベルです。
	オーディオ用 ピンコード		L R	アナログ音声を伝送します。
			CENTER SUBWOOFER SURR BACK FRONT SURR MULTI CH	DVD オーディオ対応の DVD プレーヤーなどとの接続に使用します。 アナログマルチチャンネル音声を伝送します。

HDMI 端子を使って接続する

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）とは

放送のデジタル化などの変化に対応して、家庭内でテレビ / プロジェクター間をデジタル接続することを目的として策定されたインターフェース規格です。

従来の DVI（Digital Visual Interface）*1 規格をさらに発展させて、オーディオ信号およびコントロール信号を伝送する機能を追加しています。従来は機器間の接続に、ビデオ、オーディオ、コントロールの各信号用に複数のケーブルを使用していましたが、HDMI ケーブルを 1 本接続するだけで、HDMI 端子対応の機器間で映像や音声をデジタルで伝送することができます。

> 本機の HDMI インターフェースは、以下の規格に基づいています。
> High-Definition Multimedia Interface Specification Version 1.3a
> x.v.Color、DeepColor、リップシンク、DTS-HD マスターオーディオ、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、ドルビー TrueHD、ドルビーデジタルプラス、DSD、およびマルチチャンネル PCM

対応音声フォーマット

- 2 チャンネルリニア PCM（32 ～ 192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニア PCM（最大 7.1ch、32 ～ 192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS、DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ、DTS エクスプレス、DTS-HD マスターオーディオ、DSD、AAC）

ただし、プレーヤー側も上記の音声フォーマットの HDMI 出力に対応している必要があります。

オンキヨー RIHD について

RIHD はオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機では HDMI 規格で定められている CEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CEC に対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD 対応機器と推奨製品以外での動作は保証いたしません。

- 「HDMI コントロール（RIHD）」を「オン」に設定します（➔112 ページ）。
- リモコン操作については、本機のリモコンで他の製品を操作する「DVD/BD プレーヤー、DVD レコーダーを操作する」（➔143 ページ）、「テレビを操作する」（➔142 ページ）をご覧ください。

ご注意

連動機能が適切に働くように、HDMI 端子には以下の台数より多くの RIHD 対応機器を接続しないでください。

- DVD/BD プレーヤー：最大 3 台
- DVD/BD レコーダー：最大 3 台
- ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大 4 台

本機に HDMI を介して他の AV センターを接続しないでください。RIHD 対応機器が上記より多く接続されている場合には、連動機能は保証いたしません。

- RIHD による連動機能は、HDMI OUT SUB 端子では動作しません。HDMI OUT MAIN 端子を使用してください。

著作権保護について

本機は HDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2 に対応しています。HDCP とは、デジタル映像信号に対する著作権保護技術です。
本機と接続する機器も HDCP に対応していることが必要です。

*1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG*3 が、1999 年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

*2 HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection)：Intel が開発した HDMI/DVI 用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP 準拠の HDMI/DVI レシーバーが必要です。

*3 DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packard などが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

接続をする（映像機器を接続する）

接続のしかた

HDMI 接続では、HDMI ケーブルで映像信号と音声信号を同時に伝送することができます。

ステップ 1：HDMI ケーブルを使って本機の HDMI 端子と DVD/BD プレーヤー、テレビまたはプロジェクターなどの HDMI 端子と接続してください。

ステップ 2：接続した HDMI 端子を 51 ページの「HDMI 入力端子の設定」で割り当ててください。

■ 映像信号の流れ

HDMI 端子から入力したデジタル映像は、HDMI 出力端子からのみ出力されます。また、VIDEO（ビデオ）、S ビデオ、D4 VIDEO、COMPONENT（コンポーネント） VIDEO 端子から入力した映像信号は、変換して HDMI 出力端子から出力されます。詳しくは「映像接続のしくみ」（➔29 ページ）をご覧ください。

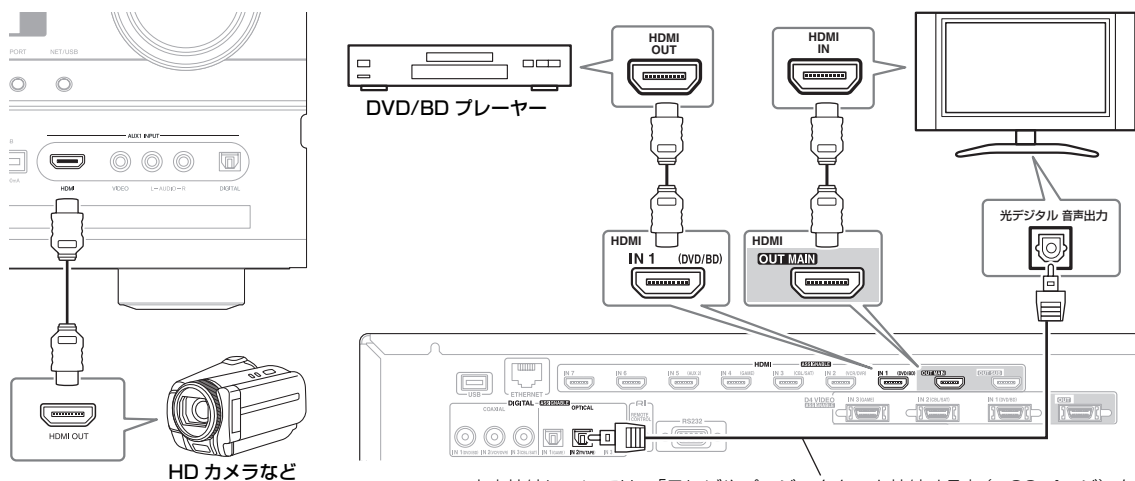
■ 音声信号の流れ

HDMI 端子から入力したデジタル音声は、本機に接続されたスピーカーやヘッドホンへ出力されます。

ご注意

- HDMI 機器の音声を本機で聞く場合は、テレビに HDMI 機器の映像が映る状態にしておいてください（本機が接続されている HDMI 入力をテレビ側で選んでください）。テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。

！ヒント

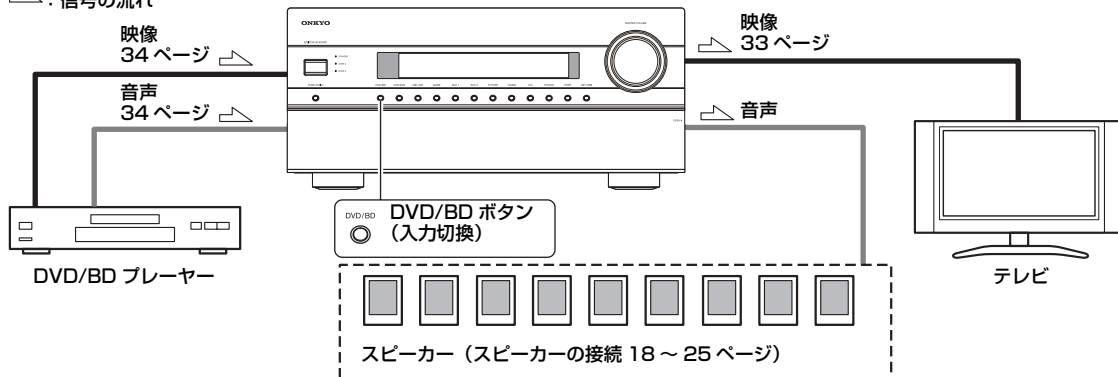
- HDMI 端子から入力した音声信号を、HDMI 端子から出力してテレビなどのスピーカーで聞きたい場合、RIHD 対応テレビであれば「テレビ連動」を「オン」に（➔112 ページ）、非対応の場合もしくはテレビ連動を使用しない場合は「テレビオーディオ出力」設定を「オン」に（➔111 ページ）してください。また、DVD プレーヤーなどの設定で、HDMI に出力する設定を 2 チャンネル PCM になるように設定してください。

音声接続については、「テレビやプロジェクターと接続する」（➔33 ページ）をご覧ください。

ご注意

- HDMI のビデオストリーム（映像信号）は、DVI と原理的に互換性があります。DVI 端子を装備したテレビ / モニターなどに接続するには HDMI → DVI 変換ケーブルを用いて可能ですが、機器の組み合わせによっては映像が出ない場合があります。本機は HDCP を使用しており、対応の受像機でのみ映像が出ます。
- 本機を通して HDMI 接続した機器の音声を楽しむときは、機器側で映像がテレビ画面に映るように設定してください。（テレビ側の入力設定も確認してください。）テレビの電源がオフのときやテレビの入力が正しく選ばれていないと、本機からの音声が出ないことがあります。
- 「テレビオーディオ出力」の設定をオンにして、テレビのスピーカーから音声を出していると、本機のボリュームを操作したとき本機に接続したスピーカーからも音声が出ます。また、「テレビ 連動」（➔112 ページ）の設定が「オン」のとき、RIHD 対応テレビのスピーカーから音声を出していると、本機のボリュームを操作したとき本機に接続したスピーカー側の音声が出て、テレビ側の音声はミュートされます。本機に接続したスピーカーから音声が出ないようにするには、本機の設定またはテレビの設定を変更してください。設定を変更しない場合は、本機のボリュームを下げてください。
- HDMI 音声信号は、接続機器により制約されることがあります。HDMI 接続している機器から入力される画像の品質がよくなかったり、音声が出なかったりするときは、機器側の設定を確認してください。詳しくは接続機器の取扱説明書をご覧ください。

映像 / 音声接続のしくみ

DVD/BD プレーヤーなど、映像機器は映像接続と音声接続を行ってください。
本機の入力を切り換えるだけでその機器の映像と音声を選ぶことができます。

例：DVD/BD プレーヤーと組み合わせる場合

映像接続のしくみ

本機には 5 種類（ビデオ（コンポジット）、S ビデオ、D4、コンポーネント、HDMI）の映像入出力端子があります。接続する機器に合わせて使用してください。

本機では映像信号を使用機器に合わせて変換することができます。モニター映像出力（Monitor Out）により映像信号を変換して HDMI 出力端子から出力するか、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力するか選びます。

THX は、より良い映像をお楽しみいただくために、同じ入出力の信号を変換せずにご使用いただくことを推奨します。（たとえば、ビデオ入力はビデオ出力から、S ビデオ入力は S ビデオ出力からの信号をお楽しみください。）本体の VCR/ DVR ボタンと RETURN ボタンを同時に押すことで、本機のビデオ処理を最適化して THX のリスニングモードに適した設定にすることができます（RETURN ボタンをくり返し押して、本機の表示部で「VideoProcessor：Skip」を選びます）。設定をもとに戻すには、もう一度、同じボタンを同時に押してください。

■ モニター映像出力（Monitor Out）を「HDMI メイン」または「HDMI サブ」にした場合（➔48 ページ）

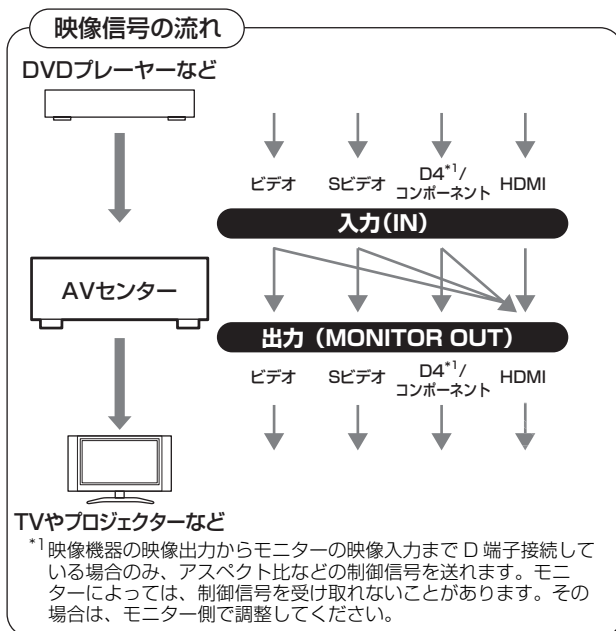
モニター映像出力（Monitor Out）を「HDMI メイン」または「HDMI サブ」にした場合、入力した映像信号の流れは右図のようになります。
ビデオ、S ビデオ、D4/ コンポーネントに入力された映像信号は変換されて HDMI 出力端子から出力されます。

本機の HDMI OUT MAIN 端子にテレビを接続している場合は「HDMI メイン」に、HDMI OUT SUB 端子にテレビを接続している場合は「HDMI サブ」に設定してください。

ビデオ、S ビデオ、D4/ コンポーネントに入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。

*1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力まで D 端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

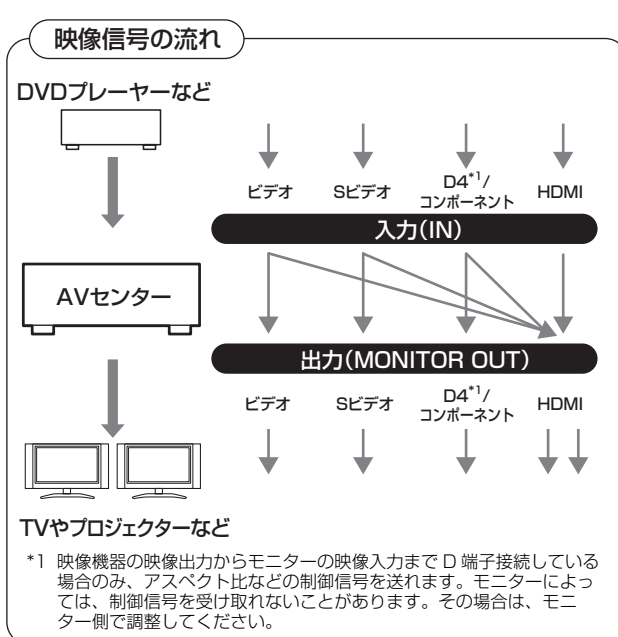
！ヒント

- モニター映像出力（Monitor Out）で選択した出力と異なる端子にテレビを接続した場合、「モニター出力設定」は自動的に「Analog」に設定されます（➔48 ページ）。その場合、出力解像度の設定は HDMI 出力に設定した値が設定されます（➔49 ページ）。ただし、「1080p」を選ぶと「1080i」に切り換わり、「自動」を選ぶと「スルー」に切り換わります。

■ モニター映像出力（Monitor Out）を「両方」または「両方（メイン）」「両方（サブ）」にした場合（→48 ページ）

「モニター映像出力」を「両方」または「両方（メイン）」「両方（サブ）」にした場合、入力した信号の流れは右図のようになります。
ビデオ、S ビデオ、D4/ コンポーネントに入力された映像信号は変換されて HDMI 出力端子から出力されます。**本機の HDMI OUT MAIN 端子と HDMI OUT SUB 端子にそれぞれテレビを接続している場合は「両方」または「両方（メイン）」、「両方（サブ）」に設定してください。**
ビデオ、S ビデオ、D4/ コンポーネントに入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。
「両方」：映像信号は両方の HDMI 出力端子から、両方のテレビで対応している解像度で出力されます。「解像度」の設定は変更できません。画質調整の各設定は HDMI OUT MAIN で設定した値になります。
「両方（メイン）」：映像信号は両方の HDMI 出力端子から出力されますが、HDMI OUT MAIN 端子からの出力が優先されます。映像の解像度によっては、HDMI OUT SUB 端子からは映像信号が出力されない場合があります。
「両方（サブ）」：映像信号は両方の HDMI 出力端子から出力されますが、HDMI OUT SUB 端子からの出力が優先されます。映像の解像度によっては、HDMI OUT MAIN 端子からは映像信号が出力されない場合があります。

*1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力まで D 端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

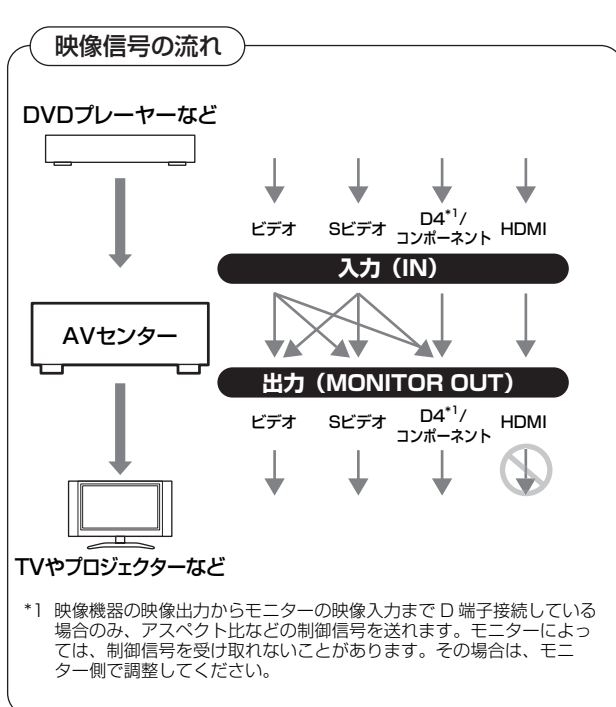
ご注意

以下の場合、「モニター映像出力」は自動的に「Analog」に設定されます。
- 「両方」に設定をしていて、どの HDMI 出力端子にも接続をしていない。
- 「両方（メイン）」または「両方（サブ）」に設定をしていて、それぞれの優先の HDMI 出力端子に接続をしていない。

■ モニター映像出力（Monitor Out）を「Analog」にした場合（➔48 ページ）

モニター映像出力（Monitor Out）で「Analog」を選んだ場合、入力した映像信号の流れは右図のようになり、ビデオ、S ビデオの各端子に入力した映像信号は変換されて COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子または D4 VIDEO OUT 端子から出力されます。**本機の HDMI 出力端子をテレビの HDMI 入力端子に接続していない場合は「Analog」に設定してください。**

ビデオ信号は S ビデオ信号に変換されます。逆に S ビデオ信号はビデオ信号に変換されます。変換された信号は MONITOR OUT V/S の各映像端子からのみ出力されます。VCR/ DVR OUT V/S の各映像端子からは出力されませんのでご注意ください。

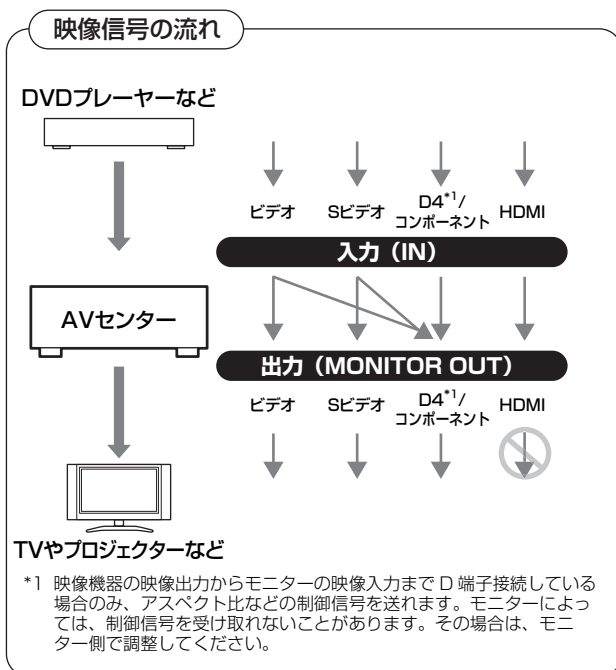
D4/ コンポーネントに入力した各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子から出力されます。

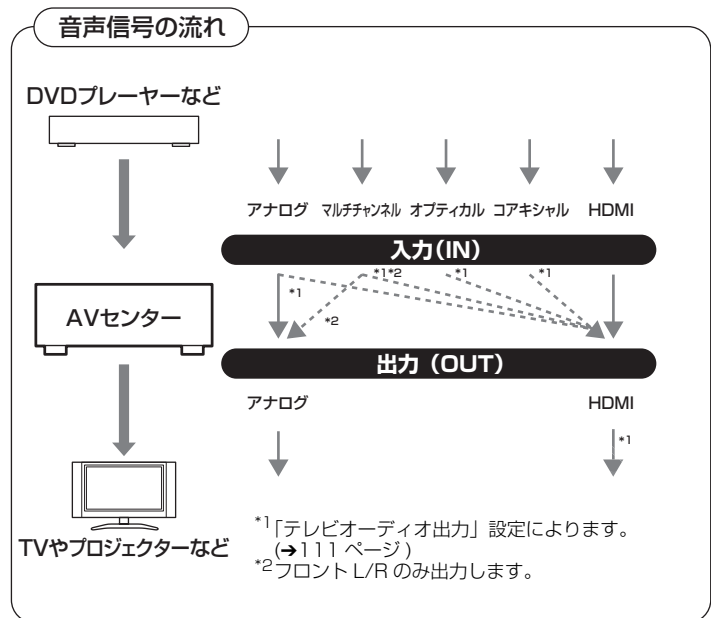
*1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力まで D 端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

- 映像機器とビデオ端子または S ビデオ端子を使って接続するときは、コンポーネントビデオ端子の設定（➔52 ページ）をすると、D 端子接続やコンポーネント端子接続したモニターからも映像を出力することができます。
- 出力解像度（➔49 ページ）を「スルー」に設定しているときにこの図のように信号が流れます。

映像信号の流れと解像度設定

出力解像度を「スルー」以外に設定していると（➔48 ページ）ビデオ・S ビデオ信号は変換されて D 端子またはコンポーネントビデオ出力の流れになります。
ビデオ・S ビデオおよび D 端子またはコンポーネントビデオ出力の信号はそれぞれ出力されますが、HDMI 入力信号は出力されません。

D4/ コンポーネントに入力した各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子から出力されます。

*1 映像機器の映像出力からモニターの映像入力まで D 端子接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

音声接続のしくみ

本機はアナログ、デジタル（光／同軸）、そして HDMI のいずれの音声信号入力にも対応しています。
本機はデジタル入力信号を変換してアナログ出力することはできません。また逆にアナログ入力信号を変換してデジタル出力することもできません。たとえば OPTICAL（オプティカル）端子や COAXIAL（コアキシャル）端子に入力した音声信号を TV（テレビ）/TAPE（テープ） OUT（アウト） 端子から出力することはできません。

もし、1 つ以上の信号が入力されているなら、入力信号は HDMI、デジタル、アナログの順に優先的に自動選択されます。

テレビやプロジェクターと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと映像接続をしてください。

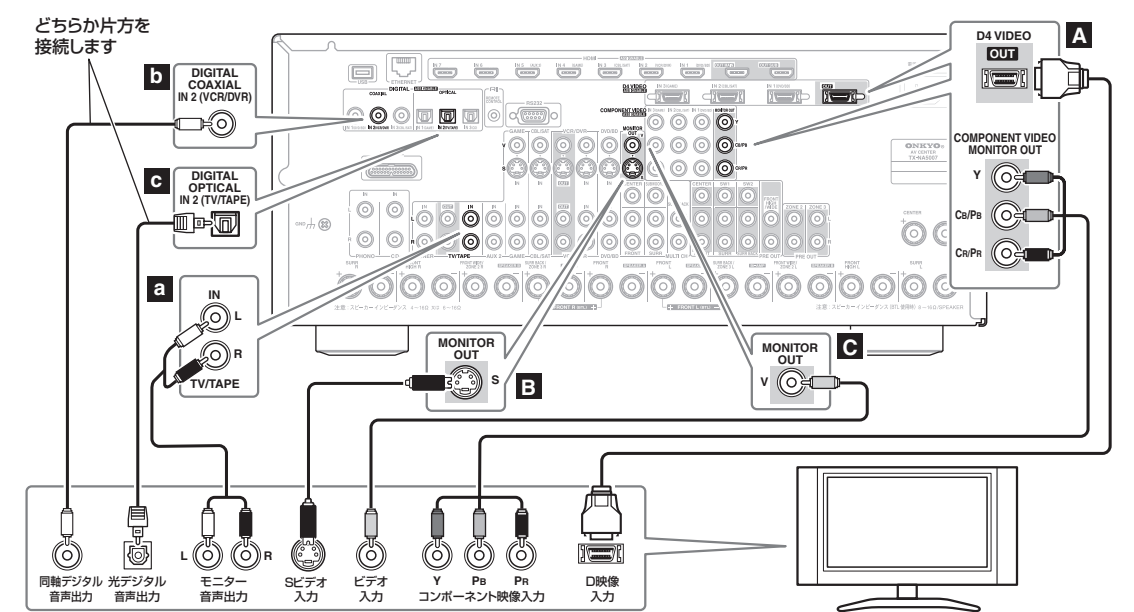
！ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んでテレビやプロジェクターと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- テレビの音声をアナログ録音したいときに必要です。

地上デジタルや BS デジタルのサラウンド放送を楽しみたいときは b または c の接続をしてください。（ b の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔53 ページ）

接続	本機	信号の流れ	テレビ / プロジェクター	画質
A	D4 VIDEO OUT 端子 または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子	➡	D 映像入力端子 または コンポーネント映像入力端子	最良
B	MONITOR OUT S 端子	➡	S ビデオ入力端子	標準
C	MONITOR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	TV/TAPE IN L/R 端子	⬅	モニター音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN 2（VCR/DVR）端子	⬅	同軸デジタル音声出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN 2（TV/TAPE）端子	⬅	光デジタル音声出力端子	

！ヒント

- テレビに音声出力端子がないときは、ビデオデッキの音声出力端子と本機の VCR/DVR IN L/R 端子を接続してください。ビデオデッキに内蔵されているチューナーからテレビの音声をお楽しみいただけます。

DVD/BD プレーヤーと接続する

ステップ 1：映像接続をする

A、**B**、**C** の接続から 1 つ選んで DVD/BD プレーヤーと映像接続をしてください。

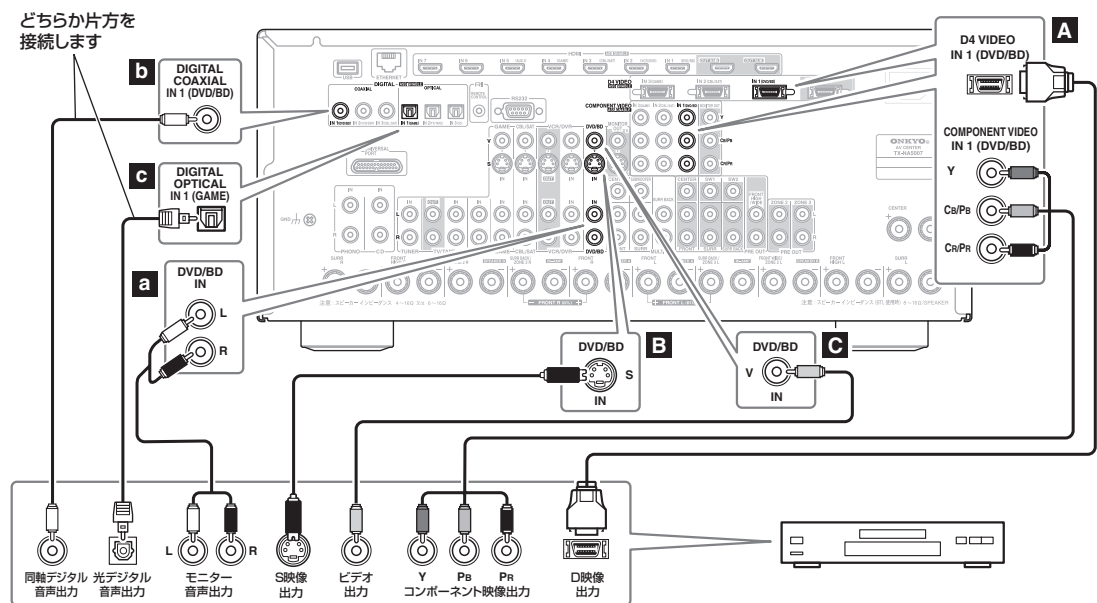
！ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、**b**、**c**の接続から必要な接続を選んで DVD/BD プレーヤーと音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- DVD/BD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI 端子付オンキヨー製 DVD プレーヤーと連動させるときに必要です。（➔45 ページ）

ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは **b** または **c** の接続をしてください。（ **c** の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔53 ページ）

接続	本機	信号の流れ	DVD/BD プレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN 1（DVD/BD）端子 または COMPONENT VIDEO IN 1（DVD/BD）端子	⬅	D 映像入力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	DVD/BD IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子	標準
C	DVD/BD IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	DVD/BD IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN 1（DVD/BD）端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN 1（GAME）端子	⬅	光デジタル出力端子	

接続をする（映像機器を接続する）

■ マルチチャンネル（5.1/7.1ch）出力端子がある DVD プレーヤーと接続する

DVD オーディオなどのマルチチャンネル音声に対応している機器の場合、DVD オーディオやスーパーオーディオ CD などの再生がお楽しみいただけます。

5.1 チャンネル接続

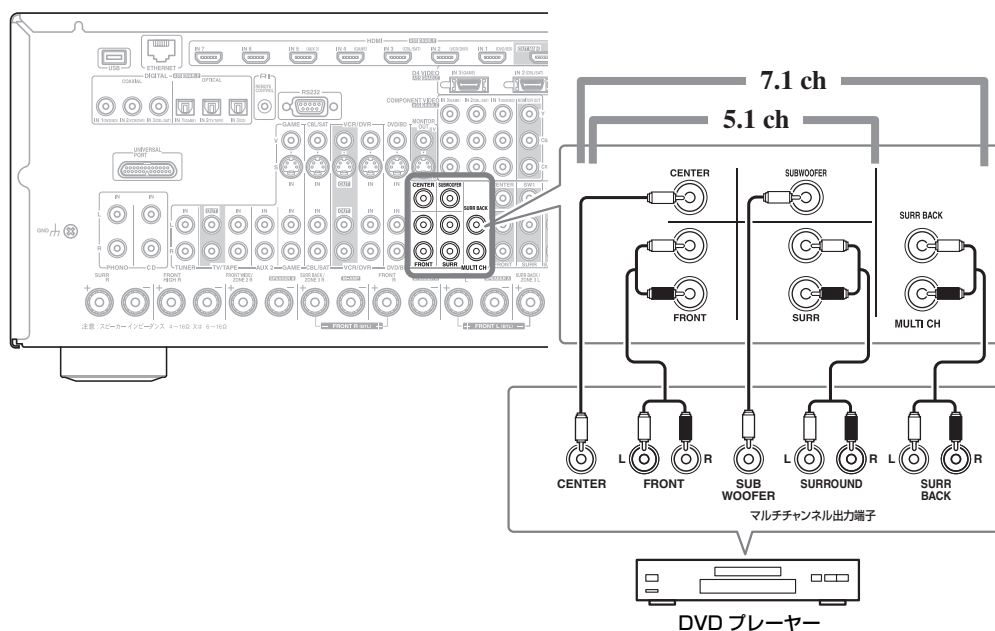
5.1 チャンネル接続するときは、マルチチャンネル接続コードまたは、オーディオ用ピンコード 3 本を使って DVD プレーヤーのマルチチャンネル出力端子と本機の MULTI CH ：FRONT（L/R）、SURR（L/R）、CENTER、SUBWOOFER 端子を接続します。

7.1 チャンネル接続

7.1 チャンネル接続するときは、5.1 チャンネル接続に加え、オーディオ用ピンコードを使って SURR BACK（L/R）端子を接続してください。

以下の手順を実施してください。

1. リモコンの AMP ボタンを押してから、SETUP ボタンを押してメニューを表示。
2. 「1. 入力 / 出力端子の割り当て」を選び、ENTER ボタンを押す。
3. 「5. アナログ音声入力」を選び、ENTER ボタンを押す。
4. ◄/► ボタンを押して、MULTI CH 端子からの音声入力を割り当てる入力を選ぶ。
5. SETUP ボタンを押す。
6. AMP ボタンを押してから、AUDIO ボタンを押して、「Audio selector」を選ぶ。
7.◄/► ボタンを押して、「Multich」を選ぶ。

（➔54、117 ページ）

ビデオデッキや DVD/BD レコーダーと接続する（再生編）

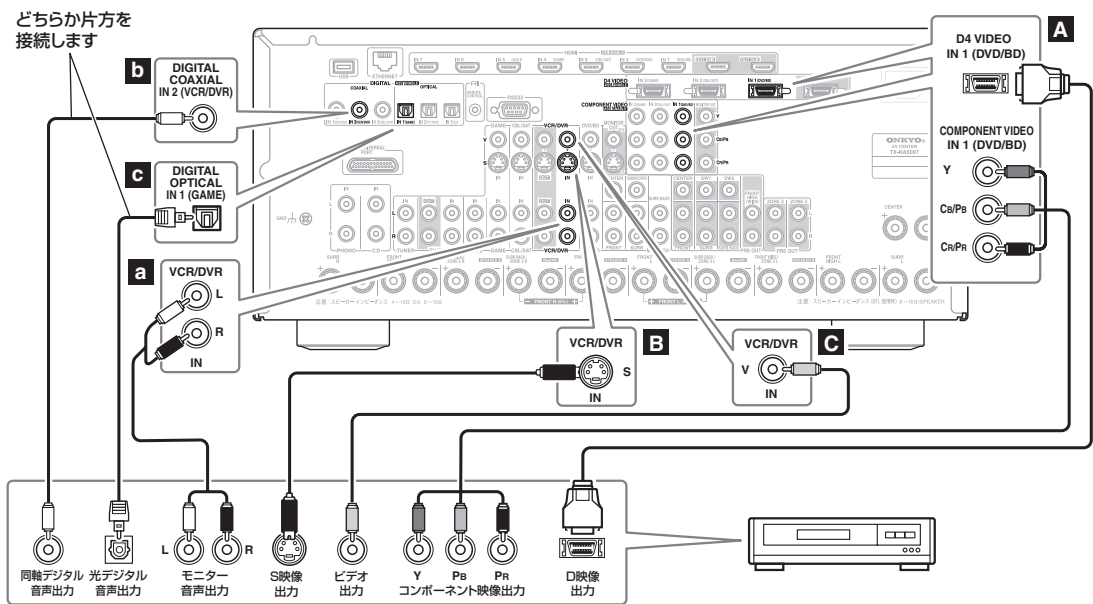
ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から 1 つ選んでビデオデッキや DVD/BD レコーダーと映像接続をしてください。（ A の接続をした場合、コンポーネントビデオ端子の設定が必要です。➔52 ページ）

！ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

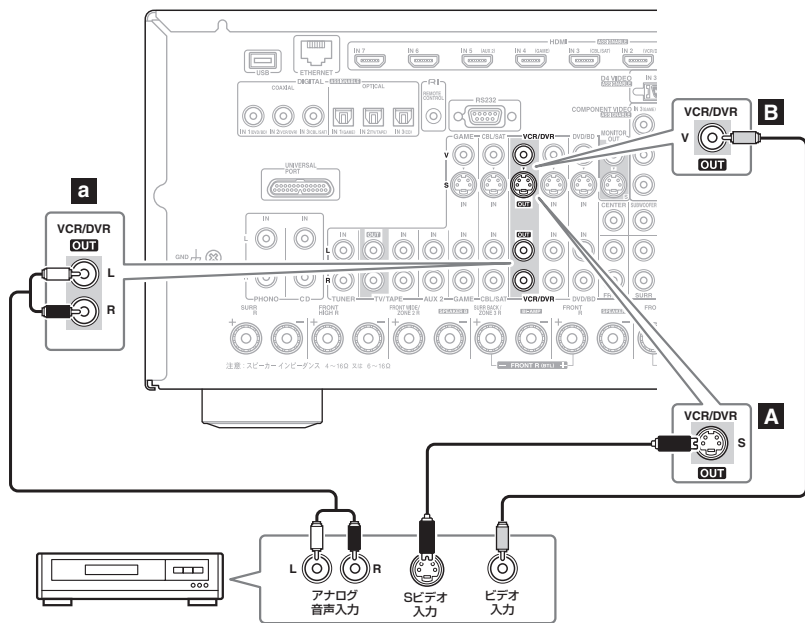
a、b、c の接続から必要な接続を選んでビデオデッキや DVD/BD レコーダーと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。
ドルビーデジタルや DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。（c の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔53 ページ）

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ /DVD/BD レコーダー	画質
A	D4 VIDEO IN 1（DVD/BD）端子 または COMPONENT VIDEO IN 1（DVD/BD）端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	VCR/DVR IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子	標準
C	VCR/DVR IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	VCR/DVR IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN 2（VCR/DVR）端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN 1（GAME）端子	⬅	光デジタル出力端子	

ビデオデッキや DVD/BD レコーダーと接続する（録画編 : 本機を通して録画する）

ステップ 1：ビデオデッキや DVD/BD レコーダーと **A**、**B** の映像接続をしてください。

！ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2： **a** の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオデッキ /DVD/BD レコーダー	画質
A	VCR/DVR OUT S 端子	➡	S ビデオ入力端子	標準
B	VCR/DVR OUT V 端子	➡	ビデオ（コンポジット）入力端子	標準
a	VCR/DVR OUT L/R 端子	➡	アナログ音声入力端子	

ご注意

- 録画をするときは、本機の電源を入れる必要があります。本機がスタンバイ状態では録画できません。
- リスニングモードが「Pure Audio（ピュア オーディオ）」のときは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。
- アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- ビデオ端子に入力される信号は、ビデオ端子でしか録画できません。テレビなどの再生機器をビデオ端子接続した場合は、ビデオデッキなどの録画機器もビデオ端子接続をしてください。
- デジタル信号は録音・録画できません。アナログ入力時のみ録音できます。

衛星放送 / ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーなどと接続する

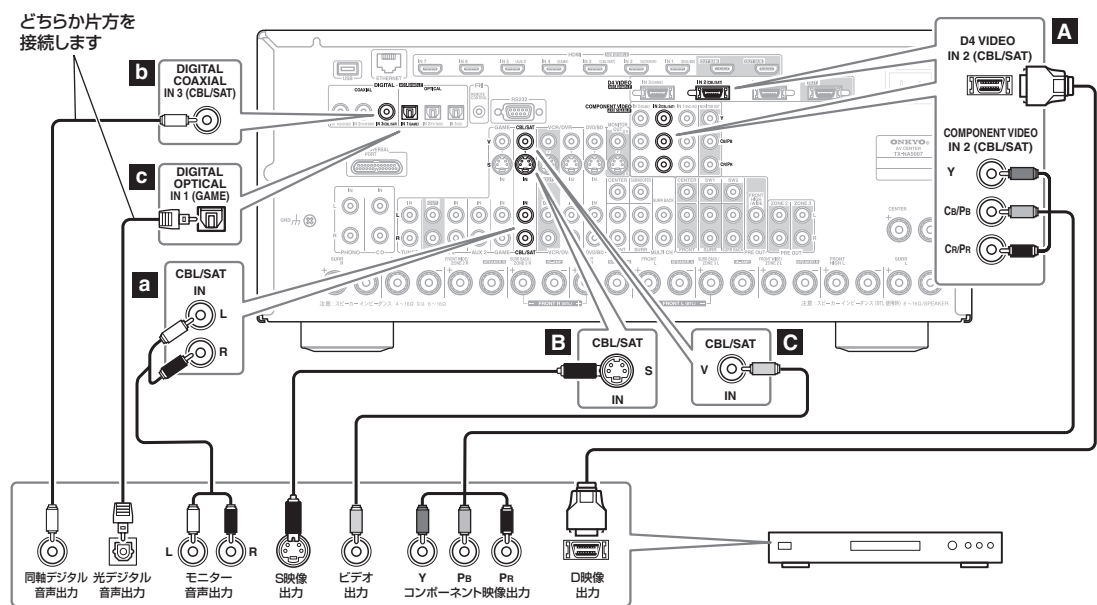
ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から 1 つ選んで衛星放送 / ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーなどと映像接続をしてください。

！ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

ステップ 2：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで衛星放送 / ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤーなどと音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。
AAC やドルビーデジタル、DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。（ c の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔53 ページ）

接続	本機	信号の流れ	衛星放送 / ケーブルテレビチューナー、LD プレーヤー	画質
A	D4 VIDEO IN 2（CBL/SAT）端子 または COMPONENT VIDEO IN 2（CBL/SAT）端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	CBL/SAT IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子	標準
C	CBL/SAT IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	CBL/SAT IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL COAXIAL IN 3（CBL/SAT）端子	⬅	同軸デジタル出力端子	
c	DIGITAL OPTICAL IN 1（GAME）端子	⬅	光デジタル出力端子	

ご注意

- 本機に LD プレーヤーの AC-3RF 出力端子は直接接続できません。LD プレーヤーでドルビーデジタル 5.1 ch（チャンネル）ソフトをお楽しみいただくには、市販のデモジュレーターが必要です。

ゲーム機と接続する

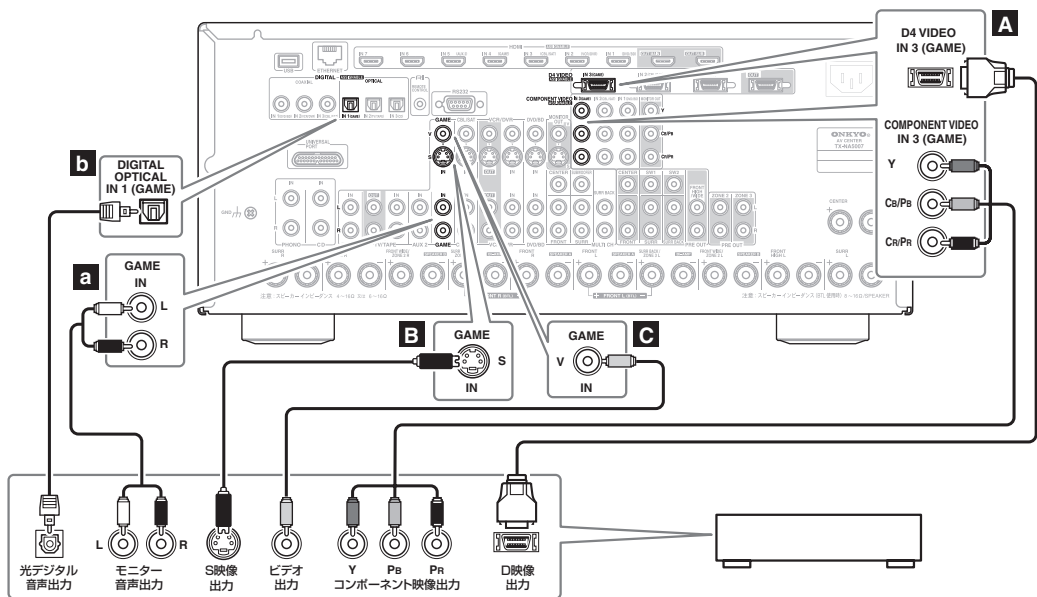
ステップ 1：映像接続をする

A、B、C の接続から 1 つ選んでゲーム機と映像接続をしてください。

！ヒント 29 ページの「映像接続のしくみ」を参考にしてください。

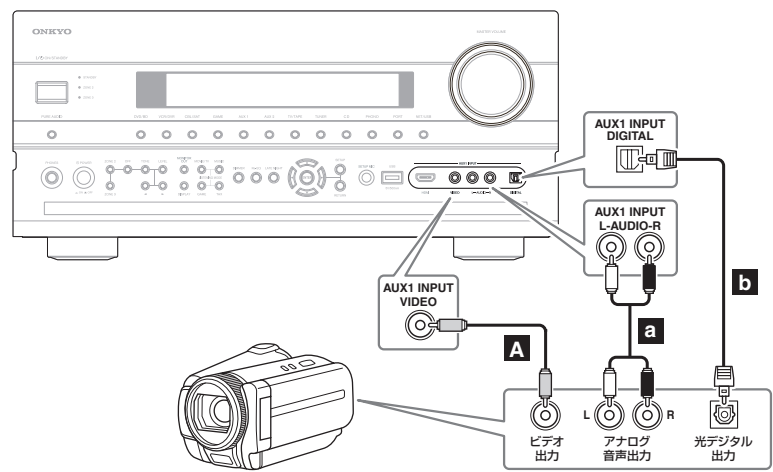
ステップ 2：音声接続をする

a、b の接続から必要な接続を選んでゲーム機と音声接続をしてください。

基本的な接続は a の接続をします。
AAC やドルビーデジタル、DTS などのリスニングモードを楽しみたいときは b の接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ゲーム機	画質
A	D4 VIDEO IN 3（GAME）端子 または COMPONENT VIDEO IN 3（GAME）端子	⬅	D 映像出力端子 または コンポーネント映像出力端子	最良
B	GAME IN S 端子	⬅	S ビデオ出力端子	標準
C	GAME IN V 端子	⬅	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	GAME IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子	
b	DIGITAL OPTICAL IN 1（GAME）端子	⬅	光デジタル出力端子	

ビデオカメラと接続する

ステップ１：**A** の映像接続をしてください。

ステップ２：**a** または **b** の音声接続をしてください。

接続	本機	信号の流れ	ビデオカメラ	画質
A	AUX1 INPUT VIDEO 端子	←	ビデオ（コンポジット）出力端子	標準
a	AUX1 INPUT AUDIO L/R 端子	←	アナログ音声出力端子	
b	AUX1 INPUT DIGITAL 端子	←	光デジタル出力端子	

CD プレーヤーやレコードプレーヤーと接続する

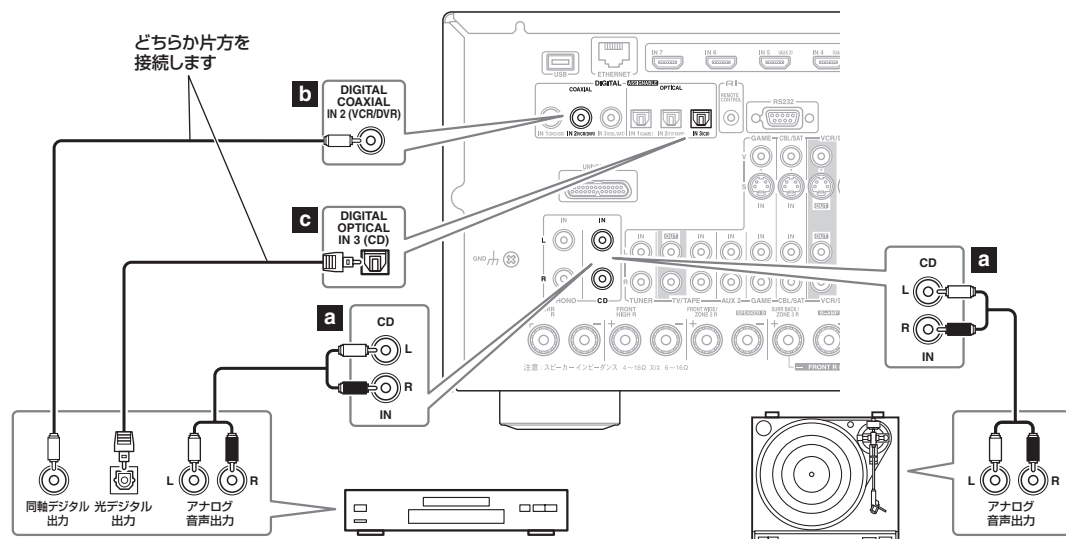
■ CD プレーヤーやフォノイコライザー内蔵のレコードプレーヤーを接続するとき

ステップ 1：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続は a

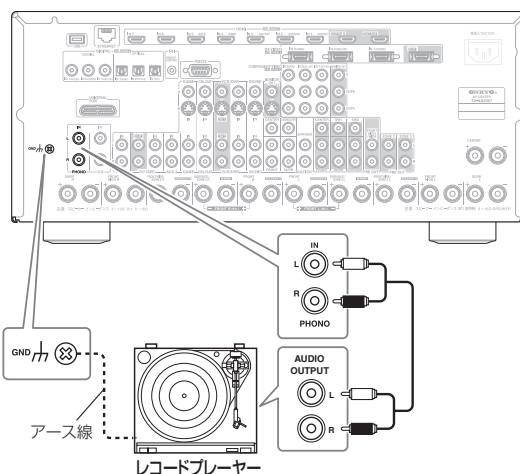
- CD の音声をアナログ録音したいときに必要です。
- RI 端子付きオンキヨー製 CD プレーヤーと連動させるときに必要です。（➔45 ページ）

CD の PCM や DTS 信号のリスニングモードを楽しみたいときは b または c の接続をしてください。
（ b の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔53 ページ）

接続	本機	信号の流れ	CD プレーヤー / レコードプレーヤー
a	CD IN L/R 端子	⬅	アナログ音声出力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 2（VCR/DVR）端子	⬅	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 3（CD）端子	⬅	光デジタル出力端子

■ レコードプレーヤーがフォノイコライザー内蔵でない場合

本機は、ムービングマグネット（MM）カートリッジを使用するレコードプレーヤー用に設計されています。レコードプレーヤーの接続コードを本機の PHONO（フォノ） IN（イン） L/R 端子に接続します。

ご注意

- アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の GND（グランド） 端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをご使用になる場合は、レコードプレーヤーに昇圧トランスまたはヘッドアンプを接続します。次に、昇圧トランスやヘッドアンプの音声出力端子と本機の PHONO IN L/R 端子を接続します。

接続をする（オーディオ機器を接続する）

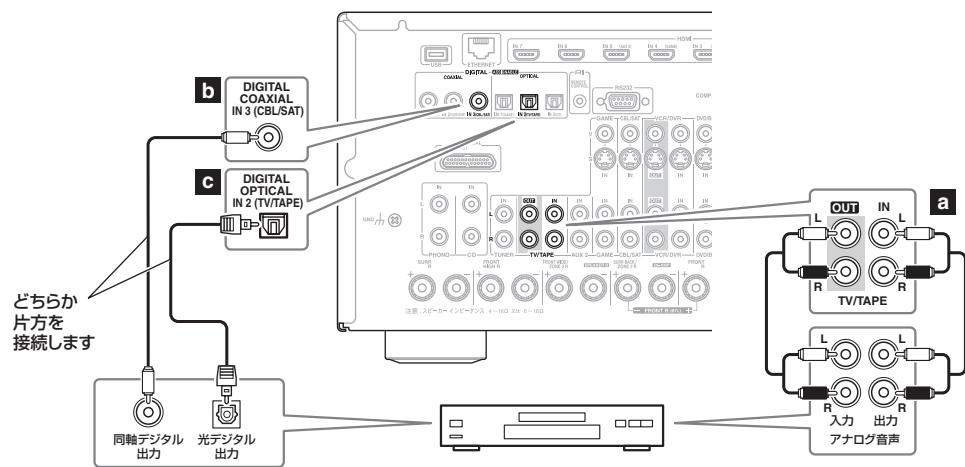
カセットデッキ、MD レコーダー、CD レコーダーと接続する

ステップ 1：音声接続をする

a、b、c の接続から必要な接続を選んで音声接続をしてください。

基本的な接続 a

- アナログ録音することができます。
- デジタル入力された信号は、アナログ出力されません。
- RI 端子付オンキヨー製品と連動させるときに必要です。（➔45 ページ）

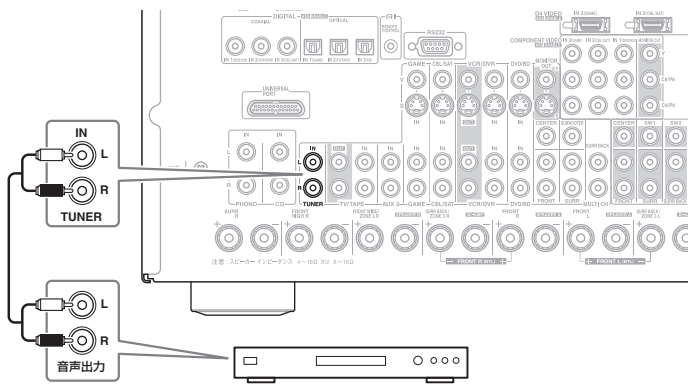
CD の PCM や DTS 記号のリスニングモードを楽しみたいときは、b または c の接続をしてください。（ b の接続をした場合、デジタル音声入力端子の設定が必要です。➔53 ページ）

接続	本機	信号の流れ	録音機器
a	TV/TAPE IN L/R 端子 TV/TAPE OUT L/R 端子	← →	アナログ音声出力端子 アナログ音声入力端子
b	DIGITAL COAXIAL IN 3（CBL/SAT）端子	←	同軸デジタル出力端子
c	DIGITAL OPTICAL IN 2（TV/TAPE）端子	←	光デジタル出力端子

チューナーを接続する

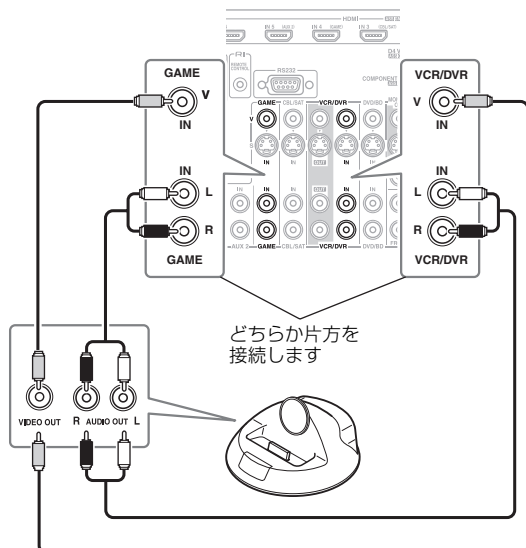
ステップ 1：音声接続をする

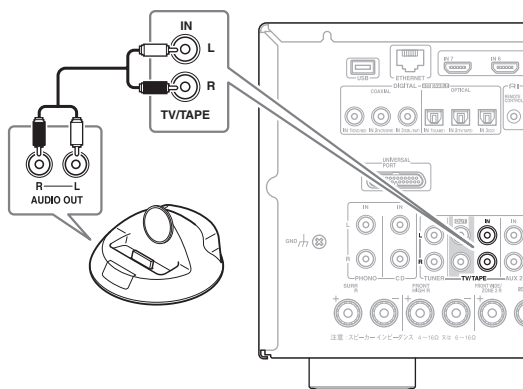
オーディオ用ピンコードでチューナーの音声出力端子と本機の TUNER（チューナー） IN（イン） L/R 端子を接続します。

RI ドックを接続する

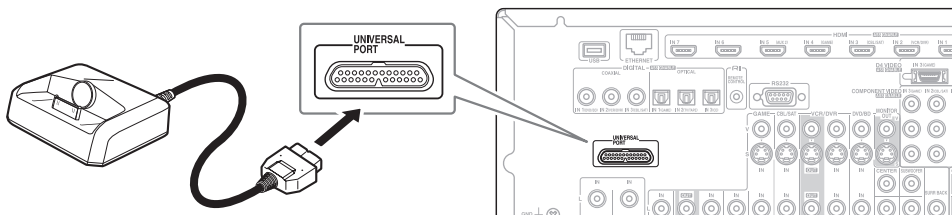
ご注意

- RI ドックで使用できる iPod についてなどの詳細は、RI ドックの取扱説明書をご覧ください。

ご使用の iPod がビデオ対応機種の場合

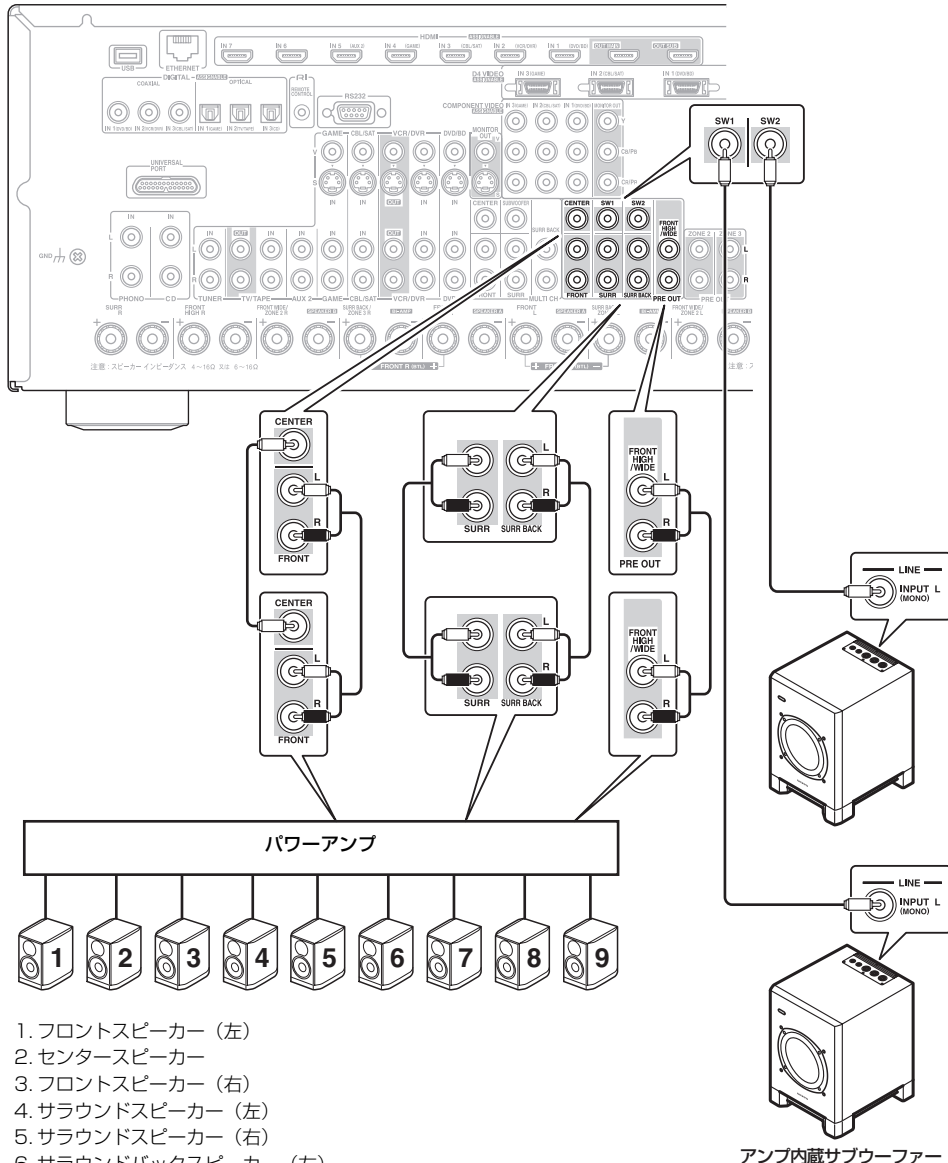
オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の GAME または VCR/DVR IN L/R 端子を接続します。ビデオコードで RI ドックの VIDEO OUT 端子と本機の GAME または VCR/DVR IN V 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドック DS-A1XP の例です）

ご使用の iPod がビデオに対応していない機種の場合

オーディオ用ピンコードで RI ドックの AUDIO OUT L/R 端子と本機の TV/TAPE IN L/R 端子を接続します。
（イラストはオンキヨー RI ドック DS-A1XP の例です）

- 本機付属のリモコンで操作する前に、まず RI 専用リモコンコードを登録してください。（➔138 ページ）
- RI ドック側で、RI MODE スイッチを HDD（あるいは HDD/DOCK）に設定してください。
- 本機の入力表示を DOCK にしてください。（➔57 ページ）
- RI ケーブルで RI ドックと本機を接続することも忘れずに行ってください。
- RI ドックに付属の取扱説明書もご覧ください。

iPod ドック UP-A1 と接続する

ご注意

- iPod ドック UP-A1 を UNIVERSAL PORT 端子に接続し、iPod をセットすると、スタンバイ状態での消費電力が少し増加します。

パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用することができます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。
パワーアンプを使用する場合、各スピーカーやサブウーファーはパワーアンプに接続してください。パワーアンプの音声入力端子と本機の PRE OUT（プリ アウト）端子を接続します。PRE OUT: SW1、SW2 端子にはパワーアンプを 2 つ接続することができます。サブウーファーを 1 つだけ使用するときは、PRE OUT: SW1 に接続してください。

1. フロントスピーカー（左）
2. センタースピーカー
3. フロントスピーカー（右）
4. サラウンドスピーカー（左）
5. サラウンドスピーカー（右）
6. サラウンドバックスピーカー（左）
7. サラウンドバックスピーカー（右）
8. フロントワイドスピーカー（左）、フロントハイスピーカー（左）*
9. フロントワイドスピーカー（右）、フロントハイスピーカー（右）*

「サブウーファーを接続する」（➔19 ページ）をご覧ください。

ご注意

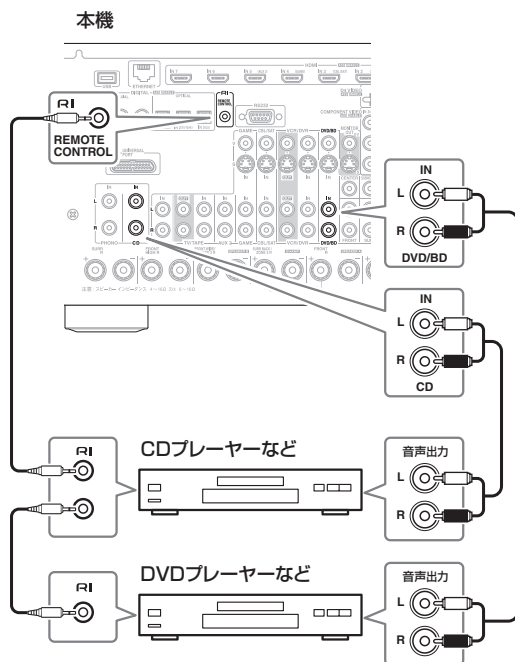
* 接続していないチャンネルには、「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）で「無し」を指定します。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI 端子付きのオンキヨー製品に RI ケーブルとオーディオ用ピンコードを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RI ケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです。（本機には付属していません）
RI ケーブルの接続だけではシステムとして働きません。34、41、42、43 ページを参照し、オーディオ用ピンコードも正しく接続してください。

ステップ 1：RI ケーブルを接続する
本機と、本機に接続したオンキヨー製品の RI 端子を、RI ケーブルで正しく接続します。

ステップ 2：ピンコードを接続する
本機と、本機に接続したオンキヨー製品の音声端子をオーディオ用ピンコードで正しく接続します。

ステップ 3：入力表示を切り換える
RI ドックを本機に接続した場合は、入力表示を「DOCK」に切り換えてください。（➔57 ページ）

オートパワーオン機能
本機がスタンバイ状態のとき、接続した機器の電源を入れたり、再生を始めると、本機の電源が自動的に入ります。
また、本機の電源を切ると接続されている機器全体の電源も切れます。

ダイレクトチェンジ機能
RI 接続されている機器の再生を始めると、本機の入力が自動的に切り換わります。

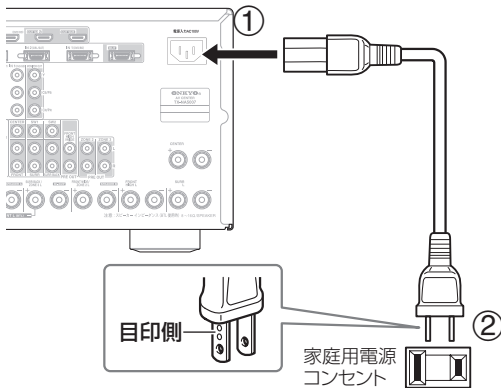
リモコン操作機能
本機に付属のリモコンを本機のリモコン受光部に向けて、RI 接続した機器を操作することができます。（➔135 ページ）
DVD プレーヤー、CD プレーヤー、カセットデッキ、チューナー、RI ドックは、RI 専用リモコンコードを登録してください。（➔138 ページ）

ご注意
- 製品によっては RI 接続をしても一部の機能が働かないことがあります。
- チューナーのタイマー機能や、録音機器の CD ダビング機能は働きません。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RI ケーブルの接続は順序の指定はありません。
- RI 端子が 2 つある場合、2 つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応 / 非対応については、コールセンターにお問い合わせください。
- Zone 2 および Zone 3 への出力をオンにしている場合、連動機能は働きません。

電源コードを接続する

ステップ 1：付属の電源コードを本機の電源入力 AC100V 端子に接続する

ステップ 2：電源コードをコンセントに接続する

電源コードを接続する前に

- すべての接続が完了していることを確認してください。
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。

- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で電源入力 AC100V 端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると，瞬間的に大きな電流が流れてコンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

より良い音で聞いていただくために

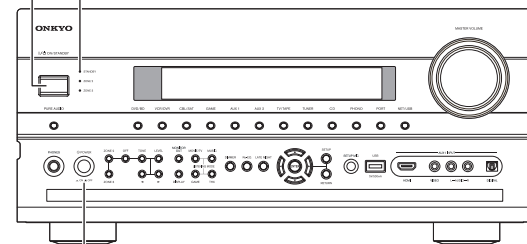
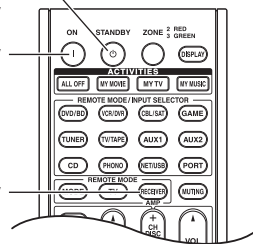
本機の電源コンセントは極性の管理がされています。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の広い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

ご注意

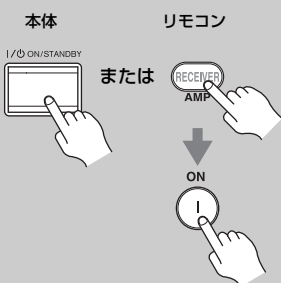
- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源を OFF にしてから抜いてください。

電源を入れる

POWERスイッチ

1

POWER スイッチを押して（▁）、主電源を入れる

2

本体　リモコン　または　ON

本体の ON/STANDBY ボタン、またはリモコンの AMP ボタンを押してから ON ボタンを押す

STANDBY インジケーターが消え、表示部が点灯します。

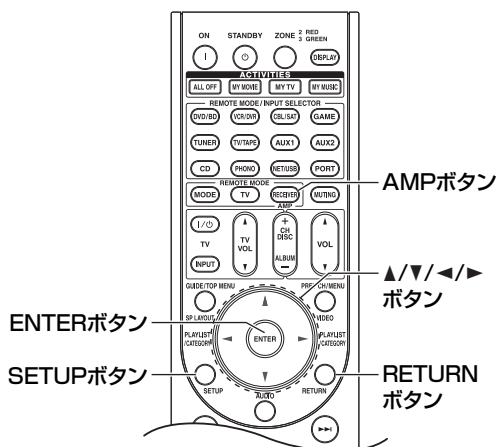
スタンバイ状態に戻すには

本体の ON/STANDBY ボタンまたはリモコンの STANDBY ボタンを押します。

主電源を切るには POWER スイッチを押し、OFF（■）にします。

初期設定をする

OSD セットアップメニューを使用する

OSD セットアップメニューを使って、本機の設定を行います。

1

AMP（アンプ） ボタンを押してから SETUP（セットアップ） ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。
設定画面が表示されます。

MENU

1. 入力/出力端子の割り当て
2. スピーカー設定
3. 音の設定･調整
4. 入力ソースの設定
5. リスニングモードプリセット
6. その他
7. ハードウェア設定
8. リモコン設定
9. ロック設定

2

▲/▼ ボタンを押してメインメニュー項目を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。
SETUP ボタンを押すと、設定を終了します。
RETURN（リターン） ボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

本機表示部で設定する

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押す

メインメニュー項目が表示されます。

1.Input/Output
Assign

2

▲/▼ ボタンを押してメインメニュー項目を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー項目が表示されます。
SETUP ボタンを押すと、設定を終了します。
RETURN ボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

セットアップメニューの本機での表示について

OSD セットアップメニューで選択された項目は本機表示部に表示されます。

セットアップメニュー

MENU

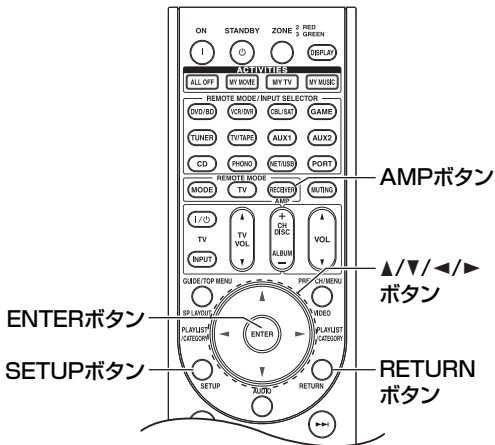
1. 入力/出力端子の割り当て
2. スピーカー設定
3. 音の設定･調整
4. 入力ソースの設定
5. リスニングモードプリセット
6. その他
7. ハードウェア設定
8. リモコン設定
9. ロック設定

表示部

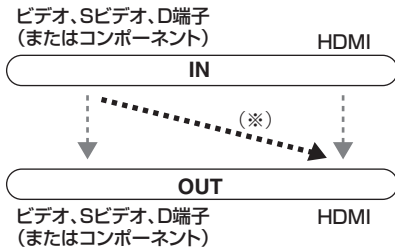
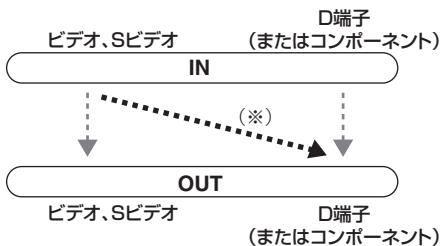
1.Input/Output
Assign

ご注意

自動スピーカー設定中はテレビ画面に表示されるメッセージなどは本機の表示部にも表示されます。

モニターの出力設定をする

HDMI 出力とコンポーネント出力の選択指定ができ、ご使用になるテレビが対応できる解像度に、必要に応じて本機で変換して出力します。

モニター映像出力（Monitor Out）は本体の MONITOR OUT ボタンで Analog、HDMI の設定切り換えができます。

本機の HDMI OUT MAIN 端子にテレビを接続した場合：
モニター映像出力（Monitor Out）は自動的に「HDMI」に設定されます。またビデオ、S ビデオ、コンポーネントの各映像入力信号は変換（※）されて HDMI 端子から出力されます。

本機の HDMI 出力端子以外にテレビを接続した場合：
モニター映像出力（Monitor Out）は自動的に「Analog」に設定されます。
Analog の設定で OSD メニューは画面表示されます。
またビデオ、S ビデオの各映像入力信号は変換（※）されて D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力されます。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力端子の割り当て」を選び、ENTER ボタンを押す

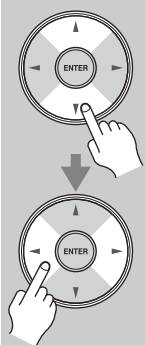
設定画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「1. モニター映像出力」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

➡ 手順 4 に続く

4

▲/▼ ボタンを押して「モニター映像出力」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

アナログ : Analog
テレビをモニター出力（D4/ コンポーネント、S ビデオ、ビデオ）端子に接続した場合に選びます。

HDMI メイン：HDMI Main
テレビを HDMI OUT MAIN 端子に接続した場合に選びます。

HDMI サブ：HDMI Sub
テレビを HDMI OUT SUB 端子に接続した場合に選びます。

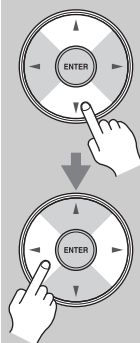
両方：Both
HDMI OUT MAIN、HDMI OUT SUB 端子の両方に接続する場合に選びます。映像信号は両方の HDMI 出力端子から、両方のテレビで対応している解像度で出力されます。

両方（メイン）: Both（Main）
HDMI OUT MAIN、HDMI OUT SUB 端子の両方に接続する場合に選びます。映像信号は両方の HDMI 出力端子から出力されますが、HDMI OUT MAIN 端子からの出力が優先されます。映像の解像度によっては、HDMI OUT SUB 端子からは映像信号が出力されない場合があります。

両方（サブ）: Both（Sub）
HDMI OUT MAIN、HDMI OUT SUB 端子の両方に接続する場合に選びます。映像信号は両方の HDMI 出力端子から出力されますが、HDMI OUT SUB 端子からの出力が優先されます。映像の解像度によっては、HDMI OUT MAIN 端子からは映像信号が出力されない場合があります。

ご注意

- HDMI 出力端子以外にテレビを接続しているとき、 誤って設定を選ぶとメニュー画面は消えます。その場合は本体の Monitor Out ボタンで「Analog」に設定してください。
- 設定とは異なる出力端子に接続をした場合は、自動的に「アナログ」に設定されます。
- DeepColor への対応について、「両方（メイン)」または「両方（サブ)」に設定した場合は、優先の HDMI 出力端子に接続したテレビの対応状況によりビット数が制限される場合があります。

5

▲/▼ ボタンを押して「解像度」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

本機が映像を変換して出力するときに出力する映像の解像度を設定します。お手持ちのテレビに合わせて設定してください。

スルー：
入力信号の解像度とおなじ解像度で本機で変換しないでそのまま出力する場合に選択します。

自動 ※：
テレビが対応している解像度に合わせて自動で変換する場合に選択します。

480p:
480p の解像度で出力する場合、あるいは 480p に変換して出力する場合に選択します。

720p：
720p の解像度で出力する場合、あるいは 720p に変換して出力する場合に選択します。

1080i：
1080i の解像度で出力する場合、あるいは 1080i に変換して出力する場合に選択します。

1080p ※：
1080p の解像度で出力する場合、あるいは 1080p に変換して出力する場合に選択します。

1080p/24 ※：
1080p(24 フレーム / 秒) の解像度で出力する場合、あるいは 1080p(24 フレーム / 秒) に変換して出力する場合に選択します。
モニター映像出力（Monitor Out）が「アナログ」に設定されている場合は、「1080i」になります。

入力ソース：
「画質調整」の「解像度」で設定した解像度で出力します（入力ごとに設定できます)。(➔105 ページ)

ご注意

- ※のついた設定は、モニター映像出力（Monitor Out）が「アナログ」に設定されていると選べません。
- 「モニター映像出力」が「両方」に設定されている場合は、「自動」に固定されます。
- 「1080p/24」を選んだ場合、入力する映像によっては動きがカクカクしたり、垂直解像度が低下したりすることがあります。このような場合は、「1080p/24」以外を選んでください。

➡ **手順 *6* に続く**

6

SETUP（セットアップ）ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

ご注意

- モニター映像出力（Monitor Out）と出力解像度の設定が本機の映像信号フローに及ぼす影響については、29 ページの「映像接続のしくみ」をご覧ください。
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

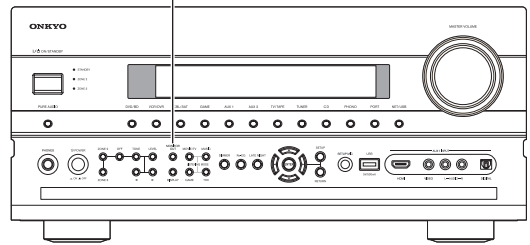
■ 本体のボタンで出力設定を変更する

1

MONITOR OUT ボタンを押す

現在の設定が表示部に表示されます。

```
Monitor Out
     :HDMI Main
```

2

MONITOR OUT

MONITOR OUT ボタンを（くり返し）押す

各設定は、49 ページの手順 ***4*** をご覧ください。

ご注意

- HDMI 出力端子以外にテレビを接続しているとき、誤って設定を選ぶとメニュー画面は消えます。その場合は「Analog（アナログ）」に設定してください。

リモコンの VIDEO ボタンでも操作することができます。

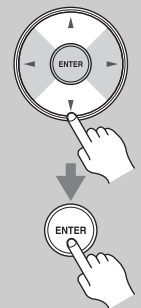
HDMI 入力端子の設定

HDMI IN 1 ～ 7 端子に、HDMI 出力端子のある DVD/BD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。
たとえば、DVD/BD プレーヤーを本機の HDMI IN 1 端子に接続したときは、DVD/BD に「HDMI1」を割り当ててください。
HDMI ケーブルで本機の HDMI 出力端子にテレビを接続した場合、「- - - - -」に設定すると、ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）の各映像入力信号を変換して HDMI 出力端子から出力できます。ただしモニター映像出力（Monitor Out）が「Analog」以外に設定されている場合に限ります（48 ページ）。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

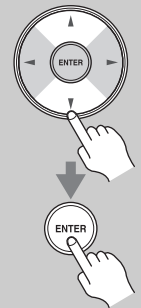
▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力端子の割り当て」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1. 入力/出力端子の割り当て

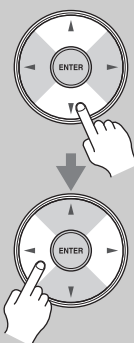
1. モニター映像出力
2. HDMI入力
3. コンポーネント映像入力
4. デジタル音声入力
5. アナログ音声入力

3

▲/▼ ボタンを押して「2. HDMI 入力」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-2. HDMI 入力

DVD/BD	HDMI1 ◄►
VCR/DVR	HDMI2
CBL/SAT	HDMI3
GAME	HDMI4
AUX 1	フロント

4

▲/▼ ボタンを押して設定する入力を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

HDMI1 ～ 7：
映像機器を HDMI IN 1 ～ 7 端子に接続した場合に選びます。

- - - - -：
ビデオ、S ビデオ、D 端子（またはコンポーネント）の各映像信号を変換して HDMI 端子から出力する場合に選びます。D 端子（またはコンポーネント）の入力信号を出力するか、ビデオ、S ビデオ端子の入力信号を出力するかは、「コンポーネントビデオ端子の設定」（➔52 ページ）で設定することができます。
入力に AUX 1 を選んだときは「フロント」に固定となります。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

- 機器が HDMI 接続されていない場合は、HDMI IN に割り当てても、コンポーネントビデオ端子の設定となります。
- 「テレビ 連動」の設定が「オン」のときは、HDMI IN に接続された機器を TV/TAPE 入力に割り当てないでください。
  適切な CEC（Consumer Electronics Control）操作の保証ができなくなります。（➔112 ページ）
- HDMI IN の各入力端子に割り当てできる入力は 1 つまでです。すでに HDMI 1 ～ 7 まで割り当てられているときは、他の入力に割り当てることはできません。
  そのうちの使わない入力に「- - - - -」を設定してから割り当ててください。
- HDMI IN 1 ～ IN 7 を設定した入力には、自動的に同じ HDMI 1 ～ 7 のデジタル音声入力が優先的に使用されます。
- iPod/iPhone をセットした iPod ドック UP-A1 を UNIVERSAL PORT 端子に接続している場合は、PORT 入力に入力端子を割り当てることができません。

コンポーネントビデオ端子の設定

D4 VIDEO IN 端子または COMPONENT VIDEO IN 端子に DVD/BD プレーヤーなどを接続しているときに設定します。たとえば D4 VIDEO IN 2 端子に DVD/BD プレーヤーを接続した場合、入力切換ボタン DVD/BD を D4 入力 2 に設定します。
ここで設定した映像入力端子からの映像が、D4 VIDEO OUT 端子または COMPONENT VIDEO OUT 端子から出力されます。ただしモニター映像出力（Monitor Out）が「Analog」に設定されている場合に限ります（48 ページ）。

入力	映像入力端子の初期設定
DVD/BD	RCA 1（色差入力）
VCR/DVR	- - - - -
CBL/SAT	RCA 2（色差入力）
GAME	RCA 3（色差入力）
AUX 1	- - - - -
AUX 2	- - - - -
TV/TAPE	- - - - -
TUNER	- - - - -
CD	- - - - -
PHONO	- - - - -
PORT	- - - - -

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力端子の割り当て」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1. 入力/出力端子の割り当て
1. モニター映像出力
2. HDMI入力
3. コンポーネント映像入力
4. デジタル音声入力
5. アナログ音声入力

3

▲/▼ ボタンを押して「3. コンポーネント映像入力」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-3. コンポーネント映像入力
DVD/BD　RCA1(色差入力) ◄►
VCR/DVR　- - - - -
CBL/SAT　RCA2(色差入力)
GAME　RCA3(色差入力)
AUX 1　- - - - -
▼

4

▲/▼ ボタンを押して設定する入力を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

RCA1（色差入力）：
映像機器を COMPONENT VIDEO IN 1 端子に接続した場合に選びます。

RCA2（色差入力）：
映像機器を COMPONENT VIDEO IN 2 端子に接続した場合に選びます。

RCA3（色差入力）：
映像機器を COMPONENT VIDEO IN 3 端子に接続した場合に選びます。

D4 入力 1：
映像機器を D4 VIDEO IN 1 端子に接続した場合に選びます。

D4 入力 2：
映像機器を D4 VIDEO IN 2 端子に接続した場合に選びます。

D4 入力 3：
映像機器を D4 VIDEO IN 3 端子に接続した場合に選びます。

- - - - -:
映像機器をビデオまたは S ビデオ端子に接続した場合に選びます。映像信号は変換されて HDMI 端子から出力されます。

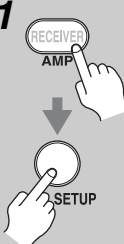
ご注意
- ビデオまたは S ビデオ端子接続のみお使いの場合は、「- - - - -」に設定してください。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

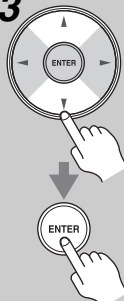
！ヒント
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意
- ビデオ端子および S ビデオ端子からの入力信号を変換して COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子から出力する場合、必ずモニター映像出力（Monitor Out）を「Analog」（➔48 ページ）にし、コンポーネントビデオ端子の設定を「- - - - -」にしてください。映像信号フローと変換については、29 ページをご覧ください。
- モニター映像出力（Monitor Out）で選択した出力と異なる端子にテレビを接続した場合、モニター映像出力（Monitor Out）は自動的に「 Analog 」に切り換わります。(➔48 ページ)
- iPod/iPhone をセットした iPod ドック UP-A1 を UNIVERSAL PORT 端子に接続している場合は、PORT 入力に入力端子を割り当てることができません。

デジタル音声入力端子の設定をする

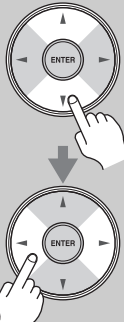
デジタル端子の接続は、ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむために必要です。各デジタル入力端子は、初期設定で以下の表のようにそれぞれの機器に割り当てられています。

- HDMI 端子を割り当てた入力（➔51 ページ）には、HDMI IN からの音声が優先して選択されます。
- 接続した機器がデジタル入力端子の初期設定と異なる場合は、設定を変更する必要があります。
- 初期設定でデジタル端子が設定されている機器とアナログ接続のみをしたとき、設定を「- - - - -」にする必要があります。
- 入力が AUX 1 のときは、フロント（前面パネルドア内のデジタル入力端子）に固定となります。
- AUX 1 は前面パネルドア内のデジタル入力端子からのデジタル入力のみに使用します。

入力	デジタル入力端子の初期設定
DVD/BD	COAX1（同軸入力）
VCR/DVR	COAX2（同軸入力）
CBL/SAT	COAX3（同軸入力）
GAME	OPT1（光入力）
AUX 1	フロント（固定）
AUX 2	- - - - -
TV/TAPE	OPT2（光入力）
TUNER	- - - - -
CD	OPT3（光入力）
PHONO	- - - - -
PORT	- - - - -

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力端子の割り当て」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「4. デジタル音声入力」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して設定する入力を選び、◄/► ボタンを押して設定を選ぶ

例：本機後面の DIGITAL（デジタル） OPTICAL（オプティカル） IN（イン） 1 端子に DVD/BD レコーダーを接続した場合

DVD/BD のデジタル入力端子の初期設定は「COAX（コアキシャル）1（同軸入力）」のため、「OPT（オプティカル） 1（光入力）」に設定を変更します。

DVD プレーヤーとアナログ接続のみをした場合

DVD/BD のデジタル入力端子の初期設定は「COAX1（同軸入力）」のため、「- - - - -」に設定を変更します。

DVD/BD 入力に HDMI 入力が割り当てられている場合は、HDMI 入力端子の設定を「- - - - -」に設定してください（➔51 ページ）。

以下のデジタル音声入力端子を割り当てることができます。

COAX1（同軸入力）：(COAXIAL 1 端子)
COAX2（同軸入力）：(COAXIAL 2 端子)
COAX3（同軸入力）：(COAXIAL 3 端子)
OPT1（光入力）：(OPTICAL 1 端子)
OPT2（光入力）：(OPTICAL 2 端子)
OPT3（光入力）：(OPTICAL 3 端子)
- - - - -：(アナログ)

！ヒント

- HDMI 接続した機器において、HDMI 入力からの音声信号を使用しないときは、ENTER ボタンを押します。「COAX1（同軸入力）*」のように「*」が表示されます。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

- iPod/iPhone をセットした iPod ドック UP-A1 を UNIVERSAL（ユニバーサル） PORT（ポート） 端子に接続している場合は、PORT 入力に入力端子を割り当てることができません。
- 本機の OPTICAL および COAXIAL 端子は、32/44.1/48/88.2/96 kHz および 16/20/24 bit（ビット） の PCM 信号に対応しています。

アナログ音声入力端子の設定をする

本機の MULTI CH 端子に DVD/BD プレーヤーなどを接続した場合、必ず入力切換ボタンに割り当てします。

1

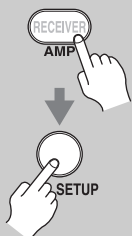
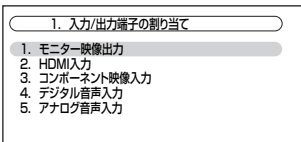
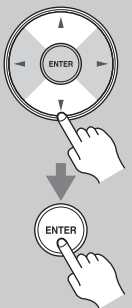
AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力端子の割り当て」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1. 入力/出力端子の割り当て

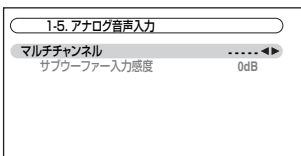
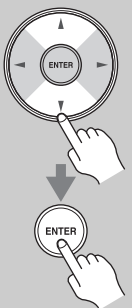
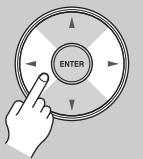
1. モニター映像出力
2. HDMI入力
3. コンポーネント映像入力
4. デジタル音声入力
5. アナログ音声入力

3

▲/▼ ボタンを押して「5. アナログ音声入力」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

1-5. アナログ音声入力

マルチチャンネル - - - - - ◄►
サブウーファー入力感度 0dB

4

◄/► ボタンを押して、MULTI CH 端子からの音声入力を割り当てたい入力を選ぶ

！ヒント

- マルチチャンネル入力を割り当てたくない場合は、「- - - - -」を選択します。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- MULTI CH 端子に接続した機器を再生するときは、AUDIO ボタンを押して「Audio Selector」から「Multich」を選んでください（➔117 ページ）。
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

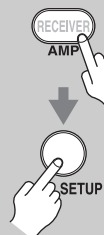
スピーカーの設定をする

この項目は自動スピーカー設定（➔58 ページ）では自動設定されません。
この設定を変更した場合、もう 1 度自動スピーカー設定を行ってください。

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω（オーム））、スピーカー B の使用 / 不使用、フロントスピーカーの接続方法（通常、BTL 接続、バイアンプ接続）を設定します。

ご注意

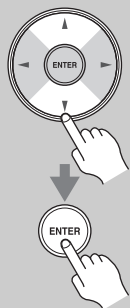
- バイアンプおよび BTL 接続では最大 7.2 ch（チャンネル）再生になります。
- 設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

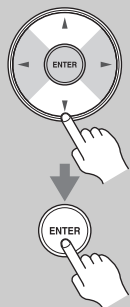
1

AMP（アンプ） ボタンを押してから SETUP（セットアップ） ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

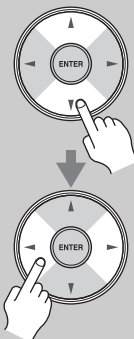
▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「1. スピーカーセッティング」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-1. スピーカーセッティング

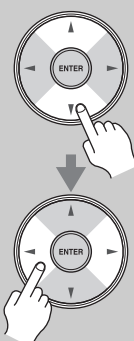
インピーダンス	6オーム ◄►
スピーカータイプ（フロントA）	通常
スピーカータイプ（フロントB）	使用しない
パワードゾーン2	無効
パワードゾーン3	無効

4

▲/▼ ボタンを押して「インピーダンス」を選び、◄/► ボタンを押して「4 オーム」または「6 オーム」を選ぶ

4 オーム： 接続したスピーカーの中に 1 台でも 4Ω 以上 6Ω 未満のスピーカーがある場合に選択します。
6 オーム： 接続したスピーカーがすべて 6Ω 以上の場合に選択します。

！ヒント

- ご使用になるスピーカーの背面や取扱説明書でインピーダンス（Ω）をご確認ください。

5

▲/▼ ボタンを押して「スピーカータイプ（フロント A）」を選び、◄/► ボタンを押して設定を選ぶ

通常： 通常のスピーカー接続の場合に選択します。
バイアンプ： スピーカー A をバイアンプ接続している場合に選択します。
BTL： スピーカー A を BTL 接続している場合に選択します。この設定を選択すると、「スピーカーインピーダンス」の設定値は自動的に「8 オーム」となり変更できません。（BTL 接続には 8 Ω 以上のスピーカーが必要なため。）

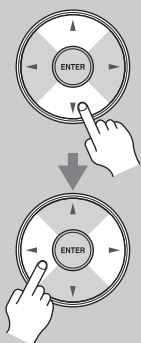
ご注意

- 「バイアンプ」および「BTL」は、スピーカー A とスピーカー B で同時に選択することはできません。
- 「バイアンプ」または「BTL」を選択した場合は、サラウンドバックスピーカーとパワードゾーン 3 が使えません。

！ヒント

- バイアンプ接続、BTL 接続については 22 ～ 25 ページをご覧ください。

➡ 手順 *6* に続く

6

▲/▼ ボタンを押して「スピーカータイプ（フロント B)」を選び、◄/► ボタンを押して設定を選ぶ

使用しない： スピーカー B を不使用にします。スピーカー A/B の切り換えができなくなり、スピーカー A だけが有効になります（スピーカー A は不使用に設定できません)。

通常： 通常のスピーカー接続の場合に選択します。

バイアンプ： スピーカー B をバイアンプ接続している場合に選択します。

BTL： スピーカー B を BTL 接続している場合に選択します。この設定を選択すると、「スピーカーインピーダンス」の設定値は自動的に「8 オーム」となり変更できません。（BTL 接続には 8 Ω 以上のスピーカーが必要なため。）

ご注意

- 「バイアンプ」および「BTL」は、スピーカー A とスピーカー B で同時に選択することはできません。
- 「使用しない」以外を選択した場合は、フロントハイスピーカーおよびフロントワイドスピーカー、パワードゾーン 2 が使えません。
- 「バイアンプ」または「BTL」を選択した場合は、フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカー、サラウンドバックスピーカーとパワードゾーン 3 が使えません。

！ヒント

- バイアンプ接続、BTL 接続については 22 ～ 25 ページをご覧ください。

7

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

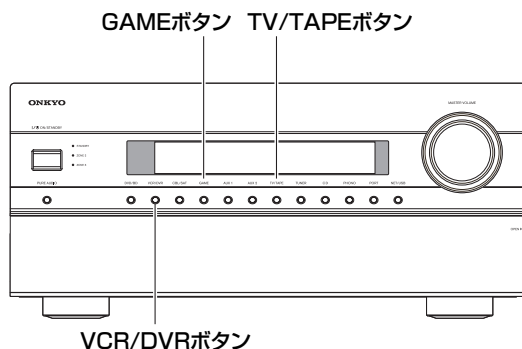
！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

パワードゾーン 2、3

131 ページをご覧ください。

入力表示を切り換える

オンキヨー製の RI 端子付き RI ドックを本機のTV/TAPE IN 端子や GAME IN 端子またはVCR/ DVR IN 端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。

1

TV/TAPE

または

GAME

または

VCR/DVR

INPUT SELECTOR ボタンのTV/TAPE、GAME、またはVCR/DVR を押し、表示部に「TV/TAPE」、「GAME」または「VCR/DVR」を表示させる

TV/TAPE

GAME

VCR/DVR

2

TV/TAPE

または

GAME

または

VCR/DVR

（3 秒間）

TV/TAPE ボタン、GAME ボタンまたは VCR/DVR ボタンを約 3 秒押し続けて、表示を切り換える

この手順をくり返すと以下のように表示が切り換わります。

TV/TAPE ボタン
「TV/TAPE」→「MD」→「CDR」→「DOCK」→「TV/TAPE」

GAME ボタン
「GAME」→「DOCK」→「GAME」

VCR/DVR ボタン
「VCR/DVR」→「DOCK」→「VCR/DVR」

ご注意

- 「DOCK」は、TV/TAPE ボタン、GAME ボタン、VCR/DVR ボタンで切り換えることができますが、同時には選べません。
- 本機付属のリモコンで操作する前に、まず RI 専用リモコンコードを登録してください。（➔138 ページ）

自動スピーカー設定をする（Audyssey MultEQ® XT 機能）

付属の測定用マイクを使って、自動的にスピーカーの数、音量レベルの調整、各スピーカーの最適なクロスオーバー周波数、および視聴位置からの距離を測定します。
また、部屋の中の様々な環境により生じる音のひずみを補正しますので、クリアでバランスのよい音になります。
Audyssey（オーディシー） MultEQ（マルチイーキュー）® XT 機能を使用することで、Audyssey Dynamic（ダイナミック） EQ（イーキュー） ™ 機能を利用できるようになります。Audyssey Dynamic EQ の働きにより、どの音量でも適切な音のバランスを保つことができます。
この機能を使用する前に、使用する全てのスピーカーを接続してください。
Audyssey Dynanic EQ 機能を有効にすると、Audyssey Dynamic Volume（ボリューム）™ を利用できるようになります。

Audyssey Dynamic EQ について

Audyssey Dynamic EQ は、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQ は、すべての音量変化に応じて自動的に最適な周波数特性とサラウンドレベルに補正します。その結果、どのように音量レベルを変更しても、常に最適な低域特性や音質バランス、サラウンド効果を維持することができます。正しい補正を行うために、入力されるソースの情報と、リスニングルームに出力される音圧レベル情報とを組み合わせています。
Dynamic EQ は、Audyssey MultEQ® XT 技術と連動することにより、すべての音量レベルに対して最適なバランスの音質を、すべてのリスナーに提供します。

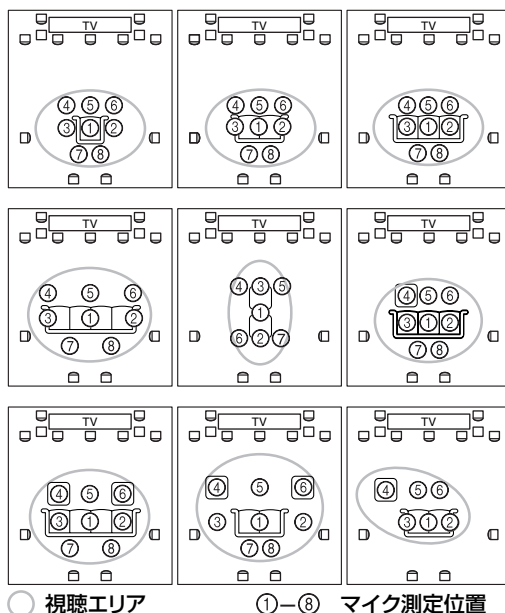
Audyssey Dynamic Volume について

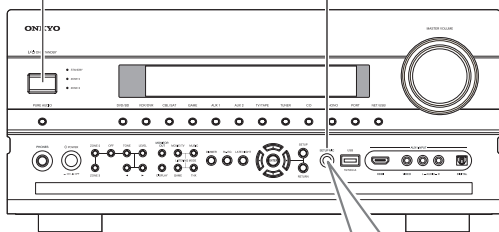
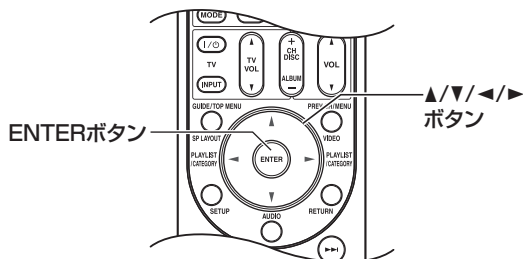
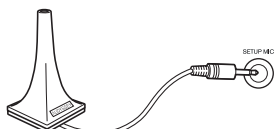
Audyssey Dynamic Volume は、テレビ番組やコマーシャル、映画などのコンテンツにおける静かな音のシーンと大きな音のシーンの間における、音量レベルの違いによって発生する問題を解決する技術です。
Dynamic Volume は、入力されるソースを常にモニターし、リスナーが設定した好みの音量レベルに常に自動的に調整することで、リスナーを音量調整の煩わしさから解放します。再生中のソースの中に含まれる特徴を正確にモニターし、音量の変化が急激であっても、緩やかな変化であってもソースの特徴に忠実に最適な音量値（リスナー設定値）に自動調整を行います。また、Dynamic Volume は Audyssey Dynamic EQ を取り込むことにより、音量レベルの調整時やテレビチャンネルの切り換え時、ステレオソースからサラウンドソースなどの切り換え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、台詞の明瞭さを維持しています。

測定のしかた

測定位置は視聴エリア内の 8 箇所です。下図を参考に測定用マイクを置く位置をご確認ください。具体的な操作手順については、59 ～ 61 ページをご覧ください。

1 回目の測定位置
視聴する部屋の中心、あるいは一人で視聴する場合の位置にマイクを置きます。
この位置からの測定結果を使用して、スピーカーの距離、音量レベル、極性、サブウーファーの最適なクロスオーバー周波数が算出されます。

2 回目～ 8 回目の測定位置
1 回目の中心位置以外の視聴位置を最高 7 ケ所まで測定します。

ご注意
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。

ON/STANDBYボタン　SETUP MIC端子

ご注意

- 接続したスピーカーの中に 1 台でも 4 Ω（オーム）のスピーカーがある場合、自動スピーカー設定を始める前に「インピーダンス」設定を変更（➔55 ページ）してください。
- MUTING（ミューティング）機能が設定されていると、解除されます。
- スピーカー A が選択されている場合にのみ使用できます。
- ヘッドホンを接続しているとき、またはスピーカー B が選択されているときは、測定できません。
- 設定に必要な時間は 8 ケ所で約 30 分かかります。スピーカーの数によって時間は変わります。
- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中にスピーカー接続をしたり外したりしないでください。
- 三脚台を使用して、視聴するときの耳に近い高さの位置に、マイクの先端が天井を向くように固定してください。

1

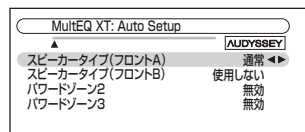
本機の電源を入れ、接続したテレビの電源を入れる

テレビの入力を、本機に接続した入力へ切り換えてください。

2

SETUP MIC

付属の測定用マイクを測定位置に設置してから、マイクのプラグを本機の SETUP MIC（セットアップ マイク）端子に接続する

58 ページの「測定のしかた」の図を参考に、①の位置にマイクを置いてください。
テレビに下記の画面が表示されます。

設定を変更する場合は、「スピーカーの設定をする」（➔55 ページ）の手順 ***5*** を参照してください。

3

ENTER（エンター）ボタンを押す

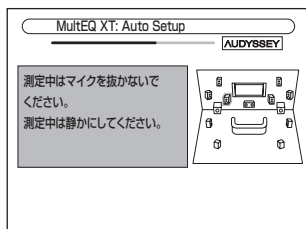
ご注意

- 自動スピーカー設定（Audyssey（オーディシー） MultEQ®（マルチイーキュー））を始める前に、16 ～ 25 ページを参考にスピーカーを本機に接続してください。自動スピーカー設定を行ったあとに、スピーカーの配置を変えたり、部屋のレイアウトを変更した場合には部屋内の音域特性が変化しています。自動スピーカー設定をやり直してください。
- 自動スピーカー設定中は、スピーカーとマイクの間に立ったり、物を置いたりしないでください。
  スピーカーからマイクへの音響伝達経路が妨げられるため、正確に測定することができなくなります。
- 測定中に、マイクを直接手で握っていると、正確に測定することができなくなります。
- 部屋をできるだけ静かにしてください。周囲の雑音は、測定値の誤差を生むことになります。窓を閉めて、携帯電話、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光ライト、家電機器、調光器、その他の機器を停止してください。
- 携帯電話は、使用中でなくても、RFI（無線周波妨害）のため測定の障害となることがあるので、測定中はすべてのオーディオ機器から遠ざけるか、または電源を切ってください。

➡ 手順 ***4*** に続く

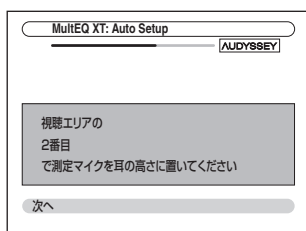
4

ENTER（エンター）ボタンを押す

自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながらマイクで測定します。
完了するまで数分かかります。

- 測定中は部屋の中をできるだけ静かな状態にしてください。
  周囲に雑音があると正しく測定できないことがあります。屋外の音、室内の電気製品から出る音や人の話し声などが影響を与えることがあります。
- 測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。

5

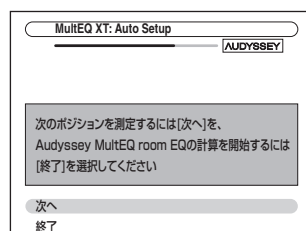
測定が終わると以下の画面が表示されるので、マイクを次の測定位置に置き ENTER ボタンを押す

58 ページの「測定のしかた」の図を参考に、②の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。

6

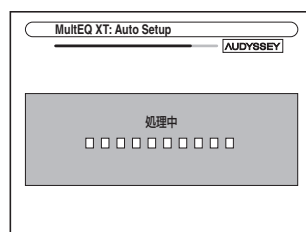
手順 5 をくり返す

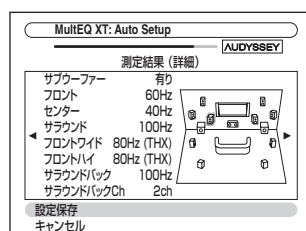
58 ページの「測定のしかた」の図を参考に、③〜⑧の位置にマイクを置いてください。
完了するまで数分かかります。

7

3 回目から 7 回目の測定が終わると以下の画面が表示されるので、▲/▼ ボタンで希望の項目を選び、ENTER ボタンを押す

次へ：
さらに別の測定位置で測定するときに選びます。8 回目の測定が終わると、自動的に手順 8 に進みます。
終了：
これ以上測定しないときに選びます。測定結果の計算に進みます。（手順 8）

8

測定が終わると以下の画面が表示され、自動的に測定結果を計算します

9

測定結果の計算が終わると以下の確認画面が表示されるので、▲/▼ ボタンで希望の項目を選び、ENTER ボタンを押す

設定保存： 計算結果を保存して終了します。
キャンセル： 結果をキャンセルして終了します。

- 詳細、距離、音量レベルなどの計算結果を確認するときは、◄/► ボタンを押してください。

➡ 手順 *10* に続く

10

「設定保存」を選ぶと保存開始の画面が表示されます。

ご注意

- **保存中は電源コードを抜いたり、電源を OFF したりしないでください。**

11

SETUP MIC

以下の表示が出たら、マイクのプラグを抜く

下記の画面が表示されます。

- 測定が完了すると「イコライザ設定」は「Audyssey」に設定され、「Dynamic EQ」も「オン」になります。
(➔93、99 ページ)
- 自動スピーカー設定を行ったあとに、スピーカーの配置を変えたり、部屋のレイアウトを変更した場合には部屋内の音域特性が変化しています。
自動スピーカー設定をやり直してください。

■ 測定途中に表示されるエラーメッセージについて

スピーカー検出エラー

スピーカーが検出されないときのメッセージです。正しいスピーカー構成については、「スピーカーの使いかた」(➔16 ページ）をご覧ください。

- フロントスピーカーが検出できません。

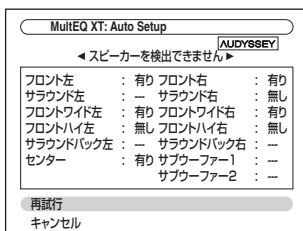
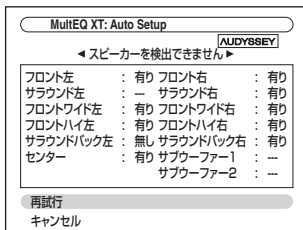
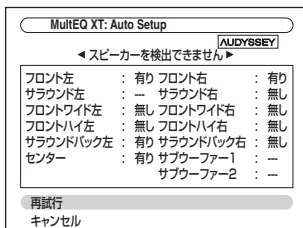
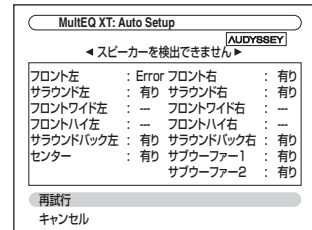
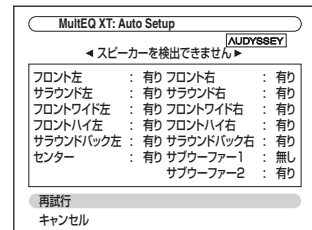
- フロントスピーカーが1つしか検出できません。

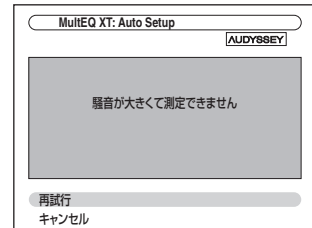
- フロントワイドスピーカーが1つしか検出できません。

- フロントハイスピーカーが1つしか検出できません。

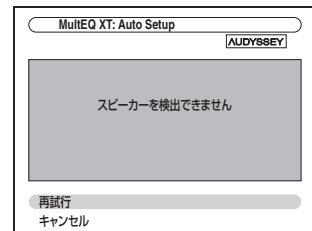
- サラウンドスピーカーが1つしか検出できません。

- サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。

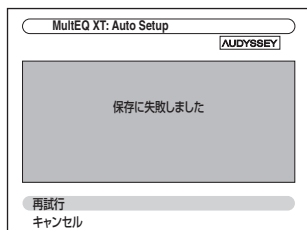
- フロントハイスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。

- フロントワイドスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。

- 右サラウンドバックスピーカーが検出されているのに、左サラウンドバックスピーカーが検出できません。

- 左バックサラウンドスピーカーが検出されているのに、サラウンドスピーカーが検出できません。

- スピーカーに異常があります。スピーカーが壊れているか、サブウーファーの音量が高域を出しすぎているかもしれません。

- サブウーファー 2 が検出されているのに、サブウーファー 1 が検出できません。

騒音が大きすぎます

測定環境の雑音が大きすぎて測定できません。雑音の原因を取り除いてください。

再試行： 再度測定します。
（測定していたポイントから再開します）
キャンセル： 結果をキャンセルして終了します。

スピーカーを検出できません

1 回目の測定でのスピーカー数と、それ以降の測定でのスピーカー数が違います。
検出できないスピーカーが正しく接続されているか確認してください。

再試行： エラーが出たところから測定し直します。
キャンセル： 結果をキャンセルして終了します。

書き込み失敗（保存エラー）

測定結果の保存に失敗しました。
2、3 度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障している可能性があります。
お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

再試行： 再度保存します。
キャンセル： 結果をキャンセルして終了します。

ご注意

THX のリスニングモードで聴くときは

THX 認定スピーカーシステムを使用するときは、スピーカー設定を手動で設定し直すことを THX は推奨しています。

- 自動スピーカー設定を行った場合は、手動でクロスオーバー周波数設定を「80Hz(THX)」に設定してください。
- 低域周波数の持つ無指向性、あるいは各部屋の持つ固有の特性などにより、サブウーファーのスピーカー距離設定やスピーカー音量設定が最適でない場合があります。手動で設定し直してください。
- 各部屋固有の特性などにより、スピーカー距離設定やスピーカー音量設定が最適でない場合があります。手動で設定し直してください。

スピーカー設定を手動で変更する

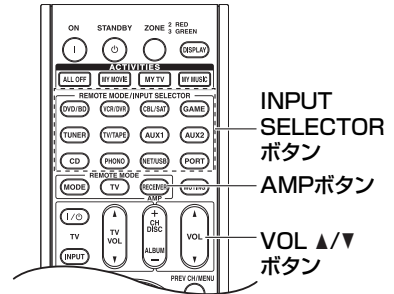
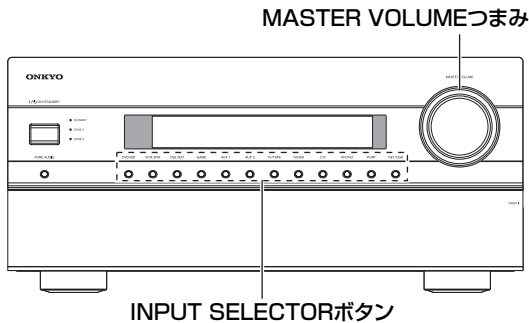
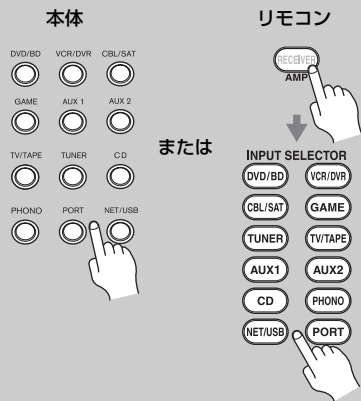
ごくまれに、自動スピーカー設定で適切な測定ができないことがあります。（例：室内のノイズが大きすぎる場合など）2 度目のスピーカー設定でもうまくいかなければ、手動で設定する必要があります。（➔88 ～ 96 ページ）

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。測定結果を確認する画面で、サブウーファー（SW（サブウーファー））が「無し」と表示されるときは、サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。
ボリュームを上げすぎたり音がひずんだりすると、測定に問題が生じる場合がありますので適切なボリュームレベルにしてください。
また、カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、「Off（オフ）」あるいは「DIRECT（ダイレクト）」の状態にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。カットオフ周波数を「Off」にできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。

映画・音楽を鑑賞する（基本編）

接続した機器を再生する

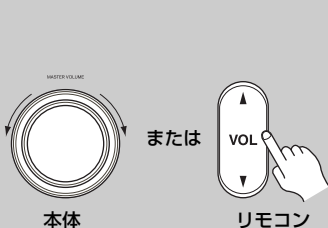
1

再生する機器を選ぶ

本体の INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター） ボタンを押します。または、リモコンの AMP（アンプ） ボタンを押してから INPUT SELECTOR ボタンを押します。

2

選んだ機器の再生を始める

映像機器を再生する場合は、テレビなどモニターの入力を切り換える必要があります。
また、DVD/BD 対応のゲーム機などの再生機器で音声出力設定が必要な場合もあります。

3

本体の MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム） つまみ、またはリモコンの VOL（ボリューム） ▲/▼ ボタンで音量を調整する

音量は基本的に−∞ dB・− 81.5 dB ･････ +18.0 dB までの範囲で調整できます。

！ヒント

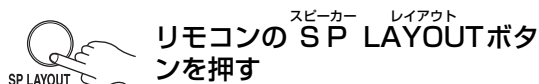
- 本機はホームシアターでお楽しみいただく製品ですので、ボリューム値を細かく設定できるように音量幅を大きく持たせています。お好みで調整してください。

4

リスニングモードを楽しむ

詳しくは 74 ページをご覧ください。

Speaker Layout 機能を使う

リモコンの ＳＰ LAYOUTボタンを押す

■ フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを選ぶ

スピーカー B を使用しない場合、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーのどちらを優先するか選択できます。

ご注意

- 以下のいずれかの場合、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーの選択はできません。
  1. 「スピーカータイプ（フロント B）」設定で「通常」、「バイアンプ」または「BTL」が設定されている
  2. パワードゾーン 2 を使用している
- サラウンドバックスピーカーを使用する場合は、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカー、またはサラウンドバックスピーカーとフロントワイドスピーカーの組み合わせで選択できます。
- フロントハイスピーカーおよびフロントワイドスピーカーに対応していないリスニングモードを使用しているときは、この機能は使えません。

■ スピーカー A またはスピーカー B を選ぶ

スピーカー B を使用する場合、スピーカー A またはスピーカー B のどちらを使用するか選択できます。スピーカー A またはスピーカー B は、リスニングモードに関係なく切り換えできます。

ご注意

- スピーカー B を使用する場合、フロントハイスピーカーおよびフロントワイドスピーカーは使用できません。
- スピーカー B を使用する場合、メインルームでフロントハイまたはフロントワイドを使用するリスニングモード（ドルビー Pro Logic IIz Height、Audyssey Dynamic Surround Expansion™ など）は選べません。
- スピーカー B を使用している間、スピーカーの自動設定は行えません（Audyssey Dynamic EQ™ および Audyssey Dynamic Volume™ 機能は使えません）。

一時的に音量を小さくする

リモコンの MUTING ボタンを押す

表示部に「MUTING」が点滅します。

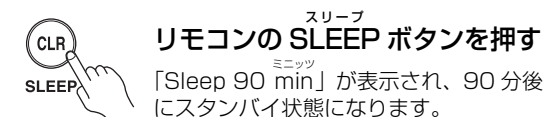
■ 解除するには

もう一度 MUTING ボタンを押してください。（音量を変えたり、ON/STANDBY ボタンを押した場合にも解除されます。）

！ヒント

- 「ミュート時音量レベル」設定でミューティング時の音量レベルを調整できます（➔108 ページ）。

スリープタイマーを使う

リモコンの SLEEP ボタンを押す

「Sleep 90 min」が表示され、90 分後にスタンバイ状態になります。
ボタンを押すたびに 10 分単位で設定時間が短くなります。

- スリープタイマー設定中は SLEEP 表示が点灯します。
- 指定した時間が約 5 秒間表示されますが、その後直前の画面が表示されます。

■ 残り時間を確認するには

スリープタイマーが予約されているときに SLEEP ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。ただし、残り時間が 10 分以下のときに再び SLEEP ボタンを押すと、スリープタイマーは解除されます。

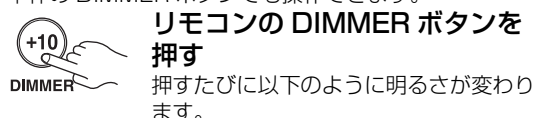
■ スリープタイマーを解除するには

SLEEP 表示が消えるまで、くり返し SLEEP ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから再度電源を入れるとスリープタイマーは解除されます。

表示部の明るさを変える

本体の DIMMER ボタンでも操作できます。

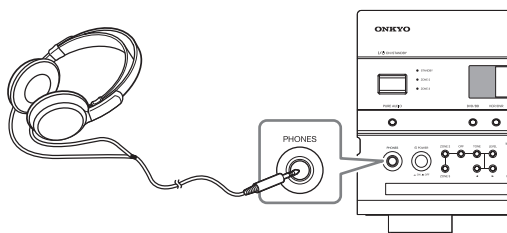
リモコンの DIMMER ボタンを押す

押すたびに以下のように明るさが変わります。

明るい＊1 → 明るい＊2 → やや暗い＊2 → 暗い＊2 → 明るい＊1

＊1 MASTER VOLUME つまみのまわりのライトが点灯

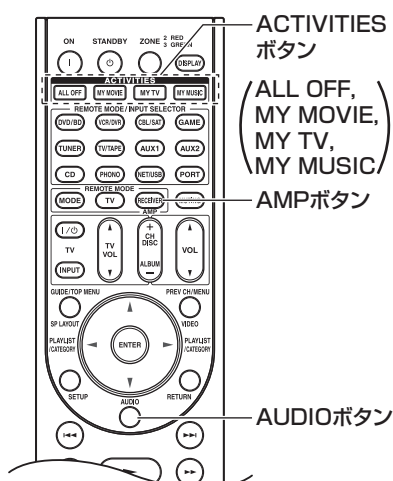
＊2 MASTER VOLUME つまみのまわりのライトが消灯

ヘッドホンで聴く

PHONES（フォーンズ）端子にヘッドホンのステレオ標準プラグを接続する

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。（Zone2/3 のスピーカーからの音は消えません。）
- 「Pure（ピュア） Audio（オーディオ）」、「DTS Surround（サラウンド） Sensation（センセーション）」、「Mono（モノ）」または「Direct（ダイレクト）」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に「Stereo（ステレオ）」になります。
- 現在のリスニングモードが「DTS Surround Sensation」のときは、ヘッドホンを接続すると自動的に「DTS Surround Sensation」になります。
- ヘッドホン接続時は、ヘッドホン表示および FL と FR のチャンネル表示が点灯し、次のリスニングモードが選択できます。
  「Stereo」「Direct」「Pure Audio」「Mono」
  「DTS Surround Sensation」
- マルチチャンネル入力を選んでいるときは、左右フロントチャンネルの音声のみ聴こえます。

Easy Macro モードで簡単マクロ機能を使用する

Easy macro モードは簡単なコマンドを使い、ボタン一つの簡単操作でオンキヨー製機器を連続して操作できます。これらのコマンドはお好みに設定の変更が可能です。
以下では、お買い上げ時の動作を説明します。
ACTIVITIES ボタンを押して Easy macro コマンドを起動してください。

本機が Normal macro モードになると、すべての ACTIVITIES ボタンが自動的に Normal macro モードに切り換わります。このとき、ALL OFF ボタンを押すと、本機のみがスタンバイ状態になります。

1 **MY MOVIE、MY TV または MY MUSIC ボタンを押す**

MY MOVIE :
1. 本機に接続したテレビの電源が入る。
2. 本機に接続したオンキヨー製 DVD プレーヤーの電源が入る。
3. 本機の電源が入る。
4. 再生機器を“DVD/BD”に設定する。
5. DVD プレーヤーが再生を開始する *1。

MY TV:
1. 本機に接続したテレビの電源が入る。
2. 本機に接続したケーブルテレビチューナーの電源が入る。
3. 本機の電源が入る。
4. 再生機器を“CBL/SAT”に設定し、ケーブルテレビの視聴が可能になる。

MY MUSIC:
1. 本機に接続したオンキヨー製CDプレーヤーの電源が入る。
2. 本機の電源が入る。
3. 再生機器を“CD”に設定する。
4. CD プレーヤーが再生を開始する。

ご注意
Easy macro コマンドを起動すると、実行中は他の ACTIVITIES ボタンを使用できません。途中で他の ACTIVITIES ボタンを使用するには、ALL OFF ボタンを押してから他の ACTIVITIES ボタンを押してください。

2 **ALL OFF ボタンを押す**

1. 接続されている機器が停止し、電源がオフになる。
2. 本機の電源がオフになる。
3. 本機に接続したテレビの電源がオフ（スタンバイ状態）になる。*2*3

*1. DVD/BD プレーヤーの起動時間によっては、再生コマンドが効かないことがあります。この場合、リモコンの ► ボタンを押してください。
*2. お買い上げ時の設定では、MY MUSIC を選んでも実行されません。
*3. テレビによっては電源がオフ（スタンバイ状態）にならないものもあります。

再生機器を選ぶ

再生機器として割り当てられていない機器を操作したいときは、その機器を再生機器として割り当てることができます。お買い上げ時の割り当てについては以下の表をご覧ください。

項目	設定		
	My（マイ）Movie（ムービー）	My TV（テレビ）	My Music（ミュージック）
再生機器	DVD	CBL	CD
TV パワーオン	有効	有効	無効
再生機器パワーオン	有効	有効	有効
本機パワーオン	有効	有効	有効
再生機器の変更	有効	有効	有効
機器の再生	有効	無効	有効

（３秒間）

REMOTE MODE（リモート モード）ボタンを押しながら、MY MOVIE ボタン、MY TV ボタン、または MY MUSIC ボタンを約 3 秒間、押し続ける

押した ACTIVITIES ボタンが 2 回点滅し、設定が確定します。

例：

MY MUSIC ボタンを押してオンキヨー製カセットデッキを再生したいときは、TV/TAPE（テレビ テープ）ボタンを押しながら
MY MUSIC ボタンを約 3 秒間押し続ける。

お買い上げ時の設定に戻す

1

（３秒間）

AUDIO ボタンを押しながら、ALL OFF ボタンが点灯するまで ALL OFF ボタンを（約 3 秒間）押し続ける

2

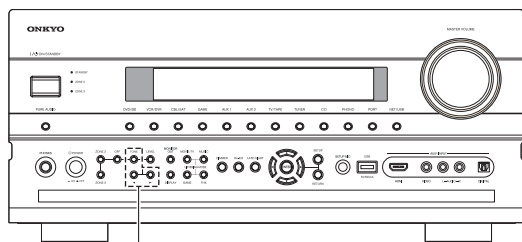
AUDIO ボタンと ALL OFF ボタンを放し、ALL OFF ボタンをもう一度押す

ALL OFF ボタンが 2 回点滅します。

映画・音楽を鑑賞する（応用編）

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」、「Pure Audio」、「THX」以外のリスニングモード時に左右フロントスピーカーのみ音質を調整することができます。この調整回路を通さない場合は、リスニングモードを「Direct」、「Pure Audio」または「THX」に設定してください。

- リモコンの AUDIO ボタンでも操作することができます。（➔115 ページ）

TONE, ◄/►ボタン

1

TONE ボタンをくり返し押して、各チャンネルの「Bass（低音）」または「Treble（高音）」を選ぶ

2

◄/► ボタンを押して、レベルを調整する

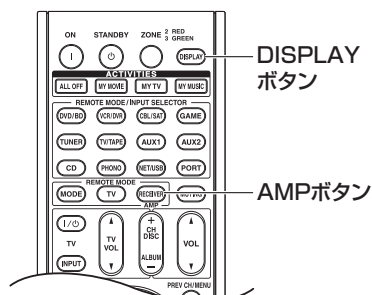
お買い上げ時は「0」ですが、－ 10 dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。

ご注意

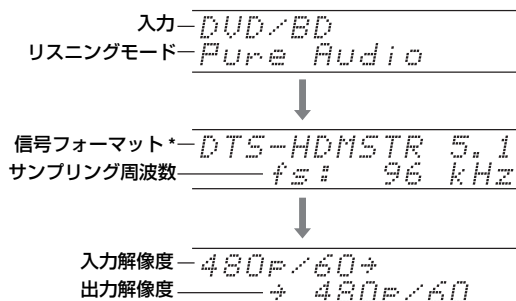
- この設定はフロントスピーカーも含めてスピーカー A/B で同じ設定値が適用されます。

表示を確認する

入力信号の様々な情報を表示することができます。

1

AMP ボタンを押してから DISPLAY ボタンを押す

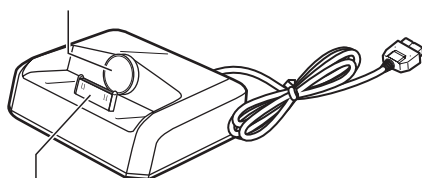
本体の DISPLAY ボタンでも操作できます。

- 入力されている信号により、表示される内容は異なります。
- DISPLAY ボタンを押すたびに、表示内容が下記のように切り換わります。

* 入力信号がアナログの場合、信号フォーマットは表示されません。
入力信号が PCM の場合、サンプリング周波数が表示されます。
デジタル入力信号が PCM 以外の場合、信号フォーマットとチャンネル数が表示されます。
マルチチャンネル PCM を含めデジタル入力信号によっては、信号フォーマット、チャンネル数、サンプリング周波数が表示されます。
情報は約 3 秒間表示され、その後直前の画面が表示されます。

■ 入力信号が AAC の音声多重放送（2ヶ国語放送など）のとき

信号フォーマット — AAC 1+1
サンプリング周波数 — fs: 48 kHz

iPod ドック UP-A1 について

別売の iPod ドック UP-A1 は、本機を経由して iPod/iPhone に保存された音楽や写真、ビデオなどを楽しむことができます。本機のリモコンで、iPod/iPhone の基本的な操作を行うことができます。

対応する iPod/iPhone

iPod ドックがサポートする iPod/iPhone の情報については、iPod ドック取扱説明書をご覧ください。
iPod ドックの最新情報は、弊社ホームページをご覧ください。http://www.jp.onkyo.com
ご使用になる前に、必ずご使用の iPod/iPhone を最新のバージョンにアップデートしてください。最新バージョンにするためのソフトウェアアップデーターは、Apple 社のホームページにて入手してください。

ご注意
- 本機の音量を下げてください。
- iPod/iPhone を抜き差しするときは、ねじったりしてコネクタ部を傷つけないようにしてください。また、使用中に iPod/iPhone を前に倒したりすると、端子部分を破損する原因となりますので、ご注意ください。
- iPod ドックの使用中は、iPod/iPhone をドックから抜かないでください。
- FM トランスミッターやマイクロフォンなど他のアクセサリーとは併用しないでください。
  動作不良などの原因となる場合があります。

iPod ドック UP-A1 の機能概要

■ 基本動作

- **オートパワーオン機能**
  本機がスタンバイ状態のときに iPod/iPhone を再生すると、本機は iPod/iPhone を接続した入力に切り換わり、iPod/iPhone の再生が始まります。
- **ダイレクトチェンジ動作**
  本機が他の入力のときリモコンで iPod/iPhone を再生すると、iPod/iPhone を接続した入力に自動的に切り換わり、iPod/iPhone の再生をします。
- **本機リモコン操作**
  本機のリモコンで、iPod/iPhone の基本的な操作を行うことができます。

ご注意
- iPod/iPhone との連動動作は、iPod/iPhone の機種や世代により対応していないものがあります。
- 本機が始動するのに数秒かかります。最初の音楽の頭出し数秒が聞こえないかもしれません。
- 他の入力を選択する前には、iPod/iPhone の再生を停止してください。
- iPod/iPhone に他のアクセサリーが接続されていた場合、本機は適切に入力を選ぶことができないことがあります。
- iPod/iPhone がドックにセットされている間は、音量操作は効果がありません。もし、ドックにセットされた iPod/iPhone の音量調整を行ったときは、ヘッドホンを再び接続する前に、音量が高くないか確かめてください。
- オートパワーオン機能は、iPod/iPhone を再生した状態でドックにセットしても動作しません。
- Zone2 および Zone3 への出力がオンの場合、オートパワーオン機能とダイレクトチェンジ動作は働きません。

■ iPod/iPhone アラーム機能の使い方

iPod/iPhone のアラーム機能で、iPod/iPhone と本機を設定した時間に自動的に立ち上げることができます。
本機の入力は、自動的に PORT に設定されます。

ご注意
- この機能を使用するには、iPod ドックに対応した iPod/iPhone で、iPod ドックは本機に接続されていなければなりません。
- この機能を使用するときは、必ず本機のボリュームを適当な音量に設定してください。
- 本機が始動するのに数秒かかります。最初の音楽の頭出し数秒が聞こえないことがあります。
- Zone2 および Zone3 への出力がオンの場合、この機能は働きません。
- iPod/iPhone 内蔵の効果音を鳴らす設定の場合には連動しません。

■ iPod/iPhone を充電するには

本機の UNIVERSAL PORT 端子に iPod ドックを接続し、本機がオンまたはスタンバイ状態で、iPod ドックに iPod/iPhone をセットすると、iPod/iPhone のバッテリーを充電します。

ご注意
- 充電機能を使用すると、スタンバイ状態での消費電力が少し増加します。

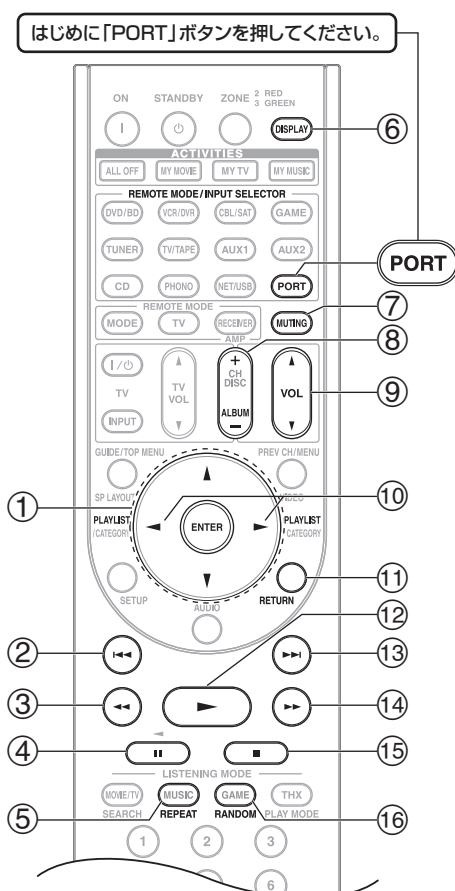
iPod/iPhone を操作する

iPod/iPhone ドックのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンの PORT ボタンを押すことで、iPod ドックにセットされた iPod/iPhone を操作することができます。

PORT ボタンには、UNIVERSAL PORT 端子に接続された iPod ドックを操作するため、あらかじめリモコンコードが登録されています。(➔137 ページ)

UNIVERSAL PORT 端子に接続したときの iPod ドックの使い方

- UNIVERSAL PORT 端子に iPod ドックを接続してください。
- より詳しい情報は、iPod ドックの取扱説明書をご覧ください。

入力で PORT を選択したときに、iPod/iPhone を操作することができます。

ご注意

- iPod/iPhone の詳しい操作方法については、iPod/iPhone の取扱説明書をご覧ください。
- iPod の機種・世代によっては動作しないボタンがあります。

① ▲/▼/ENTER ボタン
メニューを操作します。中央の ENTER ボタンを押すと、選んだメニューを確定します。

② ⏮ ボタン
再生中の曲を頭から再生します。再度押すと前の曲に戻ります。

③ ◀◀ ボタン
曲を早戻します。

④ ❚❚ ボタン
再生を一時停止します。再度押すと再生を再開します。

⑤ REPEAT ボタン
リピートモードを切り換えます。

⑥ DISPLAY ボタン
本機を Standard モードまたは Extended モードに切り換えます *1。

⑦ MUTING ボタン
本機のミューティング機能をオン / オフします。

⑧ ALBUM + / −ボタン
アルバムを選択します。

⑨ VOL ▲/▼ ボタン
本機の音量を調整します。

⑩ PLAYLIST◀/▶ ボタン
iPod/iPhone のプレイリストを選択します。

⑪ RETURN ボタン
メニューを出るか前のメニューに戻ります。

⑫ ▶ ボタン
再生を始めます。
本機がオフのときは、自動的に立ち上がります。

⑬ ⏭ ボタン
次の曲を選びます。

⑭ ▶▶ ボタン
曲を早送りします。

⑮ ■ ボタン
再生を停止してメニュー画面を表示します。

⑯ RANDOM ボタン
ランダム再生をします。

*1
Standard モード
テレビ画面には何も表示されませんが、iPod のディスプレイを見ながら内容を選択および操作できます。ビデオ再生はこのモードでのみ可能です。
Extended モード
テレビ画面にプレイリスト（アーティスト・アルバム・曲など）が表示され、画面を見ながら選択および操作ができます。

ご注意

- Extended モードでは、本機の電源がオフになっても iPod/iPhone の再生は停止しません。
- Extended モードでは、iPod/iPhone を直接操作できません。
- Extended モードでは、iPod/iPhone 内のコンテンツを取得するのに時間がかかることがあります。
- Extended モードでは、iPod/iPhone 内のビデオコンテンツをテレビ画面に表示することはできません。

本機に表示されるメッセージについて

❏ PORT Reading
（ポート　リーディング）

ドックとの接続をチェック中です。

❏ PORT Not Support
（ポート　ノット　サポート）

接続されたドックは、本機ではサポートされていません。

❏ PORT UP-A1

お使いの iPod/iPhone は、UNIVERSAL（ユニバーサル） PORT 端子に接続された iPod ドック UP-A1 に正しくセットされました。
接続を確認したときは、本機表示部に約 8 秒間「UP-A1」と表示されます。

ご注意

- 本機の表示部に何も表示されない場合は、iPod/iPhone の接続が正しくされているかご確認ください。

録音・録画する

あなたが録音・録画したものは、個人として楽しむほかは著作権法上、権利者に無断で使用できません。

ご注意

- サラウンド効果は録音されません。DSP リスニングモードでも録音されません。
- 著作権保護された DVD などはデジタル録音・録画できません。
- マルチチャンネル音声は録音できません。
- HDMI IN 端子から入力された信号は出力されません。
  アナログ音声入力はアナログ音声出力にのみ出力されます。
- デジタル信号は録音・録画できません。アナログ入力時のみ録音できます。
- 録音・録画中に再生側の入力を切り換えると、新しく選択された入力が録音・録画されます。
- DTS 対応の CD や LD をアナログ録音すると、DTS 信号はノイズとして録音されますのでご注意ください。
- リスニングモードが「Pure Audio」のときは、ビデオ回路の電源がオフになるため映像が出力されません。
  録画するときは、他のリスニングモードを選んでください。

再生しながら録音・録画する

現在再生中の音楽や映画を録音・録画します。

1 **INPUT SELECTOR ボタンを押して録音・録画する機器（再生側）を選ぶ**

録音・録画中にソースを見ることができます。また、録音・録画中は、MASTER VOLUME つまみの操作を行っても録音・録画機器への出力には影響はありません。

！ヒント

本機に付属のリモコンでも操作を行うことができます。

2 **録音・録画する機器（録画側）の準備をする**

- 録音・録画する機器を録音・録画待機状態にします。
- 録音レベルの調整は録音・録画機器で行ってください。
- 録音・録画のしかたについては、録音・録画機器の取扱説明書をご覧ください。

3 **録音・録画を始める**

手順 ***1*** で選んだ再生機器を再生します。

異なるソースの音楽と映像を録音・録画する

あるソースの音を別のソースの映像に加えて、オリジナルビデオが作成できます。以下の手順は、CD 端子に接続した CD プレーヤーの音声と AUX 1 IN 端子に接続したビデオカメラの映像を VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録音･録画する例です。

1 **録音する機器（再生側）の準備をする**

例：AUX 1 IN 端子に接続したビデオカメラにテープをセットする。

2 **VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキにテープをセットする**

3 **INPUT SELECTOR ボタンの AUX 1 を押す**

4 **INPUT SELECTOR ボタンの CD を押す**

音声出力は CD に変わりますが、映像出力は手順 ***3*** で選んだ AUX 1 のまま変わりません。VCR/DVR OUT 端子に接続したビデオデッキで録画を開始し、AUX 1 IN 端子に接続したビデオカメラと CD プレーヤーの再生を始めます。映像はビデオカメラから録画し、音声は CD プレーヤーから録音されます。

ご注意

- この方式で録音できるのは TUNER、TV/TAPE、CD、PHONO 端子に接続した機器の音声のみです。

映画・音楽を鑑賞する（リスニングモード編）

リスニングモードを選ぶ

本体のボタンで選ぶ

1

INPUT SELECTOR ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

入力表示を確認する場合は、
DISPLAY ボタンを押してください
(➔69 ページ)。

3

または

以下のボタンを押して、リスニングモードを選ぶ

MOVIE/TV：
映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSIC：
音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAME：
ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

THX：
THX 関連のリスニングモードに切り換えます。

PURE AUDIO：
リスニングモードを「Pure Audio」に切り換えます。
このモードでは、表示部が消灯します。
また、ビデオ回路の電源を切るため、HDMI 入力された映像以外は出なくなります。PURE AUDIO ボタンをもう一度押すと、「Pure Audio」は取り消され、もとのリスニングモードに戻ります。

リモコンで選ぶ

1

AMP ボタンを押してから INPUT SELECTOR ボタンを押して、再生する機器を選ぶ

2

選んだ機器を再生する

入力表示を確認する場合は、
DISPLAY ボタンを押してください
(➔69 ページ)。

3

RECEIVER
AMP
LISTENING MODE
MOVIE/TV MUSIC
GAME THX

AMP ボタンを押してから以下のボタンを押して、リスニングモードを選ぶ

MOVIE/TV：
映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSIC：
音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAME：
ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

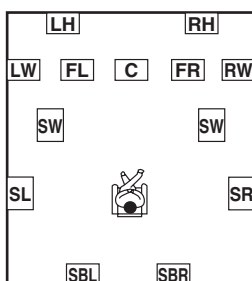
THX：
THX 関連のリスニングモードに切り換えます。

入力信号の種類と対応するリスニングモード

スピーカーレイアウトのイラストは、「スピーカーの設定をする」（➔55 ページ）や「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）で、有効または無効に設定されたスピーカーを示しています。

操作ボタンのイラストは、リスニングモードを選択するボタンを示しています。

MOVIE/TV　MUSIC　GAME　THX

LH　RH　LW　FL　C　FR　RW　SW　SW　SL　SR　SBL　SBR

C：スピーカーの設定が有効
C：スピーカーの設定が無効

FL：左フロントスピーカー
LW：左フロントワイドスピーカー
LH：左フロントハイスピーカー
C：センタースピーカー
RH：右フロントハイスピーカー
RW：右フロントワイドスピーカー
FR：右フロントスピーカー
SR：右サラウンドスピーカー
SBR：右サラウンドバックスピーカー
SBL：左サラウンドバックスピーカー
SL：左サラウンドスピーカー
SW：サブウーファー

Mono/Multiplex*3 音声入力

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
		FL C FR SW	FL C FR SW	FL C FR SW SL SR	*1 LH *2 *1 RH *2 LW FL C FR RW *1 *1 *2 SW SW *2 SL SR *2 SBL *2 SBR
Pure Audio	PURE AUDIO MUSIC	✔	✔	✔	✔
Direct	MOVIE/TV MUSIC GAME	✔	✔	✔	✔
Stereo	MUSIC	✔	✔	✔	✔
Mono	MOVIE/TV	✔	✔	✔	✔
Orchestra	MUSIC			✔	✔*1*2
Unplugged	MUSIC			✔	✔*1*2
Studio-Mix	MUSIC			✔	✔*1*2
TV Logic	MOVIE/TV			✔	✔*1*2
Game-RPG	GAME			✔	✔*1*2
Game-Action	GAME			✔	✔*1*2
Game-Rock	GAME			✔	✔*1*2
Game-Sports	GAME			✔	✔*1*2
All Ch Stereo	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1*2
Full Mono	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1*2
T-D (Theater-Dimensional)	MOVIE/TV GAME	✔	✔	✔	✔
DTS Surround Sensation	MOVIE/TV MUSIC GAME	✔	✔	✔	✔

*1　7ch 出力時、リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが選べます。ただし、「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）に依存します（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ）。
*2　9ch 出力時、リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカー、またはサラウンドバックスピーカーとフロントワイドスピーカーの組み合わせが選べます（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ）。
*3　Multiplex は、AAC フォーマットなどにおける多重音声の意味です。

ご注意

- PCM 入力信号の有効なサンプリング周波数は、32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz です。
- 入力信号によっては選べないことがあります。

Stereo 音声入力（1/2）

ステレオ

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
Pure Audio	PURE AUDIO MUSIC	✔	✔	✔	✔
Direct	MOVIE/TV MUSIC GAME	✔	✔	✔	✔
Stereo	MUSIC	✔	✔	✔	✔
Mono	MOVIE/TV	✔	✔	✔	✔
PLII/PLIIx Movie*3	MOVIE/TV		✔	✔	✔
PLII/PLIIx Music*3	MUSIC		✔	✔	✔
PLII/PLIIx Game*3	GAME		✔	✔	✔
PLIIz Height	MOVIE/TV MUSIC GAME				✔
Neo:6 Cinema	MOVIE/TV		✔	✔	✔
Neo:6 Music	MUSIC		✔	✔	✔
Neural Surround	MOVIE/TV		✔	✔	✔
Neural Digital Music	MUSIC		✔	✔	✔
PLII/PLIIx Movie*3 THX Cinema	MOVIE/TV THX			✔	✔
PLII/PLIIx Movie Audyssey DSX*4	MOVIE/TV				✔
PLIIz Height THX Cinema	MOVIE/TV THX				✔
Neo:6 Cinema THX Cinema	MOVIE/TV THX			✔	✔
Neo:6 Cinema Audyssey DSX*4	MOVIE/TV				✔
Neural THX Cinema	MOVIE/TV THX			✔	✔
PLII/PLIIx Music*3 THX Music	MUSIC THX			✔	✔
PLII/PLIIx Music Audyssey DSX*4	MUSIC				✔
PLIIz Height THX Music	MUSIC THX				✔
Neo:6 Music THX Music	MUSIC THX			✔	✔
Neo:6 Music Audyssey DSX*4	MUSIC				✔
Neural Digital Music THX Music	MUSIC THX			✔	✔

Stereo 音声入力（2/2）

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
PLII/PLIIx Game*3 THX Games	GAME THX			✔	✔
PLII/PLIIx Game Audyssey DSX*4	GAME				✔
PLIIz Height THX Games	GAME THX				✔
Neural THX Games	GAME THX			✔	✔
PLII Game THX Ultra2 Games	GAME THX				✔
PLIIz Height THX Ultra2 Games	GAME THX				✔
Orchestra	MUSIC			✔	✔*1*2
Unplugged	MUSIC			✔	✔*1*2
Studio-Mix	MUSIC			✔	✔*1*2
TV Logic	MOVIE/TV			✔	✔*1*2
Game-RPG	GAME			✔	✔*1*2
Game-Action	GAME			✔	✔*1*2
Game-Rock	GAME			✔	✔*1*2
Game-Sports	GAME			✔	✔*1*2
All Ch Stereo	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1*2
Full Mono	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1*2
T-D (Theater-Dimensional)	MOVIE/TV GAME	✔	✔	✔	✔
Neo:6 Cinema DTS Surround Sensation	MOVIE/TV GAME	✔	✔	✔	✔
Neo:6 Music DTS Surround Sensation	MUSIC	✔	✔	✔	✔

*1 7ch 出力時、リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが選べます。ただし、「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）に依存します（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ）。
*2 9ch 出力時、リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカー、またはサラウンドバックスピーカーとフロントワイドスピーカーの組み合わせが選べます（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ）。
*3 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、またはパワードゾーン 3 を使用している場合は、Dolby Pro Logic II になります。
*4 · 以下の条件をすべて満たす場合に選択できます。
a. センタースピーカーが本機に接続されている
b. フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが本機に接続されている
· リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが選べます。ただし、「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）に依存します（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ）。

ご注意

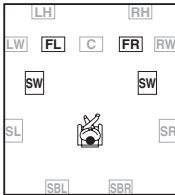
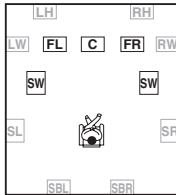
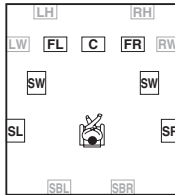
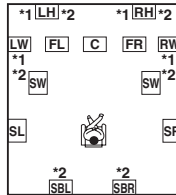
- PCM 入力信号の有効なサンプリング周波数は、32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz です。
- 入力信号によっては選べないことがあります。

5.1 channel（チャンネル）音声入力（1/3）

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
Pure Audio	PURE AUDIO, MUSIC	✔	✔	✔	✔
Direct	MOVIE/TV, MUSIC, GAME	✔	✔	✔	✔
Stereo	MUSIC	✔	✔	✔	✔
Mono	MOVIE/TV	✔	✔	✔	✔
DolbyDigital, DolbyDigital Plus, TrueHD, Multichannel, DTS, DTS 96/24*5, DTS Express, DTS-HD High Resolution Audio, DTS-HD Master Audio, DSD*3, AAC	MOVIE/TV, MUSIC, GAME		✔	✔	✔
PLIIx Movie	MOVIE/TV				✔
PLIIx Music	MUSIC				✔
PLIIz Height	MOVIE/TV, MUSIC, GAME				✔
DolbyEX	MOVIE/TV, MUSIC, GAME				✔
DolbyEX Audyssey DSX*4	MUSIC				✔
Neo:6	MOVIE/TV, MUSIC, GAME				✔
Neo:6 Audyssey DSX*4	MOVIE/TV, MUSIC, GAME				✔
Neural Surround	MOVIE/TV				✔
Audyssey DSX*4	MOVIE/TV, MUSIC, GAME				✔
THX Cinema	MOVIE/TV, THX			✔	✔
PLIIx Movie THX Cinema	MOVIE/TV, THX				✔
PLIIx Movie Audyssey DSX*4	MOVIE/TV				✔
PLIIz Height THX Cinema	MOVIE/TV, THX				✔
Neo:6 THX Cinema	MOVIE/TV, THX				✔
Neural THX Cinema	MOVIE/TV, THX				✔
THX Music	MUSIC, THX			✔	✔

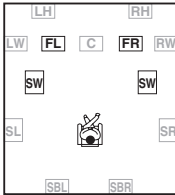
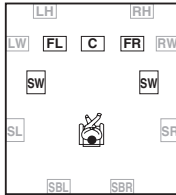
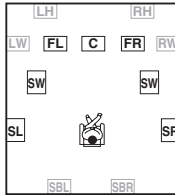
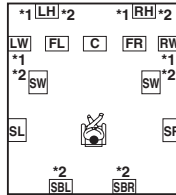
5.1 channel（チャンネル）音声入力（2/3）

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
PLIIx Music THX Music	MUSIC THX				✔
PLIIx Music Audyssey DSX*4	MUSIC				✔
PLIIz Height THX Music	MUSIC THX				✔
Neo:6 THX Music	MUSIC THX				✔
Neural THX Music	MUSIC THX				✔
THX Games	GAME THX			✔	✔
PLIIx Height THX Games	GAME THX				✔
Neo:6 THX Games	GAME THX				✔
Neural THX Games	GAME THX				✔
THX Surround EX	MOVIE/TV THX				✔
THX Ultra2 Cinema	MOVIE/TV THX				✔
PLIIz THX Ultra2 Cinema	MOVIE/TV THX				✔
THX Ultra2 Music	MUSIC THX				✔
PLIIz THX Ultra2 Music	MUSIC THX				✔
THX Ultra2 Games	GAME THX				✔
PLIIz THX Ultra2 Games	GAME THX				✔
Orchestra	MUSIC			✔	✔*1*2
Unplugged	MUSIC			✔	✔*1*2
Studio-Mix	MUSIC			✔	✔*1*2
TV Logic	MOVIE/TV			✔	✔*1*2
Game-RPG	GAME			✔	✔*1*2
Game-Action	GAME			✔	✔*1*2
Game-Rock	GAME			✔	✔*1*2
Game-Sports	GAME			✔	✔*1*2
All Ch Stereo	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1*2
Full Mono	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1*2
T-D (Theater-Dimensional)	MOVIE/TV GAME	✔	✔	✔	✔

5.1 channel 音声入力（3/3）

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
DTS Surround Sensation	MOVIE/TV MUSIC GAME	✔	✔	✔	✔

*1 7ch 出力時、リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが選べます。ただし、「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）に依存します（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ）。
*2 9ch 出力時、リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカー、またはサラウンドバックスピーカーとフロントワイドスピーカーの組み合わせが選べます（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ）。
*3 本機は HDMI からの DSD 信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定を PCM に設定したほうがよい音声を得られることがあります。その場合は、プレーヤー側の設定を PCM 出力にしてください。
*4 ・以下の条件をすべて満たす場合に選択できます。
a. センタースピーカーが本機に接続されている
b. フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが本機に接続されている
・リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが選べます。ただし、「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）に依存します（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ）。
*5 選択するリスニングモードによっては、DTS になります。

ご注意

- PCM 入力信号の有効なサンプリング周波数は、32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz です。
- 入力信号によっては選べないことがあります。

7.1 channel 音声入力（1/2）

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
Pure Audio	PURE AUDIO MUSIC	✔	✔	✔	✔
Direct	MOVIE/TV MUSIC GAME	✔	✔	✔	✔
Stereo	MUSIC	✔	✔	✔	✔
Mono	MOVIE/TV	✔	✔	✔	✔
Multichannel, DolbyDigital Plus, TrueHD, DTS-HD High Resolution Audio, DTS-HD Master Audio, DTS-ES Discrete*5, DTS-ES Matrix*5	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*3
PLIIz Height	MOVIE/TV MUSIC GAME				✔
Audyssey DSX*4	MOVIE/TV MUSIC GAME				✔
THX Cinema	MOVIE/TV THX			✔	✔

7.1 channel（チャンネル）音声入力（2/2）

✔: 利用できるリスニングモード

リスニングモード	操作ボタン	スピーカーレイアウト			
		FL C FR SW SW	FL C FR SW SW	FL C FR SW SW SL SR	*1 LH *2 *1 RH *2 LW *1 *2 FL C FR RW *1 *2 SW SW SL SR *2 SBL *2 SBR
PLIIz Height THX Cinema	MOVIE/TV THX				✔
THX Music	MUSIC THX			✔	✔
PLIIz Height THX Music	MUSIC THX				✔
THX Games	GAME THX			✔	✔
PLIIz Height THX Games	GAME THX				✔
Orchestra	MUSIC			✔	✔*1*2
Unplugged	MUSIC			✔	✔*1*2
Studio-Mix	MUSIC			✔	✔*1*2
TV Logic	MOVIE/TV			✔	✔*1*2
Game-RPG	GAME			✔	✔*1*2
Game-Action	GAME			✔	✔*1*2
Game-Rock	GAME			✔	✔*1*2
Game-Sports	GAME			✔	✔*1*2
All Ch Stereo	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1*2
Full Mono	MOVIE/TV MUSIC GAME		✔	✔	✔*1*2
T-D (Theater-Dimensional)	MOVIE/TV GAME	✔	✔	✔	✔
DTS Surround Sensation	MOVIE/TV MUSIC GAME	✔	✔	✔	✔

*1 7ch 出力時、リモコンの SP（スピーカー） LAYOUT（レイアウト） ボタンを使って、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが選べます。ただし、「スピーカー詳細設定」(➔88 ページ）に依存します（Speaker（スピーカー） Layout 機能 ➔65 ページ)。
*2 9ch 出力時、リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、サラウンドバックスピーカーとフロントハイスピーカー、またはサラウンドバックスピーカーとフロントワイドスピーカーの組み合わせが選べます（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ)。
*3 ソースに含まれる音声チャンネルに対応するスピーカーから音声が出ます。
*4 · 以下の条件をすべて満たす場合に選択できます。
a. センタースピーカーが本機に接続されている
b. フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが本機に接続されている
· リモコンの SP LAYOUT ボタンを使って、フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが選べます。ただし、「スピーカー詳細設定」(➔88 ページ）に依存します（Speaker Layout 機能 ➔65 ページ)。
*5 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTS になります。

ご注意

- PCM 入力信号の有効なサンプリング周波数は、32/44.1/48/88.2/96/176.4/192kHz です。
- 入力信号によっては選べないことがあります。

リスニングモードの種類について

本機のリスニングモードを使うと、お部屋にいながら映画館やコンサートホールなどの臨場感あふれる雰囲気を味わっていただけます。本機には以下のリスニングモードがあります。

Direct
もともとの音源に手を加えない、ピュアな音をお楽しみいただけます。入力信号のチャンネルのまま音声を出力します。

Pure Audio
Direct モードに加え、表示部を消してビデオ回路の電源を切り、ノイズの発生源をできるだけ最小限にすることで、より原音に忠実な音楽再生を行います。（ビデオ回路の電源を切るため、HDMI 入力以外の映像が出なくなります。）

Stereo
左右フロントスピーカーとサブウーファーから出力されます。

Mono
モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2 言語が記録されているソースを左右のチャンネルを独立して再生するモードです。DVD などに記録された音声多重のサウンドトラックに適しています。

Dolby Pro Logic IIx
2 チャンネルソースや 5.1 ch ソースでサラウンド再生を楽しむことができます。
明瞭なサウンドはそのままに、かつてないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CD や映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。

- **Dolby PL IIx Movie**
  VHS や DVD ビデオ、またはテレビ番組再生時に楽しむことができます。
- **Dolby PL IIx Music**
  CD などのステレオ音楽や、ライブを記録した DVD に適しています。
- **Dolby PL IIx Game**
  ゲームディスクを楽しむときに使用できます。

Dolby Pro Logic II
サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、Dolby Pro Logic IIx の代わりに、このリスニングモードになります。
2 チャンネルで収録された音楽や映画をサラウンド再生で楽しむことができます。

Dolby Pro Logic IIz Height
ハイチャンネルスピーカーを接続しているとき、より効果的に既存のプログラムを使えるように設計されています。Dolby Pro Logic IIz Height は、映画，音楽，ゲームなどすべての入力音源に適したモードです。

Dolby Digital
劇場やコンサートホールさながらの臨場感あふれるサウンドが体験できるサラウンドモードです。Dolby Digital ロゴのついた DVD、LD などの再生時に楽しむことができます。

Audyssey Dynamic Surround Expansion™
Audyssey DSX は、5.1ch システムに新しいチャンネルを加えることによりサラウンドの効果を高めるシステムです。臨場感あるサラウンド再生のためには、従来の 5.1ch システムにフロントワイドチャンネルを追加することが最も効果的です。次に効果的であるのがフロントハイチャンネルの追加です。また、DSX はこれらの新しいチャンネルの追加に加え、Surround Envelopment Processing 技術によって、サラウンドチャンネルとフロントチャンネルのサラウンド感のつながりを向上させています。

Dolby PLIIx Music/Dolby PLIIx Movie/Dolby EX
5.1 チャンネルで収録された音楽や映画をサラウンドバックチャンネルも利用して再生できます。
5.1 チャンネルにサラウンドバックチャンネルを追加することで，より空間表現力を高め、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。サラウンドバックチャンネルの音声は左右サラウンドチャンネルに振り分けられるため、通常の 5.1 チャンネル環境で再生することも可能です。5.1 チャンネルで記録された DolbyDigital ロゴのついた DVD、LD の再生時は DolbyDigital EX となり、その他のソースでは Dolby EX となります。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plus フォーマットのブルーレイディスク、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHD フォーマットのブルーレイディスク、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS
独立した 5.1 チャンネル音声データを、可能な限り原音に近い状態で圧縮したデジタルデータです。再生するには DTS 出力が可能な DVD プレーヤーが必要です。DTS ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS 96/24
DTS 96/24 ロゴのついた CD、DVD、LD などに使用できるリスニングモードです。きめ細やかな音声をお楽しみいただけます。

DTS-ES Discrete
サラウンドバックを利用して、DTS-ES Discrete 信号を最適に再生できるモードです。
追加されたサラウンドバックチャンネルを含めてすべてのチャンネルが完全に独立してデジタル記録されているため、立体感、移動感などがより鮮明に再現できます。
DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS-ES Matrix
DTS-ES Matrix 収録ソフトで利用するモードです。
DTS-ES Matrix 収録ソフトにエンコードされているサラウンドバックチャンネル情報をサラウンドバックチャンネルから再生します。
DTS-ES ロゴのついた CD、DVD、LD などを再生時に楽しむことができます。

DTS Neo：6
2 チャンネルで収録されたソースをマルチチャンネルサラウンド再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。

映画に最適な Cinema モードと音楽再生に最適な Music モードが選択できます。

- **Neo：6 Cinema**
  リアルで移動感にあふれたサラウンドが再現されます。2 チャンネルの VHS や DVD ビデオ、テレビ番組に適しています。
- **Neo：6 Music**
  サラウンドチャンネルを使用することで通常の 2 チャンネル出力では得られない自然な音場を生み出します。2 チャンネルで収録された CD などに適しています。

5.1 チャンネルで収録された音楽や映画には Neo：6 となり、サラウンドバックチャンネルを利用して再生できます。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audio フォーマットのブルーレイディスク、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audio フォーマットのブルーレイディスク、HD DVD ディスクに使用できるリスニングモードです。

DTS Express
最大 5.1ch、48kHz のロービットレート音声です。
HD DVD のサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

AAC
MPEG-2 AAC 方式で圧縮されたデジタルデータで、最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。
地上デジタル、BS/CS デジタル放送などの AAC ソースを再生するために使用します。

Multichannel
マルチチャンネル PCM ソース再生時に使用できるモードです。

Neural Surround
特殊な信号処理技術を採用し、チャンネルセパレーションとオーディオ特性を細かく処理することにより音像がより微細に再生されます。両方のリスニングモードとも 2 チャンネルで収録された音楽や映画を 5.1 あるいは 7.1 チャンネルで再生できます。放送局ではサラウンドの音声コンテンツをエンコードしてステレオで送信することができ、サラウンドでもステレオで楽しむことができます。

Neural Digital Music
圧縮されたデジタル音楽コンテンツの再生に適したモードです。MP3 やインターネットストリーミングでも、広がりのある音場とクリアなサラウンド再生が楽しめます。

DSD
DSD(Direct Stream Digital) は、スーパーオーディオ CD に採用されているフォーマットです。このモードは、DSD フォーマットのスーパーオーディオ CD 再生時に選べます。

DTS Surround Sensation Speaker
2 つのスピーカーだけで、5.1 チャンネルサラウンドを楽しむことが出来るモードです。

- **Neo:6 Cinema + DTS Surround Sensation**
- **Neo:6 Music + DTS Surround Sensation**
  これらのモードは、バーチャル再生でのサラウンド感を得るためにステレオソースに対して Neo:6 を使用します。

DTS Surround Sensation Headphone
ステレオヘッドホンでマルチチャンネルサラウンドを楽しむためのモードです。

THX
ルーカスフィルム (Lucasfilm) 社が提唱する劇場用音響の品質規格。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ / 残響音 / 音響機材 / スピーカーの設置位置など厳格な品質基準が設けられています。全世界で 5,000 を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。
THX モードは、ホームシアター環境での再生のために、音質上・空間上のサウンドトラック特性を丁寧に最適化します。マトリックスエンコードされた 2 チャンネルソースやマルチチャネルソースで使用することができます。サラウンドバックの音声は、ソースや選択するリスニングモードによって異なります。

- THX Cinema
  THX Cinema モードは、映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画などのサウンドトラックをホームシアター環境での再生のために補正します。このモードでは、THX Loudness が劇場レベルに設定され、Re-EQ、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）、アダプティブ、デコリレーション（Adaptive Decorrelation）がアクティブになります。
- THX Music
  THX Music モードは、主として映画よりも明らかに高レベルにマスタリングされている音楽を聴くために調整されています。このモードでは、THX Loudness Plus が音楽再生のために設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）のみがアクティブになります。
- THX Games
  THX Games モードは、ゲームの音声を空間的に忠実に再生するためのモードで、多くの場合映画と同じミキシングがされますが、小規模な環境のためのモードです。THX Loudness Plus がゲームの音声のレベルに応じて設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）がアクティブになります。
- THX Ultra2 Cinema
  5.1 チャンネルで収録された音楽や映画を7.1 チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するようサラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。
- THX Ultra2 Music
  このモードは、5.1 チャンネルで収録された音楽ソースを 7.1 チャンネルで再生使用できるように設計されています。
- THX Ultra2 Games
  このモードは、5.1 チャンネルで収録されたゲームソースを 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルで再生使用できるように設計されています。
- THX Surround EX
  ドルビーラボラトリーズと THX 社で共同開発されたホームシアター用フォーマットです。ドルビーデジタル EX の技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計 7.1 チャンネルとなります。

■ オンキヨー独自のリスニングモード

Orchestra
クラシックやオペラに適したモードです。
音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調。大ホールで聞いているような自然な響きが楽しめます。

Unplugged
アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聞いているような音場イメージを作ります。

Studio-Mix
ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。

TV Logic
放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。

Game- RPG
RPG（ロールプレイングゲーム）を楽しんでいるときに適したモードです。

Game-Action
アクションゲームを楽しんでいるときに適したモードです。

Game-Rock
ロックゲームを楽しんでいるときに適したモードです。

Game-Sports
スポーツゲームを楽しんでいるときに適したモードです。

All Ch Stereo
BGM として音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

Full Mono
すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聴くことができます。

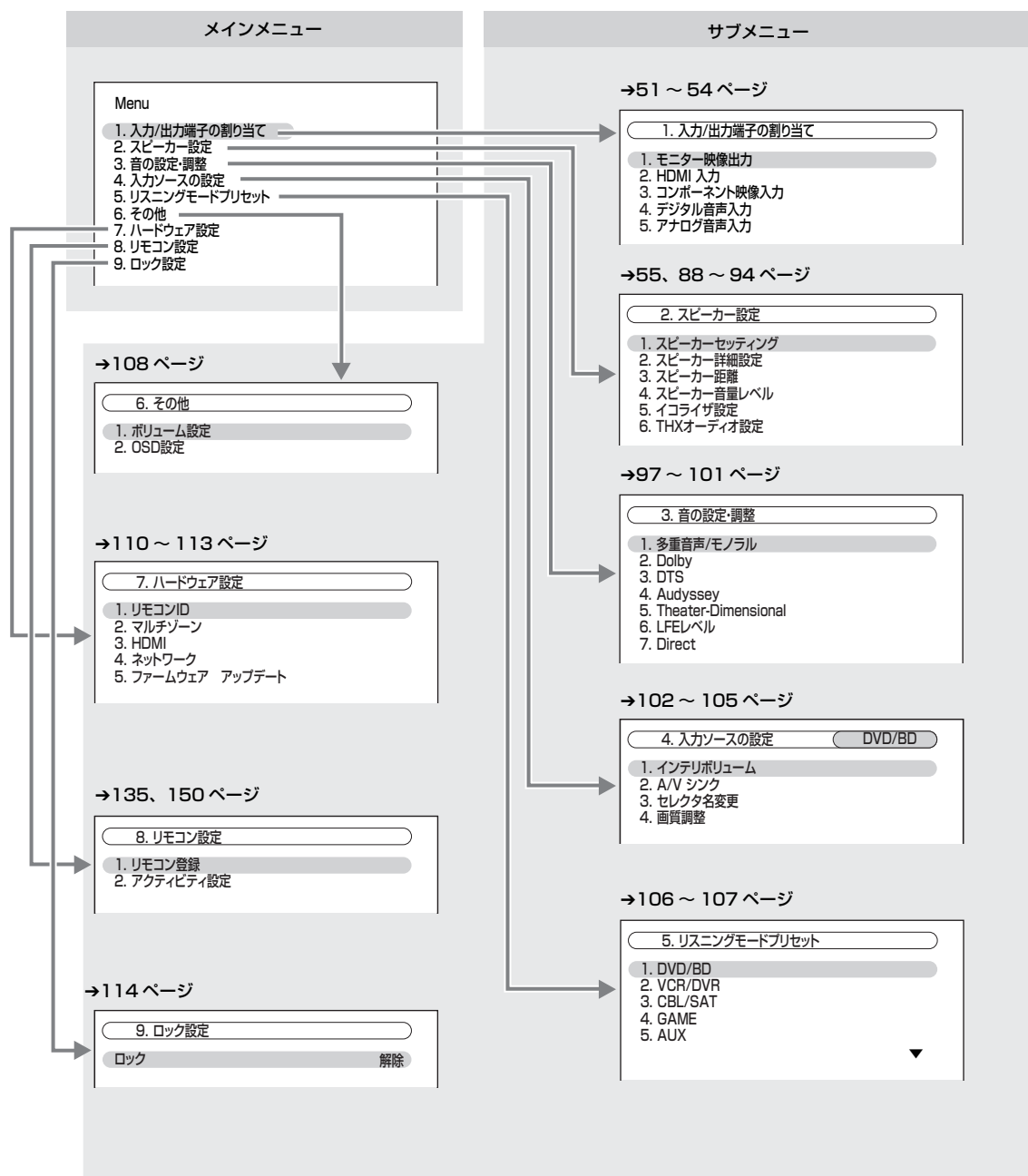
T-D (Theater-Dimensional)
2 つまたは 3 つのスピーカーで、あたかもマルチチャンネルサラウンド再生しているようなバーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。

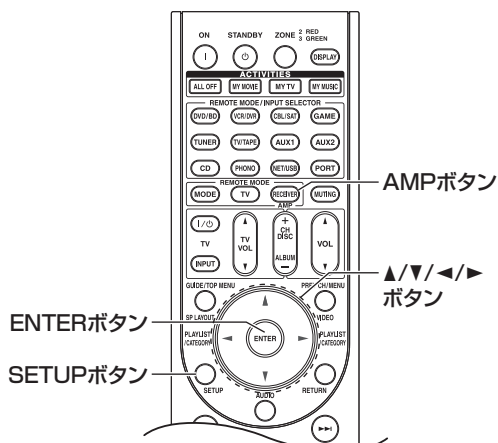
聴きたいリスニングモードが選べない

- デジタル接続はしましたか？または、HDMI 接続はしましたか？（➔27 ～ 42 ページ）
  ドルビーデジタルや DTS のリスニングモードを楽しむときは、デジタル接続をする必要があります。
- 再生機器側のデジタル出力設定は、正しいですか？
  ドルビーデジタルや DTS ロゴのついた DVD の本編を再生中に、本機の PCM 表示が点灯していたら、再生機器側のデジタル出力設定が PCM になっている場合があります。再生機器側で他の信号も出力するように設定してください。

設定をする（応用編）

各種設定について

スピーカー、音声、映像などに関する各種設定を行うことができます。設定内容は、本体表示部および接続しているテレビ画面に表示されます。自動スピーカー設定が終了したら、必要に応じて各設定を行ってください。

モニターの出力設定をする

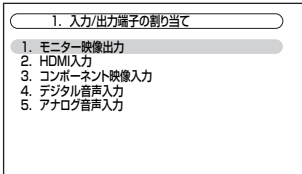
「モニター映像出力」メニューについて説明します。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「1. 入力 / 出力端子の割り当て」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

1. 入力/出力端子の割り当て
1. モニター映像出力
2. HDMI入力
3. コンポーネント映像入力
4. デジタル音声入力
5. アナログ音声入力

3

▲/▼ ボタンを押して設定したい設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は、本ページおよび次ページをご覧ください。

4

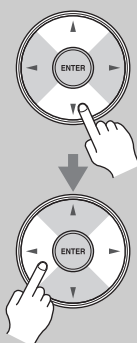
▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで選択する

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには RETURN ボタンを押してください。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

モニター映像出力

■ モニター映像出力

49 ページをご覧ください。

■ 解像度

49 ページをご覧ください。

■ 明るさ（Brightness）

この設定で画面の明るさを− 50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
− 50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ コントラスト（Contrast）
この設定で明暗の差を－ 50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ 色合い（Hue（ヒュー））
この設定で画面の赤と緑のバランスを－ 20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 20 は最も緑色が強くなります。+20 は最も赤色が強くなります。

■ 彩度（Saturation（サチュレーション））
この設定で濃さを－ 50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最も淡い色になります。+50 は最も鮮やかな色になります。

■ 赤ブライトネス（R Brightness）
この設定で画面の赤の明るさを－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ 赤コントラスト（R Contrast）
この設定で赤の明暗の差を－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ 緑ブライトネス（G Brightness）
この設定で画面の緑の明るさを－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ 緑コントラスト（G Contrast）
この設定で緑の明暗の差を－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ 青ブライトネス（B Brightness）
この設定で画面の青の明るさを－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ 青コントラスト（B Contrast）
この設定で青の明暗の差を－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

HDMI 入力

51 ページをご覧ください。

コンポーネント映像入力

52 ページをご覧ください。

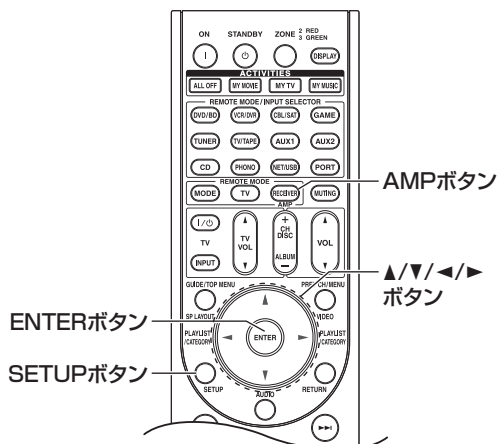
デジタル音声入力

53 ページをご覧ください。

アナログ音声入力

54 ページをご覧ください。

スピーカーセットアップ

この中の多くのメニューは自動スピーカー設定（➔58 ページ）で自動設定されています。自動スピーカー設定のあとに使用するスピーカーを変更した場合や手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で設定された内容を確認するときに使用します。
ヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

スピーカー詳細設定

> 自動スピーカー設定（➔58 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。スピーカー B のフロントは手動で設定する必要があります。

各スピーカーの有り / 無しやクロスオーバー周波数などを設定します。またスピーカー A と B で使用するスピーカーをそれぞれ選択することもできます。
クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を何 Hz（ヘルツ）からサブウーファーで出力するかを設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「フルレンジ」に設定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

- THX 認証のスピーカーシステムを使用するときは、自動スピーカー設定を行ってもこの設定で「80Hz（THX)」に設定し直してください。

1

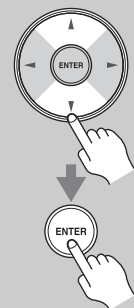
AMP（アンプ） ボタンを押してから SP LAYOUT ボタンを押して、設定するスピーカーセット A または B を選ぶ

ご注意
- 「スピーカーセッティング」（➔55 ページ）で「スピーカータイプ（フロント B)」が「使用しない」になっている場合、スピーカーセット B は選べません。

2

SETUP（セットアップ） ボタンを押して メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

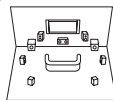
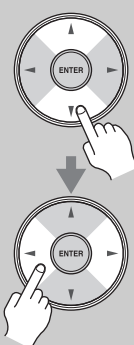
3

▲/▼ ボタンを押して 「2. スピーカー設定」を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

2. スピーカー設定
1. スピーカーセッティング
2. スピーカー詳細設定
3. スピーカー距離
4. スピーカー音量レベル
5. イコライザ設定
6. THXオーディオ設定

4

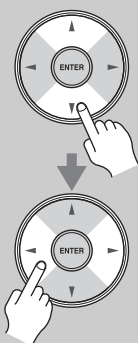
▲/▼ ボタンを押して 「2. スピーカー詳細設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

5

▲/▼ ボタンを押して 「サブウーファー」を選び、◄/► ボタンでサブウーファーの有無を選ぶ

1ch： 音声信号を SW1 端子からのみ出力する場合
2ch： 音声信号を SW1 と SW2 端子の両方から出力する場合（お買い上げ時の設定）
無し： サブウーファーを接続していない場合

ご注意
- この設定はスピーカー A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

➡ 手順 6 に続く

6

▲/▼ ボタンを押して設定するスピーカーを選び、◄/► ボタンでスピーカーの有無とクロスオーバー周波数を選ぶ

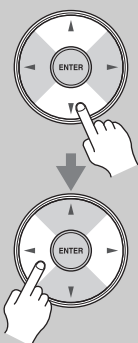
「フロント」「センター」「サラウンド」「フロントワイド」「フロントハイ」「サラウンドバック」についてそれぞれ設定します。
接続されていないスピーカーは「無し」を選んでください。
接続されているスピーカーはクロスオーバー周波数を選んでください。

！ヒント

- クロスオーバー周波数は、フルレンジ、40、50、60、70、80（THX)、90、100、120、150、200Hz（ヘルツ）から選択できます。

ご注意

- フロントは「無し」に設定できません。
- サラウンドを「無し」にするとサラウンドバックとフロントハイ、フロントワイドも自動的に「無し」になります。
- 手順 ***4*** でサブウーファーを「無し」にした場合、フロントは「フルレンジ」に固定されます。他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。
- フロントを「フルレンジ」以外に設定した場合、他のスピーカーで「フルレンジ」を選べなくなります。
- サラウンドを「フルレンジ」以外に設定したとき、サラウンドバックで「フルレンジ」を選べなくなります。
- 「パワードゾーン 2」を「有効」に設定した場合や、スピーカーセット B を使用中はフロントワイドおよびフロントハイを選べません。
- 「パワードゾーン 3」を「有効」に設定した場合や、「スピーカータイプ（フロント A)」で「バイアンプ」や「BTL」に設定した場合、サラウンドバックは選べません。
- フロントはスピーカー A/B で別々に設定できます。現在選択されているスピーカーセットのフロントの値を変更しても、もう一方は変わりません。
その他のスピーカー（センター、サラウンド、サラウンドバック）の設定は A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

7

▲/▼ ボタンを押して「サラウンドバック Ch（チャンネル）」を選び、◄/► ボタンでサラウンドバックスピーカーの数を設定する

1ch：接続したサラウンドバックスピーカーが 1 つの場合
（SURR（サラウンド） BACK（バック） L 端子に接続してください。）
2ch：接続したサラウンドバックスピーカーが 2 つの場合

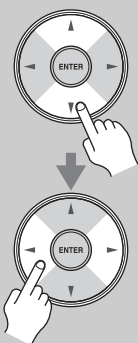
ご注意

- 手順 ***6*** で「サラウンドバック」を「無し」にした場合は、この項目は設定できません。
- この設定はスピーカー A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

LFE のローパスフィルター設定

この項目は自動スピーカー設定（➔58 ページ）では自動で設定されていません。

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。
80Hz(THX)、90Hz、100Hz、120Hz から選択できます。

8

▲/▼ ボタンを押して「LFE ローパスフィルタ」を選び、◄/► ボタンで設定する

ご注意

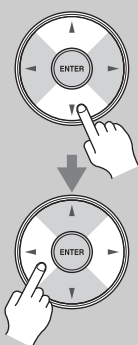
- THX 認証のスピーカーシステムを使用するときは、「80Hz（THX)」に設定してください。
- この設定はスピーカー A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

➡ **手順 *9* に続く**

ダブルバスの設定

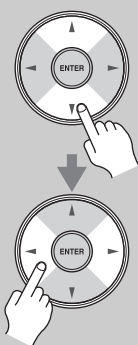
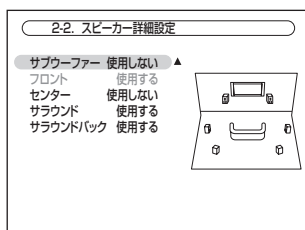
この項目は自動スピーカー設定（➔58 ページ）では自動で設定されていません。

サブウーファーを「1ch」または「2ch」にしていて、フロントスピーカーを「フルレンジ」に設定している場合に設定できます。
フロントとセンターのチャンネルの低音域をサブウーファーへも出力することで、サブウーファーをさらに強調させることができます。

9

▲/▼ ボタンを押して「ダブルバス」を選び、◄/► ボタンで設定する

オン： サブウーファーを強調します。
オフ（THX）： サブウーファーを強調しません。

ご注意
- THX 認証のスピーカーシステムを使用するときは、「オフ（THX）」に設定してください。
- この設定はスピーカー A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

10

▲/▼ ボタンを押して設定するスピーカーを選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

！ヒント
- 手順 *5*、手順 *6* では実際に接続されているスピーカーの有無を設定しました。ここでは接続されている各スピーカーを使用するかどうかを設定します。
- この設定はスピーカー A/B で別々に設定できます。現在選択されているスピーカーセット（A または B）の値を変更しても、もう一方は変わりません。このため、スピーカー A ではサラウンドバックスピーカーを使用し、スピーカー B ではサラウンドバックスピーカーを使用しないといったように、A/B で使用するスピーカーを使い分けることができます。

ご注意
- 手順 *5*、手順 *6* で「無し」にしたスピーカーは設定できません。
- この設定は「スピーカータイプ（フロント B）が「使用しない」以外に設定されている場合のみ設定できます。

11

SETUP（セットアップ） ボタンを押す

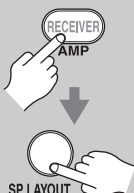
設定が終了し、メニュー画面が消えます。
- メインメニュー画面に戻るには RETURN（リターン） ボタンを押してください。

！ヒント
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター） ボタンでも操作することができます。

視聴位置からスピーカーまでの距離設定

自動スピーカー設定（➔58 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。スピーカー B のフロントは手動で設定する必要があります。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

1

AMP（アンプ） ボタンを押してから SP LAYOUT ボタンを押して、設定するスピーカーセット A または B を選ぶ

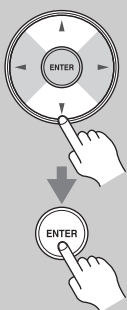
ご注意
- 「スピーカーセッティング」（➔55 ページ）で「スピーカータイプ（フロント B）」が「使用しない」になっている場合、スピーカーセット B は選べません。

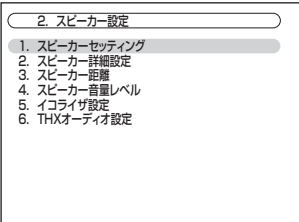
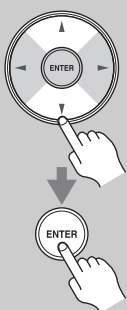
2

SETUP ボタンを押してメインメニューを表示させる

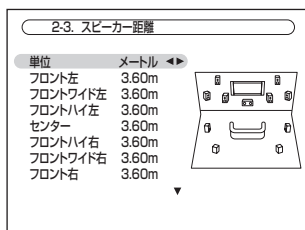
メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

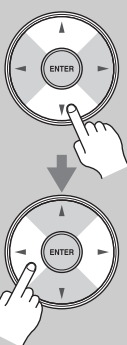
➡ **手順 *3* に続く**

3

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して「3. スピーカー距離」を選び、ENTER ボタンを押す

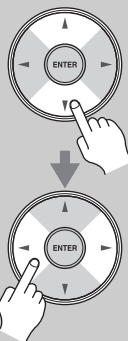
設定画面が表示されます。

ご注意

- 「2-2. スピーカー詳細設定」の設定で、「無し」を選択したスピーカーは、選択できません。

5

▲/▼ ボタンを押して「単位」を選び、◄/► ボタンで設定する単位を選ぶ

メートル：距離をメートルで設定する。0.15m 単位で 0.15m から 9.00m の範囲で設定できます。

フィート：距離をフィートで設定する。0.5ft 単位で 0.5ft から 30.0ft の範囲で設定できます。

6

▲/▼ ボタンを押してスピーカーを選び、◄/► ボタンで距離を設定する

接続されているすべてのスピーカーについて、スピーカーから視聴位置までの距離を実際に近い数値に設定します。

ご注意

- フロントはスピーカー A/B で別々に設定できます。現在選択されているスピーカーセットのフロントの値を変更しても、もう一方は変わりません。
  その他のスピーカー（センター、サラウンド、サラウンドバック）の設定は A/B で共通です。どちらかで値を変更した場合、もう一方も同じ値になります。

7

SETUP（セットアップ） ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには RETURN（リターン） ボタンを押してください。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター） ボタンでも操作することができます。

スピーカーの音量レベル調整

自動スピーカー設定（➔58 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。スピーカー B のフロントは手動で設定する必要があります。

各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。
スタンバイ状態にしても記憶しています。

- ミューティング中やヘッドホンを接続しているときは、設定できません。

ご注意
- 本機は THX 対応機種ですので、テスト音は標準レベルの 0dB（絶対値の場合は 82）で出力されます。
  通常お聞きになっている音量が小さい場合は、突然大きな音になりますのでご注意ください。

1

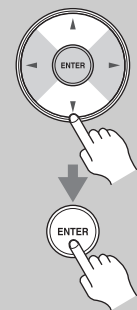
AMP ボタンを押してから SP LAYOUT ボタンを押して、設定するスピーカーセット A または B を選ぶ

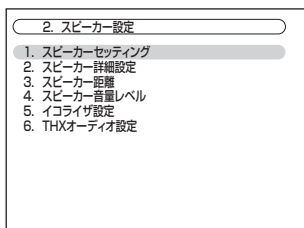
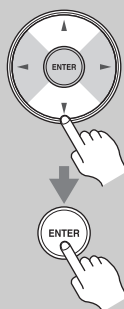
ご注意
- 「スピーカーセッティング」（➔55 ページ）で「スピーカータイプ（フロント B)」が「使用しない」になっている場合、スピーカーセット B は選べません。

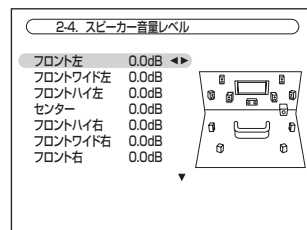
2

SETUP ボタンを押して メインメニューを表示させる

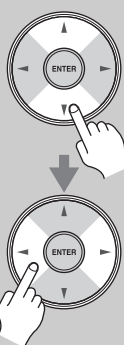
メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

3

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して「4. スピーカー音量レベル」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示され、「ザー」というテスト音が左フロントスピーカーより出力されます。

ご注意
- 「2-2. スピーカー詳細設定」の設定で、「無し」を選択したスピーカーは、選択できません。

➡ 手順 *4* に続く

5

▲/▼ ボタンでスピーカーを切り換え、◄/► ボタンを押してテスト音を調整する

すべてのスピーカーのテスト音が同じ音量に聞こえるように調整します。

- － 12 dB ～＋12ｄB の範囲で 0.5dB 単位で調整できます。
- サブウーファーは－ 15dB ～ ＋12ｄB の範囲内で調整できます。

➡ 手順 *6* に続く

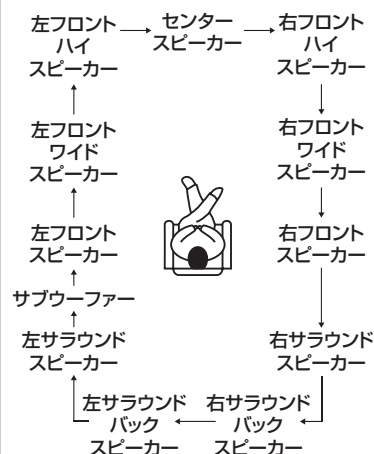
6

手順 4 をくり返し、接続したすべてのスピーカーのテスト音を調整する

7

SETUP（セットアップ）ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

イコライザ設定

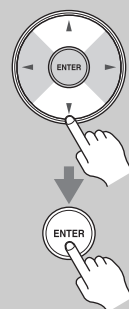
自動スピーカー設定（➔58 ページ）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は 92 ページの方法でも調整できます。
ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。
「イコライザ」設定はスピーカー A に対してのみ有効です。スピーカー B には設定が適用されません。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニューが表示されます。

2. スピーカー設定
1. スピーカーセッティング
2. スピーカー詳細設定
3. スピーカー距離
4. スピーカー音量レベル
5. イコライザ設定
6. THXオーディオ設定

3

▲/▼ ボタンを押して「5. イコライザ設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-5. イコライザ設定
イコライザ　オフ ◄►

➡ 手順 *4* に続く

4

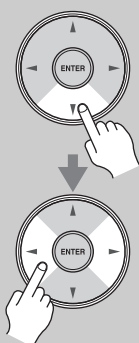
◄/► ボタンを押して設定を選ぶ

オフ : すべての音域で同じ音量設定になります。

Audyssey: 自動スピーカー設定で設定された音量設定になります。自動スピーカー設定を行ってから選択してください。Dynamic EQ /Dynamic Volume をオンにすると自動的に Audyssey が選ばれます。

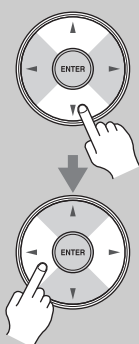
手動 : お好みで設定できます。

「手動」を選んだ場合は、手順 ***5*** に進みます。「オフ」または「Audyssey」を選んだ場合は、手順 ***7*** に進みます。

5

▼ ボタンを押して「設定チャンネル」を選び、◄/► ボタンを押してスピーカーを選ぶ

2-5. イコライザ設定

イコライザ	手動
設定チャンネル	フロント ◄►
63Hz	0dB
160Hz	0dB
400Hz	0dB
1000Hz	0dB
2500Hz	0dB
6300Hz	0dB
16000Hz	0dB

6

▲/▼ ボタンで調整したい音域（周波数）を選び、◄/► ボタンで調整する

以下の音域を選択できます。

63Hz、160Hz、400Hz、1000Hz、2500Hz、6300Hz、または 16000Hz

またサブウーファーの音域は以下より選択できます。

25Hz、40Hz、63Hz、100Hz または 160Hz

− 6 dB ～＋ 6dB の範囲で 1dB 単位で調整できます。

！ヒント

- 160Hz など、低い周波数は低音域、6300Hz などの高い周波数は高音域を表します。

この手順をくり返し、接続したすべてのスピーカーを設定します。

7

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには RETURN ボタンを押してください。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

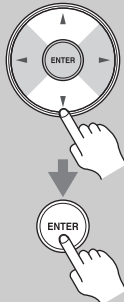
ご注意

- Direct と Pure Audio のリスニングモードのときは、効果がありません。
- 入力音源またはリスニングモードの設定によっては、望ましい効果を得られないことがあります。

THX スピーカーの設定

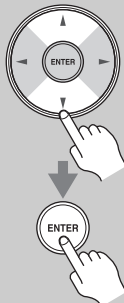
この項目は自動スピーカー設定（➔58 ページ）では自動で設定されていません。

以下の設定を行えます。
1. サラウンドバックスピーカーの間隔を指定できます。
2. THX 認証のサブウーファーを使用しているときは、このページで説明している「THX Ultra2/Select2 Subwoofer」を「有り」に設定してください。「有り」に設定すると、THX の Boundary Gain Compensation (BGC- 境界利得補正) を設定できるようになります。
   壁ぎわなど、部屋の境界のすぐ近くに座っているリスナーには、低い周波数が強調されます。BGC はこれを補正する機能です。
3. THX Loudness Plus を設定できます。
   「Loudness Plus」設定を「オン」にすると、低音量で、音声表現の微妙なニュアンスを楽しめるようになります。THX リスニングモードを選択しているときに利用できます。

THX Loudness Plus
THX Loudness Plus は、THX Ultra2 Plus ™ および THX Select2 Plus ™ 認定のレシーバーに搭載された、新しいボリュームコントロール技術です。THX Loudness Plus を使用すると、ホームシアターの視聴者はどんなボリュームレベルでも、豊かで繊細なサラウンド効果を体験できます。
ボリュームをリファレンスレベル（基準レベル）よりも下にすると、一定レベルのサウンドエレメント（音質要素）が失われたり、視聴者によって違う感じに聴こえたりします。
THX Loudness Plus はボリュームを下げたときに発生する音質上・空間上の変化を周囲のサラウンドチャンネルレベルと周波数レスポンスをインテリジェントに調整することで補います。
このことにより、ユーザーはボリューム設定に関係なくサウンドトラックのインパクトを忠実に体験することができます。THX Loudness Plus は、どの THX リスニングモードで聴いているときでも自動的に設定されます。新しく開発された THX Cinema、THX Music、THX Games のモードは、コンテンツのタイプに応じて、THX Loudness Plus の設定が適切に適用されるように調整されています。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる
メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

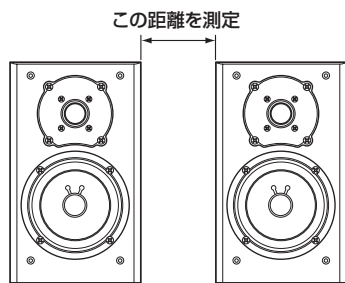
▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER ボタンを押す
サブメニュー画面が表示されます。

2. スピーカー設定
1. スピーカーセッティング
2. スピーカー詳細設定
3. スピーカー距離
4. スピーカー音量レベル
5. イコライザ設定
6. THXオーディオ設定

3

▲/▼ ボタンを押して「6. THX オーディオ設定」を選び、ENTER ボタンを押す

➡ 手順 *4* に続く

4

◄/► ボタンで「サラウンドバック間距離」を設定する（7.1 チャンネル利用の場合）

サラウンドバックスピーカーの間隔を指定できます。

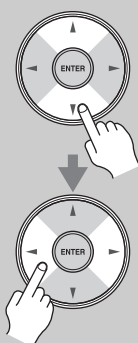
＜ 0.3 m：
スピーカー間の距離が 0 〜 0.3m の場合

0.3m -1.2m：
スピーカー間の距離が 0.3m 〜 1.2m の場合

＞ 1.2m：
スピーカー間の距離が 1.2m 以上の場合（お買い上げ時の設定）

ご注意

- 「2-2. スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）で、「サラウンドバック Ch（チャンネル）」を「2ch」に設定しているときだけ設定できます。

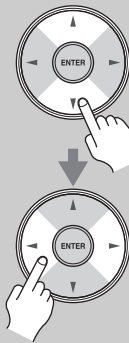
5

▲/▼ ボタンで「THX Ultra2（ウルトラ）/ Select2（セレクト） Subwoofer（サブウーファー）」を選び、◄/► ボタンで設定する

有り ：THX 認証のサブウーファーを使用しているときに選びます。

無し ：THX 認証のサブウーファーを使用していないときに選びます。

ご注意

- 「2-2. スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）で、「サブウーファー」を「1ch」または「2ch」に設定しているときだけ設定できます。

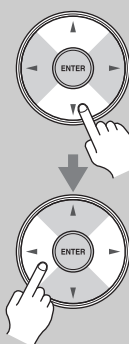
6

▲/▼ ボタンで「BGC」を選び、◄/► ボタンで設定する

オフ ：BGC 効果をオフにします。

オン ：BGC 効果をオンにします。

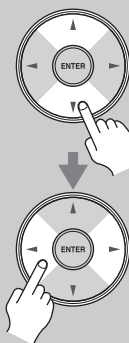
ご注意

- 手順 ***5*** で「THX Ultra2/Select2 Subwoofer」を「有り」に設定しているときだけ設定できます。

7

▲/▼ ボタンで「Loudness（ラウドネス） Plus（プラス）」を選び、◄/► ボタンで設定する

オフ ：ラウドネスプラス効果をオフにします。

オン ：ラウドネスプラス効果をオンにします。（お買い上げ時の設定）

8

▲/▼ ボタンで「THX 設定優先」を選び、◄/► ボタンで設定する

有り ：THX リスニングモードに Dynamic（ダイナミック） EQ（イーキュー）™/ Dynamic（ダイナミック） Volume（ボリューム）™ が働きません。

無し ：THX リスニングモードに Dynamic EQ™/Dynamic Volume™ が設定により働きます。

ご注意

- 手順 ***7*** で「Loudness（ラウドネス） Plus（プラス）」を「オン」に設定している場合、「THX 設定優先」は「有り」に固定されます。

9

SETUP（セットアップ） ボタンを押す

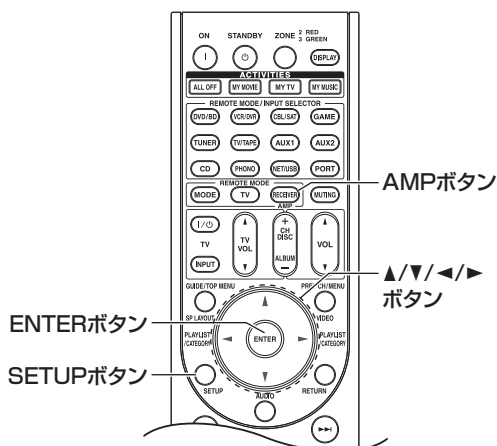
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには RETURN（リターン） ボタンを押してください。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター） ボタンでも操作することができます。

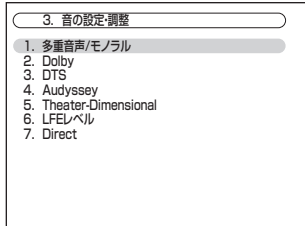
音響効果を調整する

リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに調整しておくことができます。

1

AMP（アンプ） ボタンを押してから SETUP（セットアップ） ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「3. 音の設定・調整」を選び、ENTER（エンター） ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して設定したい設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は、本ページおよび次ページをご覧ください。

4

▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで調整する

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

多重音声 / モノラル

■ 多重音声

入力チャンネル

多重音声や多重言語の放送などで音声や言語を選択します。
DISPLAY ボタンを押して、表示部に音声の数が「1 ＋ 1」と表示されたら音声多重放送です。

主： 主音声を出力します。（お買い上げ時の設定）

副： 副音声を出力します。

主 / 副： 主音声と副音声の両方を出力します。

■ モノラル

入力チャンネル

2 チャンネルで収録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ /PCM 信号を「Mono」リスニングモードで再生するときに使用する信号チャンネルを設定します。

左＋右： 左右チャンネルの信号を両方再生します。（お買い上げ時の設定）

左： 左チャンネルの信号を再生します。

右： 右チャンネルの信号を再生します。

出力スピーカー

「Mono」リスニングモードを選んだときに、どのスピーカーからモノラル音声を出力するか設定することができます。

左 / 右： 左右フロントスピーカーから出力します。

センター： センタースピーカーから出力します。（お買い上げ時の設定）

Dolby

■ PLIIx Music（2 ch 入力）

2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号やアナログ /PCM 信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「PLIIx」は「PLII」と表示されます。

Panorama

音場を横方向に広げることができます。

オフ： パノラマ効果をオフにします。（お買い上げ時の設定）

オン： パノラマ効果をオンにします。

Dimension

音場を前方または後方へ移動させることができます。
お買い上げ時は「0」に設定されています。

！ヒント

- 「0」を中心に、「－ 1」、「－ 2」、「－ 3」にすると前方へ、「＋ 1」、「＋ 2」、「＋ 3」にすると後方へ移動します。
- 広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整するとバランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整するとバランスが良くなります。

Center Width

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。
Dolby Pro Logic IIx では、センタースピーカーがある場合はセンターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。
お買い上げ時の設定は「3」ですが、0 ～ 7 の範囲で選択できます。

■ Pro Logic IIz Height再生時のレベルを調整する

PLIIz Height Gain

Pro Logic IIz Height リスニングモード使用時のフロントハイスピーカーからの出力レベルを調整することができます。「弱」「中」「高」の３つの設定値があり、順にフロントハイスピーカーからの出力が強調されます。お買い上げ時の設定は「中」ですが、お好みにより調整できます。

■ Dolby EX 信号の再生方法を設定する

Dolby EX

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。この設定は、ドルビーデジタルとドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD にのみ効果があります。

自動： Dolby EX 識別信号があるときは、Dolby のリスニングモードは Dolby Digital EX、THX のリスニングモードは THX Surround EX が選べます。

手動： 選択可能なすべてのリスニングモードを選ぶことができます。（お買い上げ時の設定）

ご注意

- フロントハイとフロントワイドがそれぞれ「無し」以外に設定されている場合は、「手動」に固定となります。

■ Dolby Volume の設定をする

Dolby Volume はオーディオの周波数特性および音量調整における問題を改善するための優れた音量調整機能です。

Dolby Volume

オフ： Dolby Volume をオフにします。（お買い上げ時の設定）

弱： 低圧縮モードが適用されます。

中： 中圧縮モードが適用されます。

高： 高圧縮モードが適用されます。

ご注意

- Dolby Volume を有効に設定すると、Dynamic Volume は「オフ」になります。
- 「オン」に設定されている場合は、レイトナイト機能は使えません。

Half Mode

Dolby Volume の Half Mode オプションをオン / オフします。
オフの場合、Dolby Volume は入力ゲインが基準レベルを超える場合に低音および高音の減衰を適用します。これにより、高いレベルの高音および低音であっても、聴感上フラットなリスニング体験を可能にします。ただし視聴者によっては、高い入力レベルがあるときに、より低音および高音のパフォーマンスを好む場合があります。

オフ： Half Mode をオフにします。

オン： Half Mode をオンにします。（お買い上げ時の設定）

ご注意

- Dolby Volume がオフの場合、選べません。
- Half Mode がオンに設定されている場合、周波数の高低差の認識が拡張されるため、基準レベルを超える入力があっても低音および高音の減衰は適用されません。

DTS

■ Neo:6 Music 時の音質を調整する

Center Image

「Neo:6 Music」は、2 チャンネルで収録されたソースを 6 チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使ってセンターチャンネルの音声を作り出します。
フロント音場の広がり感を調整することができます。
「0」に設定すると，フロント音場が中央寄りになり，
「5」に設定するとフロント音場が左右に広がります。
お買い上げ時の設定は「2」ですが、0 ～ 5 の範囲で選択できます。

Audyssey

■ Audyssey の設定をする

「Dynamic EQ」「基準レベル」「Dynamic Volume」は、自動スピーカー設定 (➔58 ページ) が完了する前に設定することはできません。

ご注意

スピーカーセット B が選ばれている場合は、設定できません。

Dynamic EQ

小音量再生のときでも充分な音声を楽しむことができます。部屋の特性やソースの音量、人間の聴覚特性などを考慮しながら周波数特性の補正を行います。

オフ： Dynamic EQ 機能をオフにします。

オン： Dynamic EQ 機能をオンにします。

基準レベル

映画は、フィルム基準のために調整された環境でミックスされます。ホームシアターシステムで同じ基準レベルを達成するために、それぞれのスピーカーレベルは、-30 dB fs に帯域が限定 (500Hz から 2000Hz) されたピンクノイズが生成する 75dB の音圧を視聴位置で聞こえるように調整される必要があります。
自動スピーカー設定によって調整されたホームシアターシステムでは、マスターボリューム・コントロールを 0dB の位置に調整することで、ミキシングエンジニアが意図した基準レベルでの再生を楽しむことができるでしょう。
Audyssey Dynamic EQ は標準的なフィルムミックスレベルを基準としています。それは、ボリュームを 0dB から下げても、基準レベルへの応答およびサラウンド感を維持するための調整がはたらく事を意味します。しかしながらフィルム基準レベルは、音楽や他のフィルム以外のコンテンツなど、常に利用されるというわけではありません。Dynamic EQ 基準レベルオフセットは、フィルムレベル基準からミックスレベルが基準に該当しないコンテンツにも対応できるよう、3 つのオフセット (5dB、10dB、および 15dB) を提供します。

■ Dynamic EQ 基準レベルオフセット

0dB： 映画鑑賞に適しています。（お買い上げ時の設定）

5dB： クラシック音楽など、とても広いダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。

10dB： ジャズや様々な音楽など、広いダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。

15dB： ポップス / ロック音楽など、高いリスニングレベルでミックスされ、限られたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。

ご注意

- 「Dynamic EQ」が「オフ」に設定されている場合は、この設定は選べません。

Dynamic Volume

オフ： Audyssey Dynamic Volume™ 機能をオフにします。

Light： 低圧縮モードが適用されます。

Medium： 標準圧縮モードが適用されます。

Heavy： 高圧縮モードが適用されます。この設定がボリュームに一番大きな影響を与え，再生中の音量差が小さくなります。

！ヒント

自動スピーカー設定 (➔58 ページ) が完了したあとで、イコライザ設定を「Audyssey」以外に設定しても（➔93、94 ページ)、Dynamic EQ を「オン」に設定すると、イコライザ設定は「Audyssey」に設定されます。Dynamic Volume を有効に設定すると、イコライザ設定は「Audyssey」に設定され、Dynamic EQ も「オン」に設定されます。Dynamic EQ を「オフ」にすると Dynamic Volume も連動して「オフ」になります。

Soundstage

Audyssey Dynamic Surround Expansion リスニングモードを使用したときの音場を調整します。お買い上げ時の設定は「基準値 (0)」ですが、－ 3dB ～ +3dB の範囲で選択できます。

ご注意

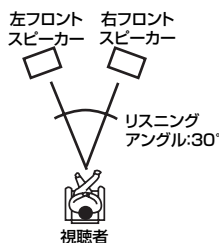
- 「センター」が「無し」に設定されている場合や、「フロントワイド」と「フロントハイ」の両方が「無し」に設定されている場合は（➔88 ページ)、この設定は選べません。

Theater-Dimensional

■ シアターディメンショナル時の調整をする

リスニングアングル

T-D リスニングモードでの最適な視聴角度を設定します。視聴位置からの左右スピーカーの角度を設定します。

「広い」と「狭い」のどちらかを選べます。
（お買い上げ時の設定）

LFE レベル

各入力信号の低域効果（LFE）レベルを設定します。
Dolby Digital、DTS、AAC、マルチチャンネル PCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD 信号の設定ができます。

お買い上げ時の設定はすべて「0 dB 」ですが、－∞ dB、－ 20dB、－ 10dB、0dB から選べます。
低域効果音が強調されすぎる場合は、－ 20dB や－∞ dB を選んでください。

■ Dolby Digital

ドルビーデジタルやドルビーデジタルプラスを再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ DTS

DTS 信号や DTS-HD ハイレゾリューション信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ AAC

AAC 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ マルチチャンネル PCM

HDMI IN 端子から入力した DVD オーディオなどのマルチチャンネル PCM 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ Dolby TrueHD

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD DVD ディスクの Dolby TrueHD 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ DTS-HD Master Audio

HDMI 端子から入力したブルーレイディスクや HD DVD ディスクの DTS-HD Master Audio 信号を再生するときの LFE チャンネルのレベルを設定します。

■ DSD

DSD（スーパーオーディオ CD）マルチチャンネルの LFE チャンネルのレベルを設定します。

Direct

■ アナログの設定をする

サブウーファー

Pure Audio および Direct リスニングモードを選択したとき、サブウーファーから低域信号を出力する場合に設定します。

オフ： 低域信号を出力しません。
（お買い上げ時の設定）

オン： 低域信号を出力します。

■ DSD の設定をする

DAC Direct

DSD(スーパーオーディオ CD) 音声信号を A/V シンクやディレイなどの DSP 回路を通すか、通さないかを設定します。または Pure Audio、Direct のリスニングモード選択時に DSP 回路を通すかどうかを設定します。

オフ： DSD 信号は DSP 処理されます。
（お買い上げ時の設定）

オン： DSD 信号は DSP 処理されません。

「オン」に設定されている状態で DSD 信号が入力されるとリスニングモード「Direct」が「DSD Direct」になります。表示部に「DSD Direct」と表示されます。

入力ソースの設定をする（音量差調整、遅延補正、セレクタ名変更、画質調整）

本機に接続した複数の機器間で音量差の調整、あるいは映像が音声より遅れる場合の補正ができます。

1

調整したい入力を INPUT SELECTOR ボタンで選び、接続機器を再生する

たとえば DVD/BD の映像が音声より遅れている場合、DVD/BD を再生します。

ご注意

- NET/USB 入力には「インテリボリューム」のみ設定できます。

2

SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビに適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

3

▲/▼ ボタンを押して「4. 入力ソースの設定」を選び、ENTER ボタンを押す

画面が表示され、上段に選択している入力が示されます。

4. 入力ソースの設定　DVD/BD
1. インテリボリューム
2. A/V シンク
3. セレクタ名変更
4. 画質調整

4

▲/▼ ボタンで設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は、本ページおよび次ページをご覧ください。

5

▲/▼ ボタンで設定項目を選び、◄/► ボタンで設定を調整する

6

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- メインメニュー画面に戻るには、RETURN ボタンを押してください。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

インテリボリューム（機器間の音量差を減らす）

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。◄/► ボタンで調整してください。
他の機器と比べて音量が大きい場合は ◄ ボタン、小さい場合は ► ボタンを押して調整します。

- − 12 dB ～＋ 12dB の範囲で 1dB 単位で調整できます。

A/V シンク (映像遅延補正）

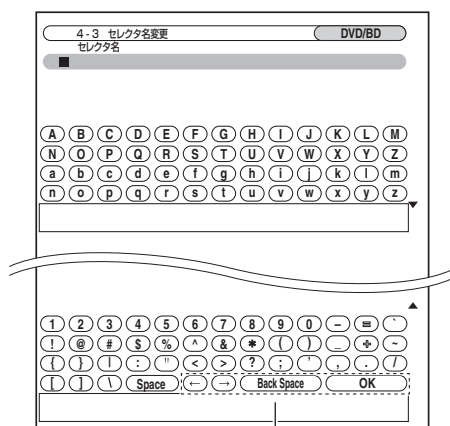
映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で映像信号と音声信号を同期させることができます。
0 ～ 250ms（ミリセカンド）の範囲を 5ms ステップで、音声の遅延を調整することができます。再生される映像を見ながら調整します。ENTER ボタンを押して再生画面を表示し、◄/► ボタンで調整してください。
HDMI の「リップシンク」設定が「有効」になっていて、お使いのテレビが HDMI リップシンク機能に対応している場合、A/V シンクの設定時間は、リップシンクの時間と合算されたものが表示されます。HDMI リップシンクの遅延時間は括弧で表示されます。

ご注意

- A/V シンク機能は Pure Audio リスニングモードでは効果がありません。またアナログ入力信号を Direct リスニングモードで再生する場合も効果がありません。

セレクタ名変更（入力に名前をつける）

DVD/BD や VCR/ DVR などの各入力に名前をつけて表示させることができます。画面上の文字・記号を入力することで変更します。

▲/▼/◄/► ボタンで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押して決定します。この手順をくり返して変更名を確定した後で、「OK」の文字を選び、ENTER ボタンを押して終了です。

この操作で 10 文字まで入力できます。

文字を訂正するときは：

1. ▲/▼/◄/► ボタンを押して「←」（左）または「→」（右）を選び、ENTER ボタンを押す
2. ENTER ボタンを押してカーソルを動かし、訂正したい文字を選ぶ（ENTER ボタンを押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ動きます）
3. ▲/▼/◄/► ボタンで正しい文字を選んで、ENTER ボタンを押す

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。
- 入力につけた名前を初期値の状態に戻したいときは、空スペースを入力して既に入力している名前を消去してください。

画質調整

画質を調整することで、画面をお好みの状態に設定できます。
▲/▼ ボタンで設定項目を選び、◄/► ボタンで設定してください。
画面を表示して調整するときは、ENTER ボタンを押します。

入力に NET/USB が選ばれている場合は、設定できません。

！ヒント

- R 明るさ（R Brightness）から B コントラスト（B Contrast）以外の、画質調整の各設定項目は、リモコンの VIDEO ボタンで設定することもできます。

1. リモコンの AMP ボタンを押してから、VIDEO ボタンを押す。
2. ▲/▼ ボタンで設定項目を選び、◄/► ボタンで設定する。

■ ゲームモード（Game Mode）

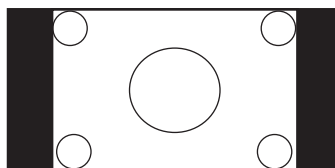
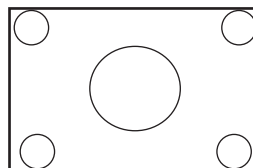
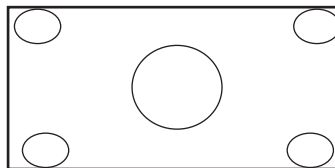
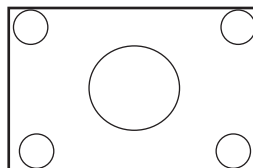
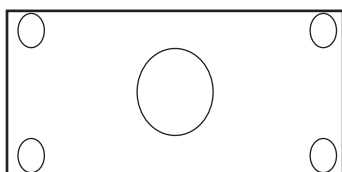
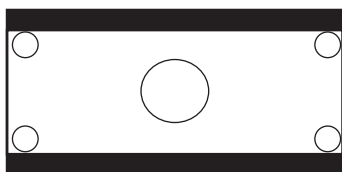
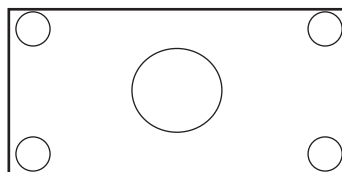
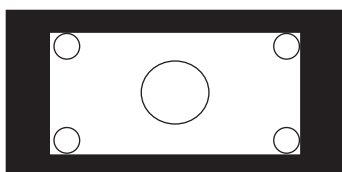
ゲーム機など、本機に接続したビデオ機器の再生中にビデオ信号の遅延が発生する場合は、機器に接続した入力で、「ゲームモード」を選択して、「オン」に設定してください。遅延は改善しますが、画質は劣化します。

オフ： ゲームモード無効。
（お買い上げ時の設定）

オン： ゲームモード有効。

■ ズームモード（Zoom Mode）

アスペクト比（横縦比）を設定します。

通常（Normal）：

フル（Full）：
（お買い上げ時の設定）

ズーム（Zoom）：

ワイドズーム（Wide Zoom）：

■ ISF モード（ISF Mode）

本機は Imaging（イメージング） Science（サイエンス） Foundation（ファンデーション） (ISF) が設定した、設定および校正基準を採用しています。ISF はビデオ性能を最適化するための業界基準をきめ細かく考案し、技術者や取付け作業員に対してこれらの基準を運用するための教育プログラムを実施し、本機から最適な画質を得ています。
したがって、ISF 認定の設置工事担当者が設定および校正作業を行うようにお勧めします。

カスタム： ユーザー設定（すべての項目を自由に設定できます）。（お買い上げ時の設定）

昼間設定： 部屋が明るい場合の設定。

夜間設定： 部屋が暗い場合の設定。

ご注意

「昼間設定」または「夜間設定」を設定した場合、「ピクチャーモード」から「B コントラスト」の設定は選べません。

■ ピクチャーモード（Picture（ピクチャー） Mode）

DVD を再生する際、その DVD がフィルムから記録されたものか、ビデオから記録されたものかによって最適な出力の仕方が変わります。この設定で DVD に合わせた画質モード（出力変換の方法）を選択することができます。

自動： 再生される DVD に合わせて自動でビデオ / フィルムに対応します。
（お買い上げ時の設定）

ビデオ： ビデオから記録された DVD（30 fps）に適した画質モードです。ビデオから記録された DVD を再生するときに選びます。

フィルム： フィルムから記録された DVD（24 fps）に適した画質モードです。フィルムから記録された DVD を再生するときに選びます。

ご注意

「ゲームモード」が「オン」に設定されている場合は、この設定は選べません。

■ エッジエンハンスメント（Edge Enhancement）

エッジエンハンスメント機能を設定します。映像の輪郭をシャープにする機能です。

オフ： エッジエンハンスメント機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

弱： 少し映像の輪郭をシャープにします。

中：「弱」よりもより映像の輪郭をシャープにします。

高：「中」よりもさらに映像の輪郭をシャープにします。

■ モスキート NR（Mosquito NR）

モスキートノイズの低減機能を設定します。元の映像に圧縮がかかっているときなどに映像の輪郭に点の集まりが現れてぼやけてしまうことがあります。この点の集まりがモスキートノイズです。蚊の群れが飛んでいるように見えることからこう呼ばれます。

オフ： モスキートノイズの低減機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

弱： モスキートノイズを少し低減します。

中：「弱」よりもよりモスキートノイズを低減します。

高：「中」よりもさらにモスキートノイズを低減します。

ご注意

「ゲームモード」が「オン」に設定されている場合は、この設定は選べません。

■ ランダムノイズ低減（Random NR）

ランダムノイズの低減機能を設定します。ランダムノイズとは、画面上に不規則に現れる点のことです。

オフ： ランダムノイズの低減機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

弱： ランダムノイズを少し低減します。

中：「弱」よりもよりランダムノイズを低減します。

高：「中」よりもさらにランダムノイズを低減します。

ご注意

「ゲームモード」が「オン」に設定されている場合は、この設定は選べません。

■ ブロックノイズ低減（Block NR）

ブロックノイズの低減機能をオン / オフします。動きの速い映像を再生しているときなどに伝送速度が追いつかず画面上にモザイクがかったような不自然な四角が現れることがあります。この四角がブロックノイズです。

オフ： ブロックノイズの低減機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

オン： ブロックノイズの低減機能をオンにします。

ご注意

「ゲームモード」が「オン」に設定されている場合は、この設定は選べません。

■ 解像度（Resolution）

本機が変換するときに出力する映像の解像度を設定します。お手持ちのテレビに合わせて設定してください。
入力機器ごとの解像度設定を行います。「モニター映像出力」の「解像度」設定で「入力ソース」を選んだ場合のみ設定できます（➔49 ページ）。

スルー： 入力された映像の解像度と同じ解像度で出力します。ただし、テレビが対応していない解像度の場合は、自動的に変換します。（お買い上げ時の設定）

自動： テレビ側が対応しているいちばん高い解像度で出力します。モニター映像出力（Monitor Out）が「Analog」に設定されているとスルーになります。

480p： 入力された映像の解像度が 480p のときと 480p に変換したいときに選びます。

720P： 入力された映像の解像度が 720p のときと 720p に変換したいときに選びます。

1080i： 入力された映像の解像度が 1080i のときと 1080i に変換したいときに選びます。

1080p： 入力された映像の解像度が 1080p のときと 1080p に変換したいときに選びます。
モニター映像出力（Monitor Out）が「Analog」に設定されていると 1080i になります。

1080p/24： 入力された映像の解像度が 1080p（24 フレーム / 秒）のときと 1080p（24 フレーム / 秒）に変換したいときに選びます。

■ 明るさ（Brightness）

この設定で画面の明るさを－ 50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ コントラスト（Contrast）

この設定で明暗の差を－ 50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ 色合い（Hue）

この設定で画面の赤と緑のバランスを－ 20 から +20 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 20 は最も緑色が強くなります。+20 は最も赤色が強くなります。

■ 彩度（Saturation）

この設定で濃さを－ 50 から +50 までの範囲で調整できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最も淡い色になります。+50 は最も鮮やかな色になります。

■ ガンマ（Gamma）

入力された画像の R（赤）· G（緑）· B（青）色データ信号と、出力する色データ信号の相対関係を調節します。
－ 3 から +3 の範囲で調節することができます。（お買い上げ時の設定は 0）

■ R 明るさ（R Brightness）

この設定で画面の赤の明るさを－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）－ 50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ R コントラスト（R Contrast）

この設定で赤の明暗の差を－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ G 明るさ（G Brightness）

この設定で画面の緑の明るさを－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）－ 50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ G コントラスト（G Contrast）

この設定で緑の明暗の差を－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

■ B 明るさ（B Brightness）

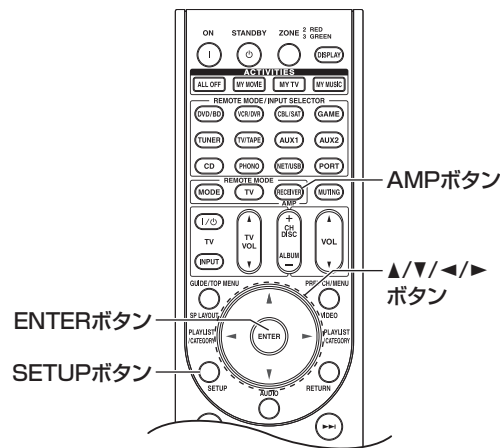
この設定で画面の青の明るさを－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）－ 50 は最も暗くなります。+50 は最も明るくなります。

■ B コントラスト（B Contrast）

この設定で青の明暗の差を－ 50 から +50 までの範囲で設定できます。（お買い上げ時の設定は 0）
－ 50 は最もコントラストが弱くなります。+50 は最もコントラストが強くなります。

入力の設定をする

よく使うリスニングモードを設定しておく

入力される信号によって、お好みのリスニングモードを初期設定しておくことができます。
再生中にリスニングモードを切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると設定されたリスニングモードに戻ります。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「5. リスニングモードプリセット」を選び、ENTER ボタンを押す

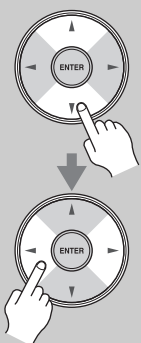
サブメニューが表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して入力を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

➡ 手順 *4* に続く

4

▲/▼ ボタンを押して設定したい信号の種類を選び、◄/► ボタンでリスニングモードを選ぶ

選択できるリスニングモードは設定する入力信号によって異なります。

- 「最終値」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

アナログ / PCM：
CD などの PCM 信号やレコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DolbyDigital（ドルビーデジタル）：
ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス対応の信号を再生するときのリスニングモードです。

DTS：
DTS/DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ対応の信号を再生するときのリスニングモードです。

AAC：
AAC 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D.F. 2ch：
2 チャンネルで記録されたドルビーデジタルなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

D.F. モノラル：
モノラルで記録されたドルビーデジタル、AAC などのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

マルチチャンネル PCM：
HDMI IN（イン）端子から入力した DVD オーディオなどのマルチチャンネル PCM 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

Dolby TrueHD（トゥルー）：
HDMI IN 端子から入力したブルーレイディスクや HD DVD などのドルビー TrueHD 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DTS-HD Master Audio（マスター オーディオ）：
HDMI IN 端子から入力したブルーレイディスクや HD DVD などの DTS-HD Master Audio 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

DSD：
スーパーオーディオ CD の DSD 信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

5

SETUP（セットアップ）ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

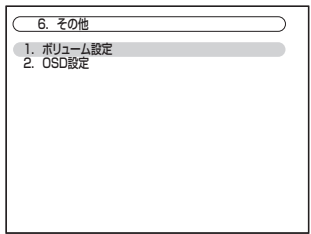
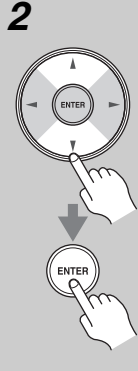
！ヒント

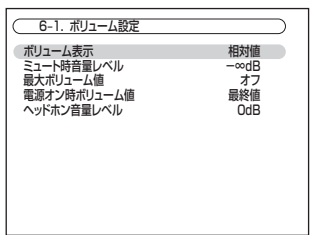
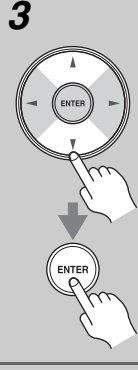
- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER（エンター）ボタンでも操作することができます。

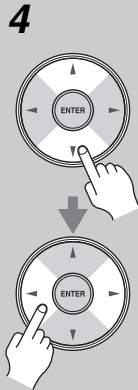
ご注意

- iPod/iPhone をセットした iPod ドック UP-A1 を UNIVERSAL（ユニバーサル） PORT（ポート） 端子に接続している場合は、PORT 入力に「アナログ」のみ割り当てることができます。
- NET（ネット）/USB 入力には「デジタル」のみ割り当てることができます。

音量設定 /OSD 設定をする

「その他」のメニューについて説明します。

1 AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビに適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2 ▲/▼ ボタンを押して「6. その他」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3 ▲/▼ ボタンを押して「1. ボリューム設定」を選び、ENTER ボタンを押す

4 ▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで選択する

1 つ前の画面に戻るときは、ENTER ボタンを押します。

5 SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ボリューム設定

■ ボリューム表示

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。

絶対値

MIN・0.5・1…99・99.5・MAX の範囲で表示します。

相対値（お買い上げ時の設定）

−∞ dB・− 81.5dB ・・・・・・・＋ 18.0dB の範囲で表示します。絶対値の音量 82 が相対値の 0dB に相当します。

■ ミュート時音量レベル

ミューティング時の音量を聞いている音よりどれだけ下げるか設定しておくことができます。10dB 単位で−∞ dB、− 50dB 〜− 10dB の範囲で設定できます。お買い上げ時の設定は、−∞ dB です。

■ 最大ボリューム値

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大値を設定することができます。
相対値表示の場合は、オフ･＋ 17dB 〜− 32dB の範囲内で設定できます。
絶対値表示の場合は、オフ･ 99 〜 50 の範囲内で設定できます。
設定しないときは「オフ」を選びます。

■ 電源オン時ボリューム値

本機の電源を入れたときの音量を一定に設定しておくことができます。
相対値表示の場合は、最終値･−∞ dB ･− 81dB 〜＋ 18dB の範囲内で設定できます。
絶対値表示の場合は、最終値･最小･ 1…最大の範囲内で設定できます。
本機をスタンバイ状態にする前の音量をそのまま残したい場合は「最終値」を選びます。

ご注意

- 「最大ボリューム値」で設定した値より高く設定することはできません。

■ ヘッドホン音量レベル

スピーカーで聴くときとヘッドホンで聴くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。
− 12dB 〜＋ 12dB の範囲で調整できます。お買い上げ時の設定は、0dB です。

OSD 設定

■ イミディエイト表示

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。（ただし、「オン」に設定しても、再生機器を HDMI 入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されない場合があります。）

オフ：表示しません。

オン：表示します。（お買い上げ時の設定）

■ 表示位置

操作内容の表示をテレビ画面のどの位置に表示させるかを設定します。

下：画面の下方に表示します。
（お買い上げ時の設定）

上：画面の上方に表示します。

■ 言語（Language）

操作内容の表示言語を以下の内から選択して設定できます。

日本語：（お買い上げ時の設定）

English：英語

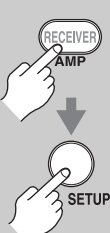
Deutsch：ドイツ語

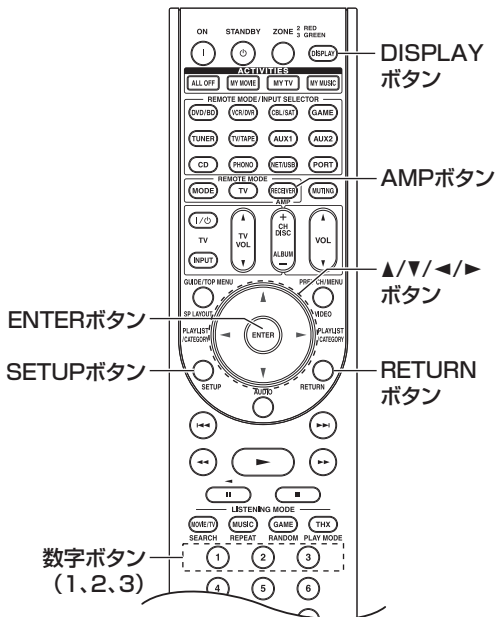
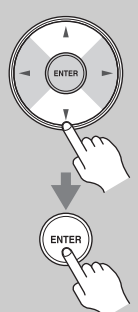
Français：フランス語

Español：スペイン語

Italiano：イタリア語

Nederlands：オランダ語

Svenska：スウェーデン語

ハードウェアの設定をする

「ハードウェア設定」のメニューについて説明します。

1

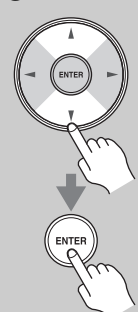
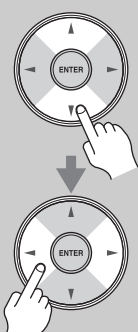
AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビに適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、ENTER ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

7. ハードウェア設定

1. リモコンID
2. マルチゾーン
3. HDMI
4. ネットワーク
5. ファームウェア　アップデート

3

▲/▼ ボタンを押して設定メニューを選び、ENTER ボタンを押す

設定メニューの内容は次ページをご覧ください。

4

▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで設定する

1 つ前の画面に戻るときは、RETURN ボタンを押します。

5

SETUP ボタンを押す

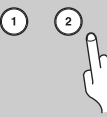
設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

リモコン ID

■ リモコン ID

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコン ID を変更することができます。「1」、「2」、「3」から選べます。
お買い上げ時は、本体、リモコンともに「1」に設定されています。設定したら、次にリモコン側の設定をします。

ご注意
- リモコン、本体共に同じリモコン ID に設定する必要があります。

■ リモコンのリモコン ID を変更する

1

AMP（アンプ）ボタンを押しながら、SETUP（セットアップ）ボタンを AMP ボタンが点灯するまで（約 3 秒）押す

2

設定したいコードの数字ボタンを 1 〜 3 から選び、押す
AMP ボタンが 2 回点滅します。

マルチゾーン

132 ページをご覧ください。

HDMI

■ テレビオーディオ 出力

HDMI 出力端子からテレビへの音声出力をする / しないの設定ができます。本機の HDMI 出力端子とテレビの HDMI 入力端子を接続していて、テレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「オフ」にしておいてください。

オフ： 出力しません。（お買い上げ時の設定）
オン： 出力します。

ご注意
- 「テレビオーディオ出力」が「オン」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。
- 「オン」を選んでいたとき、DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押すことで表示部に「TV Sp On」が表示されます。
- 「テレビ連動」の設定が「オン」の場合、「自動」に固定となり「オン / オフ」の設定は出来ません。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「オン」でもテレビから音声が出ないことがあります。テレビから音声出力している場合、出力機器側からの信号がテレビの対応しているフォーマットに変換されている場合があります。
- 「テレビオーディオ出力」の設定をオンにして、テレビのスピーカーから音声を出していると、本機のボリュームを操作したとき本機に接続したスピーカーからも音声が出ます。また、「テレビ 連動」（➔112 ページ）の設定が「オン」のとき、RIHD 対応テレビのスピーカーから音声を出していると、本機のボリュームを操作したとき本機に接続したスピーカー側の音声が出て、テレビ側の音声はミュートされます。音声を出力させたくないときは、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。
- 「モニター映像出力」を「両方（メイン）」または「両方（サブ）」に設定していて（➔48 ページ）、優先の HDMI 出力端子に接続したテレビから音声を出力できない場合、本機に接続したスピーカーから音声が出ます。

■ リップシンク

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

無効： 自動では補正しません。
（お買い上げ時の設定）
有効： 自動的に補正します。

ご注意
- リップシンク機能は HDMI リップシンク対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。
- リップシンク機能によって補正される遅延時間を、A/V シンクメニューで確認することができます（➔102 ページ）。
- 「モニター映像出力」を「HDMI メイン」または「両方（メイン）」「両方」に設定した場合（➔48 ページ）、HDMI OUT MAIN（メイン）端子に接続したテレビ側の遅延にあわせて補正が行われます。また、「HDMI サブ」または「両方（サブ）」に設定した場合、HDMI OUT SUB（サブ）端子に接続した TV 側の遅延にあわせて補正が行われます。

■ x.v.Color（カラー）

x.v.Color 対応のソースおよびモニターを HDMI 接続したときに「有効」に設定すると、色の表現力が向上します。

無効： x.v.Color を使用しません。
（お買い上げ時の設定）
有効： x.v.Color を使用します。

ご注意
- 「有効」にして色がおかしくなる場合は、「無効」に設定してください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- 「モニター映像出力」を「両方（メイン）」または「両方（サブ）」に設定していて（➔48 ページ）、優先の HDMI 出力端子に接続したテレビが x.v.Color に対応していない場合は、出力信号には x.v.Color が有効になりません。

■ HDMI コントロール (RIHD)

本機と HDMI 接続した CEC 対応機器や RIHD 対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

オフ： RIHD コントロールを使用しません。（お買い上げ時の設定）

オン： RIHD コントロールを使用します。

ご注意

- RIHD はオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機では HDMI 規格で定められている CEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CEC に対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD 対応機器以外での動作は保証いたしません。
  「オン」に設定してメニューを閉じると、本機の表示部に接続した RIHD 対応機器名称と「RIHD On」を表示します。
  表示例：“Search…” → “(機器名称)” → “RIHD On”
  接続した機器の名称が取得できないときは、「Player ＊」または「Recorder ＊」などを表示します。
  （＊は機器を複数台接続したときの台数を表します。）
- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「オフ」に設定してください。
- 「オン」に設定して、おかしな動作をする場合は「オフ」にしてください。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。
- RIHD による連動機能は、HDMI OUT SUB 端子では動作しません。HDMI OUT MAIN 端子を使用してください。

電源連動

HDMI で接続された RIHD 対応機器と、電源連動させたい場合に「オン」に設定してください。
「HDMI コントロール (RIHD)」を「オン」に設定したとき（初回設定時のみ）、この設定は自動的に「オン」に設定されます。

オフ： 電源連動を使用しません。

オン： 電源連動を使用します。

ご注意

- 「オン」に設定しているときは、スタンバイ状態での消費電力が増えます。
- 「オン」に設定しているときは、本機がスタンバイ状態においても、HDMI 入力端子から入力された映像信号は HDMI 出力端子に接続されたテレビや他の機器に出力されます。「テレビオーディオ出力」が「オン」の場合は、HDMI 音声信号も HDMI 出力端子から出力されます。
- 「電源連動」の設定は、「HDMI コントロール (RIHD)」の設定が「オン」の場合に設定できます。
- 「電源連動」は、HDMI Power Control 機能に対応した機器に接続している場合にのみ動作します。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

テレビ連動

HDMI 接続した RIHD 対応テレビから、本機をコントロールしたいときに「オン」にします。

オフ： テレビ連動を使用しません。

オン： テレビ連動を使用します。

ご注意

- 「テレビ連動」の設定が「オン」のときは、HDMI IN に接続された機器を TV/TAPE 入力に割り当てないでください。適切な CEC（Consumer Electronics Control）操作の保証ができなくなります。
- テレビが対応していない場合や、対応しているかどうか分からないときは、「オフ」に設定してください。
- 「テレビ連動」の設定は、「HDMI コントロール (RIHD)」と「電源連動」の両方の設定が「オン」の場合に変更できます。
- 詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 「HDMI コントロール (RIHD)」、「電源連動」、「テレビ連動」の設定を変更したあとは、すべての接続機器を一度スタンバイ状態にして、再度電源を入れてください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。

ネットワーク

120 ページをご覧ください。

ファームウェア　アップデート

ご注意

- オンキヨーホームページからご案内があった場合のみ実行してください。
- ファームウェアのアップデートには約６０分かかります。
- ユニバーサルポート端子にドックが接続されていない場合は、ユニバーサルポートオプションドックのファームウェアのアップデートは実行できません。
- 「USB 経由」を選択した場合、本機の電源を入れた時点で先に挿されていた方の USB ストレージを検索します。本機の電源を入れた時点で両方挿されていた場合は前面パネル側の USB ストレージを検索します。

■ バージョン

現在のファームウェアのバージョンが表示されます。
バージョンは、本機およびユニバーサルポートオプションドック（接続している場合）のファームウェアを組み合わせて決定されます。

■ Receiver

ネットワーク経由： 本機のファームウェアをインターネット経由でアップデートすることができます。アップデートを実行するときは、インターネットへの接続を確認してください。アップデート中は本機の電源をオフにしないでください。

USB 経由： アップデート用ソフトウェアを保存した USB メモリを、本機の USB ポートに接続してアップデートすることができます。

■ ユニバーサルポート

ネットワーク経由： ユニバーサルポートオプションドックのファームウェアをインターネット経由でアップデートすることができます。アップデートを実行するときは、インターネットへの接続を確認してください。アップデート中は本機の電源をオフにしないでください。

USB 経由： アップデート用ソフトウェアを保存した USB メモリを、本機の USB ポートに接続してアップデートすることができます。

設定した内容をロックする

お好みで、セットアップメニューのロックで設定を保護することができます。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビに適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「9. ロック設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

ENTER ボタンを押してから、◄/► ボタンで選択する

誤って設定を変更してしまわないように、設定したメニューにロックをかけることができます。

ロック：
ロックをかけます。ロックをかけておくと、設定操作はできません。

解除：
設定操作にロックをかけません。
（お買い上げ時の設定）

4

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

デジタル入力モードを DTS、PCM に固定する

デジタル入力端子が設定されていない入力の場合は設定できません（選択できません）。（➔53 ページ）
DTS や PCM 信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力を DTS または PCM に固定することができます。入力ごとに設定を記憶します。

1

（8 秒以上）

AMP ボタンを押してから AUDIO ボタンを 8 秒以上押し続ける

表示部に現在の入力モード「Auto」が表示されます。

2

「Auto」表示中に ◄/► ボタンを押して、デジタル入力モードを設定する

Auto：
デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。
（お買い上げ時の設定）

PCM：
Auto で CD などの PCM の曲間で頭切れが気になる場合に選択してください。PCM 以外の音声が入力されると、本機の PCM 表示が点滅し、ノイズが聞こえる場合があります。

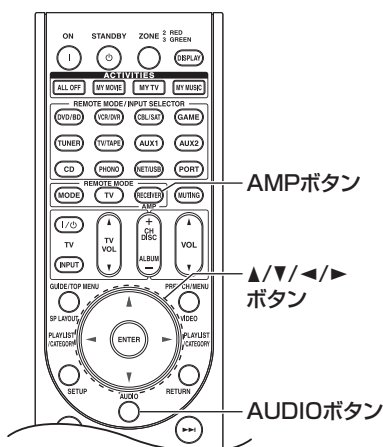
DTS：
Auto で DTS-CD を再生するとき、DTS 信号を識別して読み取る間や、CD の早送り、早戻しをするときのノイズが気になる場合に選択してください。DTS-HD 以外の DTS 音声を再生できます。DTS 以外の音声が入力されると、本機の DTS 表示が点滅し、音は出ません。

ご注意

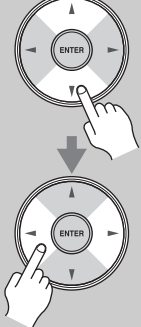
- DTS 対応の CD や LD を再生するときは、必ず「Auto」または「DTS」を選択してください。「PCM」を選択すると、ノイズが出力されます。

音声の設定をする

リモコンの AUDIO ボタンを使って、音声に関する設定をすることができます。

1

AMP ボタンを押してから、AUDIO ボタンを押す

2

▲/▼ ボタンで項目を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

低音、高音（Bass、Treble）を調整する

「Direct」、「Pure Audio」、「THX」以外のリスニングモード時に各スピーカーの音質を調整することができます。

Bass

フロント、フロントワイド、フロントハイ、センター、サラウンド、サラウンドバック、サブウーファーの低音の音質を、－ 10 dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。
（お買い上げ時の設定は「0」です。）

Treble

フロント、フロントワイド、フロントハイ、センター、サラウンド、サラウンドバックの高音の音質を、
－ 10dB ～＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。
（お買い上げ時の設定は「0」です。）

！ヒント

- 本体の TONE ボタン、◄/► ボタンでも操作することができます。（➔69 ページ）

レイトナイト機能を使う

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD 再生時のみに効果があります。

劇場用に作られた映画音声は大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聞くには音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聞こえます。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

Late Night

ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスを再生するときは：

Off：レイトナイト機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

Low：音量幅を小さくします。

High：音量幅をさらに小さくします。

ドルビー TrueHD を再生するときは：

Auto：レイトナイト機能は、自動でオンかオフに設定されます。（お買い上げ時の設定）

Off：レイトナイト機能をオフにします。

On：音量幅を小さくします。

ご注意

- レイトナイト機能は、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD ソフトにのみ効果があります。
- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。
- 「Dolby Volume」が有効に設定されている場合は、この設定は選べません。

！ヒント

- 本体の LATE NIGHT ボタンでも操作できます。

Re- EQ 機能を使う

高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。

！ヒント

- 本体の Re-EQ ボタンでも操作できます。

Re-EQ

Re-EQ の設定は、リスニングモードが Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Multichannel、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio、DTS Express、DSD、Dolby EX、Dolby Pro Logic IIz Height、Dolby PL IIx Movie、Neo:6 Cinema、Neo:6、Neural Surround、AAC の場合に働きます。

On： 高音域の補正をします。

Off： Re-EQ 機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

Re-EQ(THX)

Re-EQ(THX) の設定は、リスニングモードが THX Cinema、THX Surround EX、THX Select2 Cinema の場合に働きます。この設定は、本機の電源を入れ直すと、「On」に戻ります。

On： 高音域の補正をします。（お買い上げの時の設定）

Off： Re-EQ(THX) 機能をオフにします。

Audyssey Dynamic Volume™ 機能を使う

Dynamic Volume

詳しくは 100 ページをご覧ください。

ご注意

- THX リスニングモードで選ぶ場合は、「Loudness Plus」を「オフ」に、「THX 設定優先」を「無し」にそれぞれ設定する必要があります。
- Dynamic Volume を有効に設定すると、Dolby Volume は「Off」になります。

Dolby Volume 機能を使う

Dolby Volume

詳しくは 99 ページをご覧ください。

ご注意

- Dolby Volume を有効に設定した場合、Audyssey Dynamic EQ™ と Audyssey Dynamic Volume™ は「オフ」に、「イコライザ設定」は「Audyssey」が設定されている場合は「オフ」に設定されます。
- THX リスニングモードで使用する場合は、「Loudness Plus」を「オフ」に、「THX 設定優先」を「無し」に設定してください。

Music Optimizer 機能を使う

Music Optimizer

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3 などの非可逆圧縮ファイルの再生時に便利です。入力ごとに設定を記憶します。

Off： Music Optimizer 機能をオフにします。（お買い上げ時の設定）

On： Music Optimizer 機能をオンにします。

ご注意

- この機能は、サンプリング周波数が 48 kHz 以下の PCM 信号とアナログ信号に働きます。また、リスニングモードが「Pure Audio」と「Direct」のときは、効果がありません。

Speaker Level を調整する

音声を聞きながら、スピーカーレベルを調整することができます。調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると、設定前の内容に戻ります。
設定を記憶するには、「スピーカー音量設定」（92 ページ）を開いてから本機をスタンバイ状態にしてください。

Subwoofer 1

Subwoofer 2

－ 15dB ～＋ 12dB の範囲で調整できます。

Center

－ 12dB ～＋ 12dB の範囲で調整できます。

ご注意

- ミューティング機能が働いているときは調整できません。
- 「スピーカー詳細設定」（➔88 ページ）で「無し」に設定されているスピーカーは調整できません。
- この機能は、アナログ音声再生時に「Pure Audio」、「Direct」のリスニングモードを使用しているときは、働きません。

音声入力を選ぶ

Audio Selector

再生機器の音声出力を複数、本機の音声入力に接続している場合に（たとえば DVD プレーヤーをアナログ、デジタル、HDMI の各入力に接続している場合など）、聞きたい音声を選びます。

ご注意

- HDMI IN（イン）端子または COAXIAL（コアキシャル）IN 端子、OPTICAL（オプティカル）IN 端子に入力が割り当てられている場合にのみ設定できます。HDMI IN と COAXIAL IN もしくは OPTICAL IN の両方に入力を割り当てている場合、「Auto」に設定すると HDMI IN からの音声が優先されます。COAXIAL IN もしくは OPTICAL IN を優先したい場合は、「デジタル音声入力端子の設定をする」（53 ページ）をご覧ください。

Auto：デジタル信号が入力されていない場合には、アナログ信号からの信号を選びます。

Multich：マルチチャンネル入力を選びます。

Analog：アナログ入力を選びます。

A/V シンク機能を使う

A/V Sync（シンク）

詳しくは 102 ページをご覧ください。

NET/USB 機能を使用する

本機には NET/USB という機能があります。
この機能では次の 3 つのことができます。

1 インターネットラジオを聴く（➔123 ページ）

本機とルータで接続されているネットワークサーバー（パソコンなど）のウェブブラウザーを利用してインターネットに接続し、インターネットラジオ局を選定すると、インターネットラジオを聴くことができます。

2 ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する（➔124 ページ）

本機をホームネットワーク（LAN）に接続して、ネットワークサーバー（パソコンなど）に入っている音楽ファイルを再生することができます。

3 USB ストレージ * 内の音楽ファイルを再生する（➔127 ページ)

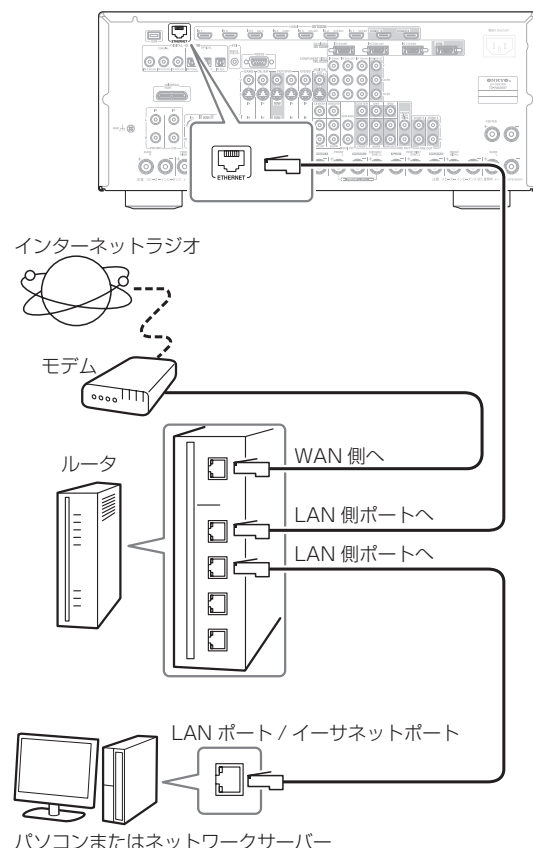
本機の前面パネルおよび後面の USB ポートに USB ストレージを接続すると、USB ストレージに入っている音楽ファイルを再生することができます。

* USB メモリーなど

！ヒント

ネットワークの設定については、120 ページをご覧ください。

ネットワーク機器の接続

ネットワーク機器がそろったら、以下のように接続して、ホームネットワーク（LAN）を構築します。

！ヒント

各ネットワーク機器やインターネットへの接続には、個々の機器の設定が必要になります。
これらの設定については、各機器の取扱説明書やメーカー / ISP にご確認ください。

ホームネットワーク（LAN）について

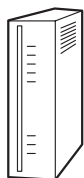
複数の機器をケーブルなどで接続し、お互いに通信できるようにしたものをネットワークといいます。
家庭ではパソコンやゲーム機をインターネットに接続したり、複数のパソコンで相互にデータをやりとりしたりするために、ネットワークを作る（一般的に構築するといわれます）ケースが多いようです。
このように家庭内など比較的狭い範囲に構築されるネットワークは LAN（Local Area Network）と呼ばれます。
この取扱説明書では、この LAN のことをもう少し身近に感じられるようにホームネットワーク（家庭のネットワーク）と書いています。

本機（TX-NA5007）はパソコンなどのネットワークサーバーと接続することでネットワークサーバー内（パソコン内）の音楽ファイルを再生したり、インターネットと接続することでインターネットラジオを聴いたりすることができます。

このとき、本機とパソコンやインターネットを直接接続するわけではありません。
パソコンやインターネットと接続するためにいくつかの機器（ネットワーク機器）が必要になります。

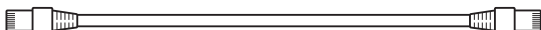
ホームネットワーク（LAN）構築に必要な機器

本機の NET 機能を使用するためのホームネットワーク（LAN）に必要な機器は以下の通りです。

ルータ

本機とパソコンや、本機とインターネットの間に入って情報（データ）の流れをコントロールするのが、このルータという機器です。ネットワークでは情報（データ）の流れをトラフィック（日本語では「交通」の意）といいます。ルータは各機器の中でトラフィックコントロールつまり情報の交通整理をする役割を担っています。

- 本機では **100Base-TX スイッチ内蔵のブロードバンドルータ**の使用を推奨します。
- また、**DHCP 機能搭載**のルータであれば、ネットワークの設定を簡単にすることができます。
- ISP と契約している場合（後述モデムの項参照）には、契約する **ISP 業者が推奨するルータ**をご使用ください。

これらのルータについてはお買い求めの販売店または契約されている ISP にご相談ください。

Ethernet ケーブル（CAT-5）

ネットワークを構成する機器同士を実際につなぎ合わせるのが、この Ethernet ケーブルです。Ethernet ケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルがあります。

- 本機では CAT-5 に適合した Ethernet ストレートケーブルを使用します。

Ethernet ケーブルについてはお買い求めの販売店にご相談ください。

ネットワークサーバー（パソコンなど / ネットワークサーバー使用時）

音楽ファイルを入れておいて、再生時に本機に曲を提供する機器です。

- 本機で使用する際に必要な条件は、ネットワークサーバーとして使用する機器によって異なります。

- 本機は、**Windows Media Player 11**、**DLNA 準拠サーバー**に対応しています。
- 本機で音楽ファイルを快適に再生するための条件は、使用するネットワークサーバー（パソコンの性能）に依存します。それぞれの機器使用については、各取扱説明書をご覧ください。

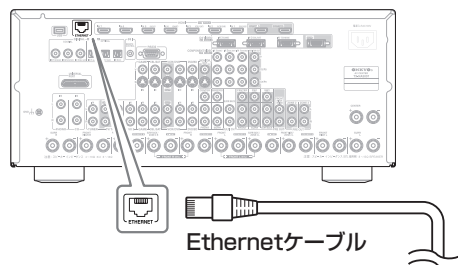
モデム（インターネットラジオ使用時）

ホームネットワーク（LAN）とインターネットを接続する機器です。
モデムにはインターネットと接続する形式によってさまざまな種類があります。
また、インターネットに接続するには ISP（インターネットサービスプロバイダ）というインターネットへの接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。
インターネット接続には、**契約する ISP 業者が推奨するモデム**をご使用ください。

1 台でルータとモデムの機能を併せ持つ機器もあります。

以上のネットワーク機器のうち、
NET 機能「ネットワークサーバー」を使用するには、ルータ、Ethernet ケーブル、ネットワークサーバーが必要になります。
NET 機能「インターネットラジオ」を使用するには、ルータ、Ethernet ケーブル、モデム（および ISP との契約）が必要になります。

本機をホームネットワーク（LAN）に接続する

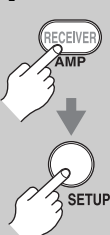
本機の電源をオフにし、本機の後面パネルの ETHERNET 端子とホームネットワーク（LAN）のルータまたはスイッチングハブを Ethernet ケーブル（CAT-5）で接続します。

準備

本機でネットワークサーバーやインターネットラジオを楽しむには、次の準備が必要です。

- 本機をホームネットワーク（LAN）に接続する（➔119 ページ）
- 本機のネットワーク設定をする（➔ 本ページ）
- ネットワークサーバーの設定をする（➔125 ページ）

！ヒント

まだホームネットワーク（LAN）を構築されていない方、ホームネットワーク（LAN）をご存知でない方は、まず「ホームネットワーク（LAN）について」（➔119 ページ）をご覧ください。

本機のネットワーク設定をする

本機をホームネットワーク（LAN）に接続して使えるようにするためにネットワーク設定をする必要があります。

ネットワーク設定を変更する場合は、変更後に「設定保存」を実施する必要があります。

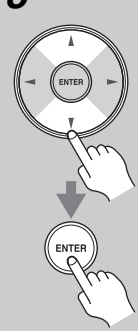
DHCP でホームネットワーク（LAN）を構築している場合は、「DHCP」を“有効”にすれば（➔121 ページ）、ホームネットワーク（LAN）で使用できるようになります。（初期設定では、この状態になっています。）

各機器に固定 IP アドレスを割り当てている場合は、「IP アドレス」で本機に IP アドレスを割り当て（➔121 ページ）、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなどお使いのホームネットワーク（LAN）に関する情報を入力する必要があります。

1

AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

7. ハードウェア設定

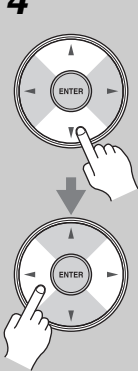
1. リモコンID
2. マルチゾーン
3. HDMI
4. ネットワーク
5. ファームウェア　アップデート

3

▲/▼ ボタンを押して、「4. ネットワーク」を選び、ENTER ボタンを押す

ネットワーク設定画面が表示されます。

7-4. ネットワーク

MAC アドレス　xx : xx : xx – yy : yy : yy
DHCP　有効
IP アドレス　aaa.bbb.ccc.ddd
サブネットマスク　aaa.bbb.ccc.ddd
ゲートウェイ　aaa.bbb.ccc.ddd
DNS サーバー　aaa.bbb.ccc.ddd

プロキシ URL http://www.proxy.xxx.com
プロキシポート　8080

4

▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで選択する

設定項目を選択後、ENTER ボタンを押し、数値を入力後、再度 ENTER ボタンを押します。設定項目の内容は121 ページをご覧ください。

5

RETURN ボタンを押す

設定保存画面が表示される。

7-4. ネットワーク

設定保存
キャンセル

6

▲/▼ ボタンを押して、「設定保存」を選び、ENTER ボタンを押す

ご注意

- 「ネットワーク」内の設定値は、本機とネットワークの保護のため「設定保存」を選択するまで書き変えられません。

7

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

■ MAC アドレス
本機の MAC アドレスを確認できます。この値は機器固有のもののため、変更することはできません。

■ DHCP
本機の DHCP クライアント機能の有効 / 無効を設定します。DHCP でホームネットワーク（LAN）を構築している場合は“有効”に、ホームネットワーク（LAN）に接続されている各機器に固定 IP アドレスを割り当てている場合は“無効”に設定してください。

■ IP アドレス
本機の IP アドレスを表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。
この値を設定する際、ホームネットワーク（LAN）に接続されている他の機器とアドレスが重複しないよう、ご注意ください。設定方法は次のとおりです。

アドレス設定方法
1. 設定する項目（IP アドレス、サブネットマスクなど）を選択し、**ENTER ボタン**を押して、入力画面を表示します。OSD 下部に 0 ～ 9 の数値が表示されます。
2. **◄/► ボタン**を使って数値を選択し、**ENTER ボタン**で入力します。3 桁入力すると、自動的に次のセクションに移動します。入力を誤った場合は、**▲/▼ ボタン**で誤入力したセクションを選択（数値を緑色に）し、数値を入力し直してください。
3. 入力する数値が 3 桁に満たない場合は、**▲ ボタン**で次のセクションに移動します（選択されているセクションの文字が緑色になります）。
4. すべてのセクションの入力が終わったら、**RETURN ボタン**を押して値を確定します。

■ サブネットマスク
ホームネットワーク（LAN）のサブネットマスクを表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

■ ゲートウェイ
ホームネットワーク（LAN）のゲートウェイアドレスを表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

■ DNS サーバー
ホームネットワーク（LAN）の DNS サーバー（プライマリ）を表示または設定します。DHCP が有効な場合、この値は自動的に設定され、変更できません。アドレスの設定方法は、IP アドレスと同じです。

■ プロキシ URL
プロキシサーバーの URL を入力します。URL が不明な場合は、ご使用の ISP にお問い合わせください。入力方法は「セレクタ名変更」（103 ページ）と同じです。

■ プロキシポート
この設定は上記「プロキシ URL」設定が入力されているときだけ機能します。プロキシサーバーのポート番号を入力します。ポート番号が不明な場合は、ご使用の ISP にお問い合わせください。入力方法は「アドレス設定方法」（121 ページ）と同じです。

■ コントロール
外部コントローラーからの本機のコントロールを許可するかどうか設定します。“有効”にすると、外部コントローラーから本機をコントロールできるようになり、“無効”にするとコントロールを禁止します。

ご注意
“有効”に設定すると、スタンバイ状態での消費電力が少し増加します。

■ ポート番号
この設定は上記「コントロール」設定が有効のときだけ機能します。外部コントローラーからのコントロール信号を受けるポート番号を設定します。外部コントローラー側の設定に合わせてください。49152 ～ 65535 の間で設定してください。

！ヒント
- 上記「プロキシ URL」「プロキシポート」の設定は、インターネットラジオを聴くために必要です。ネットワークサーバーは、これらを設定しなくても使用できます。
- 上記「プロキシ URL」「プロキシポート」の設定は、ISP（インターネットサービスプロバイダ）がプロキシサーバーを経由してインターネットに接続しているときだけ必要です。プロキシサーバーを使っているかどうかが不明な場合は、ご使用の ISP にお問い合わせください。

インターネットラジオを聴く

インターネットラジオ局を登録する

本機にインターネットラジオ局を登録するには、本機と同じ LAN に接続されているパソコンを使います。以下の準備がすべて完了している必要があります。

- 本機をホームネットワーク（LAN）に接続する（➔119 ページ）
- 本機のネットワーク設定をする（➔120 ページ）

！ヒント

- まだホームネットワーク（LAN）を構築されていない方、ホームネットワーク（LAN）をご存知でない方は、まず「ホームネットワーク（LAN）について」（➔119 ページ）をご覧ください。
- 本機は、PLS 形式、M3U 形式、および Podcast（RSS）形式のインターネットラジオ局に対応しています。これらの形式のインターネットラジオ局であっても、データの種類や再生フォーマットによって、再生できないこともあります。
- インターネットラジオ局を 40 局まで登録できます。

■ vTuner インターネットラジオ

あらかじめ、vTuner Internet Radio がプリセットの一つに登録されています。
vTuner Internet Radio を選択すれば、vTuner が提供しているポータルサイトを通じて、さまざまなインターネットラジオ局にアクセスすることができます。また、http://onkyo.vtuner.com/ であなたの製品の MAC アドレスを登録すると、カスタマイズすることができます。
MAC アドレスは、「本機のネットワーク設定をする」（➔120 ページ）を見て確認してください。
あらかじめ登録されているラジオ局の URL は編集しないでください。

1 本機の IP アドレスを確認する

IP アドレスは「IP アドレス」（➔121 ページ）で確認できます。

2 パソコンの電源を入れ、Internet Explorer® などのインターネットブラウザを開く

3 インターネットブラウザの URL 入力欄に本機の IP アドレスを入力する

（例 :http://192.168.x.x/」と入力
x.x には数字が入ります。）
本機の WEB Setup Menu が表示されます。

4 インターネットラジオ局を登録したいプリセット番号の [Name] 欄にラジオ局名、[URL] 欄にラジオ局の URL を入力する

5 [Save] をクリックして、入力した内容を保存する

これでインターネットラジオ局が登録されました。

！ヒント

登録内容が本機のインターネットラジオ画面に反映されるまで時間がかかることがあります。この場合は、インターネットラジオ画面でリモコンの RETURN ボタンを押し、ラジオ局のリスト表示を更新してください。

インターネットラジオを聴く

以下の手順でインターネットラジオを聴くことができます。インターネットラジオを聴くには、ホームネットワーク（LAN）経由でインターネットには接続できる環境が必要です。また、以下の準備がすべて完了している必要があります。

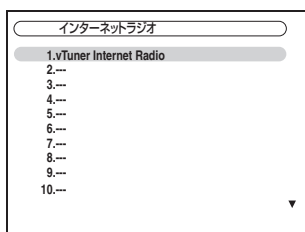
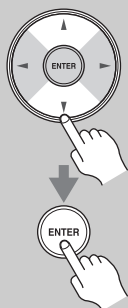
- 本機をホームネットワーク（LAN）に接続する（➔119 ページ）
- 本機のネットワーク設定をする（➔120 ページ）

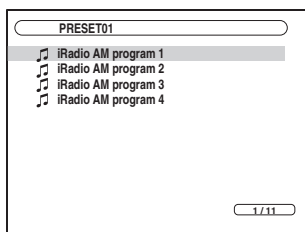
！ヒント

まだホームネットワーク（LAN）を構築されていない方、ホームネットワーク（LAN）をご存知でない方は、まず「ホームネットワーク（LAN）について」（➔119 ページ）をご覧ください。

NET/USB ボタンをくり返し押して、インターネットラジオを表示させる

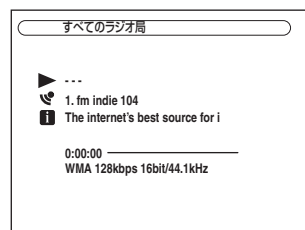
登録されているインターネットラジオ局がリスト表示されます。

！ヒント

- 本機の表示部に「NETWORK」が点灯します。点滅表示する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。
- お好みのインターネットラジオ局を登録することができます。登録方法は、122 ページをご覧ください。

▲/▼ ボタンを押してインターネットラジオ局を選び、ENTER を押す

放送されている番組がリスト表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して聴きたい番組を選び、ENTER を押す

選択した番組の情報が表示され、受信が開始されます。

！ヒント

- RETURN ボタンを押すと、受信を中止してひとつ前の画面に戻ります。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

以下の手順でネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生します。

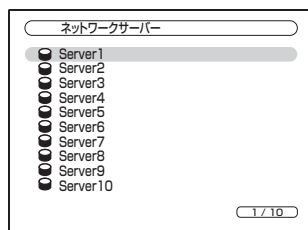
- 対応するネットワークサーバーについて(➔119 ページ)
- 対応する音楽ファイルのフォーマットについて(➔126 ページ)
- Windows Media® Player 11 について(➔125 ページ)

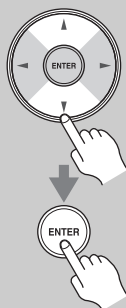
1 ネットワークサーバーを起動する

たとえばネットワークサーバーとしてWindows Media® Player 11 をお使いの場合は、パソコンの電源を入れ、Windows Media® Player 11 を開きます。

2 NET/USB ボタンをくり返し押して、ネットワークサーバーを表示させる

ネットワークサーバーのリストが表示されます。

!ヒント

- 本機の表示部に「NETWORK」が点灯します。点滅表示する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。
- 画面表示を更新するには、RETURN ボタンを押します。

3 ▲/▼ ボタンを押して、ネットワークサーバーを選び、ENTER ボタンを押す

ネットワークサーバー内のフォルダーがリスト表示されます。

!ヒント

- サーチ機能に対応していないネットワークサーバーでは、サーチ機能は働きません。
- ネットワークサーバーの共有設定によっては、内容を表示できない場合があります。ネットワークサーバーの取扱説明書をご覧ください。

4 ▲/▼ ボタンを押して再生したい音楽ファイルが入っているフォルダを選び、ENTER ボタンを押す

再生可能な音楽ファイルがリスト表示されます。

5 ▲/▼ ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、ENTER ボタンまたは ►（再生）ボタンを押す

または

選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

!ヒント

- RETURN ボタンを押すと、ひとつ前の画面に戻ります。

ランダム再生について

- 通常の再生では、再生中の音楽ファイルと同一フォルダ内にある音楽ファイルをリスト順に再生していきますが、ランダム再生では、順不同で再生することができます。
- ランダム再生するには、音楽ファイルの再生画面（再生中、停止中、一時停止中）でリモコンの **RANDOM ボタン**を押します。
- 同一フォルダ内の音楽ファイルをひと通り重複することなく再生し終わると、1 度目とは違う順序で再び順不同で再生します。
- ランダム再生の対象となるのは、リストの 1 〜 20000 番目までです。同一フォルダ内に 20001 以上の音楽ファイルがある場合、リストの 20001 番以降はランダム再生では再生されません。
- ランダム再生とリピート再生を同時に行うことはできません。ランダム再生中にリモコンの REPEAT ボタンを押すと、ランダム再生は解除されます。

リピート再生について

- リピート再生では、再生する音楽ファイルの範囲とくり返し再生するかどうかを選択できます。
- リピート再生には、3 つのモードがあります。

Repeat1: 再生中の音楽ファイルだけをくり返し再生します。

Repeat Foldor: 再生中の音楽ファイルと同一フォルダ内にある音楽ファイルをリスト順にくり返し再生します。リストの最後の音楽ファイルを再生し終わると、フォルダー内のリストの先頭に戻って再生します。

Repeat All: ネットワークサーバー内のすべての音楽ファイルをリスト順にくり返し再生します。あるフォルダ内の音楽ファイルがすべて再生し終わると、次のフォルダ内にある音楽ファイルの再生を開始します。ネットワークサーバー内のすべての音楽ファイルを再生し終わると、サーバー内のリストにある先頭の曲に戻って再生します。
リピート再生するには、音楽ファイルの再生画面（再生中、停止中、一時停止中）でリモコンの **REPEAT ボタン**を押します。ボタンを押すたびにモードが切り換わり、Off にするとリピート再生は解除されます。
本機をスタンバイ状態にしたり、本機の電源をオフにしたりすると、Repeat All モードになります。

ご注意

「No Item.」というメッセージが出る場合は、サーバーから情報が取得できなかったことを意味しています。この場合、サーバー、ネットワーク、接続を確認してください。

Windows Media® Player 11 の設定をする

再生したい音楽ファイルが入っているネットワークサーバーを設定します。
本機は、

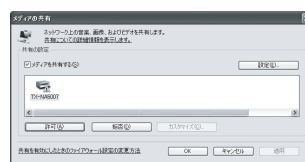
- Windows Media® Player 11
- DLNA 準拠サーバー

に対応しており、設定方法は使用するネットワークサーバーによって異なります。
詳細については、ご使用になるネットワークサーバーの取扱説明書をご覧ください。
ネットワークサーバーによっては、本機からの認識および楽曲再生ができない場合があります。
ここでは、Windows Media® Player 11 を例として説明します。

以下の操作の前に、本機の「本機のネットワーク設定をする」（120 ページ）を行ってから、本機をホームネットワーク（LAN）に接続し、本機の電源を入れてください。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media® Player 11 を開く**

2 **「ライブラリ」メニューから「メディアの共有」を選ぶ**
次のダイアログボックスが表示されます。

3 **「メディアを共有する」チェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックする**
対応機器がダイアログボックスに表示されます。

4 **TX-NA5007 を選んで、「許可」をクリックする**
TX-NA5007 のアイコンがチェックの付いたものになります。

5 **「許可」をクリックして、ダイアログボックスを閉じる**
これで音楽ファイルを再生する準備が整いました。

対応音声フォーマット

- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次の通りです。
- 下記のフォーマットであっても再生できる音楽ファイルは、ネットワークサーバーに依存します。たとえば、Windows Media® Player 11 をお使いの場合、パソコンに入っているすべての音楽ファイルが再生できるわけではなく、Windows Media® Player 11 のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。
- VBR（可変ビットレート）で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。

WAV: (*.wav/.WAV)
対応サンプリングレート：8 kHz , 11.025 kHz, 12 kHz, 16 kHz, 22.05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz, 64 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz
量子化ビット：8 bit, 16 bit, 24 bit
チャンネル数：2

WMA: (*.wma/.WMA)
WMA DRM 対応（ネットワークサーバー時のみ）
WMA Pro/Voice 非対応
対応フォーマット：Windows Media® Audio V9.0
対応サンプリングレート：8 kHz, 11.025 kHz, 12 kHz, 16 kHz, 22.05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
対応ビットレート：5 ～ 320 kbps および VBR
チャンネル数：2
著作権保護されたファイルは、著作権保護機能を解除してください。

WMA Lossless: (*.wma/.WMA)
対応サンプリングレート：44.1 kHz, 48 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz
対応ビットレート：5 ～ 320 kbps および VBR
量子化ビット： 16 bit, 24 bit
チャンネル数：2

MP3: (*.mp3/.MP3)
対応フォーマット：MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
対応サンプリングレート：8 kHz, 11.025 kHz, 12 kHz, 16 kHz, 22.05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
対応ビットレート：8 ～ 320 kbps および VBR
チャンネル数：2

AAC: (*.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GP/.3G2)
対応フォーマット：MPEG-2/MPEG-4 Audio
対応サンプリングレート：8 kHz, 11.025 kHz, 12 kHz, 16 kHz, 22.05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz, 64 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz
対応ビットレート：8 ～ 320 kbps および VBR
チャンネル数：2

FLAC: (*.flac/.FLAC)
対応サンプリングレート：8 kHz, 11.025 kHz, 12 kHz, 16 kHz, 22.05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz, 64 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz
量子化ビット：8 bit, 16 bit, 24 bit
チャンネル数：2

Ogg Vorbis: (*.ogg/.OGG)
対応サンプリングレート：8 kHz, 11.025 kHz, 12 kHz, 16 kHz, 22.05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz
対応ビットレート：48 ～ 500 kbps および VBR
チャンネル数：2

LPCM:
対応サンプリングレート：8 kHz, 11.025 kHz, 12 kHz, 16 kHz, 22.05 kHz, 24 kHz, 32 kHz, 44.1 kHz, 48 kHz, 64 kHz, 88.2 kHz, 96 kHz
量子化ビット：8 bit, 16 bit, 24 bit
チャンネル数：2

サーバー要件

本機は、**Windows Media Player 11、DLNA 準拠サーバー**に対応しています。
Windows Vista® では Windows Media Player 11 が標準でインストールされています。
Windows Media® Player 11 for Windows XP はマイクロソフト株式会社のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
ネットワークサーバーは本機と同じネットワークに接続していなければなりません。
1 フォルダにつき 20000 曲まで、フォルダは 16 階層まで対応しています。

DLNA について

DLNA とは、Digital Living Network Alliance の略称で、ホームネットワーク（LAN）によってパソコンやゲーム機、デジタル家電を相互に接続し、音楽や画像、動画などのデータをやりとりするための標準化を進めている団体の名称です。本機は、DLNA ガイドライン V1.5 に準拠しています。

USB ストレージ内の音楽ファイルを再生する

以下の手順で USB ストレージ内（USB メモリーなど）の音楽ファイルを再生します。

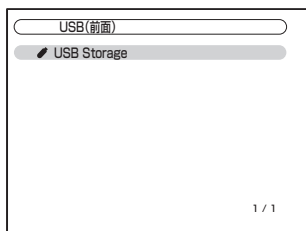
- 本機では USB Mass Storage Class 規格に対応している USB ストレージを使用できます。
- USB ストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32 に対応しています。
- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは 126 ページの「対応音声フォーマット」をご覧下さい。

1

本機の前面パネルまたは後面の USB 端子に音楽ファイルが入った USB ストレージを接続する

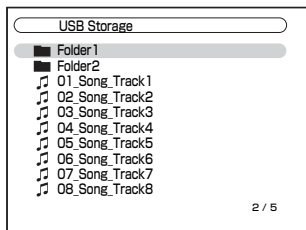
2

AMP ボタンを押してから Input Selector の NET/USB ボタンをくり返し押して、「USB（前面）」または「USB（後面）」を表示させる

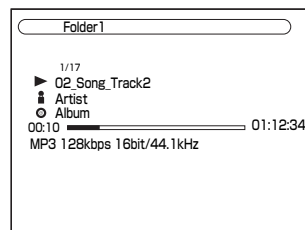
接続されている USB ストレージが表示されます。

3

ENTER ボタンを押す

USB ストレージ内のフォルダーや音楽ファイルがリスト表示されます。

4

▲/▼ ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、ENTER ボタンを押す

選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

！ヒント

- RETURN ボタンを押すと、演奏を中止してひとつ前の画面に戻ります。
- ランダム再生、リピート再生については 124、125 ページをご覧ください。

ご注意

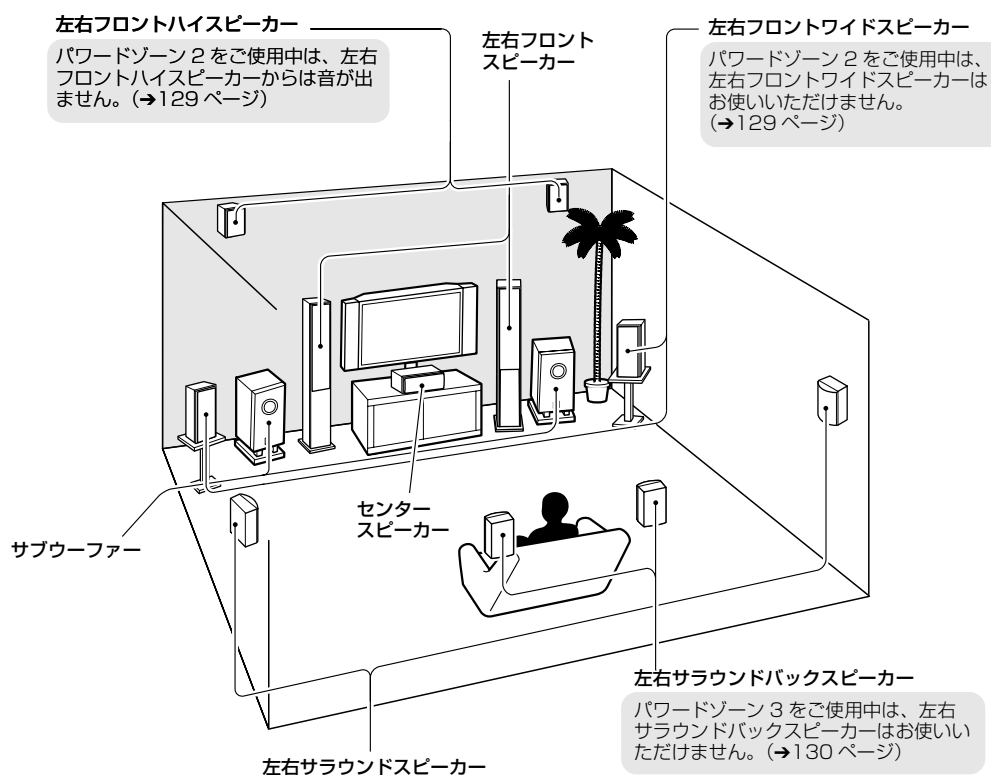
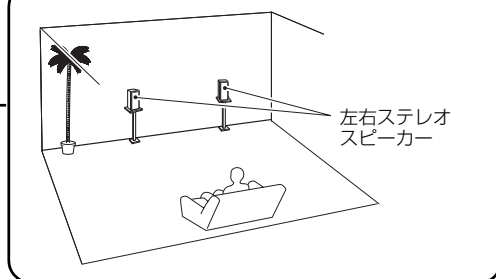
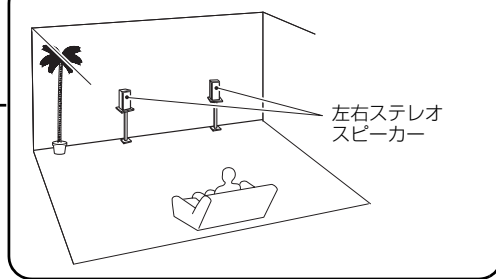
- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- USB 対応オーディオプレーヤーと本機を接続した場合、オーディオプレーヤーの画面と本機の画面が異なる場合があります。またオーディオープレーヤーに依存する管理機能（音楽ファイルの分類、ソート、付加情報など）は本機では使用できません。
- 本機の USB 端子にパソコンを接続しないでください。本機の USB 端子にはパソコンから音声を入力できません。
- USB カードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USB ストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数の USB ストレージとして認識されます。
- USB ストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USB ストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USB ストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USB ストレージに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。
- 本機の USB 端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- USB ストレージに AC アダプターが付属している場合は、AC アダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- 電池で動作するオーディオプレーヤーを使う場合は、電池の残量が充分にあることを確認してください。
- 本機はハブおよびハブ機能付き USB 機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- 本機はセキュリティ機能付き USB メモリーに対応していません。

別室（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

Zone2/3 とは

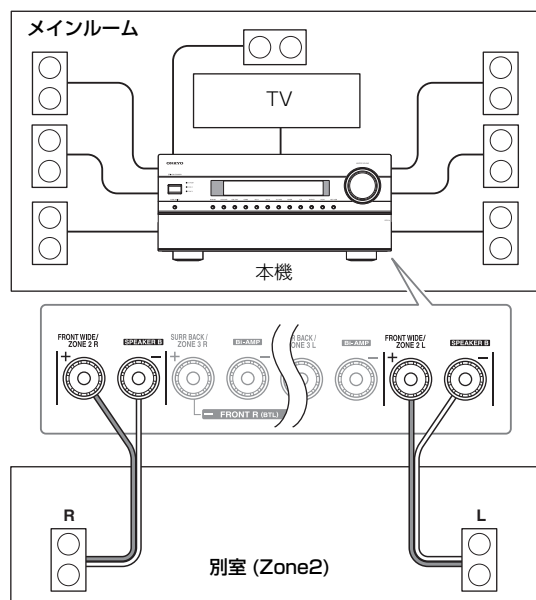
本機では、メインルーム、Zone2/3 でスピーカー接続をして、音楽鑑賞をしていただけます。
メインルームでは 9.2 チャンネルまでのサラウンド再生、Zone2/3 ではステレオ再生をご利用いただけます。

メインルーム : 9.2 チャンネルまでのサラウンド再生が可能です。（➔16 ページ）
ドルビー、DTS または THX リスニングモードなどをお楽しみいただけます。（➔74 ～ 84 ページ）
* パワードゾーン 2/3 をご使用の場合は、7.2 チャンネルでの再生になります。（➔129 ページ、130 ページ）

Zone2/3: 2 チャンネルステレオ再生が可能です。（➔129 ページ、130 ページ）
* Zone2/3 ではリスニングモードをご利用できません。
* Zone2/3 ではアナログ音声のみ出力されます。

Zone2 接続と設定方法

別室用のスピーカーやアンプを接続して Zone2 で異なるソースをお楽しみいただくことができます。
Zone2 でお楽しみいただくには、2 つの方法があります。

スピーカーだけを接続する場合

- メインルームで 7.2 チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。別室のスピーカーには本機から出力される (powered) ので、これをパワードゾーン 2 と呼びます。パワードゾーン 2 をオフにすると、メインルームで 9.2 チャンネル再生できます。音量は本機で調整します。

1 別室で使用するスピーカーを本機の FRONT WIDE/ZONE 2 L/R 端子に接続する

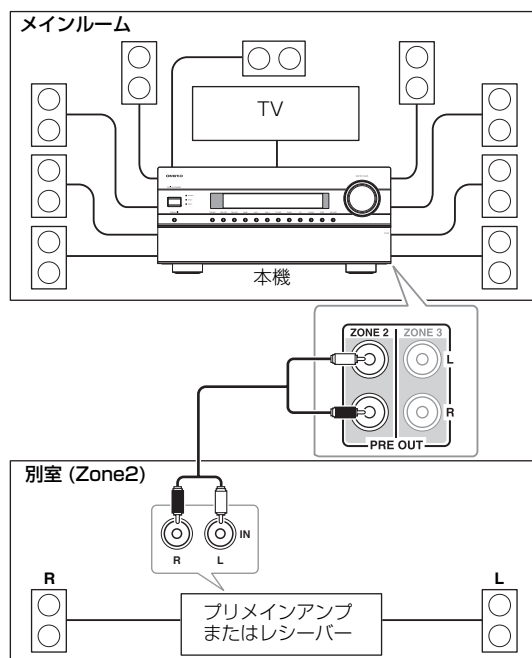
2 セットアップメニューの設定をする

「パワードゾーン 2」設定を“有効”にします。
(➔131 ページ)

ご注意

「スピーカータイプ（フロント B）」を“通常”、“バイアンプ”または“BTL”に設定している場合は、「パワードゾーン 2」を設定できません。(➔55 ページ)

プリメインアンプまたはレシーバーを接続する場合

- メインルームで 9.2 チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。
- 音量は別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーで調整してください。音量調節できないパワーアンプと接続するときは、本機で調整することもできます。

1 別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーを本機に接続する

本機の ZONE 2 PRE OUT L/R 端子にプリメインアンプまたはレシーバーの音声入力端子を接続してください。

2 別室（Zone2）で使用するスピーカーを別室（Zone2）のプリメインアンプまたはレシーバーのスピーカー端子に接続する

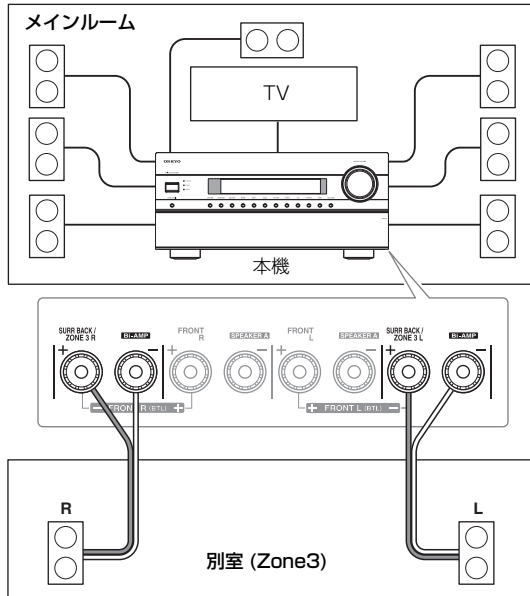
3 セットアップメニューの設定をする

音量調整できないパワーアンプと接続するときは、「ゾーン 2 出力」の設定を“可変”にすると、本機で音量を調整することができます。
(➔132 ページ)
プリメインアンプやレシーバーと接続するときは、お買い上げ時の設定のままでご使用いただけます。

Zone3 接続と設定方法

別室用のスピーカーやアンプを接続して Zone3 で異なるソースをお楽しみいただくことができます。
Zone3 でお楽しみいただくには、2 つの方法があります。

スピーカーだけを接続する場合

- メインルームで 7.2 チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。別室のスピーカーには本機から出力される (powered) ので、これをパワードゾーン 3 と呼びます。パワードゾーン 3 をオフにすると、メインルームで 9.2 チャンネル再生できます。音量は本機で調整します。

1 別室で使用するスピーカーを本機の SURR BACK/ZONE 3 L/R 端子に接続する

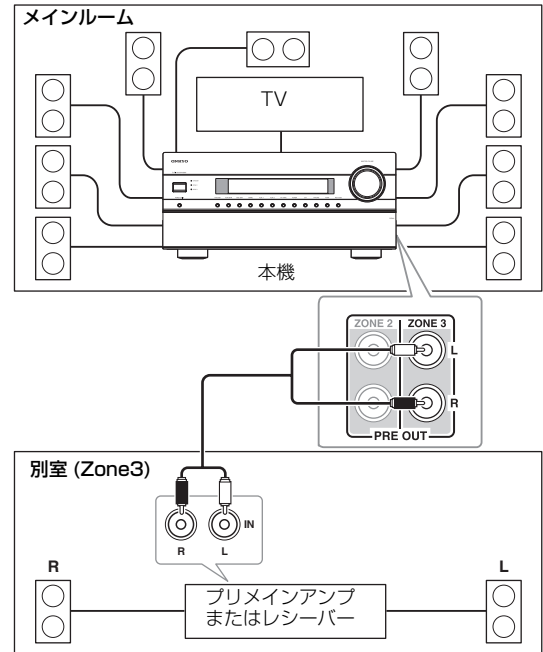
2 セットアップメニューの設定をする

「パワードゾーン 3」設定を“有効”にします。
(➔131 ページ)

ご注意

「スピーカータイプ（フロント A）」または「スピーカータイプ（フロント B）」を“バイアンプ”または“BTL”に設定している場合は、「パワードゾーン 3」を設定できません。
(➔55 ページ)

プリメインアンプまたはレシーバーを接続する場合

- メインルームで 9.2 チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。
- 音量は別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーで調整してください。音量調節できないパワーアンプと接続するときは、本機で調整することもできます。

1 別室で使用するプリメインアンプまたはレシーバーを本機に接続する

本機の ZONE 3 PRE OUT L/R 端子にプリメインアンプまたはレシーバーの音声入力端子を接続してください。

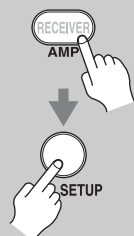
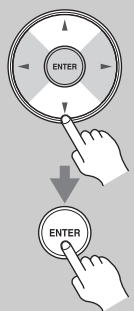
2 別室（Zone3）で使用するスピーカーを別室（Zone3）のプリメインアンプまたはレシーバーのスピーカー端子に接続する

3 セットアップメニューの設定をする

音量調整できないパワーアンプと接続するときは、「ゾーン 3 出力」の設定を“可変”にすると、本機で音量を調整することができます。
(➔132 ページ)
プリメインアンプやレシーバーと接続するときは、お買い上げ時の設定のままでご使用いただけます。

パワードゾーン 2/3 の設定をする

本機に Zone2/Zone3 用のスピーカーを接続したときは（129、130 ページ「スピーカーだけを接続する場合」）、この設定を“有効”にします。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

▲/▼ ボタンを押して「2. スピーカー設定」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

2. スピーカー設定

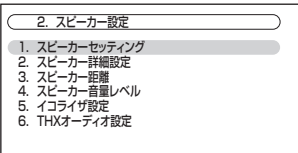
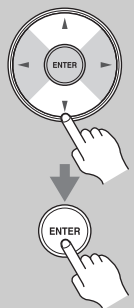
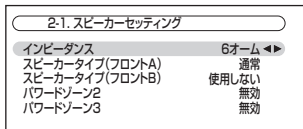
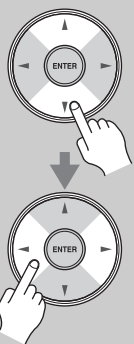
1. スピーカーセッティング
2. スピーカー詳細設定
3. スピーカー距離
4. スピーカー音量レベル
5. イコライザ設定
6. THXオーディオ設定

3

▲/▼ ボタンを押して「1. スピーカーセッティング」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

2-1. スピーカーセッティング

インピーダンス	6オーム ◄►
スピーカータイプ(フロントA)	通常
スピーカータイプ(フロントB)	使用しない
パワードゾーン2	無効
パワードゾーン3	無効

4

▲/▼ ボタンを押して「パワードゾーン 2」または「パワードゾーン 3」を選び、◄/► ボタンで設定を選ぶ

無効：Zone2/Zone3 スピーカーは働きません。（お買い上げ時の設定）

有効：Zone2/Zone3 スピーカーが働きます。

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

ご注意

- 「スピーカータイプ（フロント B）」を“通常”、“バイアンプ”または“BTL”に設定している場合は、「パワードゾーン 2 」を設定できません。（➔55 ページ）
- 「スピーカータイプ（フロント A）」または「スピーカータイプ（フロント B）」を“バイアンプ”または“BTL”に設定している場合は、「パワードゾーン 3 」を設定できません。（➔55 ページ）

ゾーン出力の設定をする

本機に音量調整機能の無いパワーアンプを接続したときは、ゾーン 2 出力 / ゾーン 3 出力設定を「可変」にします。

1

AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる

2

▲/▼ ボタンを押して「7. ハードウェア設定」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

サブメニュー画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「2. マルチゾーン」を選び、ENTER ボタンを押す

設定画面が表示されます。

7-2. マルチゾーン

ゾーン2出力	固定 ◄►
ゾーン2最大ボリューム値	オフ
ゾーン2電源オン時ボリューム値	最終値
ゾーン3出力	固定
ゾーン3最大ボリューム値	オフ
ゾーン3電源オン時ボリューム値	最終値

4

▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで調節する

5

SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

■ ゾーン 2 出力

Zone2 スピーカーを音量調整機能がないアンプに接続する場合、「ゾーン 2 出力」設定を「可変」に設定します。本機で Zone2 の音量、バランスおよびトーンの設定ができます。

固定：ZONE 2 PRE OUT 端子は出力の音量が固定されますので、Zone2 の音量は Zone2 用のアンプで調整します。（お買い上げ時の設定）

可変：Zone2 の音量を本機で調整することができます。

■ ゾーン 2 最大ボリューム値

Zone2 の音量が大きくなり過ぎないよう最大音量レベルを設定できます。
108 ページの「ボリューム表示」を“絶対値”にしているとき、設定範囲は 50 ～ 99 です。
108 ページの「ボリューム表示」を“相対値”にしているとき、設定範囲は － 32dB ～ +17dB です。設定しないときは「オフ」を選びます。

■ ゾーン 2 電源オン時ボリューム値

本機の電源を入れたときの Zone2 の音量を設定します。
108 ページの「ボリューム表示」を“絶対値”にしているとき、最終値、最小、1 ～ 99、最大の範囲内で設定できます。
108 ページの「ボリューム表示」を“相対値”にしているとき、最終値、－∞ dB、－ 81dB ～ +18dB の範囲内で設定できます。最後に本機の電源を切ったときの音量を使用するときは「最終値」を選びます。

■ ゾーン 3 出力

Zone3 スピーカーを音量調整機能がないアンプに接続する場合、「ゾーン 3 出力」設定を「可変」に設定します。本機で Zone3 の音量、バランスおよびトーンの設定ができます。

固定：ZONE 3 PRE OUT 端子は出力の音量が固定されますので、Zone3 の音量は Zone3 用のアンプで調整します。（お買い上げ時の設定）

可変：Zone3 の音量を本機で調整することができます。

■ ゾーン 3 最大ボリューム値

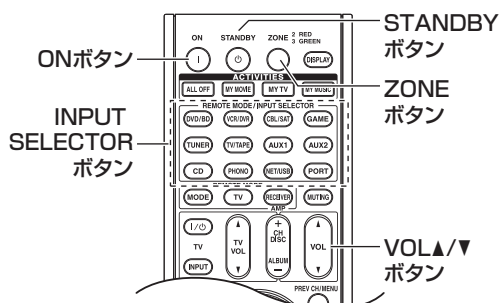
Zone3 の音量が大きくなり過ぎないよう最大音量レベルを設定できます。
108 ページの「ボリューム表示」を“絶対値”にしているとき、設定範囲は 50 ～ 99 です。
108 ページの「ボリューム表示」を“相対値”にしているとき、設定範囲は－ 32dB ～ +17dB です。設定しないときは「オフ」を選びます。

■ ゾーン 3 電源オン時ボリューム値

本機の電源を入れたときの Zone3 の音量を設定します。
108 ページの「ボリューム表示」を“絶対値”にしているとき、最終値、最小、1 ～ 99、最大の範囲内で設定できます。
108 ページの「ボリューム表示」を“相対値”にしているとき、最終値、－∞ dB、－ 81dB ～ +18dB の範囲内で設定できます。最後に本機の電源を切ったときの音量を使用するときは「最終値」を選びます。

Zone2/3 で音楽を鑑賞する

- Zone2/3 では、デジタル信号の再生はできません。アナログ信号のみ再生できます。入力を選んでも音が出ないときは、機器がアナログ入力端子に接続されているか確認してください。
- FRONT WIDE/ZONE 2 L/R 端子に接続したスピーカーを使用しているときは、メインルームでフロントハイまたはフロントワイドを使用するリスニングモード（ドルビー Pro Logic IIz Height、Audyssey Dynamic Surround Expansion™ など）は選べません。
- SURR BACK/ZONE 3 L/R 端子に接続したスピーカーを使用しているときは、メインルームでサラウンドバックスピーカーを使用するリスニングモード（ドルビー EX、DTS-ES、THX Ultra2 Cinema など）は選べません。
- Zone2 あるいは Zone3 への出力がオンになっているときは、連動機能は働きません。
- Zone2 あるいは Zone3 への出力がオンになっているときは、スタンバイ状態での消費電力が増えます。

リモコンで操作する

1 Zone2 または Zone3 への出力をオンにする

ZONE

ON

ZONE ボタンをくり返し押して Zone2 または Zone3 を選び、本機にリモコンを向けて ON ボタンを押します。本体の ZONE 2 または ZONE 3 インジケーターが点灯します。

！ヒント

リモコンの ZONE ボタンは、Zone2 を選んでいるときは赤点灯し、Zone3 を選んでいるときは緑点灯します。

ご注意

- 「パワードゾーン 2」または「パワードゾーン 3」設定が有効になっている場合、Zone 2/3 の出力をオンにすると、メインルームは 7.2ch 再生になります。

- Zone2/3 を選択するために ZONE ボタンをくり返し押しても、その後に他の REMOTE MODE ボタンを押して切り換えた場合は、直前に選択した Zone が維持されます。

2 入力を選ぶ

ZONE

INPUT SELECTOR

ZONE ボタンをくり返し押して Zone2 または Zone3 を選んでから、INPUT SELECTOR ボタンを押します。

3 音量を調整する

ZONE

ZONE ボタンをくり返し押して Zone2 または Zone3 を選んでから、VOL▲/▼ ボタンを押して調整します。

ご注意

- プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。
- Zone2 あるいは Zone3 の音量を一時的に小さくするには、ZONE ボタンをくり返し押してから、MUTING ボタンを押します。解除するには、再度 ZONE ボタンをくり返し押してから、MUTING ボタンを押すか、音量を調整します。

4 Zone2 または Zone3 への出力をオフにする

ZONE

STANDBY

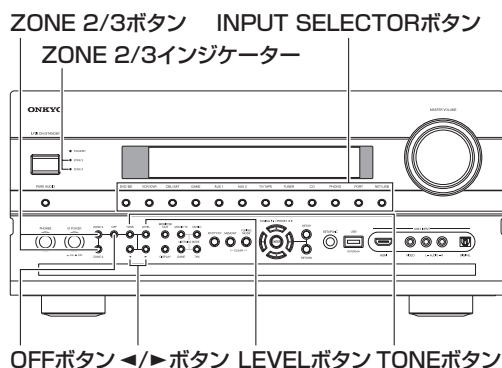
ZONE ボタンをくり返し押して Zone2 または Zone3 を選んでから、STANDBY ボタンを押します。

別室（Zone2/3）で音楽を鑑賞する

本体で操作する

ZONE 2/3ボタン　INPUT SELECTORボタン
ZONE 2/3インジケーター

OFFボタン ◄/►ボタン LEVELボタン TONEボタン

1

本体の電源をオンにしてから、Zone（ゾーン） 2 または Zone 3 の入力を選ぶ

ZONE2 ボタン または ZONE3 ボタンで Zone2 または Zone3 への出力をオンにします。オンにしたあと、ZONE2/3 インジケーターが点滅している間に INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター） ボタンを押して、入力を選びます。

Zone 2 または Zone 3 とメインルームで同じ入力にするには

ZONE2 ボタンまたは ZONE3 ボタンを 2 回押して、
「Zone2 Selector：Source（ソース）」または「Zone3 Selector：Source」と表示させます。

2

音量を調整する

ZONE 2 ボタンまたは ZONE 3 ボタンを押してから、ZONE2/3 インジケーターが点滅している間に LEVEL（レベル） ボタンを押して、◄/► ボタンで音量を調整します。

ご注意
- プリメインアンプまたはレシーバーを接続している場合は、接続した機器側で音量を調整します。
- Zone2/3 の音量は「ゾーン 2 出力」または「ゾーン 3 出力」設定が“固定”のときは調整できません。
- Zone2/3 の音量は「パワードゾーン 2」または「パワードゾーン 3」設定が“無効”のときは調整できません。

3

Zone2 または Zone3 をオフにする

ZONE2 または ZONE3 ボタンを押すと、インジケーターが点滅します。
OFF（オフ） ボタンを押すと、インジケーターが消えて Zone2/3 がオフになります。

バランスを調整する

1

ZONE 2 ボタンまたは ZONE 3 ボタンを押す

2

TONE（トーン） ボタンをくり返し押して、「Balance（バランス）」を選ぶ

3

◄/► ボタンを押して、調整する

左右のスピーカーのバランスを調整します。
左右とも 0dB から＋ 10dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。

ご注意
- Zone2/3 のバランスは「ゾーン 2 出力」または「ゾーン 3 出力」設定が“固定”のときは調整できません。
- Zone2/3 のバランスは「パワードゾーン 2」または「パワードゾーン 3」設定が“無効”のときは調整できません。

音質を調整する

1

ZONE 2 ボタンまたは ZONE 3 ボタンを押す

2

TONE ボタンをくり返し押して、「Bass（バス）（低音）」または「Treble（トレブル）（高音）」を選ぶ

3

◄/► ボタンを押して、調整する

お買い上げ時は「0dB」ですが、－ 10dB から＋ 10 dB の範囲内で 2dB ずつ調整できます。

ご注意
- Zone2/3 の音質は「ゾーン 2 出力」または「ゾーン 3 出力」設定が“固定”のときは調整できません。
- Zone2/3 の音質は「パワードゾーン 2」または「パワードゾーン 3」設定が“無効”のときは調整できません。

本機のリモコンで他の製品を操作する

本機に付属のリモコン（RC-747M）で、他社の製品を操作したり、連続した操作を学習させることができます。操作するには、次の 3 つの方法があります。

- **他機（DVD、テレビ、ビデオなど）のリモコンコードを登録する**
- **他機のリモコンから指定した操作を学習させる（➔152 ページ）**
- **マクロ機能を使って連続した操作を学習させる（➔153 ページ）**

■ 本機に付属のリモコンに登録されているコードについて

REMOTE MODE（リモート モード）ボタンには、あらかじめ下記機器のコードが登録されていますので、これらの機器が操作できます。お好みで他の機器のコードを登録することもできます。登録のしかたについて詳しくは本ページおよび 138 ページをご覧ください。

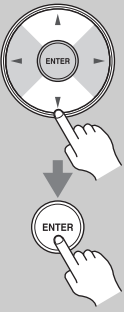
DVD/BD **DVD/BD ボタン**：オンキヨー製 DVD プレーヤー

CD **CD ボタン**：オンキヨー製 CD プレーヤー

TV/TAPE **TV/TAPE（テレビ テープ）ボタン**：オンキヨー製カセットデッキ (RI 専用)

リモコンコードを検索する

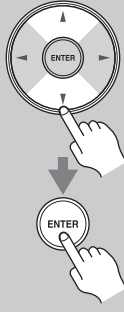
OSD セットアップメニューから、最適なリモコンコードを検索することができます。

ご注意

- この機能は、OSD セットアップメニューのみ使用して行うことができます。

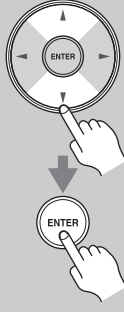
1

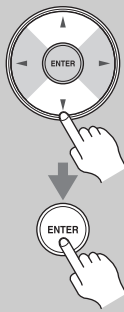
AMP（アンプ）ボタンを押してから SETUP（セットアップ）ボタンを押して、メインメニューを表示させる

メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2

▲/▼ ボタンを押して「8. リモコン設定」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

設定画面が表示されます。

3

▲/▼ ボタンを押して「1. リモコン登録」を選び、ENTER ボタンを押す

4

▲/▼ ボタンを押してリモートモードを選び、ENTER ボタンを押す

カテゴリーの選択画面が表示されます。

5

▲/▼ ボタンを押してカテゴリーを選び、ENTER ボタンを押す

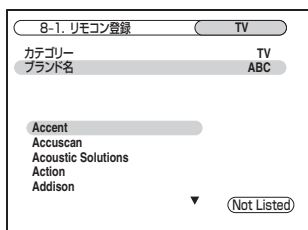
ブランド名の入力画面が表示されます。

➡ 手順 *6* に続く

6

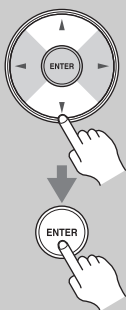
▲/▼/◄/► ボタンを押して文字を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

ブランド名の入力を、1 文字目から 3 文字目までくり返してください。
3 文字目を入力したあと「検索」を選び、ENTER ボタンを押してください。
検索後、ブランド名のリストが表示されます。

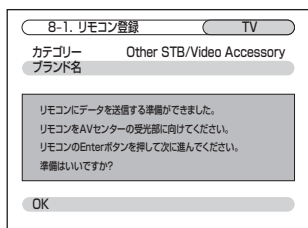
8-1. リモコン登録　TV
カテゴリー　TV
ブランド名　ABC
Accent
Accuscan
Acoustic Solutions
Action
Addison
▼　Not Listed

ブランド名が表示されなかった場合：

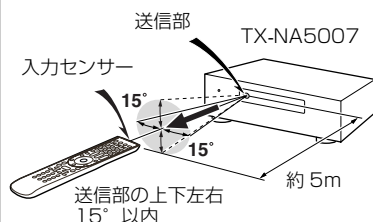
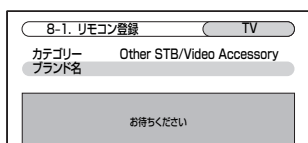
► ボタンを押して「Not Listed」を選び、ENTER ボタンを押す

ブランド名入力画面が表示されます。

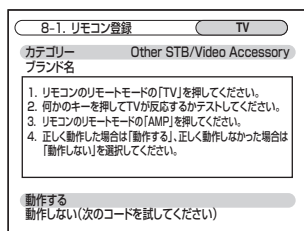
7

▲/▼ ボタンを押してブランド名を選び、ENTER ボタンを押す

検索後、確認画面が表示されます。

8-1. リモコン登録　TV
カテゴリー　Other STB/Video Accessory
ブランド名
リモコンにデータを送信する準備ができました。
リモコンをAVセンターの受光部に向けてください。
リモコンのEnterボタンを押して次に進んでください。
準備はいいですか?
OK

リモコンに送信するときは、下図のように入力センサーを本体の送信部に向けてください。

リモコンの ENTER ボタンを押してください。

8-1. リモコン登録　TV
カテゴリー　Other STB/Video Accessory
ブランド名
お待ちください

リモコンへの送信が成功すると、操作手順が表示されますので、試してみてください。

8-1. リモコン登録　TV
カテゴリー　Other STB/Video Accessory
ブランド名
1. リモコンのリモートモードの「TV」を押してください。
2. 何かのキーを押してTVが反応するかテストしてください。
3. リモコンのリモートモードの「AMP」を押してください。
4. 正しく動作した場合は「動作する」、正しく動作しなかった場合は「動作しない」を選択してください。
動作する
動作しない(次のコードを試してください)

8

操作できるときは、AMP（アンプ）ボタンを押し、▲/▼ ボタンを押して「動作する」を選び、ENTER ボタンを押す

「リモコン登録」画面が表示されます。

操作できないときは、▲/▼ ボタンを押して「動作しない（次のコードを試してください)」を選び、ENTER ボタンを押す

次のコードが検索されます。

➡ 手順 7 をくり返してください。

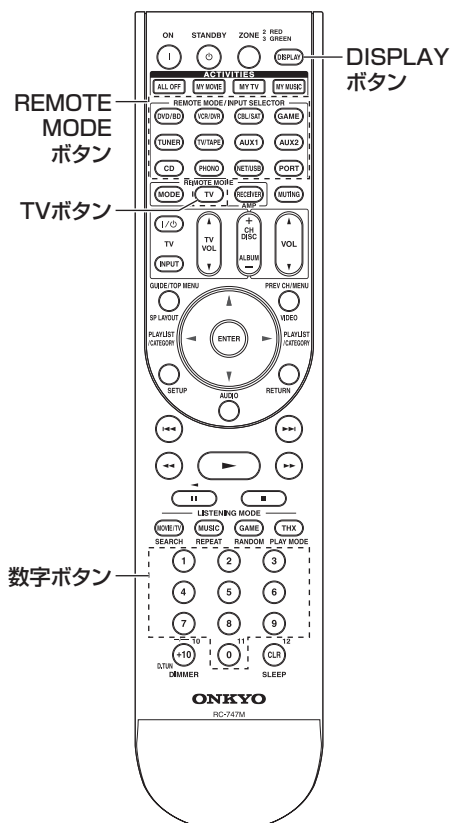
9

SETUP（セットアップ）ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

！ヒント

- 本体の SETUP ボタン、▲/▼/◄/► ボタン、ENTER ボタンでも操作することができます。

リモコンコードを登録する

1 **登録する他機のメーカー別リモコンコード（5 桁）を 139 ～ 141 ページのリモコンコード表で確かめる**

2 **登録したい REMOTE MODE ボタンを押しながら、DISPLAY ボタンを 3 秒以上押す**

REMOTE MODE
DVD/BD VCR/DVR
CBL/SAT GAME
TUNER TV/TAPE
AUX1 AUX2
PORT CD
PHONO NET/USB
TV
DISPLAY
（3 秒以上）

REMOTE MODE ボタンが点灯します。

- AMP ボタンには、登録できません。
- TV ボタンには、テレビのコードのみ登録できます。
- REMOTE MODE ボタンは、入力切り換えも兼ねています。
  REMOTE MODE ボタンにコードを登録するときは、操作したい機器を接続している端子と同じモードにコードを登録してください。
  たとえば、CD プレーヤーを CD 入力端子に接続しているときは、CD REMOTE MODE ボタンにその CD プレーヤーのコードを登録してください。

3 **30 秒以内に、数字ボタンで 5 桁のリモコンコードを入力する**

REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅し、登録が完了します。

- 正しく登録できなかったときは REMOTE MODE ボタンがゆっくりと 1 回点滅します。この場合は、もう一度初めから操作してください。

オンキヨー製品の RI 専用リモコンコードを登録する

1	本機とオンキヨー製機器が RI ケーブルとオーディオ用ピンコードでアナログ接続されていることを確認する（➔45 ページ）
2	137 ページの手順 *2* の操作をする
3	数字ボタンで REMOTE MODE ボタンに RI 専用リモコンコードを登録する DVD/BD REMOTE MODE ボタン： 31612：オンキヨー製 DVD プレーヤーの RI 専用リモコンコード CD REMOTE MODE ボタン： 71327：オンキヨー製 CD プレーヤーの RI 専用リモコンコード TV/TAPE REMOTE MODE ボタン： 42157：オンキヨー製カセットデッキの RI 専用リモコンコード（お買い上げ時） PORT REMOTE MODE ボタン： 82351：オンキヨー製 iPod ドック UP-A1（お買い上げ時） TUNER REMOTE MODE ボタン： 51805：オンキヨー製チューナー
4	本機のリモコン受光部に向けて各機器を操作する ご注意 • オンキヨー製 iPod ドックを TV/TAPE 端子や VCR/DVR 端子、GAME 端子に接続しているときは、接続した機器に合わせて入力を切り換える必要があります。（➔57 ページ）

直接オンキヨー製機器を操作するリモコンコードを登録するときは、下記のコードを登録してください。

DVD/BD REMOTE MODE ボタン：
30627：オンキヨー製 DVD プレーヤーのリモコンコード（お買い上げ時）

CD REMOTE MODE ボタン：
71817：オンキヨー製 CD プレーヤーのリモコンコード（お買い上げ時）

TV/TAPE REMOTE MODE ボタン：
70868：オンキヨー製 MD レコーダー
71323：オンキヨー製 CD レコーダー

REMOTE MODE ボタンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには

以下の操作をしてください。

1. 初期設定に戻したい REMOTE MODE ボタンを押しながら、AUDIO ボタンを 3 秒以上押します。
2. 30 秒以内にもう一度 REMOTE MODE ボタンを押すと、REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅して初期設定に戻ります。

ご注意

他機のリモコンから学習した操作も消去されます。（➔152 ページ）

リモコンを初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すには

以下の操作をしてください。

1. AMP ボタンを押しながら、AUDIO ボタンを 3 秒以上押します。
2. 30 秒以内にもう一度 AMP ボタンを押すと、AMP が 2 回点滅して初期設定に戻ります。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、1 つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

■ 衛星放送チューナー / ケーブルテレビチューナー / 地上デジタルチューナー

ブランド名	コード番号
DX アンテナ	01500
富士通ゼネラル	01497
日立	00008, 00749, 00819, 01284
LG	00144, 01414
NEC	01496
パナソニック	00000, 00008, 00107, 00144, 01488, 00247, 00701, 00847, 01304, 01982
フィリップス	00317, 00817, 01305, 00099, 00173, 00200, 00722, 00749, 00775, 00819, 00847, 00853, 00887, 01076, 01114, 01142, 01442, 01672, 01749
パイオニア	00144, 00533, 00877, 01021, 01500, 01877, 00329, 00853, 01142, 01308, 01442
サムスン	00000, 00144, 01060, 01666, 00853, 01108, 01142, 01206, 01276, 01377, 01442, 01458, 01570
Scientific Atlanta	00000, 00008, 00237, 00277, 00877, 01877
ソニー	01006, 01460, 00639, 00847, 00853, 01558, 01639, 01640
住友電工	01500
東芝	00000, 01509, 00749, 00790, 01284, 01749
フナイ	01377
ヒューマックス	01176, 01427, 01808
ビクター /JVC	00492, 00775, 01775
ケンウッド	00853
マランツ	00200
マスプロ	00173
三菱	00749
ティアック	01251
ユニデン	00722

■ MD レコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	70868
ソニー	70000

■ CD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	70157
デノン	70034, 70626, 70766
日立	70032
インテグラ	70101, 70102, 70138, 70381, 71327, 71808, 71817
ビクター /JVC	70032, 70072
ケンウッド	70000, 70028, 70029, 70036, 70037, 70157, 70626
マランツ	70029, 70157, 70180, 70435, 70626
オンキヨー	70101, 70102, 70138, 70381, 71327, 71817
パナソニック	70029, 70388, 70752
フィリップス	70157, 70626
パイオニア	70032, 70101
サンスイ	70000, 70157
サンヨー	70000, 70087
シャープ	70034, 70037, 70180
ソニー	70000, 70100, 71364
ティアック	70180
テクニクス	70029
ヤマハ	70032, 70036, 70868, 71292

■ CD レコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	71323
ソニー	70000, 70100, 71364
ヤマハ	71292

■ カセットデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	40029
デノン	40076
ビクター /JVC	40244
ケンウッド	40070
マランツ	40029
オンキヨー	40135, 40136, 40282, 40362, 40456, 40520, 42157
フィリップス	40029
パイオニア	40027
サンスイ	40029
ソニー	40243
ヤマハ	40097

■ チューナー

ブランド名	コード番号
アイワ	51189, 51269
デノン	1360
インテグラ	51805
マランツ	51189, 51269
オンキヨー	51805
パナソニック	51764
フィリップス	51189, 51269
パイオニア	51023, 51935
サンスイ	51189, 51764
ソニー	51759, 51758
ヤマハ	51023, 50176

■ テレビ

ブランド名	コード番号
BenQ	11756
デノン	10145
DX アンテナ	13817, 11817
富士通ゼネラル	10683, 10809, 10853
フナイ	13817, 10171, 10180, 11271, 11394, 11817, 10000
日立	13691, 10017, 10037, 10047, 10051, 10054, 10092, 10145, 10150, 10156, 10178, 11145, 11156, 11256, 11484, 11576, 11643, 11691, 10000
イイヤマ	10890
ビクター /JVC	13428, 10054, 10093, 10160, 10463, 10650, 10683, 10731, 11253, 11428, 10053
ケンウッド	10180
LG	10017, 10037, 10054, 10060, 10178, 10856, 11178, 11423, 11663, 11768, 12057
マランツ	10037, 10054, 10704, 11398, 11454
三菱	13171, 10093, 10150, 10154, 10160, 10178, 10180, 10250, 10836, 11171, 11250, 10037
ナショナル	10051, 10226
NEC	10047, 10051, 10053, 10154, 10156, 10178, 10661, 10704, 11398
オンキヨー	11807
オリオン	10017, 10037, 10178, 10180, 10463, 11463
パナソニック	13170, 10051, 10054, 10156, 10226, 10250, 10650, 10853, 11271, 11457, 11480, 11636, 11650, 12170, 10037
フィリップス	10000, 10017, 10037, 10051, 10054, 10092, 10171, 10178, 10605, 10690, 11254, 11454, 11506, 11756
パイオニア	13271, 10166, 10679, 11260, 11398, 11457, 12171, 12247, 10037
サムスン	10017, 10037, 10047, 10054, 10060, 10090, 10092, 10093, 10154, 10156, 10178, 10226, 10650, 10702, 10766, 10812, 10814, 11060, 11235
サンヨー	13974, 10037, 10047, 10054, 10145, 10154, 10156, 10171, 10180, 10463, 10704, 11142, 11755, 11974, 10000
シャープ	13165, 10054, 10093, 10180, 10650, 10818, 11093, 11165, 11393, 10053
ソニー	13167, 10017, 10037, 10053, 10150, 10154, 10650, 10810, 11167, 11651, 11685, 10000
ティアック	10037, 10154, 10171, 10178, 11755
テクニクス	10051, 10054, 10226, 10250, 10650
東芝	13169, 10093, 10145, 10150, 10154, 10156, 10166, 10650, 10845, 11145, 11156, 11169, 11256, 11524, 11656, 10060
ヤマハ	10650, 11576
ユニデン	13122, 12122

■ ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	20000, 20032, 20037,20348, 21291
キャノン	20035
デノン	20042, 20081
富士通	20000, 20037, 20045
富士通ゼネラル	20037
フナイ	20000, 20037, 20278
日立	20000, 20035, 20037, 20042, 20045, 20081
ヒューマックス	20739
ビクター /JVC	20045, 20067, 20081, 20084, 21162, 21279
ケンウッド	20038, 20067
LG	20000, 20037, 20038, 20042, 20045, 20225, 20278
マランツ	20035, 20038, 20081
三菱	20000, 20042, 20043, 20060, 20067, 20081, 20642, 20807, 21343
ナショナル	20226
NEC	20035, 20037, 20038, 20067, 20278, 21287
オンキヨー	20222
オリオン	20000, 20278, 20348, 21479
パナソニック	20000, 20035, 20162, 20225, 20226, 20614, 20616, 21062, 21162, 21244, 21293, 21562
フィリップス	20000, 20035, 20045, 20081, 20162, 20226, 20616, 20618, 20739
パイオニア	20042, 20067, 20081, 20162
サムスン	20000, 20038, 20045, 20060, 20739, 21014
サンヨー	20000, 20067, 20348, 21330
シャープ	20000, 20032, 20037, 20807
ソニー	20000, 20032, 20033, 20035, 20067, 20226, 20636, 21296, 21447, 21448, 21972
ティアック	20000, 20037, 20067, 20278, 20642
テクニクス	20000, 20035, 20037, 20081, 20162, 20226, 21162
東芝	20000, 20042, 20043, 20045, 20067, 20081, 20828, 21290, 21972, 21996
ヤマハ	20038

■ オンキヨー製 RI ドック

ブランド名	コード番号
オンキヨー	81993, 82351, 82990

■ DVD プレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	30533, 30641
デノン	30490, 30634, 31634
フナイ	30675, 30695, 31268
日立	30573, 30664, 30695, 30713, 31247, 31664
ヒューマックス	30646
インテグラ	30503, 30612, 30627, 31612, 31627, 32900, 32901
ビクター /JVC	30503, 30539, 30558, 30623, 30867, 31164
ケンウッド	30490, 30534
LG	30591, 32902, 30869
マランツ	30503, 30539, 30675, 31627
三菱	30521, 30713, 31403, 31521
NEC	32902, 30869
オンキヨー	30503, 30612, 30627, 31612, 31627, 32900, 32901
オリオン	30695, 30713, 31233
パナソニック	30490, 30503, 30571, 30703, 31010, 31011, 31362, 31462, 31490, 32903, 31762
フィリップス	30503, 30539, 30585, 30646, 30675, 30854, 31260, 31267, 31340, 31354, 32056, 32904
パイオニア	32906, 30525, 30571, 30631, 31571
サムスン	30490, 30573, 30744, 30820, 30899, 31044, 31075, 32269, 32329
サンヨー	30675, 30695, 30713, 31228
シャープ	30630, 30675, 30713, 30752, 30869, 31256, 32909
ソニー	30533, 30864, 31033, 31069, 31070, 31431, 32907, 31533
ティアック	30571, 30675, 32902, 30759, 30768, 31227
テクニクス	30490, 30703
東芝	30503, 30539, 30573, 30695, 31045, 31154, 32901, 31639
ヤマハ	30490, 30539, 30545, 30646

■ ブルーレイディスクプレーヤー

ブランド名	コード番号
LG	32902
パナソニック	32903
フィリップス	32904
パイオニア	32906
サムスン	32905
シャープ	32909
ソニー	32907

■ HD DVD プレーヤー

ブランド名	コード番号
LG	32902
東芝	32901

■ DVD レコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	30490
フナイ	30675
日立	31664
ヒューマックス	30646
ビクター /JVC	31164
LG	32902
三菱	31403
パナソニック	30490, 31010, 31011
フィリップス	30646, 31340
パイオニア	30631
サムスン	30490
シャープ	30630, 30675
ソニー	31033, 31069, 31070, 31431, 32907
ティアック	31227
東芝	31639, 32277
ヤマハ	30646

■ テレビ /DVD 一体型、テレビ /VCR 一体型

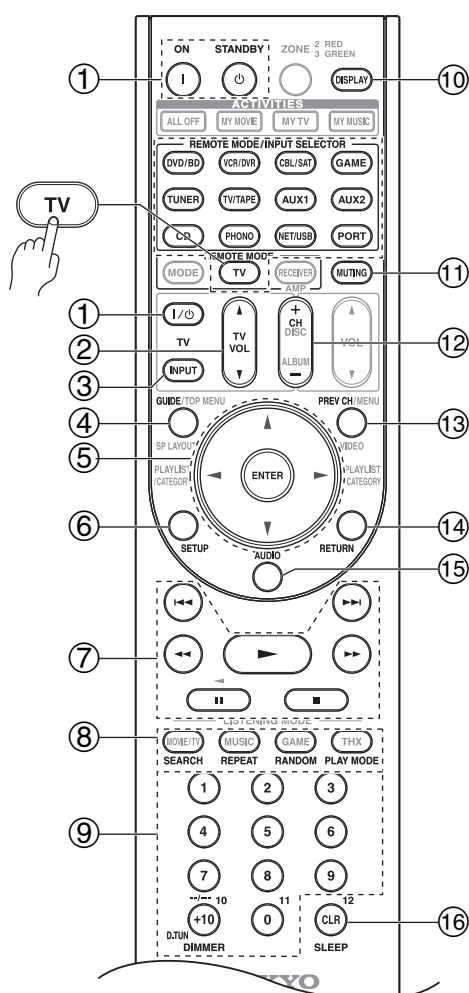
ブランド名	コード番号
LG	10178, 20037
三菱	10093, 20043, 20081, 20807
オリオン	10463, 21479, 30695
パナソニック	10051, 10250, 20035, 20162, 21162
フィリップス	10037, 11454, 20081, 30539, 30854, 31260
シャープ	10093, 20037, 20807
ソニー	10000, 20000, 20032, 21296
ティアック	10171, 10178, 20000, 20037, 20642
アイワ	20000
フナイ	20000, 31268
日立	20000, 30713, 31247
サムスン	21014, 30899
サンヨー	11974, 21330
テクニクス	20081
東芝	11524, 30695

テレビを操作する

お手持ちのテレビ（またはテレビと DVD/BD プレーヤーやビデオデッキの複合機など）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。

TV モードボタンには、あらかじめ RIHD に対応したテレビを連動操作するリモコンコードが登録されています。本機と RIHD *1 対応テレビ（一部モデルに限る）を HDMI 接続しているときに操作できます。うまく操作できないときは、テレビのリモコンコードを登録して直接テレビを操作してください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

最初に TV ボタンを押してください

*1 本機が提供する RIHD 機能は、HDMI 規格で定められている CEC（Consumer Electronics Control）システム制御機能を使用して、CEC に対応した機器と連動する機能です。RIHD 対応機器以外での動作は保証いたしません。

① **ON、STANDBY、TV（I/⏻）ボタン**
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

② **TV VOL ▲/▼ ボタン**
テレビの音量を調整します。

③ **TV INPUT ボタン**
テレビの入力を切り換えます。

④ **GUIDE ボタン**
プログラムガイドを表示します。

⑤ **▲/▼/◄/►/ENTER ボタン**
ナビゲーション操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑥ **SETUP ボタン**
設定メニューを表示します。

⑦ **再生操作ボタン ***
テレビとビデオデッキの複合機などの ►（再生）■（停止）◄◄/►►（早戻し / 早送り）❚❚（一時停止）❙◄◄/►►❙（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑧ **SEARCH ボタン、REPEAT ボタン、RANDOM ボタン、PLAY MODE ボタン**
青（A）ボタンの働きをします。
赤（B）ボタンの働きをします。
緑（C）ボタンの働きをします。
黄（D）ボタンの働きをします。

⑨ **数字ボタン**
番号を入力します。機器によって「0」ボタンは「11」ボタンの働きを、「＋ 10」ボタン * は「－－ / －－－」ボタンの働きをします。

⑩ **DISPLAY ボタン**
情報を表示します。

⑪ **MUTING ボタン**
テレビのミューティング機能をオン / オフします。

⑫ **CH ＋ / －ボタン**
チャンネルを選択します。

⑬ **PREV CH ボタン**
前のチャンネルを選びます。

⑭ **RETURN ボタン**
設定メニューを終了します。

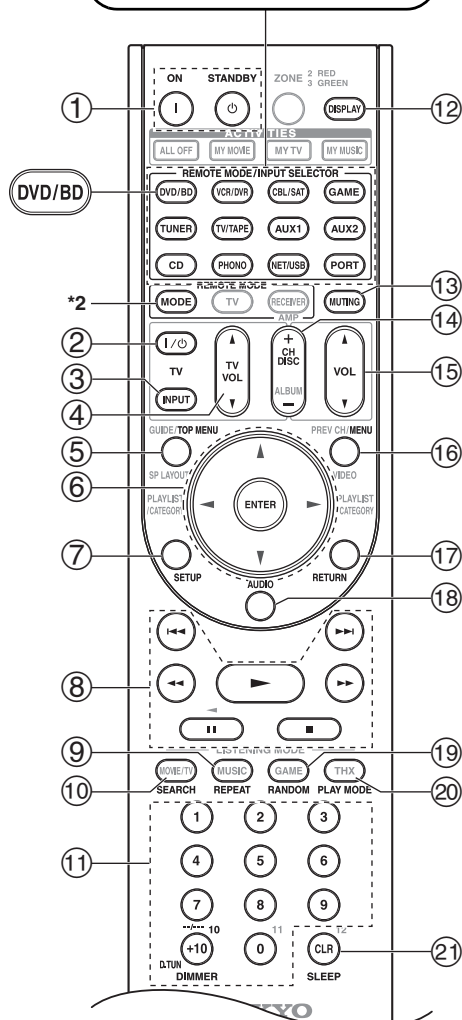
⑮ **AUDIO ボタン ***
音声言語や音声フォーマットを選択します。

⑯ **CLR ボタン**
入力した項目を取り消します。
機器によっては、「12」（数字）ボタンの働きをします。

* の付いているボタンは、RIHD 機能では使用できません。

DVD/BD プレーヤー、DVD レコーダーを操作する

お手持ちの DVD プレーヤー（DVD レコーダー、HD DVD、ブルーレイまたは DVD/ テレビなどの複合機）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
DVD/BD REMOTE MODE ボタンには、あらかじめオンキヨー製 DVD プレーヤーのコードが登録されています。それ以外の機器のリモコンコードの登録のしかたは、137 ページをご覧ください。
オンキヨー製 DVD プレーヤーの RI 専用リモコンコード (**31612**) を登録することで、本機と HDMI 接続した RIHD *1 対応プレーヤー / レコーダーを操作できます。

- 製品によって、あるいは再生するディスクによっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

*1 本機が提供する RIHD 機能は、HDMI 規格で定められている CEC（Consumer Electronics Control）システム制御機能を使用して、CEC に対応した機器と連動する機能です。
RIHD 対応機器以外での動作は保証いたしません。

*2 入力をそのまま変更せずにリモート（コントローラー）モードを切り換えたい場合は、MODE ボタンを押して約 8 秒以内に REMOTE MODE ボタンを押します。押した REMOTE MODE ボタンに対応する機器を本機のリモコンで操作できるようになります。

① **ON、STANDBY ボタン**
操作する機器の電源オン / スタンバイを行います。

② **TV（ I/⏻ ）ボタン**
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

③ **TV INPUT ボタン**
テレビの入力を切り換えます。

④ **TV VOL ▲/▼ ボタン**
テレビの音量を調整します。

⑤ **TOP MENU ボタン**
トップメニュー画面やタイトルを表示します。

⑥ **▲/▼/◄/►/ENTER ボタン**
DVD のメニュー操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑦ **SETUP ボタン**
設定メニューを表示します。

⑧ **再生操作ボタン**
►（再生）■（停止）◄◄/►►（早戻し / 早送り）❚❚（一時停止）⏮/⏭（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑨ **REPEAT ボタン**
くり返し再生をします。

⑩ **SEARCH ボタン ***
タイトル、チャプター、トラック番号や時間を検索します。

⑪ **数字ボタン**
チャプター、トラック番号などを選択します。機器によって「+ 10」ボタン * は、「−− / −−−」ボタンの働きをします。

⑫ **DISPLAY ボタン**
DVD プレーヤーの表示部に表示される情報を切り換えます。

⑬ **MUTING ボタン**
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑭ **DISC + / −、CH + / −ボタン**
DVD チェンジャーのディスクを選択します。または、テレビのチャンネルを選択します。

⑮ **VOL ▲/▼ ボタン**
AV センターの音量を調整します。

⑯ **MENU ボタン**
DVD のメニュー画面を表示します。

⑰ **RETURN ボタン**
DVD プレーヤーのメニュー画面の終了、または 1 つ前の画面に戻ります。

⑱ **AUDIO ボタン ***
音声言語や音声フォーマットを選択します。

⑲ RANDOM ボタン *
ランダム再生をします。

⑳ PLAY MODE ボタン *
プレイモードのある機器に使用します。

㉑ CLR ボタン
入力した項目を取り消します。

* の付いているボタンは、RIHD 機能では使用できません。

- A、B、C、D ボタン、カラーボタンのある HD DVD またはブルーレイプレーヤーのコードを登録したときは、SEARCH、REPEAT、RANDOM、PLAY MODE ボタンは、A、B、C、D ボタンまたはカラーボタンとして働きます。この場合、リピート再生、ランダム再生、プレイモード選択は操作できません。

ビデオデッキを操作する

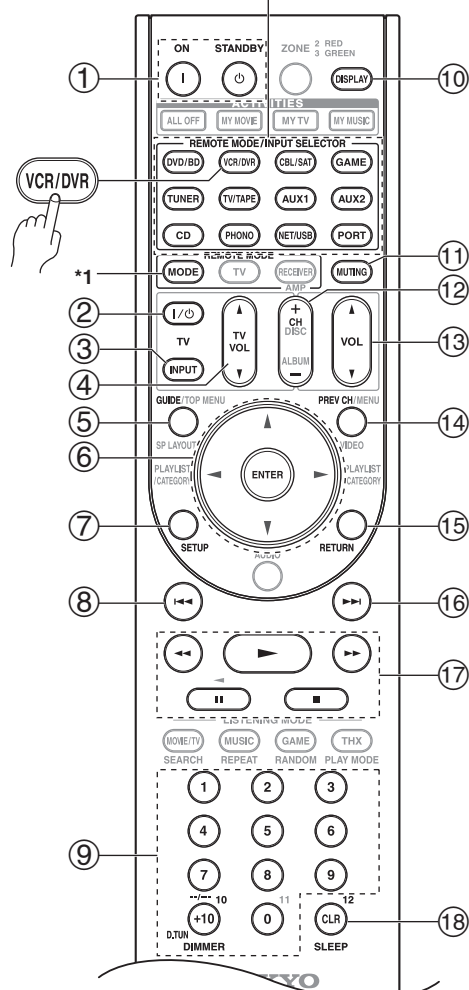
お手持ちのビデオデッキ（ビデオデッキとテレビの複合機など）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
リモコンコードの登録のしかたは、137 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

*1 入力をそのまま変更せずにリモート（コントローラー）モードを切り換えたい場合は、MODE ボタンを押して約 8 秒以内に REMOTE MODE ボタンを押します。押した REMOTE MODE ボタンに対応する機器を本機のリモコンで操作できるようになります。

① ON、STANDBY ボタン
操作する機器の電源オン / スタンバイを行います。

② TV（I/⏻）ボタン
テレビの電源オン / スタンバイを切り換えます。

③ TV INPUT ボタン
テレビの入力を切り換えます。

④ TV VOL ▲/▼ ボタン
テレビの音量を調整します。

⑤ GUIDE ボタン
プログラムガイドやナビゲーションを表示します。

⑥ ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン
▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押してナビゲーションの項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

⑦ SETUP ボタン
設定メニューを表示します。

⑧ ⏮ ボタン
スキップダウンします。

⑨ 数字ボタン
番号を入力します。機器によって「0」ボタンは「11」ボタンの働きを、「+ 10」ボタンは「– – / – – –」ボタンの働きをします。

⑩ DISPLAY ボタン
情報を表示します。

⑪ MUTING ボタン
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑫ CH ＋ / –ボタン
チャンネルを選択します。

⑬ VOL ▲/▼ ボタン
AV センターの音量を調整します。

⑭ PREV CH ボタン
前のチャンネルを選びます。

⑮ RETURN ボタン
メニュー画面の終了、または 1 つ前の画面に戻ります。

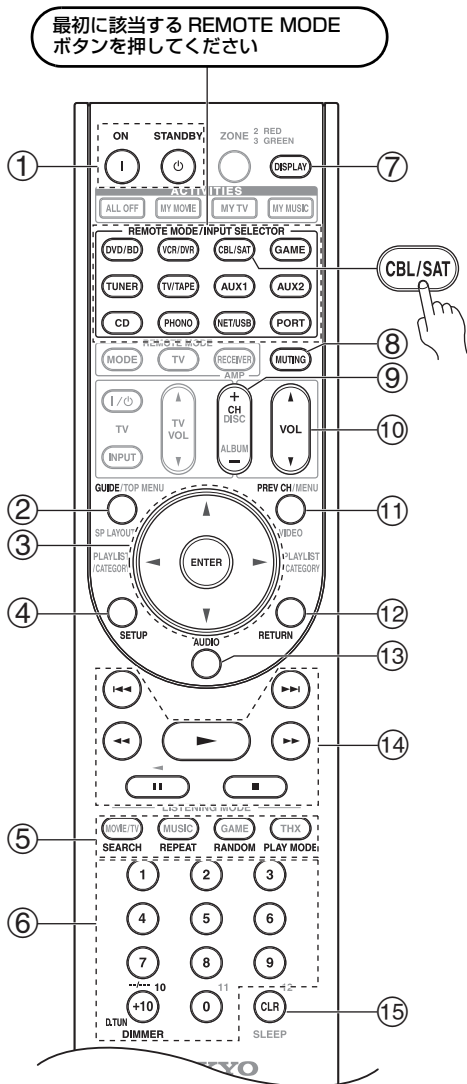
⑯ ⏭ ボタン
スキップアップします。

⑰ 再生操作ボタン
►（再生）■（停止）◄◄/►►（巻戻し / 早送り）⏸（一時停止）などを行います。

⑱ CLR ボタン
入力した項目を取り消します。
機器によっては、「12」（数字）ボタンの働きをします。

衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナーを操作する

お手持ちの衛星放送チューナーやケーブルテレビチューナー（ビデオデッキとテレビの複合機など）のリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
リモコンコードの登録のしかたは、137 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

① **ON、STANDBY ボタン**
操作する機器の電源オン / スタンバイを行います。

② **GUIDE ボタン**
プログラムガイドを表示します。

③ **▲/▼/◄/►/ENTER ボタン**
ナビゲーション操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

④ **SETUP ボタン**
設定メニューを表示します。

⑤ **SEARCH ボタン、REPEAT ボタン、RANDOM ボタン、PLAY MODE ボタン**
青（A）ボタンの働きをします。
赤（B）ボタンの働きをします。
緑（C）ボタンの働きをします。
黄（D）ボタンの働きをします。

⑥ **数字ボタン**
番号を入力します。機器によって「＋ 10」ボタンは、「－－ / －－－」ボタンの働きをします。

⑦ **DISPLAY ボタン**
情報を表示します。

⑧ **MUTING ボタン**
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑨ **CH ＋ / －ボタン**
チャンネルを選択します。

⑩ **VOL ▲/▼ ボタン**
AV センターの音量を調整します。

⑪ **PREV CH ボタン**
前のチャンネルを選びます。

⑫ **RETURN ボタン**
メニューを終了します。

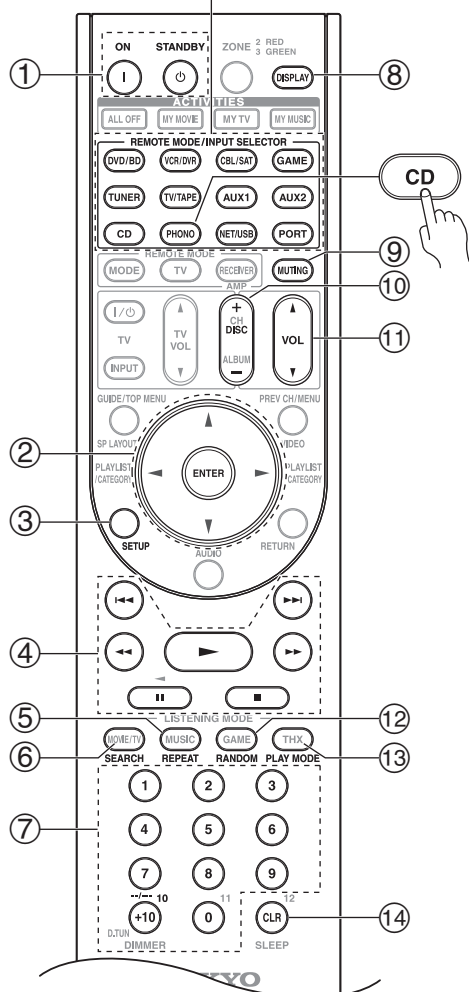
⑬ **AUDIO ボタン**
音声言語や音声フォーマットを選択します。

⑭ **再生操作ボタン**
テレビとビデオデッキの複合機などの ►（再生）■（停止）◄◄/►►（早戻し / 早送り）❚❚（一時停止）❙◄◄/►►❙（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑮ **CLR ボタン**
入力した項目を取り消します。

CD プレーヤーを操作する

お手持ちの CD プレーヤーのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
CD モードボタンには、あらかじめオンキヨー製 CD プレーヤーのリモコンコードが登録されています。
リモコンコードの登録のしかたは、137 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

① ON、STANDBY ボタン
操作する機器の電源オン / スタンバイを行います。

② ▲/▼/◄/►/ENTER ボタン *
ナビゲーション操作時、▲/▼/◄/►（上下左右）ボタンを押して項目を選択します。中央の ENTER ボタンを押すと、選択した項目を確定します。

③ SETUP ボタン *
オンキヨー製 CD プレーヤーの設定を表示します。

④ **再生操作ボタン**
►（再生）■（停止）◄◄/►►（早戻し / 早送り）❚❚（一時停止）|◄◄/►►|（スキップダウン / スキップアップ）などを行います。

⑤ REPEAT ボタン
くり返し再生をします。

⑥ SEARCH ボタン *
再生したい場所をサーチします。

⑦ **数字ボタン**
番号を入力します。機器によって「+ 10」ボタンは、「− − / − − −」ボタンの働きをします。

⑧ DISPLAY ボタン
情報を表示します。

⑨ MUTING ボタン
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑩ DISC + / −ボタン
CD チェンジャーのディスクを選択します。

⑪ VOL ▲/▼ ボタン
AV センターの音量を調整します。

⑫ RANDOM ボタン
ランダム再生をします。

⑬ PLAY MODE ボタン *
プレイモードのある機器に使用します。

⑭ CLR ボタン
入力した項目を取り消します。

* の付いているボタンは、RI 接続では使用できません。

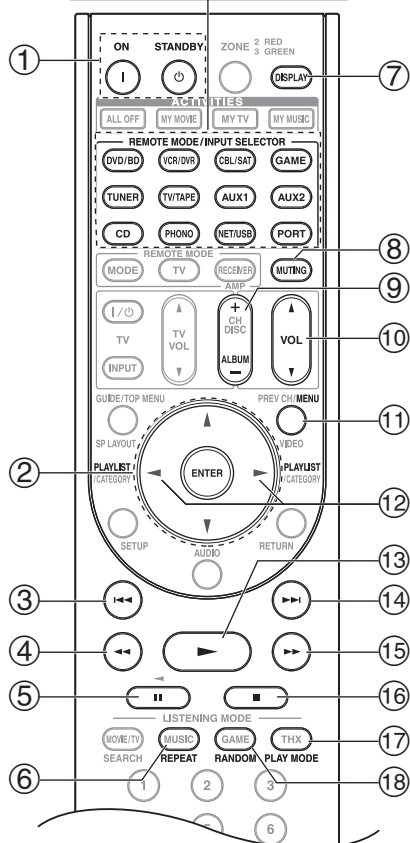
オンキヨー製 RI ドックを操作する

オンキヨー製 RI ドックのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。リモコンコードの登録のしかたは、137 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

お使いの iPod によっては、リモコンコード **82990**（RI 接続なし）では ON、STANDBY ボタンが効かないことがあります。
この場合、RI 接続を行った上で、リモコンコード **81993** を使用ください。

操作の前にご確認ください

- RI ドックを TV/TAPE IN、VCR/ DVR IN または GAME IN L/R 端子に接続してください。
- RI ドックの RI MODE 切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に切り換えてください。
- 本機の入力表示を「DOCK」にしてください。（➔57 ページ）
- RI ドックの取扱説明書もご覧ください。

① **ON、STANDBY ボタン**
RI ドックにセットした iPod の電源オン / スタンバイを行います。
1 回押しても働かないときは、もう一度押してください。

② **▲/▼/ENTER ボタン**
メニューを操作します。中央の ENTER ボタンを押すと、選んだメニューを確定します。

③ **I◀◀ ボタン**
再生中の曲を頭から再生します。2 回押すと前の曲に戻ります。

④ **◀◀ ボタン**
曲を早戻しします。

⑤ **❚❚ ボタン**
再生を一時停止します。

⑥ **REPEAT ボタン**
リピートモードを切り換えます。

⑦ **DISPLAY ボタン**
iPod のバックライトを 30 秒間点灯させます。

⑧ **MUTING ボタン**
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑨ **ALBUM + / − ボタン**
アルバムを選択します。

⑩ **VOL ▲/▼ ボタン**
AV センターの音量を調整します。

⑪ **MENU ボタン**
メニューを表示します。

⑫ **PLAYLIST◄/► ボタン**
iPod のプレイリストを選択します。

⑬ **► ボタン**
再生を始めます。

⑭ **►►I ボタン**
次の曲を選びます。

⑮ **►► ボタン**
曲を早送りします。

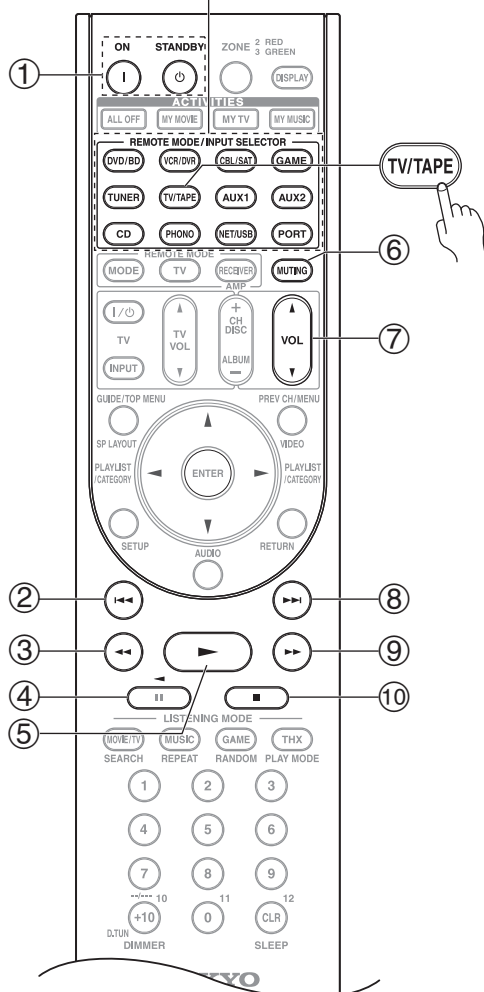
⑯ **■ ボタン**
再生を停止します。

⑰ **PLAY MODE ボタン**
プレイモードのある機器に使用します。

⑱ **RANDOM ボタン**
シャッフルモードを切り換えます。

カセットデッキを操作する

お手持ちのカセットデッキのリモコンコードを登録した REMOTE MODE ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。
TV/TAPE モードボタンには、あらかじめオンキヨー製カセットデッキの RI 専用リモコンコードが登録されています。
これ以外の機器のリモコンコードの登録のしかたは、137 ページをご覧ください。

- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。
- ダブルカセットデッキの場合は、デッキ B のみ操作できます。

① ON、STANDBY ボタン
操作する機器の電源オン / スタンバイを行います。

② ⏮ ボタン
前の曲の頭出しをします。再生中は、再生している曲の始めに戻ります。

③ ◀◀ ボタン
巻き戻しをします。

④ ◀ ボタン
テープの B 面（裏面）を再生します。

⑤ ▶ ボタン
テープの A 面（表面）を再生します。

⑥ MUTING ボタン
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

⑦ VOL ▲/▼ ボタン
AV センターの音量を調整します。

⑧ ⏭ ボタン
次の曲の頭出しをします。

⑨ ▶▶ ボタン
早送りをします。

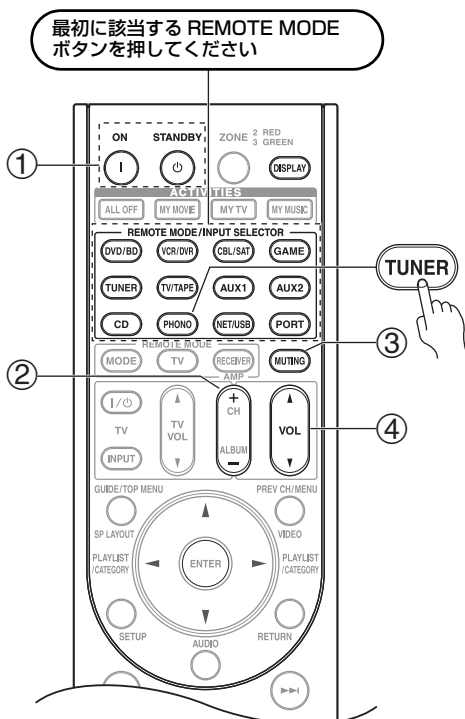
⑩ ■ ボタン
再生を停止します。

！ヒント

- 本機に RI 接続しているオンキヨー製カセットデッキは、AMP モードでも操作できます。

本機に RI 接続したオンキヨー製チューナーを操作する

TUNER モードボタンには、あらかじめオンキヨー製チューナーのリモコンコードが登録されています。
はじめに、TUNER ボタンを押してから、各操作ボタンを押してください。

- TUNER モードボタンをくり返し押すことで、AM と FM を切り換えることができます。
- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

① ON、STANDBY ボタン
操作する機器の電源オン / スタンバイを行います。

② CH ＋ / －ボタン
チューナーにプリセットした放送局のプリセット番号を選びます。

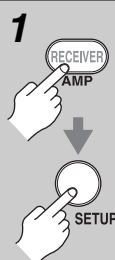
③ MUTING ボタン
AV センターのミューティング機能をオン / オフします。

④ VOL ▲/▼ ボタン
AV センターの音量を調整します。

！ヒント

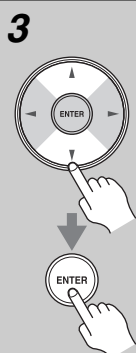
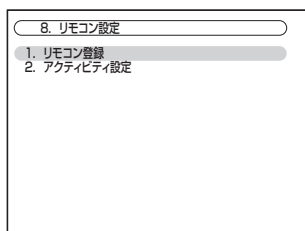
- チューナーを操作したいときは、本機の電源を ON した後に、TUNER ボタンをくり返し押して、AM/FM のバンドを切り換えてください。

アクティビティを設定する

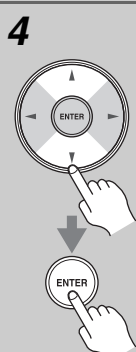
オンスクリーン設定メニューを使って、イージーマクロモードで使用できる一連の動作（マクロ）を設定することができます。

1 **AMP ボタンを押してから SETUP ボタンを押す**

メインメニュー項目が表示されます。
メインメニューが表示されないときは、テレビ に適切な外部入力接続がされていることを確認してください。

2 **▲/▼ ボタンを押して「8. リモコン設定」を選び、ENTER ボタンを押す**

「リモコン設定」画面が表示されます。

3 **▲/▼ ボタンを押して「2. アクティビティ設定」を選び、ENTER ボタンを押す**

「アクティビティ設定」画面が表示されます。

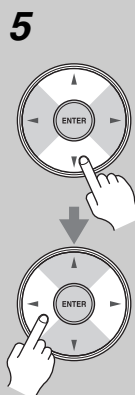
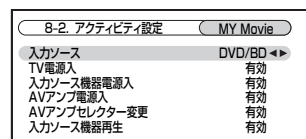
8-2. アクティビティ設定
My Movie
My TV
My Music

4 **▲/▼ ボタンを押して「My Movie」、「My TV」または「My Music」を選び、ENTER ボタンを押す**

My Movie:
「MY MOVIE」ボタンを押したときの動作を設定します。

My TV:
「MY TV」ボタンを押したときの動作を設定します。

My Music:
「MY MUSIC」ボタンを押したときの動作を設定します。

5 **▲/▼ ボタンを押して設定したい項目を選び、◄/► ボタンで選択する**

8-2. アクティビティ設定	MY Movie
入力ソース	DVD/BD ◄►
TV電源入	有効
入力ソース機器電源入	有効
AVアンプ電源入	有効
AVアンプセレクター変更	有効
入力ソース機器再生	有効

入力ソース
入力を選択します。
DVD/BD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、AUX1、AUX2、TV/TAPE、TUNER、CD、PHONO、PORT、NET/USB

テレビ電源入
ACTIVITIES ボタンを押したときにテレビの電源をオンするかどうかを選びます。
有効：テレビの電源をオンします。
無効：テレビの電源をオンしません。

入力ソース機器電源入
ACTIVITIES ボタンを押したときに入力機器の電源をオンするかどうかを選びます。
有効：入力機器の電源をオンします。
無効：入力機器の電源をオンしません。

AV アンプ電源入
ACTIVITIES ボタンを押したときに AV センターの電源をオンするかどうかを選びます。
有効：AV センター（本機）の電源をオンします。
無効：AV センター（本機）の電源をオンしません。

AV アンプセレクター変更
ACTIVITIES ボタンを押したときに AV センターの入力を切り換えるかどうかを選びます。
有効：AV センター（本機）の入力を切り換えます。
無効：AV センター（本機）の入力を切り換えません。

入力ソース機器再生
ACTIVITIES ボタンを押したときに入力機器側で再生を開始するかどうかを選びます。
有効：入力機器側での再生を開始します。
無効：入力機器側での再生を開始しません。

➡ 手順 *6* に続く

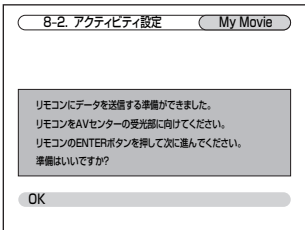
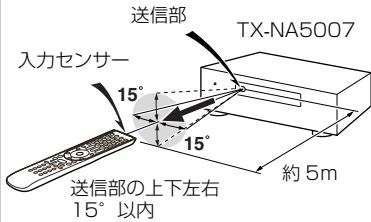
本機のリモコンで他の製品を操作する

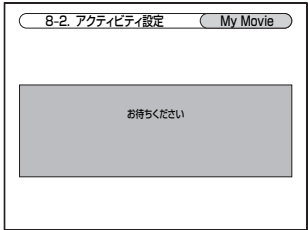
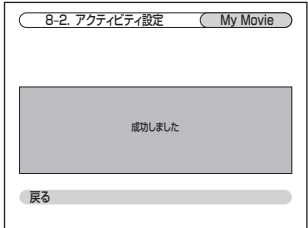
お買い上げ時の割り当てについては以下の表をご覧ください。

項目	設定		
	My Movie	My TV	My Music
入力ソース	DVD	CBL	CD
テレビ電源入	有効	有効	無効
入力ソース機器電源入	有効	有効	有効
AV アンプ電源入	有効	有効	有効
AV アンプセレクター変更	有効	有効	有効
入力ソース機器 Play	有効	無効	有効

6

ENTER ボタンを押す

送信確認画面が表示されます。

リモコンに送信するときは、下図のように入力センサーを本体の送信部に向けてください。

7

リモコンの ENTER ボタンを押す

リモコンへの送信が成功すると、次の画面が表示されます。

8

ENTER ボタンを押す

アクティビティ設定画面が表示されます。

9

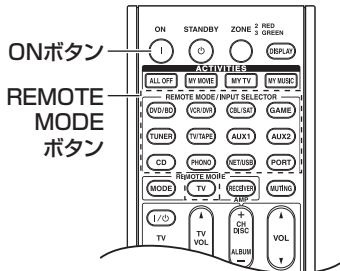
SETUP ボタンを押す

設定が終了し、メニュー画面が消えます。

他機のリモコンから指定した操作を学習させる

他機のリモコンの操作を１つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
137 ページ でリモコンコードを登録した後で、不足している操作や追加したい操作を 1 つずつ学習させると便利です。
たとえば、他機の CD プレーヤーのリモコンから再生機能を転送し、本機リモコンの CD モードの再生ボタンに学習させることができます。

1

（3 秒間）

学習させたい REMOTE MODE ボタンを押しながら、ON ボタンを REMOTE MODE ボタンが点灯するまで（約 3 秒）押す

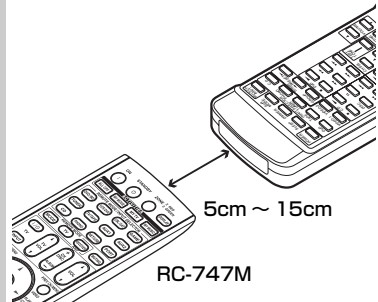
2

本機のリモコン（RC-747M）の学習させたい操作ボタンを押す

REMOTE MODE ボタン、ALL OFF ボタン、MY MOVIE ボタン、MY TV ボタン、MY MUSIC ボタン以外のボタンから選んでください。

3

学習させる他機のリモコンボタンを押す

他機のリモコンと本機のリモコン（RC-747M）を 5cm ～ 15cm 離して置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。

正しく学習できると REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅します。

4

別の操作ボタンを学習する場合は、手順 2、3 をくり返す

学習を終了する場合は、REMOTE MODE ボタンを押す。REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅します。

ご注意

- REMOTE MODE ボタン、ALL OFF ボタン、MY MOVIE ボタン、MY TV ボタン、MY MUSIC ボタンは新しい操作を学習できません。
- 本機のリモコンは、基本的に 70 ～ 90 個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのメモリーを使用する場合があります。その場合、学習できる操作は 70 ～ 90 個より少なくなります。
- 本機のリモコンは、オンキヨー製 CD プレーヤー、チューナー、カセットデッキ、DVD プレーヤーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできますが、リセットすると元のコードに戻ります（➔138 ページ）。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶する時も同じ手順で操作します。
- 意図した通りに働かず、まったく学習できないリモコンがあるかもしれません。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

学習した操作を消去するには

以下の操作をしてください。

1. 消去したい操作を学習した REMOTE MODE ボタンを押しながら、TV（I/⏻）ボタンが点灯するまで（約 3 秒）押します。
2. モード内の学習した操作をすべて消去したいときは、その REMOTE MODE ボタンを押し、学習したボタンごとに消去するときは、そのボタンを押します。REMOTE MODE ボタンが 2 回点滅して学習した操作が消去されます。

ノーマルマクロモードでマクロ機能を使用する

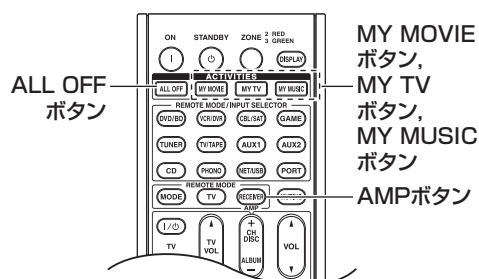
マクロ機能とは

連続した操作を 1 つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続した CD プレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. **AMP ボタンを押す**
   リモコンをアンプモードにします。
2. **ON ボタンを押す**
   本機の電源を入れます。
3. **CD ボタンを押す**
   本機の入力を CD に切り換えます。
4. **► ボタンを押す**
   CD プレーヤーを再生します。

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1 つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

MY MOVIE ボタン、MY TV ボタン、MY MUSIC ボタンにそれぞれマクロを学習させることができます。1 つのマクロに対して 32 個までの操作が学習できます。

1 AMP ボタンを押しながら、MY MOVIE ボタン（または MY TV ボタンか MY MUSIC ボタン）が点灯するまで MY MOVIE ボタン（または MY TV ボタンか MY MUSIC ボタン）を（約 3 秒）押す

（3 秒間）

2 記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す

例：CD を再生する

ON ボタンを押す
↓
CD ボタンを押す
↓
► ボタンを押す

マクロの学習操作中は、MODE ボタンの機能は無効です。

MODE ボタン、INPUT SELECTOR ボタンの順に押しても、入力切り換え指示として学習されます。

3 手順 1 で押したボタンを押す

学習が完了します。
- 32 個目の操作を学習すると AMP ボタンが点滅し、自動的に学習を完了します。32 個よりも少ない操作を学習させるときは、最後に MY MOVIE ボタン（または MY TV ボタンか MY MUSIC ボタン）を押します。

ご注意
- マクロを学習させた後、そこに含まれるボタンに他の操作を上書き学習させると、誤動作の原因になります。再度マクロ学習を行ってください。
- 32 個以上の操作を学習させることはできません。

- どのボタンに何の操作を学習させたかをメモしておくことをおすすめします。

マクロを実行する

操作したいボタン（MY MOVIE ボタンか MY TV ボタンまたは MY MUSIC ボタン) を押す

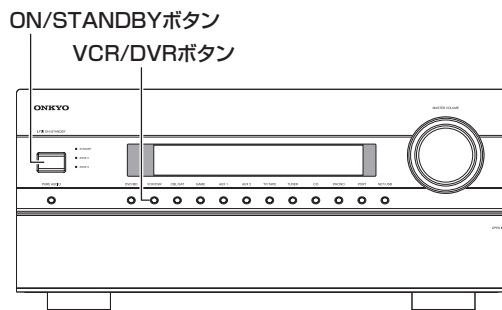
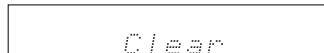
マクロを消去する

1. **AUDIO ボタンを押しながら、ALL OFF ボタンを約 3 秒押す**
   ALL OFF ボタンが点灯します。
2. **もう一度 ALL OFF ボタンを押して消去する**
   ALL OFF ボタンが 2 回点滅します。

ご注意
- マクロを消去するとイージーマクロモードに切り換わります。（➔67 ページ）
- ノーマルマクロモードでの操作中は、イージーマクロモードの簡単マクロ操作によるソース機器の切り換えはできません。

困ったときは

まず下記の内容を点検してみてください。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法や FAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/
●文章の最後にある数字は参照ページ数です。

！ヒント　修理を依頼される前に

電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから再度コンセントに差し込んでください。

電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

- 保護回路が働いている可能性があります。スピーカーコードがショートしていないかどうかアンプ背面端子、コード、スピーカー背面端子をご確認ください。(19)
  スピーカーコードをアンプ背面から外してもすぐに電源が切れる場合、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

電源がオフにならない

- Zone2/3 の電源が入ったままになっていないか確認してください。ZONE2/3 インジケーターが点灯している場合、Zone2/3 の電源をオフにしてください。(134)

音声

音声が出力されない / 小さい

- 音声信号の設定はされていますか？デジタル入力の設定を正しく行ってください。(53)
- HDMI 端子接続しているときは、HDMI の設定を確認してください。(51)

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の入力端子 / 出力端子に間違いがないか確認してください。
- スピーカーコードの⊕ / ⊖は正しく接続されているか、スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。(19)
- 入力が正しく選択できているか確認してください。(64)
- ボリューム位置を確認してください。本機は基本的に−∞ dB 、− 81.5dB…＋ 18.0dB まで調整できます。一般のご家庭で− 32.0dB 前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。(64)
- 表示部に「MUTING」と表示されている場合はリモコンの MUTING ボタンを押して解除してください。(65)
- ヘッドホンが接続されているとスピーカーからの音声が出力されません。(66)
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定が OFF になっていることがあります。
- フォノイコライザーを内蔵していないレコードプレーヤーは、フォノイコライザーを経由して接続してください。(41)
- MC カートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはヘッドアンプとフォノイコライザーが必要です。(41)

- デジタル入力モードの設定の確認を行ってください。「DTS」や「PCM」に固定されていると、それ以外の音声を出力しません。**(114)**
- リスニングモードによっては音声の出力されないスピーカーがあります。**(75 ～ 81)**
- 自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有 / 無とクロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。**(58 ～ 63、88 ～ 94)**
- HDMI 入力した音声が出力されない場合は、プレーヤー側の出力設定を変更してください。

特定のスピーカーから音が出ない

テスト音は出ますか？

スピーカーの音量レベル調整で、接続したすべてのスピーカーから個別にテスト音が出ているか確認してください。**(92)**

表示部にスピーカーの表示は出るが、テスト音が出ない
- 音の出ないスピーカーの接続が正しくない可能性があります。
  スピーカーコードの芯線部分が本機のスピーカー端子の金属部で固定されているか確認してください。
  コードが折れ曲がったり、損傷していないか確認してください。

テスト音も出ず、表示部にも表示されない
- スピーカーの設定が正しくない可能性があります。もう一度、自動スピーカー設定をするか、スピーカーの「有 / 無とクロスオーバー周波数」の設定を手動で行ってください。**(58 ～ 63、88)**

テスト音は出るが、音が出ない
- 再生する入力信号によっては音が出にくいスピーカーがあります。
- サブウーファー音声要素（LFE）の入っていないソフトを再生している場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

表示と違うスピーカーから音が出る
- スピーカーの接続が正しくありません。それぞれのスピーカーが正しい端子に接続されているか確認してください。**(20 ～ 21)**

リスニングモードによっては音が出ないスピーカーがあります

センタースピーカーからしか音が出ない
- テレビや AM 放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをドルビープロロジック II またはドルビープロロジック IIx にすると、センタースピーカーに音が集中します。
- リスニングモードが「Mono」のときは、設定によってはセンタースピーカーからしか音が出ません。

センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ない
- リスニングモードが「DTS Surround Sensation」や「Stereo」、「Mono」のときは、センタースピーカーやサラウンドスピーカーから音が出ません。「T-D (Theater-Dimensional)」のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。

サラウンドバックスピーカーやフロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーから音が出ない
- 入力信号やリスニングモードによっては、サラウンドバックスピーカーやフロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーの音が出にくい場合があります。

サブウーファーから音が出ない
- 入力信号にサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby Digital、DTS や AAC のフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTS や AAC の音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

- デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。**(53)**
- 接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力が OFF になっていることがあります。

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「入力信号の種類と対応するリスニングモード」でご確認ください。**(75 ～ 81)**

音量調整が＋ 18.0dB 以下で終わる

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「スピーカーの音量レベル調整（レベルキャリブレーション)」を使ってスピーカーの音量調整をした場合や、音量の最大出力レベル（Maximum Volume）の調整をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。**(58、92、108)**

ノイズが出る

- オーディオ用ピンコードと電源コードなどを束ねると音質が劣化しますので避けてください。
- 接続コードが影響を受けている可能性がありますので、接続コードの位置を動かしてみてください。

レイトナイト機能が働かない

- 再生ソースがドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD のいずれかになっているか確認してください。(115)

DTS 信号について

- DTS 信号を再生しているときは、本機の DTS 表示が点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても DTS 表示が点灯したままになります。このため、DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。出力されている DTS 信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。
- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

HDMI 入力音声が頭切れする

- HDMI 信号は、他のデジタル音声信号に比べてフォーマット認識に時間がかかるため、音の出だしが遅れることがあります。

映像

映像が出ない / 乱れる

- 接続コードのプラグは奥まで差し込んでください。
- 接続した機器の映像出力端子と本機の接続に間違いがないか確認してください。
- 映像機器と本機を HDMI 端子接続している場合は、本機とテレビも HDMI 端子接続をしてください。(28)
- テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。
- 映像機器と本機を D 端子またはコンポーネント端子接続している場合は、本機とテレビも D 端子、コンポーネント端子、HDMI 端子のいずれかに接続をしてください。(29)
- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると HDMI IN 端子から入力された映像以外の映像は出ません。
- テレビを本機の HDMI 出力端子に接続しているときは「モニター映像出力（Monitor Out）」を出力端子に合わせて「HDMI メイン」または「HDMI サブ」に設定してください。(48) 再生ソースがビデオ（コンポジット)、S ビデオ、コンポーネントビデオの場合、HDMI 出力端子から出力してテレビで映すには「HDMI 入力」設定を「- - - - -」にしてください。(51、52)
- テレビを本機の HDMI 出力端子に接続しているときは、HDMI 出力設定の解像度が、接続したテレビがサポートしている解像度とあっているか確認してください。(48)
- テレビを本機の HDMI 出力端子以外に接続しているときは「モニター映像出力（Monitor Out)」を「Analog」に設定してください。(48) 再生ソースがビデオ（コンポジット)、S ビデオの場合、D 端子やコンポーネント端子から出力してテレビで映すには「コンポーネント映像入力」設定を「- - - - -」にしてください。(51、52)
- コンポーネント映像入力設定により、VIDEO 端子や S VIDEO 端子に接続した機器の映像を D 端子やコンポーネント端子で接続した TV などのモニターに変換して出力することができますが、ビデオデッキなど映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり映像を表示しなくなる場合があります。この場合は D 端子やコンポーネント端子で接続した TV などのモニターに変換せず、VIDEO または S VIDEO 端子で接続してください。(33)

HDMI IN 1 〜 7 に接続した映像が映らない

- 「モニター映像出力（Monitor Out)」が「両方（メイン)」または「両方（サブ)」の場合は、「両方」に設定してください。(48)
- 「モニター映像出力（Monitor Out)」が「Analog」の場合は HDMI 出力端子からは映像は出力されません。(48)
- HDMI 入力した映像が出ないときは、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合、テレビがプレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。

設定画面表示が出ない / 操作内容が画面に表示されない

- ご使用のテレビなど、モニター側の設定を確認してください。
- COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子や D4 VIDEO OUT 端子とテレビを接続しているときは、「モニター映像出力（Monitor Out)」を「Analog」に設定してください。(48)
- 「6. その他」の「OSD 設定」で「イミディエイト表示」を「オン」にしてください。(109)

リモコン

リモコン操作ができない

- 電池の極性（⊕/⊖）が正しく入っているか確認してください。(15)
- 電池を 2 本とも新しいものと交換してみてください。リモコン電池が消耗していると、一部のボタンが働かない場合があります。(15)
- リモコンと本体の間が離れすぎていないか、リモコンと本体のリモコン受光部の間に障害物がないかを確認してください。

- 本体のリモコン受光部に強い光（インバーター蛍光灯や直射日光）が当たっているとリモコン操作ができない場合があります。
- オーディオラックのドアに色付きガラスが使用されていると正常に機能しない場合があります。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**（14、142 ～ 149）**
- リモートモードの AMP ボタンを押したあと操作してください。
- リモコンの ID が合っているか確認してください。**（111）**

RI 専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

- オンキヨー製他機器と RI ケーブルが正しく接続されているか確認してください。RI ケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンコードも接続してください。（RI ケーブルだけでは正しく連動しません）
- もう一度、RI 専用リモコンコードを入力し直してください。**（138）**
- RI 専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**（14、142、143、146 ～ 149）**
- 入力表示が正しく設定されているか確認してください。（例：TV/TAPE 端子に RI ドックを接続した場合や、VCR/DVR または GAME 端子に RI ドックを接続した場合）**（57）**

オンキヨー製機器（RI なし）や他メーカー機器の操作ができない

- 他機器との接続が正しいか確認してください。
- もう一度リモコンコードを入力してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。
- リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。**（14、142 ～ 149）**
- リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。
- 製品によっては動作しない場合もあります。

録音 / 録画

録音ができない

- 録音機器側で、デジタルやアナログなどの録音入力切り換えが正しくできているか確認してください。
- 信号がループして本機が損傷することを回避するため、入力信号は同じ端子の IN 端子から OUT 端子に通りません。

録画ができない

- 「Pure Audio」リスニングモードを選択している場合は、映像回路がオフになるため、録画できません。他のリスニングモードを選択してください。

NET/USB 機能

ネットワークサーバーが使用できない

- INPUT SELECTOR の NET/USB ボタンを押し、本機の前面パネルの NETWORK 表示が点灯しているか確認してください。
- NETWORK 表示が点灯している場合、本機はホームネットワークに正しく接続されています。
- ネットワークサーバーが起動しているか確認してください。
- ネットワークサーバーがホームネットワークに正しく接続されているか確認してください。
- ネットワークサーバーが正しく設定されているか確認してください。
- NETWORK 表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
- ルータの LAN 側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
- 本機の「ネットワーク」設定で正しい IP アドレスが割り当てられているか確認してください。

ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

- ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。
- パソコンをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア（Windows Media Player 11 など）以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。
- パソコンで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。

インターネットラジオが聴けない

- 特定のラジオ局だけが聴けない場合は、登録した URL が正しいか、またラジオ局から配信されているフォーマットが本機の対応しているものか確認してください。
- INPUT SELECTOR の NET/USB ボタンを押し、本機の前面パネルの NETWORK 表示が点灯しているか確認してください。
- NETWORK 表示が点灯している場合、本機はホームネットワークに正しく接続されています。
- モデムとルータが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。
- 他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。
- NETWORK 表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
- ルータの LAN 側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
- 本機の「ネットワーク」設定で正しい IP アドレスが割り当てられているか確認してください。
- ISP によってはプロキシサーバーを設定する必要があります。
- お使いの ISP がサポートしているルータやモデムを使用しているか確認してください。

困ったときは

インターネットブラウザで本機の情報を表示できない

- インターネットブラウザに本機の IP アドレスが正しく入力されているか確認してください。
- IP アドレスの割り当てに DHCP を使用している場合、本機の IP アドレスが変わっている可能性があります。
- 本機とパソコンの両方が正しくネットワークに接続されているか確認してください。

USB ストレージが表示されない

- USB メモリーや USB ケーブルが本機の USB 端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
- USB ストレージをいったん本機から外し、再度接続してみてください。
- 本機の USB 端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- セキュリティ機能付きの USB メモリの動作は保証できません。

ZONE2/3

音が出ない

- 再生機器をアナログ音声入力端子に接続していることを確認してください。

その他

自動スピーカー設定中に「騒音が大きすぎます。」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

多重音声の言語を切り換えたい

- 多重音声の「入力チャンネル」設定で主 / 副を選択します。**(98)**

ヘッドホンを接続すると音が変わる / 表示が消える

- 「Direct」、「Pure Audio」、「DTS Surround Sensation」、「Mono」以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的に Stereo 出力になります。**(66)**

スピーカーの距離設定が希望通りにならない

- 設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

表示部に表示が出ない

- リスニングモードが「Pure Audio」になっていると表示が消えます。

本体表示部が暗い /MASTER VOLUME つまみのまわりのライトが消える

- Dimmer 機能が働いていませんか？ Dimmer ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。(**65**)

音量に関する設定を希望通りの数字にできない

- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「スピーカー音量レベル調整」を使ってスピーカーの音量調整をした場合や、音量の最大出力レベル（Maximum Volume）の調整をした場合は、設定できる音量最大値が変わることがあります。**(58、92、108)**

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CD レンタル料等）については保証対象になりません。
大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機の主電源を OFF にしてから抜いてください。

D4 ビデオまたはコンポーネントビデオ /S ビデオ / ビデオ入力に関する初期設定を変更する

画質が悪い

ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェクターに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。

Video Attenuation

規定を超える強いレベルの D4 ビデオ信号、コンポーネントビデオ信号、S ビデオ信号、またはビデオ信号を入力したとき、信号を減衰させて適切な感度を保つことができます。

- **Video ATT：OFF（お買い上げ時の設定）**
- **Video ATT：ON（信号を減衰します）**

（D4 ビデオ出力、S ビデオ出力、または、ビデオ出力について有効です。）

設定のしかた（本体ボタンで操作します）

1

設定する INPUT SELECTOR ボタンを押しながら、SETUP ボタンを押す

設定できる INPUT SELECTOR ボタンは DVD/BD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、AUX1 です。

2

◄/► ボタンで設定したい項目を選び、設定する INPUT SELECTOR ボタンを押す

設定が終了します。

Video ATT:OFF（お買い上げ時の設定）
Video ATT:ON

映像機器をお楽しみいただく際のご注意

本機では、VIDEO 端子（コンポジット）、S VIDEO 端子や D4 VIDEO 端子（または COMPONENT VIDEO 端子）に接続した機器の映像を HDMI 端子で接続したテレビなどのモニターに変換することができます。
ただし、ビデオデッキなどの映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり、映像を表示しなくなったりする場合があります。
そのようなときは、「解像度」の設定を「480p」または「720p」に変更してみてください。（➔49 ページ）

それでも改善されないときは次の方法をお試しください。

1. **本機と映像機器を VIDEO 端子で接続したときは、本機とテレビも VIDEO 端子で接続し、本機と映像機器を S ビデオ端子で接続したときは、本機とテレビも S ビデオ端子で接続する**
   本機と映像機器を D4 VIDEO 端子（または COMPONENT VIDEO 端子）で接続したときは、本機とテレビも D4 VIDEO 端子（または COMPONENT VIDEO 端子）で接続する。
2. **設定画面の「1. 入力 / 出力端子の割り当て」→「HDMI 入力」を選び、映像機器を接続している入力の設定を「- - - - -」にする**
3. **設定画面の「1. 入力 / 出力端子の割り当て」→「コンポーネント映像入力」を選び、以下の設定を行う：**
   - 本機と映像機器を D4 VIDEO IN 1 端子（または COMPONENT VIDEO IN 1）で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「D4 入力 1」（または「RCA 1（色差入力）」）にする
   - 本機と映像機器を D4 VIDEO IN 2 端子（または COMPONENT VIDEO IN 2）で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「D4 入力 2」（または「RCA 2（色差入力）」）にする
   - 本機と映像機器を D4 VIDEO IN 3 端子（または COMPONENT VIDEO IN 3）で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「D4 入力 3」（または「RCA 3（色差入力）」）にする
   - 本機と映像機器を VIDEO 端子または S VIDEO 端子で接続している場合、映像機器を接続している入力の設定を「- - - - -」にする

！ヒント

「モニター映像出力（Monitor Out）」設定で「Analog」を選んだ場合（➔48 ページ）、本体の VCR/DVR ボタンと RETURN ボタンを同時に押し、RETURN ボタンをくり返し押して、表示部で「VideoProcessor」設定を「Skip」にしてください。設定をもとに戻すには、もう一度、同じボタンを同時に押してください。「Use」を選ぶと、ビデオプロセッサーから映像信号を出力します。

用語集

音声フォーマット

サラウンド（Surround）
ドルビーデジタルや DSP の音声モードなどを用いた臨場感のある音の総称。

ドルビーデジタル（Dolby Digital）
ドルビー社によって開発されたデジタルマルチチャンネル音声規格。モノラルから 5.1 チャンネルまでに対応しています。プログラム間でセリフの平均レベルを一定に保つダイアログノーマライゼーション、視聴環境の制約に対応してダイナミックレンジを調整するダイナミックレンジ圧縮、スピーカーの数に合わせて出力チャンネル数を最適化するダウンミックスなど数々の機能が採り入れられています。DVD-Video の標準音声、米国 DTV の標準音声として採用されています。

ドルビー EX（Dolby EX）
映画館の壁面に配置されるサラウンドチャンネルスピーカー、左右側面と背面の 3 つのセクション（左サラウンド、右サラウンド、バックサラウンド）に分割します。これによりサラウンドの空間表現力、定位感が高められ、360 度の回転や頭上を通過するような移動音効果をよりリアルに体感できます。バックサラウンドチャンネルは左サラウンド、右サラウンドに振り分けることもできるため、通常の 5.1 チャンネルとして、既存のドルビーデジタル環境で再生することが可能です。

ドルビープロロジック II（Dolby Pro Logic II）
ドルビー社によって開発されたマトリックスタイプのサラウンドデコード技術。ステレオ音源を 5.1 チャンネルであるかのような立体音場で楽しむことができます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビープロロジック IIx（Dolby Pro Logic IIx）
ドルビープロロジック II をさらに改良したマトリックスデコード技術。ステレオ音源を 7.1 チャンネル再生するため、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。映画の再生に適した「Movie」モード、音楽再生に適した「Music」モード、ゲーム機などに適した「Game」モードがあります。

ドルビーデジタルプラス（Dolby Digital Plus）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイディスク、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48 kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

ドルビー TrueHD（Dolby TrueHD）
ドルビー社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイディスク、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 5.1 チャンネルをサポートします。

DSD（Direct Stream Digital）
スーパーオーディオ CD に採用された方式です。100kHz をカバーする再生周波数範囲と可聴帯域内 120 dB 以上のダイナミックレンジが確保できるので、原音に近い音声で録音・再生ができます。

DTS デジタルサラウンド（DTS Digital Surround）
米国の DTS 社が開発したデジタルサラウンドフォーマット。コヒレントアコースティックス符号化と呼ばれる算法を使用し、圧縮率は通常 4:1 程度と比較的低くなっています。映画館ではフィルムにプリントされたタイムコードに同期して CD-ROM に記録された音声が再生されます。

DTS-ES エクステンディッドサラウンド (DTS-ES Extended Surround)
従来の DTS5.1 チャンネルシステムにセンターバックサラウンド（CS）チャンネルを加えたもので、かつてない音像・定位感を再現します。DTS-ES には「DTS-ES ディスクリート 6.1 チャンネル」と「DTS-ES マトリックス 6.1 チャンネル」の 2 種類があり、どちらも下位互換性を有しているため従来の DTS5.1 チャンネル対応機器での再生も可能です。

DTS-ES　ディスクリート (DTS-ES Discrete)
5.1 チャンネル音声データに拡張データとしてセンターサラウンドチャンネル音声データを付加し、この方式に対応した DTS デジタルサラウンドデコーダーによって完全に独立した 6.1 チャンネル音声を再生する DTS システム。

DTS-ES　マトリックス (DTS-ES Matrix)
映画館における DTS-ES と同様に、あらかじめ左右サラウンドチャンネルにマトリックスエンコードされたセンターバックサラウンドチャンネルを、マトリックスデコーダーを使って復元して 6.1 チャンネルとする方式の DTS システム。マトリックスデコーダーとして Neo:6 に対応した機器を使用します。

DTS Express
DTS 社が開発した最大 5.1 チャンネル、48kHz のロービットレート音声です。HD DVD のサブオーディオ、ブルーレイディスクのセカンダリーオーディオなどに収録される他、放送コンテンツやメディアサーバーなどの応用が想定されています。

DTS96/24
DTS96/24 フォーマットソースに記録された拡張用データを使用して、5.1 チャンネル再生する DTS システム。サンプリング周波数 96kHz、量子化ビット数 24 ビットの高音質で、きめ細やかな音声を再現します。

DTS-HD ハイレゾリューションオーディオ (DTS-HD High Resolution Audio)
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイディスク、HD DVD）に収録可能な非可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネルをサポートします。

DTS-HD マスターオーディオ (DTS-HD Master Audio)
DTS 社が開発した、次世代高精細光ディスク（ブルーレイディスク、HD DVD）に収録可能な可逆圧縮の高音質音声フォーマットです。48/96kHz のサンプリング周波数で、最大 7.1 チャンネル、192kHz のサンプリング周波数で最大 5.1 チャンネルをサポートします。

Neo:6
DTS 社によって開発された、デジタル・アナログを含むすべての 2 チャンネルソースを 6 チャンネルサラウンドにするマトリックスデコード技術。映画に適した「Cinema」モードと音楽に適した「Music」モードが用意されています。また、DTS-ES マトリックスのセンターサラウンドチャンネル信号の抽出にも使用されます。

用語集

MPEG-2 AAC
AAC(Advanced Audio Coding) は、AT&T 社、ドルビー社、フラウンホーファー・インスティテュート・フォー・インテグレーティド・サーキット（Fraunhofer IIS)、そしてソニー株式会社の 4 社の高品質マルチチャンネル音声符号化のための最先端技術を組み合わせたもので、ISO と IEC の共同管轄の下に、MPEG-2 規格の一部として規格化された音声圧縮符号化方式です。
従来の MPEG 音声との後方互換性がないので、従来の MPEG 音声デコーダーでは再生できません。わが国のデジタルテレビ音声方式として採用されています。

THX
ルーカスフィルム (Lucasfilm) 社が提唱する劇場用音響の品質規格。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ / 残響音 / 音響機材 / スピーカーの設置位置など厳格な品質基準が設けられています。全世界で 5,000 を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。

THX ウルトラ 2/ セレクト 2 (THX Ultra2/Select2)
THX ウルトラ 2/ セレクト 2 は、従来の 5.1 ch 音声の映画や音楽に対し、より大きなサラウンド感覚で再生できるよう考えられた 7.1ch 再生システムです。サラウンドチャンネルはリスナーの両横方向に設置された 2 つのダイポールスピーカー（左右サラウンド）とリスナー後方で近接して設置された 2 つのモノポールスピーカー（左右後方サラウンド）の 4 個のスピーカーでの再生が基本となっています。従来の 5.1ch ソースに対して、より拡がり感のあるサラウンド音場を提供するために、LS/RS の 2 チャンネルサラウンド信号に位相処理等を施して 4 チャンネルサラウンド信号を創り出す ASA（Advanced Speaker Array）と、低域ルームゲインの影響を補正するための B G C（Boundary Gain Compensation）の 2 つの処理が追加されました。また、再生モードも映画再生に適した THX Ultra2 Cinema モードと、マルチチャンネル音楽の再生に適した THX Music モード、ゲームソフトに適した THX Games モードの 3 つが用意されています。

THX サラウンド EX (THX Surround EX)
ルーカスフィルム社が、ドルビーデジタルサラウンド EX をホームシアター用再生システムとしてライセンスを行っている方式。映画館と同様にデコードされた左右サラウンドチャンネル信号からマトリックスデコーダーによってサラウンドバックチャンネル信号を取り出します。それぞれの処理にはホーム THX で定められた厳しい性能規格が適用されます。

Music Optimizer
MP3 などの圧縮された音楽信号において欠けた高音域を補完する技術です。
自然で高音質な音声再生が可能となります。

音声

アナログ音声
一般的な再生機器に装備されている L/R（白 / 赤）音声出力端子からの音声を、アナログ音声と呼びます。

デジタル音声
デジタル端子は一般的に、CD プレーヤー、DVD プレーヤーなどに装備されています。
ドルビーデジタルや DTS などのデジタル音声を聴くときやデジタル録音するときは、デジタル端子と接続しておく必要があります。

光（OPTICAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で光ケーブルを使用して接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に OPTICAL 端子がある場合に使用できます。

同軸（COAXIAL）デジタル
DVD や CD などのデジタル信号を入出力するための信号で同軸コードを用いて接続します。
アナログよりも再生や録音がさらに高品位になります。接続する機器に COAXIAL 端子がある場合に使用できます。

サンプリング周波数
アナログ信号をデジタル信号に変換するときの精度。44.1 kHz は 1 秒間に 44100 回、96 kHz は 1 秒間に 96000 回アナログ信号を読みとってデジタルに変換します。

ダイナミックレンジ
信号を正しく変換する最大のレベルと、雑音等機器の性質で制限させる最小レベルの差。

LFE（Low Frequency Effect）
ドルビーデジタルや DTS の低周波数効果音のこと。
一般にディスクなどの信号に入っているとサブウーファーが効果的に働きます。

5.1 ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つで 5ch、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が 10 分の 1 のため、この 6 本のスピーカーを使って再生することを 5.1ch サラウンドと言います。

7.1ch サラウンド
視聴位置前方に設置するセンタースピーカー 1 つ、フロントスピーカー 2 つ、横または後方に設置するサラウンドスピーカー 2 つ、真後ろに設置するサラウンドバックスピーカー 2 つで 7ch、サブウーファーは他のスピーカーよりも再生できる音域が 10 分の 1 のため、この 8 本のスピーカーを使って再生することを 7.1ch サラウンドと言います。

映像

コンポジット
映像の入出力を行う標準的な信号。テレビやビデオデッキには赤・白・黄の丸い端子が装備されていますが、その黄色端子が映像を意味します。コンポジット信号を入出力するには黄色のピンコードを使用します。

S ビデオ
輝度信号（Y 信号）と色信号（C 信号)、同期信号などを複合した形で扱う信号。コンポジット信号より良い映像を楽しめます。接続には S ビデオコードを使用します。テレビに S 端子がある場合使えます。

コンポーネント
輝度信号（Y 信号）と色信号（C 信号）を 2 つに分けた色差信号をそれぞれ独立して扱う信号。
S 信号よりも良い映像を楽しめます。接続には専用のコンポーネントケーブルを使用します。テレビにコンポーネント端子がある場合使えます。画質は D 端子と同レベルです。

D 端子
ケーブル 1 本で簡単にコンポーネント接続でき、より高品位な映像が楽しめます。テレビに D 端子がある場合使えます。
D1 ～ D5 までの解像度のランクがあり、D5 がもっとも高画質です。画質はコンポーネントと同レベルです。映像機器のアスペクト比など、制御信号を送ることができます。

HDMI
27 ページ参照。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力　全チャンネル
200W（6Ω、全高調波歪率0.08%以下、1ch駆動時、20Hz～20kHz、JEITA）

実用最大出力　全チャンネル
280W（6Ω、1kHz、1ch駆動時、JEITA）

全高調波歪率　0.05%

ダンピングファクター
60（Front、1kHz、8Ω）

入力感度 / インピーダンス
LINE：200mV/47kΩ
PHONO MM：2.5mV/47kΩ

出力電圧 / インピーダンス
REC OUT：200mV/470kΩ

PHONO 最大許容入力
70mV（MM、1kHz、0.5%）

周波数特性　5Hz～100kHz：+1dB/－3dB（Direct mode）

トーンコントロール最大変化量
Bass：± 10dB（50Hz時）
Treble：± 10dB（20kHz時）

SN比　110dB（LINE、IHF-A）
80dB（PHONO、IHF-A）

スピーカー適応インピーダンス
4Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧 / インピーダンス
1.0Vp-p/75Ω（コンポーネント、Sビデオ Y）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネント Pb/Cb、Pr/Cr）
0.28Vp-p/75 Ω（Sビデオ C）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）

コンポーネント映像周波数特性
5Hz～100MHz　－3dB

総合

電源・電圧　AC100V・50/60Hz

消費電力　930W

待機時電力　0.1W

最大外形寸法　435（幅）× 198.5（高さ）× 463.5（奥行）mm

質量　25.0kg

■ 映像入力：

HDMI　IN1（DVD/BD）、IN2（VCR/DVR）、IN3（CBL/SAT）、IN4（GAME）、IN5（AUX2）、IN6、IN7、AUX1（Front）

D4　IN1（DVD/BD）、IN2（CBL/SAT）、IN3（GAME）

コンポーネント　IN1（DVD/BD）、IN2（CBL/SAT）、IN3（GAME）

Sビデオ　DVD/BD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME

コンポジット　DVD/BD、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、AUX

■ 映像出力：

HDMI　OUT MAIN、OUT SUB

D4　OUT

コンポーネント　MONITOR OUT

Sビデオ　MONITOR OUT、VCR/DVR（REC OUT）

コンポジット　MONITOR OUT、VCR/DVR（REC OUT）

■ 音声入力：

デジタル　OPTICAL 3（後面）/OPTICAL 1（前面）/COAXIAL 3（後面）

アナログ　DVD/BD、MULTI CH、VCR/DVR、CBL/SAT、GAME、TV/TAPE、CD、PHONO、AUX2、TUNER、AUX1

マルチチャンネル
7.1

■ 音声出力：

アナログ　VCR/DVR、TV/TAPE、ZONE 2 PREOUT、ZONE 3 PREOUT

マルチチャンネルプリ
9

サブウーファープリ
2

スピーカー　左右フロント、センター、左右サラウンド、左右サラウンドバック / 左右ゾーン3、左右フロントハイ、左右フロントワイド / 左右ゾーン2

ヘッドホン　1

■ その他

音場制御用マイク端子
1

RS232端子　1

ETHERNET　1

USB　フロント、リア

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

映像解像度表

入力信号の種類や解像度に対して、本機が出力する映像信号の種類や解像度を調べるときは、下記映像解像度表をご覧ください。

✔: 出力します

入力 ＼ 出力		HDMI					D4/ コンポーネント					S ビデオ	コンポジット
		1080p	1080i	720p	480p	480i	1080p	1080i	720p	480p	480i	480i	480i
HDMI	1080p	✔	✔	✔	✔								
	1080i	✔	✔	✔	✔								
	720p	✔	✔	✔	✔								
	480p	✔	✔	✔	✔								
	480i	✔	✔	✔	✔	✔							
D4/ コンポーネント	1080p	✔	✔	✔	✔		✔	✔	✔	✔			
	1080i	✔	✔	✔	✔			✔	✔	✔			
	720p	✔	✔	✔	✔			✔	✔	✔			
	480p	✔	✔	✔	✔			✔*1	✔*1	✔			
	480i	✔	✔	✔	✔	✔		✔*1	✔*1	✔	✔		
S ビデオ	480i	✔	✔	✔	✔	✔		✔*1	✔*1	✔	✔	✔	✔
コンポジット	480i	✔	✔	✔	✔	✔		✔*1	✔*1	✔	✔	✔	✔

*1 Macrovision の効果が有効になっている信号の場合、出力は 480p に制限されます。

修理について

■ 保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より 1 年間です。

■ 調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のお近くのオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 TX-NA5007
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■ オンキヨー修理窓口について

詳細は付属の「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■ 保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■ 補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはお近くのオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　　年　　月　　日
ご購入店名：
Tel.　　（　　）
メモ：

ONKYO®
オンキヨー株式会社
本社　大阪府寝屋川市日新町2-1　〒572-8540

ONKYO HOMEPAGE
http://www.jp.onkyo.com/

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：コールセンター
☎050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

Y0908-1

SN 29400067

＊ 2 9 4 0 0 0 6 7 ＊